

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第103集

川 田 遺 跡

2002

財団法人愛知県教育サービスセンター

愛知県埋蔵文化財センター

序

川田遺跡の所在する愛知県海部郡佐織町は、古くから川港として栄えた津島とは至近距離にあり、程近い奥津社古墳では三角縁神獣鏡が、諸桑遺跡からは丸木舟が出土しており、この地域が伊勢湾周辺地域との海上及び河川交通が盛んであったことを示しています。

今回調査しました川田遺跡は、これまで当センターにおいて調査報告されている遺跡のなかでは最西端に位置しており、また佐織町内での本格的発掘調査の第1号となり古墳時代・古代・中世の本遺跡周辺の歴史を考える上で、貴重な成果を得られたものと思います。特に、海部津島地方最南端と思われる古墳の周溝と埴輪が発見されたことは、注目に値するといえるでしょう。本書の調査成果が歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財に関する御理解を深める一助となれば幸いに思います。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたり、地元住民の方々をはじめ、関係者及び関係諸機関の御理解と御協力を頂きましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

平成14年8月

財団法人 愛知県教育サービスセンター

理事長 井上 銀治

例 言

1. 本書は、愛知県海部郡佐織町大字見越字川田に所在する川田遺跡（県遺跡番号は40017）の発掘調査報告書である。

2. 発掘調査は県道一宮弥富線の建設に伴う事前調査（調査面積は1,800 m²）として、愛知県建設部道路建設課から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターが平成11年8月から平成12年1月まで実施した。

3. 発掘調査は春日井毅（本センター調査課主査、現一宮市立宮西小学校教諭）、伊藤太佳彦（本センター調査課調査研究員、現愛知県立知多東高等学校教諭）、木川正夫（本センター調査課調査研究員、現愛知県立岡崎高等学校教諭）が担当した。

また、調査に参加頂いた方々は、以下の通りである。

山田琴美（発掘調査補助員）、服部澄枝、中谷いみ子、服部富子、羽田野明美、伊藤百合子、板倉恵子、今田清美、杉田千代子、岩田範子、伊藤正三、宮崎俊樹、中島幸雄、杉本たみえ、新海澄子、松井英雄、山之内なつ子、柴山香代子、織田久子、三橋春巳、近藤洋子、三輪美恵子（以上発掘作業員）

4. 報告書作成は愛知県建設部道路建設課から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターが平成13年4月から平成13年9月まで実施した。

5. 発掘調査および報告書作成に際して次の機関及び次の方々の御教示、御協力を受けた。記して感謝の意としたい。

愛知県教育委員会文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、愛知県建設部、津島土木事務所、佐織町教育委員会、津島市教育委員会、七宝町教育委員会

石田泰弘、内山智美、尾野善裕、梶山勝、城ヶ谷和広、高橋克壽、平川南、藤澤良祐、横井さつき、渡辺博人（五十音順、敬称略）

6. 本書の執筆は、第3章第9・10・11節と第5章第1節を蔭山誠一（本センター調査課調査研究員）が、第4章を藤根久（株式会社パレオ・ラボ）、今村美智子（株式会社パレオ・ラボ）、小村美代子（株式会社パレオ・ラボ）が、それ以外を木川が担当した。尚、本書全体の編集は木川が担当し、本書のDTPは蔭山が行った。写真図版組み・図版トレースについては服部信博（本センター調査課課長補佐、現愛知県立一宮興道高等学校教諭）と織部匡久（本センター調査課調査研究員、現愛知県立尾西高等学校教諭）の協力を得た。

7. 遺物整理および本書の作成においては、以下の方々の協力を得た。

河合明美、田口雄一（以上調査研究補助員）、加藤真理子、堀田春美（以上整理補助員）

8. 調査に使用した座標は、国土座標第Ⅶ系に準拠する。但し、表記は旧基準「日本測地系」とした。

9. 調査記録は財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターにおいて、出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターにおいて保管・管理している。

目次

第1章 前 言	4
第1節 調査の経緯	4
第2節 調査の概要	5
第3節 遺跡の環境	5
第2章 遺 構	9
第1節 基本層序	9
第2節 遺構の概況	9
第3節 古墳時代・古代の遺構	9
第4節 中世の遺構	15
第3章 遺 物	25
第1節 土器・陶器	25
第2節 埴輪	45
第3節 瓦	50
第4節 製塩土器	50
第5節 土錘	50
第6節 陶丸・加工円盤	54
第7節 貿易陶磁器	54
第8節 自然遺物	54
第9節 石製品	54
第10節 金属製品・鍛冶関連資料	55
第11節 礫	57
第4章 埴輪の胎土分析	69
第5章 考 察	84
第1節 川田遺跡出土の埴輪について	84
第2節 川田遺跡周辺の条里遺構	88
第3節 川田遺跡をめぐる古代・中世の寺院	88
第4節 海部郡周辺の河川の流路変遷	88
第5節 まとめ	90

挿図目次

第 1 図	調査区位置図 (1:5,000)	4
第 2 図	周辺遺跡分布図 (1:25,000)	7
第 3 図	古墳時代・古代の川田遺跡 (1:300)	8
第 4 図	中世以後の川田遺跡 (1:300)	8
第 5 図	B 区西壁基本層序図 (垂直方向 1:30、水平方向 1:300)	10
第 6 図	A 区東壁基本層序図 (垂直方向 1:30、水平方向 1:300)	11
第 7 図	S Z 01 平面図 (1:200)、関連遺構土層断面図 1 (1:50)	13
第 8 図	S Z 01 関連遺構土層断面図 2 (1:50)	14
第 9 図	S Z 01 関連遺構土層断面図 3 (1:100)	15
第 10 図	B 区 S D 05・06 遺物出土状態図 (1:40)	16
第 11 図	A 区 S D 31、B 区 S D 04・05・08 平面図 (1:200)、土層断面図 (1:50)	18
第 12 図	B 区 S D 12・13・14 平面図 (1:200)、土層断面図 (1:50)、A 区 S D 24 平面図 (1:200)、 S D 24 北溝遺物出土状態図 (1:40)、土層断面図 (1:50)	19
第 13 図	A 区中世方形土坑 S K 10・11・13・60・61・67・78・80 平面図 (1:200)、土層断面図 (1:50)	20
第 14 図	A 区 S D 25 出土須恵器[1 ~ 28](1:4)	26
第 15 図	A 区 S D 25 出土土師器[29 ~ 49](1:4)	27
第 16 図	A 区 S D 25 出土土師器、A 区 S K 34・B 区 S D 07 出土須恵器・土師器[50 ~ 76](1:4)	28
第 17 図	B 区 S D 06 出土須恵器 - 1 [77 ~ 97](1:4)	30
第 18 図	B 区 S D 06 出土須恵器 - 2 [98 ~ 99](1:4)	31
第 19 図	B 区 S D 06 出土土師器[100 ~ 112](1:4)	32
第 20 図	A 区 S D 27・28、B 区 S D 08 出土須恵器・土師器[113 ~ 133](1:4)	33
第 21 図	B 区 S D 04・05 出土須恵器・土師器[134 ~ 155](1:4)	34
第 22 図	B 区 S D 12・13、A 区 S D 24・S K 60・61・63 出土土器・陶器[156 ~ 187](1:4)	36
第 23 図	その他の S D、N R 01 出土土器・陶器[188 ~ 231](1:4)	38
第 24 図	その他の S K、P i t 出土土器・陶器[232 ~ 271](1:4)	40
第 25 図	検出出土土器・陶器[272 ~ 302](1:4)	42
第 26 図	検出、A 区 S X 01 他出土土器・陶器[303 ~ 335](1:4)	44
第 27 図	グリッド別埴輪片出土分布範囲	46
第 28 図	グリッド別古代瓦片出土分布図	46
第 29 図	円筒埴輪[336 ~ 346](1:4)	47
第 30 図	円筒埴輪・形象埴輪[347 ~ 365](1:4)	48
第 31 図	形象埴輪・瓦[366 ~ 385](1:4)	49
第 32 図	製塩土器・土錘・陶丸・加工円盤・貿易陶磁器[387 ~ 443](1:4)	51
第 33 図	石製品 -1[S1 ~ S21](1:4)	52
第 34 図	石製品 -2[S22 ~ S24](1:4)	53
第 35 図	金属製品・鍛冶関連資料[M1 ~ M15](1:4)	55
第 36 図	礫と鍛冶関連資料の出土分布	56
第 37 図	埴輪胎土中の粒子組成図	73
第 38 図	伊勢 - 三河湾周辺の地層分布図	76
第 39 図	埴輪胎土の主成分分析による第 1 - 第 2 主成分散布図	78
第 40 図	埴輪胎土の Al ₂ O ₃ -SiO ₂ 分布図	80
第 41 図	埴輪胎土中の粒子顕微鏡写真	82
第 42 図	各遺跡出土の円筒埴輪	83
第 43 図	海部郡出土の埴輪 (1:4)	85
第 44 図	川田遺跡周辺 (佐織町大字見越) の諸地図	87
第 45 図	領内川など旧河道の記録	89

表目次

第 1 表	県道一宮弥富線拡幅工事に関連する試掘調査結果	5
第 2 表	発掘調査工程表	5
第 3 表	NR・SD・SX 一覧	21
第 4 表	SK 一覧 - 1	22
第 5 表	SK 一覧 - 2	23
第 6 表	SK 一覧 - 3	24
第 7 表	Pit 一覧	24
第 8 表	土器・陶器観察表 - 1 [E1 ~ E60]	58
第 9 表	土器・陶器観察表 - 2 [E61 ~ E124]	59
第 10 表	土器・陶器観察表 - 3 [E125 ~ E177]	60
第 11 表	土器・陶器観察表 - 4 [E178 ~ E231]	61
第 12 表	土器・陶器観察表 - 5 [E232 ~ E287]	62
第 13 表	土器・陶器観察表 - 6 [E288 ~ E335]	63
第 14 表	円筒埴輪観察表[E336 ~ E353]	64
第 15 表	形象埴輪観察表[E354 ~ E371]	64
第 16 表	瓦観察表[E372 ~ E386]	64
第 17 表	製塩土器観察表[E387 ~ E393]	64
第 18 表	土錘観察表[E394 ~ E422]	65
第 19 表	陶丸・加工円盤観察表[E423 ~ E436]	65
第 20 表	貿易陶磁器観察表[E437 ~ E443]	64
第 21 表	石製品観察表[S1 ~ S24]	65
第 22 表	金属製品・鍛冶関連資料観察表[M1 ~ M15]	65
第 23 表	鉄資料一覧	66
第 24 表	礫の形態と大きさ - 1	67
第 25 表	礫の形態と大きさ - 2	68
第 26 表	埴輪試料とその特徴	70
第 27 表	顕微鏡観察による埴輪胎土中の粒子組成一覧表	72
第 28 表	埴輪胎土中の砂粒分類	75
第 29 表	埴輪試料とその肉眼的特徴	75
第 30 表	蛍光 X 線分析による埴輪の主成分元素と微量元素	81
第 31 表	海部郡出土の埴輪の特徴	84
第 32 表	外面ナデ調整をもつ埴輪の特徴と出土地	86

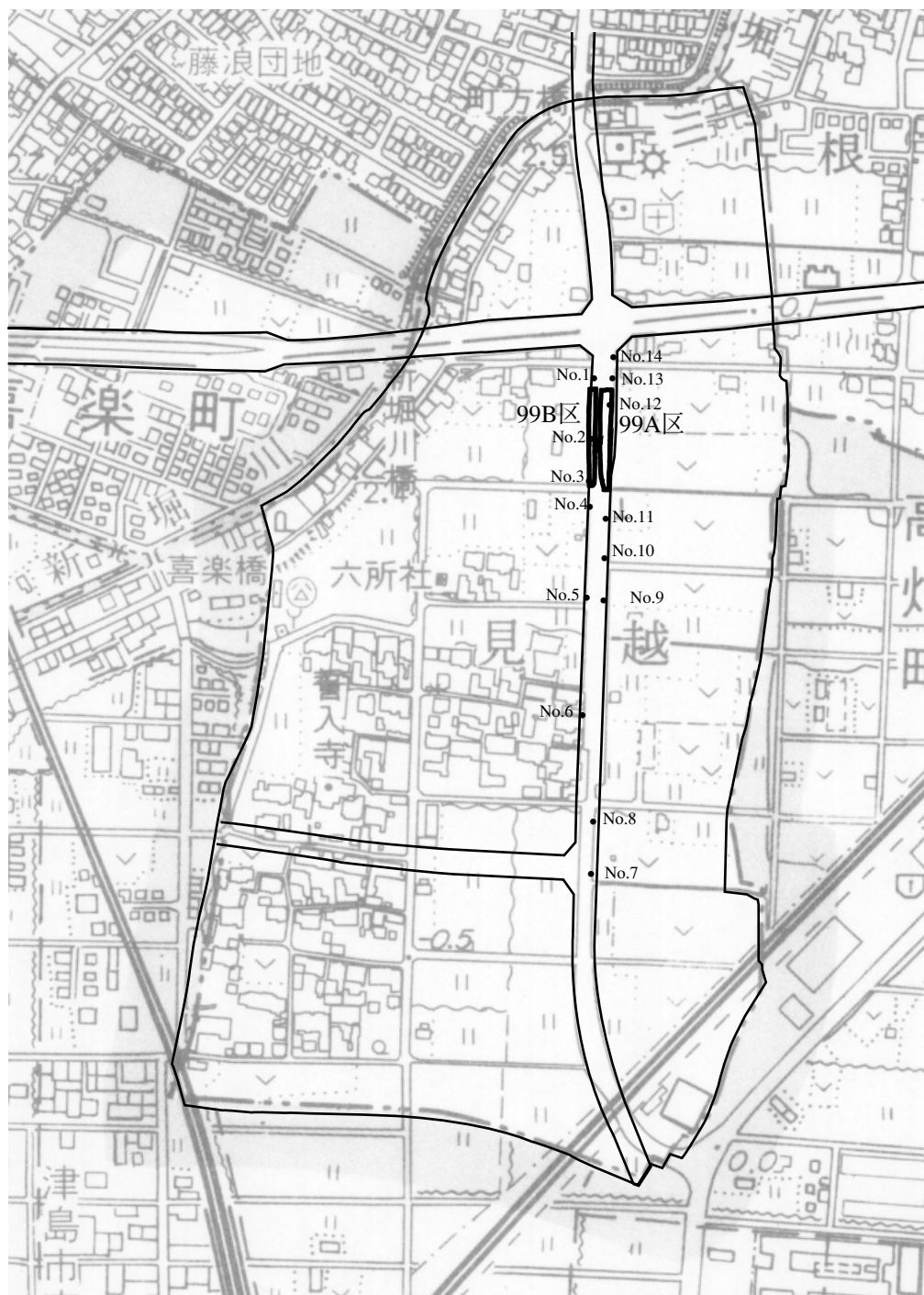
写真図版

図版 1	A・B 区空撮写真
図版 2	A・B 区全景
図版 3	A 区 S Z 01 北周溝 (S D 25・S K 34)
図版 4	S Z 01 周溝 (A 区 S D 28・29・30・B 区 S D 06)、A 区 S D 27・B 区 S D 05
図版 5	B 区 S D 04・12・13、A 区 S D 24
図版 6	A 区 Pit 227・280、A・B 区 SK
図版 7	A 区 S D 25 出土須恵器
図版 8	A 区 S D 25 出土土師器、A 区 S K 34、B 区 S D 07 出土須恵器
図版 9	B 区 S D 06 出土須恵器・土師器
図版 10	A 区 S D 27・28、B 区 S D 08・04・05 出土須恵器・土師器
図版 11	その他の遺構等出土土器・陶器
図版 12	円筒埴輪
図版 13	形象埴輪
図版 14	瓦
図版 15	その他の遺物

第1章 前言

第1節 調査の経緯

川田遺跡は愛知県海部郡佐織町大字見越字川田に位置する遺跡である。愛知県建設部道路建設課によって計画された県道一宮弥富線の拡幅工事予定地内に平安～鎌倉時代の遺物散布地である「川田遺跡」(県遺跡番号40017)が所在しており、事前に発掘調査し、記録保存する必要性が認められた。そのため愛知県埋蔵文化財調査センターでは調査計画を策定するため平成9年11月26日と27日に遺跡の試掘調査を行い、範囲の確認をした。試掘調査は、重機を用いて14個所の試掘トレンチ(第1図)を設定し、土層の堆積・遺構・遺物の確認をおこなった。この際、経筒外容器(トレンチNo.1出土)の他、土器、



第1図 調査区位置図(1:5,000、No.は試掘地点、枠内は佐織町大字見越地区)

第1表 県道一宮弥富線拡幅工事に関連する試掘調査結果

調査区	日付	トレンチ番号	所見	遺構	遺物
97	991126.7	T-01	40cm～60cmの耕作土下に良好な包含層あり。経筒外容器付近には炭化物あり。	溝、経塚	経筒外容器1、土師器6、山茶碗4
97	991126.7	T-02	耕作土が40cm～50cm堆積し、その下-100cmまで包含層あり。基盤は砂層。		灰釉陶器1、山茶碗2、古瀬戸1、大窯1
97	991126.7	T-03	現地表下-30～60cmに茶褐色砂質土の包含層あり。これを切る淡灰褐色砂質土を埋土とする溝がトレンチの北側にある。	溝	山茶碗2
97	991126.7	T-04	耕作土下に灰褐色砂質土、茶褐色粘質土の包含層あり。-120cmで砂層になるが北に向かって下がる。		須恵器1、土師器4
97	991126.7	T-05	現水田下-50cmで砂層となる。		
97	991126.7	T-06	-100cmに旧水田あり。上位は客土。		山茶碗1、陶器3
97	991126.7	T-07	-100cmに旧水田あり。上位は客土。		灰釉陶器1、山茶碗1、土師器1
97	991126.7	T-08	-120cmに旧水田あり。上位は客土。		弥生土器3、須恵器1、灰釉陶器1
97	991126.7	T-09	-50cm下に茶褐色砂質土、-80cm下に暗褐色土の包含層あり。-120cmで基盤層となる。		山茶碗1
97	991126.7	T-10	-30～-100cmに茶褐色砂質土の包含層堆積。北西-東南の溝あり。	溝	土師器4、近世陶器2
97	991126.7	T-11	-70～-160cmに茶褐色砂質土、淡褐色砂層、灰色粘土層が堆積。		
97	991126.7	T-12	暗茶褐色砂質土の包含層が30cm堆積。トレンチ北側に東西方向の溝あり。	溝	土師器2、灰釉陶器1
97	991126.7	T-13	暗茶褐色砂質土の包含層が10～20cm堆積。-70cmで基盤。くぼ地あり。	溝?	土師器1、灰釉陶器1
97	991126.7	T-14	T-12.13と同様な暗褐色砂質土の包含層が10～40cm堆積。トレンチ中央部から北に向かって厚く堆積。		土師器2、灰釉陶器2

陶器が確認された(第1表)。このため、県道建設に先立って発掘調査が計画され、愛知県建設部より愛知県教育委員会をとおして委託を受けた財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターが平成11年8月から平成12年1月までの期間(A区8月中旬～11月上旬、B区11月下旬～1月中旬)で、川田遺跡の発掘調査を実施した(第2表)。調査区は拡幅前道路の通行を確保するためにA区、B区の2つに分けて調査した。そのため、発掘調査による排土搬出用機材を設置した部分について調査ができなかった。調査面積はA区1,000㎡、B区800㎡の総面積1,800㎡である。発掘調査終了後、平成13年度に出土遺物の復元等の整理作業及び報告書作成を行った。

第2節 調査の概要

調査方法は、現地表面から表土のみをバックホウにより除去したのち、国土交通省告示によって定められた平面直角座標第Ⅶ系に準拠した5mグリッドを設定し、手掘りで包含層を掘削して遺構を検出する方法をとった。遺構測量については、ヘリコプターによる航空写真測量を実施し(A区は10月13日、B区は12月16日)、調査区全面の1/50基本平面図を作成した。遺構の重要部分については補助測量図を手測りにより行い、調査区南北方向の土層断面図を実測する必要から、B区調査中にA区の西に接する部分をバックホウによりトレンチ状に掘削し、「A区西拡張トレンチ」として補助的調査を行った。

また、12月18日には佐織町民を対象に、町教育委員会主催の中間報告会を町中央公民館と現地で実施した。

第2表 発掘調査工程表(A:99A区、B:99B区、A拡:99A区西拡張トレンチ)

	平成11年8月			平成11年9月			平成11年10月			平成11年11月		平成11年12月			平成12年1月	
表土剥ぎ		A									B			A拡		
包含層掘削			A	A	A	A	A									
遺構検出		A		A	A	A	A				B	B		A拡		
遺構掘削				A	A	A	A	A	A			B	B	BA拡	B	B
空測							A						B			
補測							A	A	A				B	B	B	BA拡
埋め戻し									A	A						BA拡

第3節 遺跡の環境

濃尾平野は木曽川により埋積された沖積平野であり、上流域より扇状地地帯、氾濫原地帯、三角州地帯という地形に分けられる。木曽川左岸になる愛知県の尾張地域では、かつての木曽川支流である数多くの小河川が流下し自然堤防と後背湿地を形成している。川田遺跡のある海部郡北西部の佐織町から津島市にかけては三角州地帯の北端に位置し北を領内川、西を新堀川、東を日光川に画された中にある。

次に、川田遺跡(第2図17)周辺の海部郡北西部の遺跡の形成時期を概観してみる。縄文海進以前には陸地化していたであろうが、縄文時代の遺跡や遺物は今のところ発見されていない。縄文海進以後弥

生時代に至るまでこの地域全体が海面下と考えられている。

弥生時代の遺跡としては佐織町八竜遺跡（第2図11、岩野見司1987）と津島市寺野遺跡（伊藤晃雄1970・赤塚次郎他1991）等で中期初頭の土器が出土しているのがこの地域の最古の遺物とされる。弥生時代の遺跡は他に、本格的調査を実施した津島市埋田遺跡（第2図37、吉田富夫1968）等がある。弥生時代～古墳時代前期にかけて佐織町東西野遺跡（第2図28、岩野見司1987）がある。

古墳時代の遺跡としては三角縁神獸鏡を出土したとされる佐織町奥津社古墳（第2図5、岩野見司1976・1987）、円筒埴輪や丸木船を出土する佐織町諸桑遺跡（第2図10、加賀宣勝1971）がある。

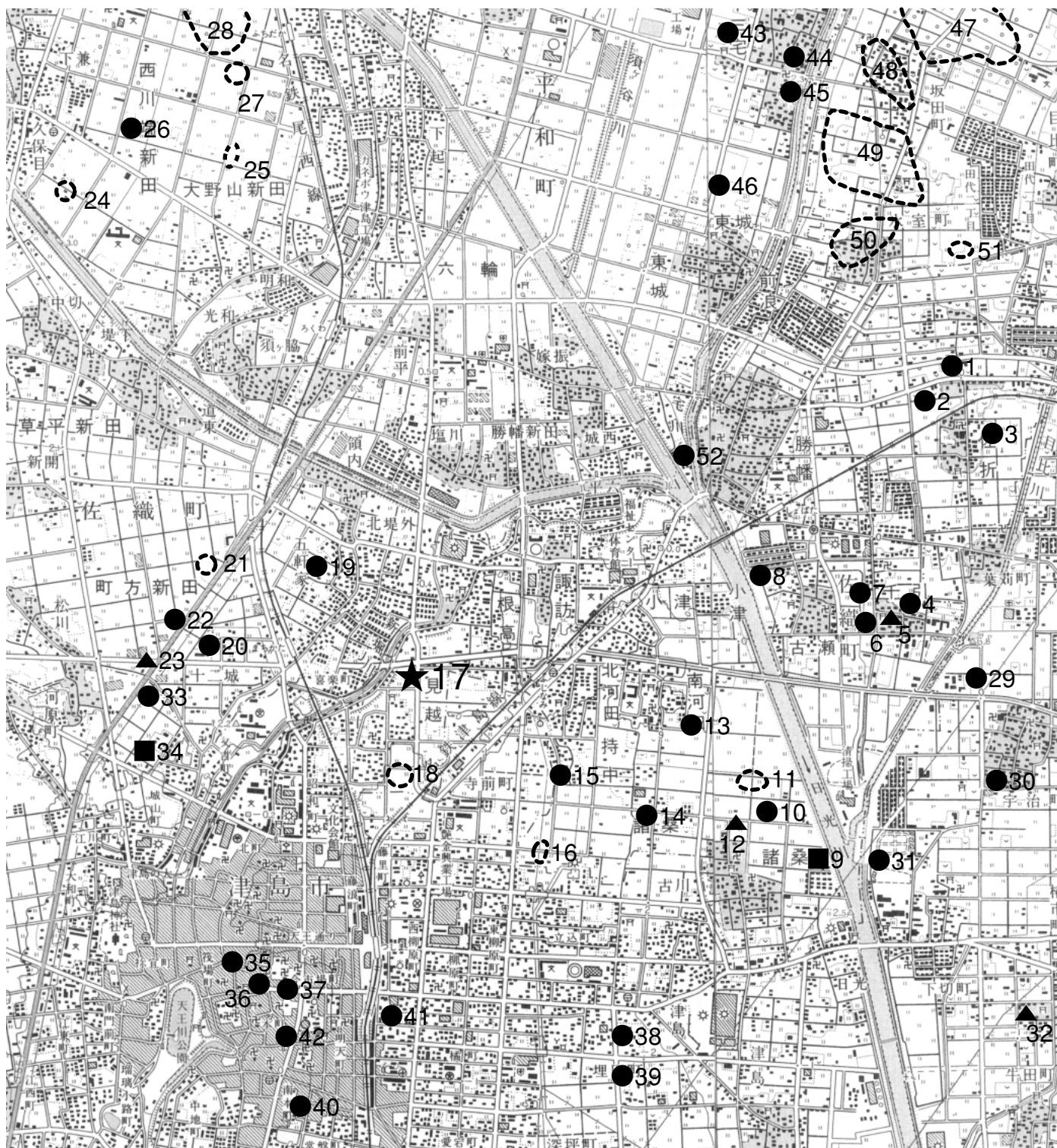
古代の遺跡としては、瓦を出土する佐織町諸桑廃寺（第2図9、岩野見司1987）、淵高廃寺（第2図27、岩野見司1987）、等がある。

中世の遺跡としては川田遺跡の南側に隣接する佐織町前田遺跡（第2図18、岩野見司1987）があり13世紀代後半の灰釉系陶器碗等が出土している。また中世の史跡としては海部郡ではないが佐織町に接して、中島郡平和町指定史跡の勝幡城址（下村信博1991）がある。

さて、佐織町大字見越字川田遺跡の現状は畑地である。標高はプラス0.3m～0.5m程度で、周囲を水田に囲まれた微高地となっている。この微高地は古くから存在していたようで第44図の江戸後期の絵図（佐織町史編さん委員会1982）にも東方の大字界から突出するように4つの畑（北から長畑、榎畑、高畑、熊之宮畑）が見られる。その内の字長畑に川田遺跡は立地している。また明治の地籍図（第44図左下）でも畑地であり、大正期の耕地整理施行前の地図（第44図右下）では等高線数値の単位は不明であるが、4つの微高地が東方から張り出していることが分かる。耕地整理後の現在でも第1図に見られるようにやはり等高線がプラス標高の畑地である（海拔ゼロメートル地帯である大字見越では一般的に、マイナス標高の土地を水田に、プラス標高の土地を畑地・宅地・寺社・墓地に利用しているようである）。また、川田遺跡を発掘調査して分かったことは調査区内は一度も過去に水田であったことがないということで、この微高地はおそらく古墳構築以前から存在し、ある程度の高まりを利用して古墳を構築したと思われる。墓を水につかりにくい所につくるのは時代を経ても変わらず、中世の土坑墓も然り、第44図右上の調査区南東に隣接する現在の墓地も同様である。

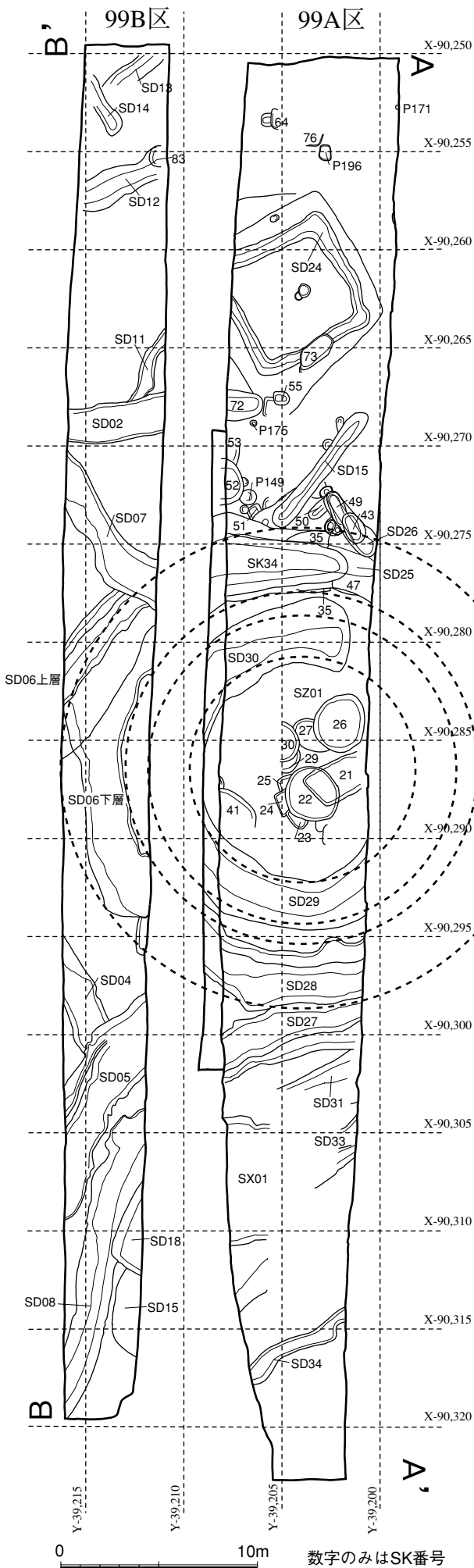
参考文献（編著者五十音順）

- 赤塚次郎他 1991.6「寺野遺跡の出土遺物について」『考古学フォーラム2』愛知考古学談話会
伊藤晃雄 1970.3「寺野遺跡」『津島市史資料編1』津島市教育委員会
岩野見司 1976.9「愛知県海部郡佐織町奥津社の三角縁神獸鏡について」『考古学雑誌62-2』
岩野見司 1987.3「第6編考古」『佐織町史資料編2』佐織町史編さん委員会佐織町
加賀宣勝 1971.12「消えゆく濃尾平野南端の古墳」『いちのみや考古19』一宮考古学会
佐織町史編さん委員会 1982.11『佐織町史資料編1近世村絵図集』佐織町
下村信博 1991.3「文献史学からみた尾張城館史研究」『中世城館調査報告。（尾張地区）』愛知県教育委員会 文化財図書刊行会
吉田富夫 1968『津島市埋田遺跡発掘調査報告』津島市史編纂委員会

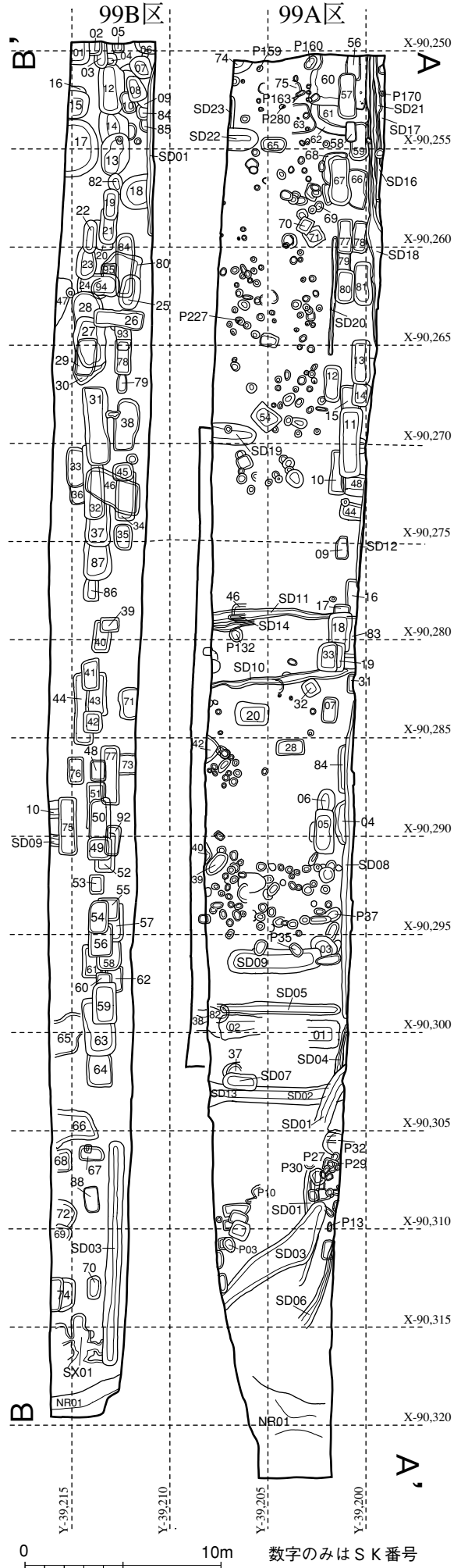


第2図 周辺遺跡分布図 (1:25,000)

- | | | | | | | |
|-------------|-----------|-------------|----------|------------|------------|-----------|
| 1. 大御堂遺跡 | 2. 上栄遺跡 | 3. 東川遺跡 | 4. 屋敷遺跡 | 5. 奥津社古墳 | 6. 北浦遺跡 | 7. 古御堂遺跡 |
| 8. 堅切遺跡 | 9. 諸桑廃寺 | 10. 諸桑遺跡 | 11. 八竜遺跡 | 12. 諸桑古墳 | 13. 高台遺跡 | 14. 阿古佐遺跡 |
| 15. 郷前遺跡 | 16. 八町遺跡 | 17. 川田遺跡 | 18. 前田遺跡 | 19. 所司原遺跡 | 20. 水無野遺跡 | 21. 鵜廻遺跡 |
| 22. 高砂遺跡 | 23. 姥ヶ森古墳 | 24. 江東遺跡 | 25. 山中遺跡 | 26. 川原前遺跡 | 27. 洲高廃寺 | 28. 東西野遺跡 |
| 29. 宇治遺跡 | 30. 亀田遺跡 | 31. 旭羊毛構内遺跡 | 32. 越津古墳 | 33. 観音町B遺跡 | 34. 観音町A遺跡 | |
| 35. 本町遺跡 | 36. 今市場遺跡 | 37. 埋田遺跡 | 38. 深坪遺跡 | 39. 南本町遺跡 | 40. 橘町遺跡 | 41. 本町遺跡 |
| 42. 本町3丁目遺跡 | 43. 折口遺跡 | 44. 郷内遺跡 | 45. 三宅廃寺 | 46. 横枕遺跡 | 47. 五丁遺跡 | |
| 48. 坂田屋敷遺跡 | 49. 宮郭遺跡 | 50. 道外遺跡 | 51. 大辻遺跡 | 52. 勝幡城址 | | |



第3図 古墳時代・古代の川田遺跡 (1:300)



第4図 中世以後の川田遺跡 (1:300)

第2章 遺構

第1節 基本層序（第5・6図）

川田遺跡は標高0.3m～0.5m前後の、日光川開鑿前の旧萩原川の左岸（現在は領内川とその支流である新堀川の右岸）の自然堤防上の微高地に立地する。

本遺跡の立地する微高地は『朝日遺跡II』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第31集）において、過去の海岸線の変化によって形成された第1浜堤と指摘される微高地よりも南に位置している。

遺跡の基盤土層は可能な限りバックホウで深掘りして土層を確認した。基本層序は上から

1. 畑作土である褐色砂質シルト層（標高－0.2m～）
2. 古墳時代～中世後期の遺物包含層である黄褐色極細粒砂層（標高－0.5m～－0.2m）
3. 遺物や遺構の存在しない基盤層である黄褐色細粒～粗粒砂層（標高－2.5m～－0.5m）である。

遺構は古墳時代から中世前期にわたって第2層から基盤層に掘り込まれており、第3層の上面にて検出を行った。

第2節 遺構の概況（第3・4図）

遺構の分布は時期により偏りがあるが、ほぼ調査区全体にわたって確認された。A区からB区にかけて古墳時代中期の円墳1基（SZ01）の周溝、A区で古代の正方形にめぐる溝1条、B区で古代の溝数条、A区とB区でそれぞれ一定の幅に集中して南北に分布する中世の方形土坑墓数十基と、東西方向または南北方向に長軸のあった中世の溝数条、そして中世の自然流路が1条（NR01）確認されている。

また遺構は、次の遺構の検出状況と埋土及び出土遺物等の分析から、古墳時代及び古代の遺構（第3図）と中世以後の遺構（第4図）に大別できた。

遺構の検出状況（1から8までの遺構の先後関係が確認できる）

1. SZ01（A区SD25・28・29・30、B区SD06下層：5世紀第3四半期以後7世紀前葉）
2. A区SD27、B区SD08（出土遺物：5世紀第4四半期以後7世紀末～8世紀前葉）
3. A区SK34、B区SD06上層・SD07とその他の古代の溝（8世紀初頭頃）
4. A区SK63下層（8世紀末）
5. A区SK60と試掘トレンチNo.1の経筒外容器（12世紀末～13世紀初）
6. 方形土坑墓群とB区SD03や、A区SD05など（13世紀）
7. 自然流路NR01（中世前～後期）
8. A区SD18・12・08等の耕地整理（大正13年）前の道路に沿った南北方向の溝（中世後期～近代）

第3節 古墳時代・古代の遺構

（1）SZ01（A区SD25・28・29・30、SK34、B区SD06下層・上層）

SZ01はA区とB区にまたがって検出された二重の周溝に相当する溝に囲まれた内径13.5mの円形のマウンド状遺構（円墳）である。マウンドを囲む溝は内周溝A区SD30(北側)とSD29(南側)と外周溝A区SD25・SD28、B区SD06下層があり、外周溝が内周溝より0.3m～0.4m程深い。SD25の上層としてSK34、SD06下層の上層としてSD06上層が区分できた。5世紀後半に遡る遺物（埴輪・須恵器等）がこれらの溝から出土しており、注目される。

a. A区SD29（SZ01南内周溝：第7・9図、図版4）

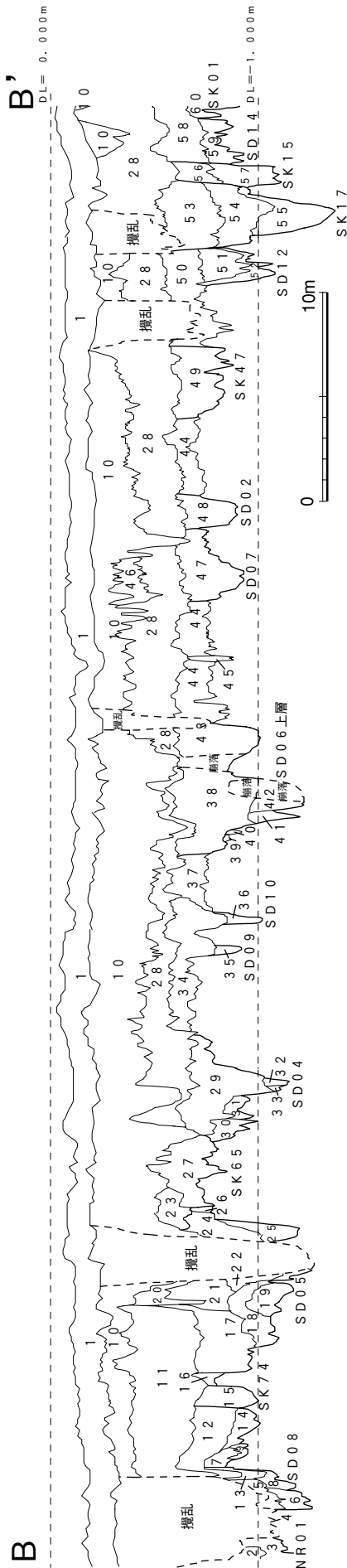
A区SD28と並行して掘られている幅約2.5m、深さ約0.35mの溝で、東側で溝がやや浅くなる。北を囲む弧状にめぐり、A区SD30とつながる溝の可能性が高い。少量の須恵器、土師器、埴輪が出土している。

b. A区SD30（SZ01北内周溝：第7・9図、図版4）

A区SD25と並行して掘られている幅約2.9m、深さ約0.35mの溝で、東側で溝が途切れる。南を囲む弧状にめぐり、A区SD29と同一の溝と思われる。少量の須恵器、土師器が出土している。

c. A区SD25（SZ01北外周溝下層：第7・9図、図版3）

SK34を航空測量した後に掘削した下層の黒色砂部分。幅3.3m、深さ0.6m前後をはかる。東壁付近



第5図 B区西隣地本圖序図 (垂直方向1:30、水平方向1:300)

- | | | | |
|----|--|----|---|
| 1 | 道路碎石 (攪乱) | 31 | 10YR3/1 黒褐色極細粒砂に10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂 (基盤層) が少々下層より混入 |
| 2 | 10YR5/1 褐色シルト | 32 | 10YR3/1 黒褐色極細粒砂 |
| 3 | 10YR4/1 褐色極細粒砂 | 33 | 10YR3/1 黒褐色極細粒砂が10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂 (基盤層) に斑状に混入 |
| 4 | 10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂 (基盤層) | 34 | 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂に10YR3/3 暗褐色極細粒砂が少々ブロック状に混入 |
| 5 | 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 | 35 | 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 |
| 6 | 10YR5/4 にぶい黄褐色極細粒砂 (5mm大の炭化物少々含む) | 36 | 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 |
| 7 | 10YR2/1 黒色極細粒砂 | 37 | 10YR3/3 暗褐色極細粒砂ブロックが少々10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂 (基盤層) に混入 |
| 8 | 10YR2/1 黒色極細粒砂が斑点状に10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂 (基盤層) に混入 | 38 | 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 |
| 9 | 10YR2/1 黒色極細粒砂が斑点状に10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂 (基盤層) に混入 | 39 | 10YR3/2 黒褐色極細粒砂に10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂 (基盤層) が混入 |
| 10 | 10YR4/1 褐色極細粒砂 | 40 | 10YR3/2 黒褐色極細粒砂に10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂 (基盤層) が混入 |
| 11 | 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 | 41 | 10YR4/1 褐色極細粒砂 |
| 12 | 10YR3/4 暗褐色極細粒砂 | 42 | 10YR3/1 黒褐色極細粒砂 |
| 13 | 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (SK) | 43 | 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 |
| 14 | 10YR3/4 暗褐色極細粒砂に10YR2/1 黒色極細粒砂が少々混入 | 44 | 10YR3/3 暗褐色極細粒砂に10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂 (基盤層) が下層部に混入 |
| 15 | 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (下層に10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂 (基盤層) が混入) | 45 | 10YR2/2 黒褐色極細粒砂に10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂 (基盤層) が下層部に混入 |
| 16 | 10YR2/1 黒色極細粒砂 | 46 | 10YR4/4 褐色極細粒砂 |
| 17 | 10YR3/4 暗褐色極細粒砂 | 47 | 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 |
| 18 | 10YR2/1 黒色極細粒砂が斑状に10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂 (基盤層) と混ざる | 48 | 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 |
| 19 | 10YR2/1 黒色 | 49 | 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 |
| 20 | 10YR2/1 黒色極細粒砂が斑点状に10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂 (基盤層) に混入 | 50 | 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 |
| 21 | 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 | 51 | 10YR3/3 暗褐色極細粒砂に10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂 (基盤層) が少々混入 |
| 22 | 10YR3/1 黒褐色極細粒砂 | 52 | 10YR3/3 暗褐色極細粒砂がブロック状に10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂 (基盤層) に混入 |
| 23 | 10YR4/4 褐色極細粒砂 | 53 | 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 |
| 24 | 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 | 54 | 10YR3/4 暗褐色極細粒砂 |
| 25 | 10YR2/1 黒色極細粒砂が斑点状に10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂 (基盤層) に混入 | 55 | 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (5mm大の炭化物含む) |
| 26 | 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 | 56 | 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 |
| 27 | 10YR3/3 暗褐色極細粒砂と10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂が斑状に混入 | 57 | 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 (下層に10YR6/2 極細粒砂 (基盤層) が混入) |
| 28 | 10YR3/3 暗褐色極細粒砂に10YR4/3 極細粒砂が少々ブロック状に混入 | 58 | 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 |
| 29 | 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 | 59 | 10YR3/4 暗褐色極細粒砂に10YR5/4 にぶい黄褐色極細粒砂 (5mm大の炭化物少々含む) が混入 |
| 30 | 10YR2/2 黒褐色極細粒砂に10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂 (基盤層) が下層より少々混入 | 60 | 10YR3/4 暗褐色極細粒砂 |

で浅くなるため、陸橋（ブリッジ）が存在した可能性がある。遺物は東山50号窯式期を中心とする須恵器と伊勢系の甕等の土師器。遺構のほぼ中央で杯類、長頸瓶、播鉢等の多器種にわたる須恵器の集積があった。また遺構底部に密着するように鉄鏃2点と埴輪片が出土している。

d .A区SK 34（SZ 01北外周溝上層：第5図、図版3）

遺構検出段階でA区西壁から東に延びる土坑状であったのでSKに分類したが、SD 25の上層部の溝と考えられる。幅約2.3m、深さ約0.4mで、埋土は暗褐色砂である。遺物は岩崎41号窯式期か高蔵寺2号窯式期の須恵器と伊勢系の甕等の土師器や、鍛冶関連遺物として鞆の羽口と鉄滓若干が出土している。SK 35とSK 47も同様にSD 25の上層部と考えられる。

e .A区SD 28（SZ 01南外周溝：第7・8・9図、図版4）

SD 27に上層と南辺を切られている。幅約2.3m、深さ0.6mをはかる。遺物は円筒埴輪、形象埴輪と東山11号窯式期またはそれ以前の須恵器が見られる。馬歯は底部に密着して出土した。B区SD 06下層とつながっていたと考えられる。

f .B区SD 06下層（SZ 01西外周溝下層：第7・8・10図、図版3・4）

A区SD 25からのびる溝で、弧状にめぐり、幅約2.6m、深さ約0.6mをはかる。北部のSD 06上層に切られている部分において東山50号窯式期を中心とする須恵器と伊勢系の甕等の土師器が集中して出土している。また遺構の中央部から南部において5世紀後半の埴輪と須恵器が、B区東壁付近において朝顔形円筒埴輪(336)が出土した。

g .B区SD 06上層（SZ 01西外周溝上層：第7・8・10図、図版3）

A区SK 34からひろがる溝状の落ち込みで、南西方向にのびてB区西壁へと抜ける。幅約1.8m、深さ約0.4mをはかる。遺物はSD 06下層北辺のものがかなり混入しているが、遺構の埋没時期は岩崎41号窯式期か高蔵寺2号窯式期と考えられる。

(2) B区SD 07（第7・8図、図版3）

B区東壁から北西方向に延び、B区西壁へと抜ける溝で、幅約0.8m、深さ約0.25mをはかる。中央部を中世の土坑に壊されているため、遺物はB区東壁付近とB区西壁付近に集中しており、東山50号窯式期を中心とする須恵器と伊勢系の甕等の土師器が出土している。A区SD 25との関係は不明である。

(3) A区SD 27（第8・9・11図、図版4）

SZ 01の南側を弧状にながれる溝で、SD 28を切って掘られている。B区SD 08につながる溝と考えられる。幅約2.3m、深さ約0.25mをはかる。5世紀後半～8世紀前半の埴輪、土師器、須恵器が出土した。

(4) B区SD 08（第11図）

A区SD 27から南西に続くB区南側にて検出された溝で、北西から南西方向へゆるい「S」字状を描いてながれる。幅約2.0m、深さ約0.6mで、5世紀後半～8世紀初頭の土師器、須恵器の出土がある。城山2号窯式～東山11号窯式期の須恵器（杯類）数点は、ほぼ完形の状態で出土した。

(5) B区SD 05（第10・11図、図版4）

B区SD 08の北を並行してながれる溝で、A区では確認できなかった。幅約2.0m、深さ約0.3mをはかり、5世紀後半～8世紀前半の須恵器、土師器が出土した。8世紀代前半の畿内系暗文土師器片数点が出土している。

(6) B区SD 04（第11図、図版5）

B区SD 06下層の南西にて検出された溝で、B区SD 05に直行して重複する。A区では不明で、幅約2.0m、深さ約0.3mをはかる。SD 04上層部において8世紀代前半の畿内系暗文土師器の皿の上に高蔵寺2号窯式期の須恵器有台杯がのり、さらに無台杯がその上に伏せた状態で出土した。8世紀初頭の須恵器、土師器、製塩土器が出土している。

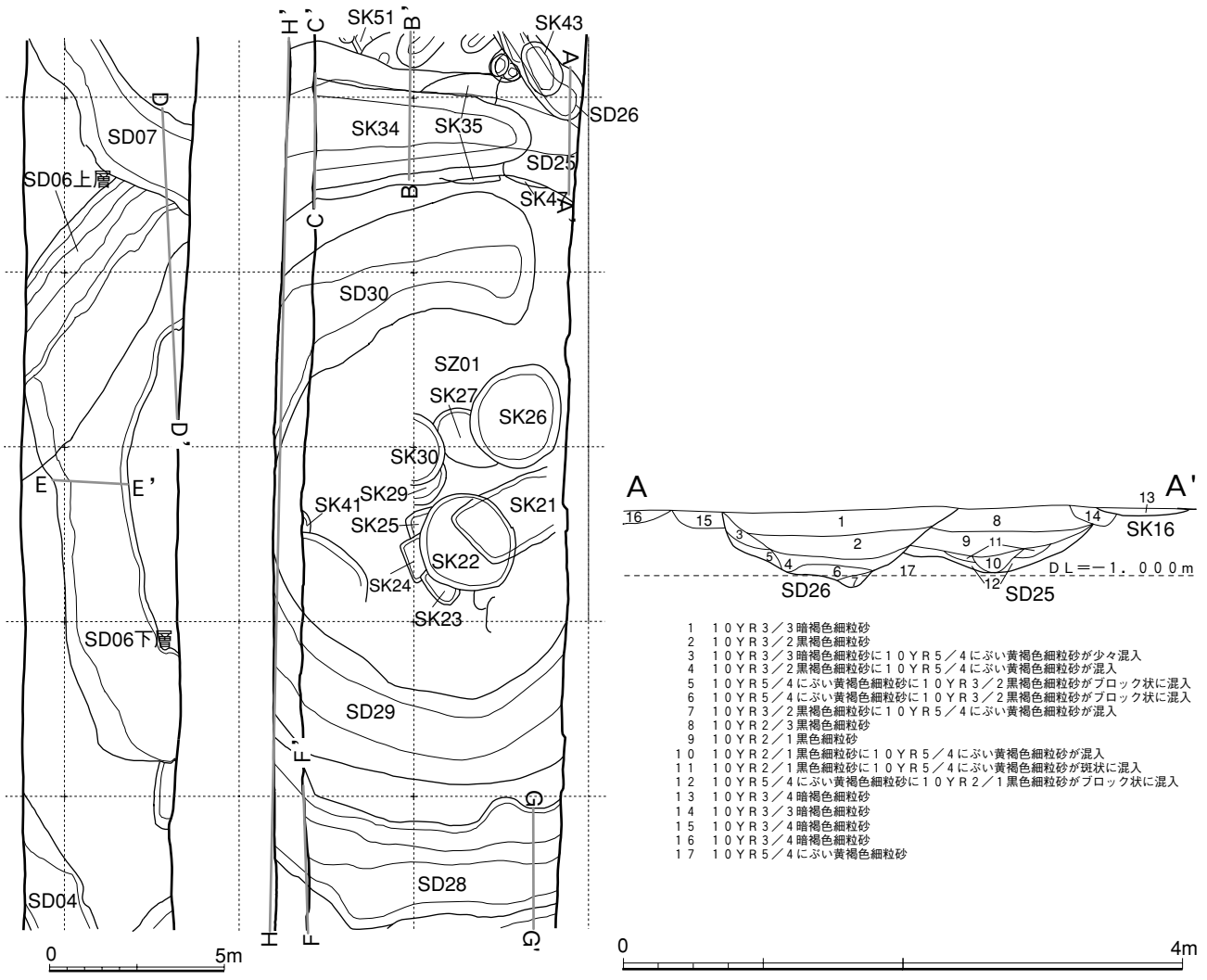
(7) A区SD 24（第12図、図版5）

SZ 01の北約10mの地点に一辺約5.0mの正形状にめぐり、溝を検出した。溝で囲まれた内部の長軸はN-60°-Eで、内部に小型の土坑が検出された。溝の幅は約2.0m、深さ約0.3mで、7世紀代末～8世紀代初頭の土師器甕(170)付近に26個の管状土錘(394～419)が出土した。B区SD 12～14と同時期と見られる。遺構の性格は不明。

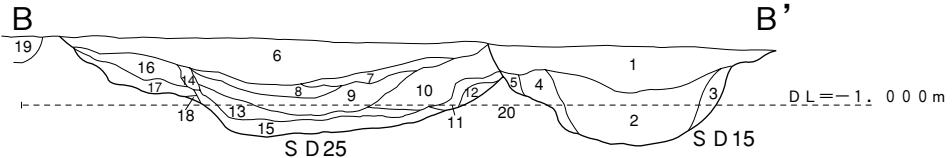
(8) B区SD 12（第12図、図版5）

A区SD 24の北西5mの地点でSD 24の北溝とほぼ並行する溝で、A区では検出できなかった。溝の幅は約2.0m、深さ約0.3mをはかる。7世紀代末～8世紀代前半の遺物が出土する。SK 83はこの上層に相当すると思われる。

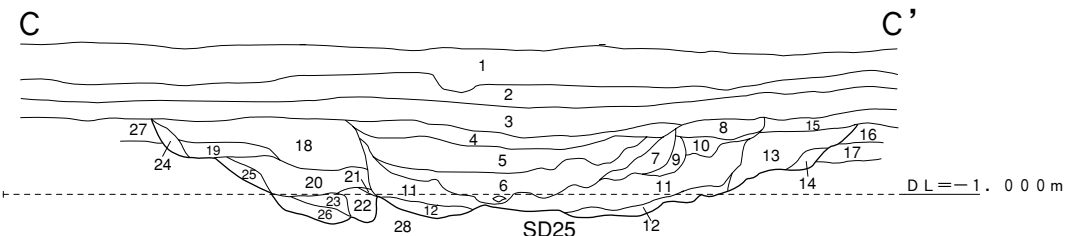
(9) B区SD 13（第12図、図版5）



- A**
- 1 10YR3/3 暗褐色細粒砂
 2 10YR3/2 黒褐色細粒砂
 3 10YR3/3 暗褐色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が混入
 4 10YR3/2 黒褐色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が混入
 5 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に10YR3/2 黒褐色細粒砂がブロック状に混入
 6 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に10YR3/2 黒褐色細粒砂がブロック状に混入
 7 10YR3/2 黒褐色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が混入
 8 10YR2/3 黒褐色細粒砂
 9 10YR2/1 黒色細粒砂
 10 10YR2/1 黒色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が混入
 11 10YR2/1 黒色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が混入
 12 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に10YR2/1 黒色細粒砂がブロック状に混入
 13 10YR3/4 暗褐色細粒砂
 14 10YR3/3 暗褐色細粒砂
 15 10YR3/4 暗褐色細粒砂
 16 10YR3/4 暗褐色細粒砂
 17 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂

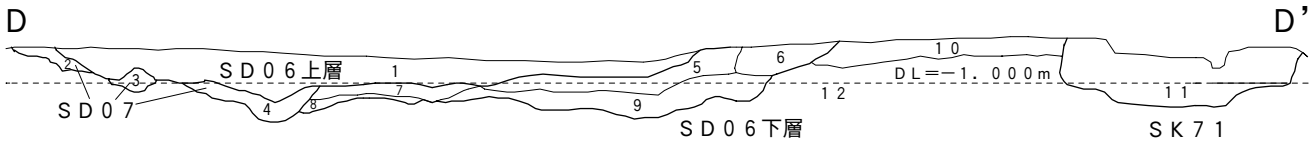


- B**
- 1 10YR3/3 暗褐色細粒砂
 2 10YR4/1 褐色細粒砂
 3 10YR4/1 褐色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が混入
 4 10YR2/2 黒褐色細粒砂
 5 10YR3/3 暗褐色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が混入
 6 10YR3/3 暗褐色細粒砂
 7 10YR2/2 黒褐色細粒砂
 8 10YR2/1 黒色細粒砂
 9 10YR1.7/1 黒色細粒砂 (炭化物5~10mmを多く含む)
 10 10YR2/1 黒色細粒砂
 11 10YR2/1 黒色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が混入
 12 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に10YR2/1 黒色細粒砂が混入
 13 10YR1.7/1 黒色細粒砂 (炭化物5~10mmを多く含む) に10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が混入
 14 10YR3/2 黒褐色細粒砂
 15 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に10YR1.7/1 黒色細粒砂 (炭化物5~10mmを多く含む) が混入
 16 10YR3/4 暗褐色細粒砂
 17 10YR3/4 暗褐色細粒砂
 18 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に10YR3/4 暗褐色細粒砂が混入
 19 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂
 20 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂

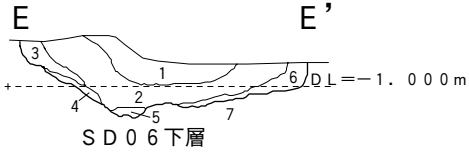


- C**
- 1 表土 (道路碎石)
 2 10YR4/4 褐色極細粒砂
 3 10YR3/4 暗褐色細粒砂
 4 10YR3/3 暗褐色細粒砂
 5 10YR3/2 黒褐色細粒砂
 6 10YR3/2 黒褐色細粒砂 (須恵器・土師器含む)
 7 10YR3/2 黒褐色細粒砂
 8 10YR3/3 暗褐色細粒砂
 9 10YR2/3 黒褐色細粒砂
 10 10YR3/4 暗褐色細粒砂
 11 10YR2/1 黒色細粒砂
 12 10YR2/1 黒色細粒砂が「28」に混入
 13 10YR3/3 暗褐色細粒砂
 14 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂
 15 10YR3/3 暗褐色細粒砂
 16 10YR3/2 黒褐色細粒砂
 17 10YR3/4 暗褐色細粒砂
 18 10YR3/4 暗褐色細粒砂
 19 10YR3/3 暗褐色細粒砂
 20 10YR2/3 黒褐色細粒砂
 21 10YR2/1 黒色細粒砂
 22 10YR2/2 黒褐色細粒砂
 23 2.5Y4/2 暗灰黄色中粒砂に10YR2/3 黒褐色細粒砂が少々混入
 24 10YR3/4 暗褐色細粒砂
 25 「28」に10YR2/3 黒褐色細粒砂がブロック状に混入
 26 2.5Y4/2 暗灰黄色中粒砂に10YR2/3 黒褐色細粒砂がわずかに混入
 27 10YR3/3 暗褐色細粒砂
 28 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂

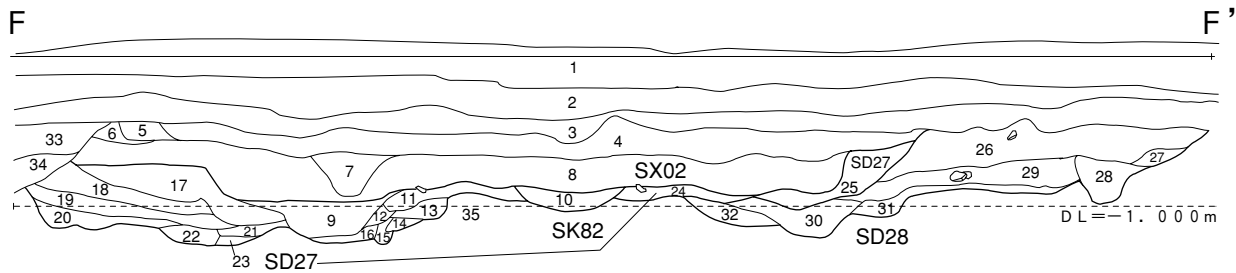
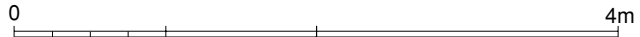
第7図 SZ01平面図(1:200)、関連遺構土層断面図1(1:50)



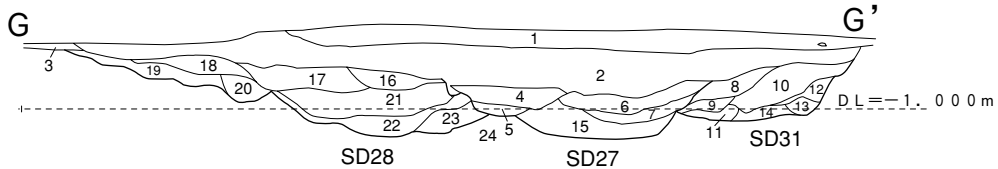
- | | |
|--------------------------------------|---|
| 1 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 | 7 10YR3/3 暗褐色極細粒砂に10YR1.7/1 黒色極細粒砂がブロック状に混入 |
| 2 10YR3/3 暗褐色極細粒砂に10YR6/2 灰黄褐色細粒砂が混入 | 8 10YR6/2 灰黄褐色細粒砂に10YR1.7/1 黒色極細粒砂が斑点状に混入 |
| 3 10YR3/3 暗褐色極細粒砂に10YR6/2 灰黄褐色細粒砂が混入 | 9 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂に10YR1.7/1 黒色極細粒砂が斑点状に混入 |
| 4 10YR2/2 黒褐色極細粒砂に10YR6/2 灰黄褐色細粒砂が混入 | 10 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 |
| 5 10YR1.7/1 黒色極細粒砂 | 11 10YR3/4 暗褐色極細粒砂 |
| 6 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 | 12 10YR6/2 灰黄褐色細粒砂 |



- | |
|---|
| 1 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 |
| 2 10YR2/1 黒色極細粒砂 |
| 3 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 |
| 4 10YR2/1 黒色極細粒砂が斑点状に10YR6/2 灰黄褐色細粒砂に混入 |
| 5 10YR2/1 黒色極細粒砂が斑点状に10YR6/2 灰黄褐色細粒砂に混入 |
| 6 10YR2/1 黒色極細粒砂が斑点状に10YR6/2 灰黄褐色細粒砂に混入 |
| 7 10YR6/2 灰黄褐色細粒砂 |



- | | |
|--|--|
| 1 表土 (道路碎石) | 18 10YR3/2 黒褐色細粒砂 |
| 2 10YR4/4 褐色極細粒砂 (しまり極めてよい) | 19 10YR2/2 黒褐色細粒砂 |
| 3 10YR3/4 暗褐色細粒砂 | 20 10YR2/2 黒褐色細粒砂が10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に混入 |
| 4 10YR2/3 黒褐色細粒砂 | 21 10YR3/4 暗褐色細粒砂が10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に混入 |
| 5 10YR3/4 暗褐色細粒砂が10YR2/3 黒褐色細粒砂に斑状に混入 | 22 10YR2/1 黒色細粒砂 |
| 6 10YR2/3 黒褐色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が混入 | 23 10YR3/4 暗褐色細粒砂が10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に少々混入 |
| 7 10YR2/3 黒褐色細粒砂が10YR3/3 暗褐色細粒砂に斑状に混入 | 24 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が混入 |
| 8 10YR3/3 暗褐色細粒砂 | 25 10YR2/3 黒褐色細粒砂 |
| 9 10YR2/2 黒褐色細粒砂 | 26 10YR3/3 暗褐色細粒砂 |
| 10 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 | 27 10YR3/3 暗褐色細粒砂が10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に混入 |
| 11 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が混入 | 28 10YR3/3 暗褐色細粒砂 |
| 12 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に10YR2/2 黒褐色細粒砂がブロック状に混入 | 29 10YR2/2 黒褐色細粒砂 |
| 13 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色粘土ブロックと10YR2/1 黒色細粒砂ブロックが混入 | 30 10YR2/1 黒色細粒砂 |
| 14 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に10YR4/2 灰黄褐色粘土ブロックが混入 | 31 10YR2/2 黒褐色細粒砂が10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に斑状に混入 |
| 15 10YR3/2 黒褐色細粒砂 | 32 10YR2/1 黒色細粒砂が10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂にブロック状に混入 |
| 16 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に10YR2/2 黒褐色細粒砂がブロック状に混入 | 33 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂 |
| 17 10YR3/4 暗褐色細粒砂 | 34 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が少々混入 |
| | 35 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂 |



- | | |
|--|---|
| 1 10YR3/3 暗褐色細粒砂に10YR4/4 褐色細粒砂が斑状に混入 | 13 10YR3/2 黒褐色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が混入 |
| 2 10YR3/4 暗褐色細粒砂 | 14 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に10YR3/2 黒褐色細粒砂が斑状に混入 |
| 3 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に10YR3/4 暗褐色細粒砂が斑状に混入 | 15 10YR3/1 黒褐色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が葉理状に混入 |
| 4 10YR3/1 黒褐色細粒砂 | 16 10YR3/3 暗褐色細粒砂 |
| 5 10YR3/1 黒褐色細粒砂が10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に葉理状に混入 | 17 10YR2/3 黒褐色細粒砂 |
| 6 10YR3/1 黒褐色細粒砂 | 18 10YR3/4 暗褐色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が少々混入 |
| 7 10YR3/1 黒褐色細粒砂に少々10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が混入 | 19 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に10YR3/4 暗褐色細粒砂がブロック状に混入 |
| 8 10YR3/1 黒褐色細粒砂 | 20 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に10YR3/4 暗褐色細粒砂がブロック状に混入 |
| 9 10YR3/1 黒褐色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が少々混入 | 21 10YR2/1 黒色細粒砂 |
| 10 10YR3/2 黒褐色細粒砂 | 22 10YR2/1 黒色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が少々混入 |
| 11 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に10YR3/1 黒褐色細粒砂が斑状に混入 | 23 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂に10YR2/1 黒色細粒砂が葉理状に混入 |
| 12 10YR3/2 黒褐色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が少々混入 | 24 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂 |

第8図 S Z 01 関連遺構土層断面図2 (1:50)

B区SD 12の北約5mをほぼ並行してめぐり、幅約2.0m、深さ約0.3mをはかる。SD 14に直行して、重複する。土師器、製塩土器が出土する。

(10)B区SD 14 (第12図、図版5)

B区SD 13に切られており、幅約2.0m、深さ約0.3mをはかる。遺物は希薄である。

第4節 中世の遺構

(1) A区SK 60 (第13図、図版6)

大型の方形竪穴状遺構。SK 61、SK 62とは埋土の違いがあるのみで同一遺構であり、隅丸正方形に近い南北長軸の長方形と考えられる。遺構の性格は不明。尾張型5型式を中心に灰釉系陶器碗が出土している。試掘時に出土した経筒外容器の時期に相当する。

(2) A区SK 61 (第13図)

SK 60と同時期。埋土の違いにより別遺構とした。

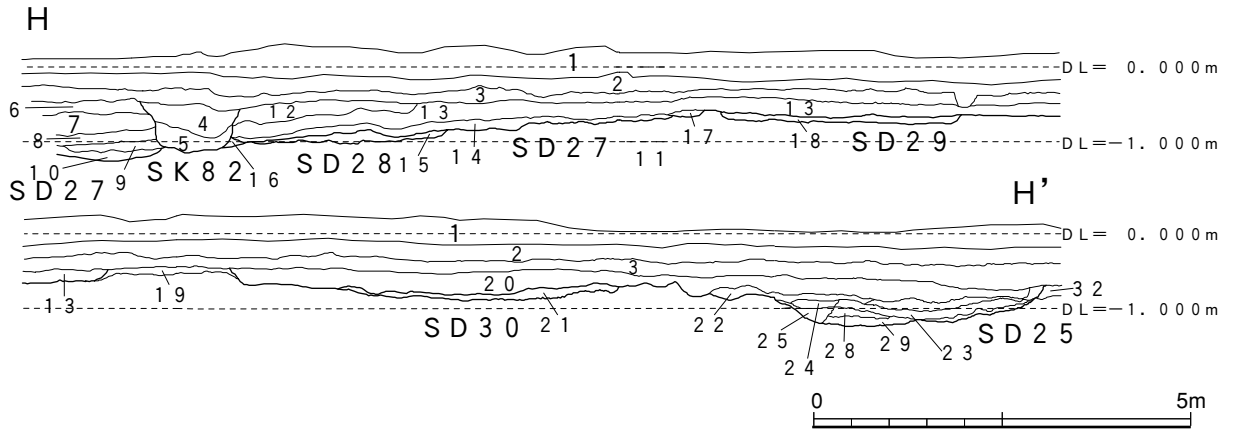
(3) A区SK 63

井ヶ谷78号窯式期の須恵器(187)とともに杏葉形をした鉄製品(M 3)が出土している。尾張型5型式の灰釉系陶器碗も出土しているが、別遺構が重なった状態と思われる。

(4) A区SK 10・11・13・48・66・67・69・77・78・80・81他 (第13図、図版6)

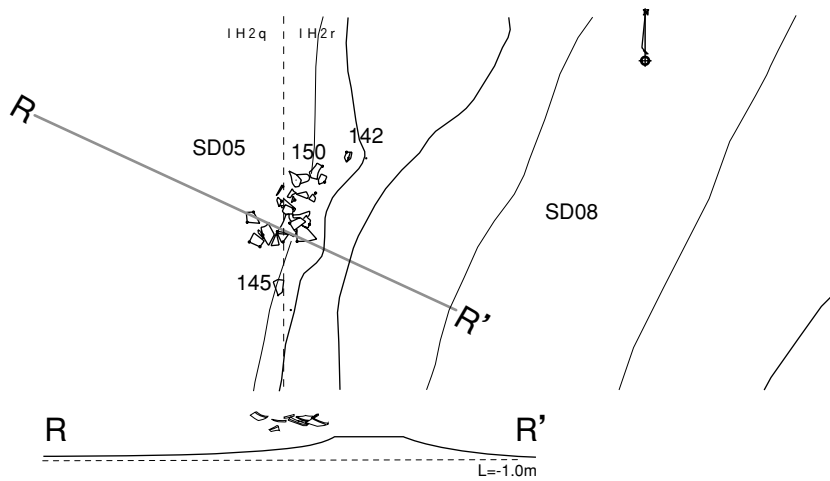
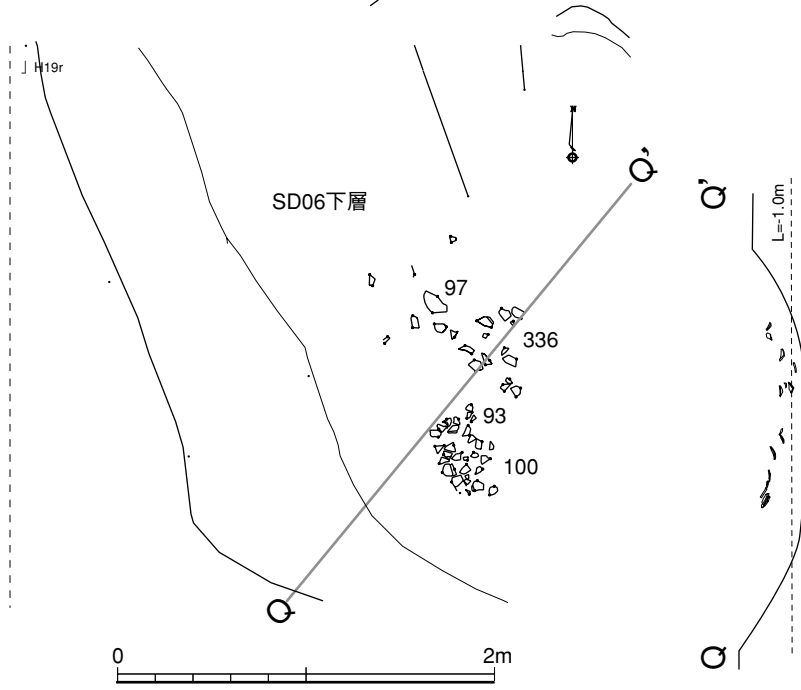
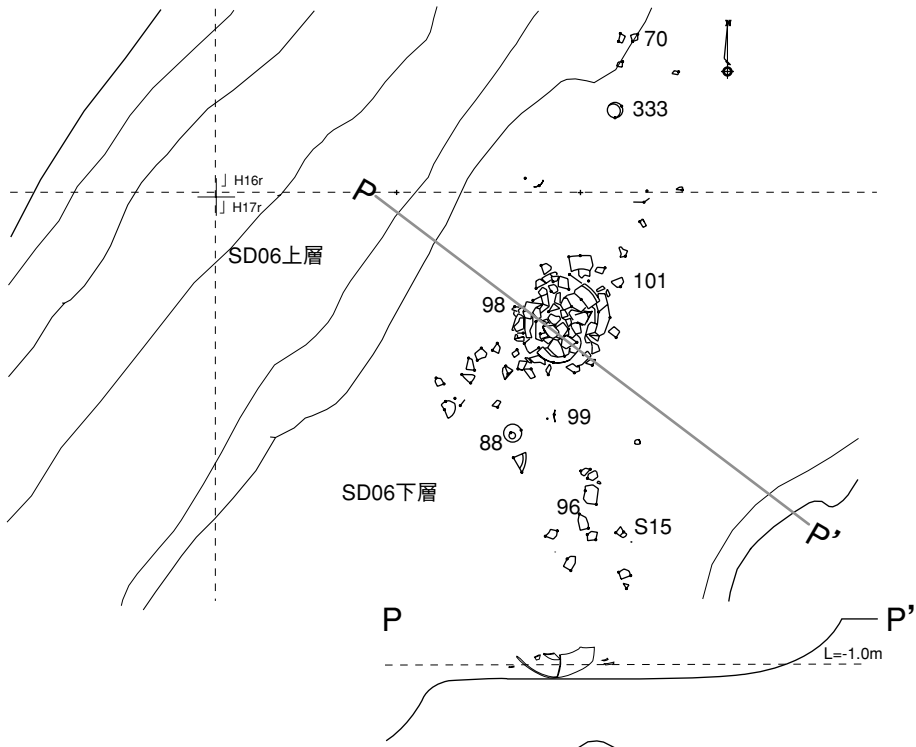
中世の方形土坑墓と思われる。A区北東部の比較的残存状況のよいもののみ断面図を実測した。同様の土坑墓と見られる方形土坑はA・B区合わせて85基検出されている。長さ約1.8m、幅約0.9mを標準形とし、ほとんどのものが南北に長軸を合わせて検出された(一部のものは南北を長軸とする土坑に直行する東西に長軸をもつ)。A区では東壁寄りに切り合いながら列をなし、調査区中央部より北に分布して、さらに北方にのびるようである。B区では、中軸付近で列をなし、調査区南北端では見られない(B区では、北端にいくに従い、平面形方形の土坑は長円形状の土坑へと変化している。それらは同じく中世の土坑であるが、墓かどうかは疑わしい)。おのおのの列は中軸同士約12m隔てて、2mほどの幅内に二列以上の土坑が切り合っており、土坑掘削の指向性が存在する。

遺物は灰釉系陶器の碗、小皿、土師器皿等の破片が出土する。B区SK 34からヒトのものと思われる



- | | |
|--|---|
| 1 道路碎石 (攪乱) | 15 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂に10YR2/2 黒褐色極細粒砂が斑状に混入 |
| 2 10YR3/4 暗褐色極細粒砂 (道路碎石の填圧によりしまりよし) | 16 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂 |
| 3 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 | 17 10YR3/3 極細粒砂に10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂が混入 |
| 4 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 | 18 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 |
| 5 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 | 19 10YR3/3 暗褐色極細粒砂が10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂に混入 |
| 6 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 | 20 10YR2/3 黒褐色極細粒砂 |
| 7 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 | 21 10YR2/3 黒褐色極細粒砂が10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂に混入 |
| 8 10YR2/1 黒色極細粒砂 | 22 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 |
| 9 10YR2/1 黒色極細粒砂に10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂が混入 | 23 10YR3/1 黒褐色極細粒砂 |
| 10 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂に10YR2/1 黒色極細粒砂が斑状に混入 | 24 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 |
| 11 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂 | 25 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 |
| 12 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 | 28 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂に10YR2/1 黒色極細粒砂 (遺物多い) がブロック状に混入 |
| 13 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 | 29 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂に10YR2/1 黒色極細粒砂 (遺物多い) が斑状に混入 |
| 14 10YR2/2 黒褐色極細粒砂 | 32 10YR3/3 暗褐色極細粒砂がブロック状に10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂に混入 |

第9図 S Z 01 関連遺構土層断面図3 (1:100)



第10図 B区SD05・06遺物出土状態図(1:40)

指の基節骨片が1点出土しており、注目される。時期は13世紀前後と考えられる。

(5) B区SD 03

幅約1.0m、深さ0.5mで南北方向に長軸の合うV字形の溝。方形土坑の分布域とずれているので、墓域を区画する性格をもつと考えられる。遺物は希薄。13世紀。

(6) A区SD 05

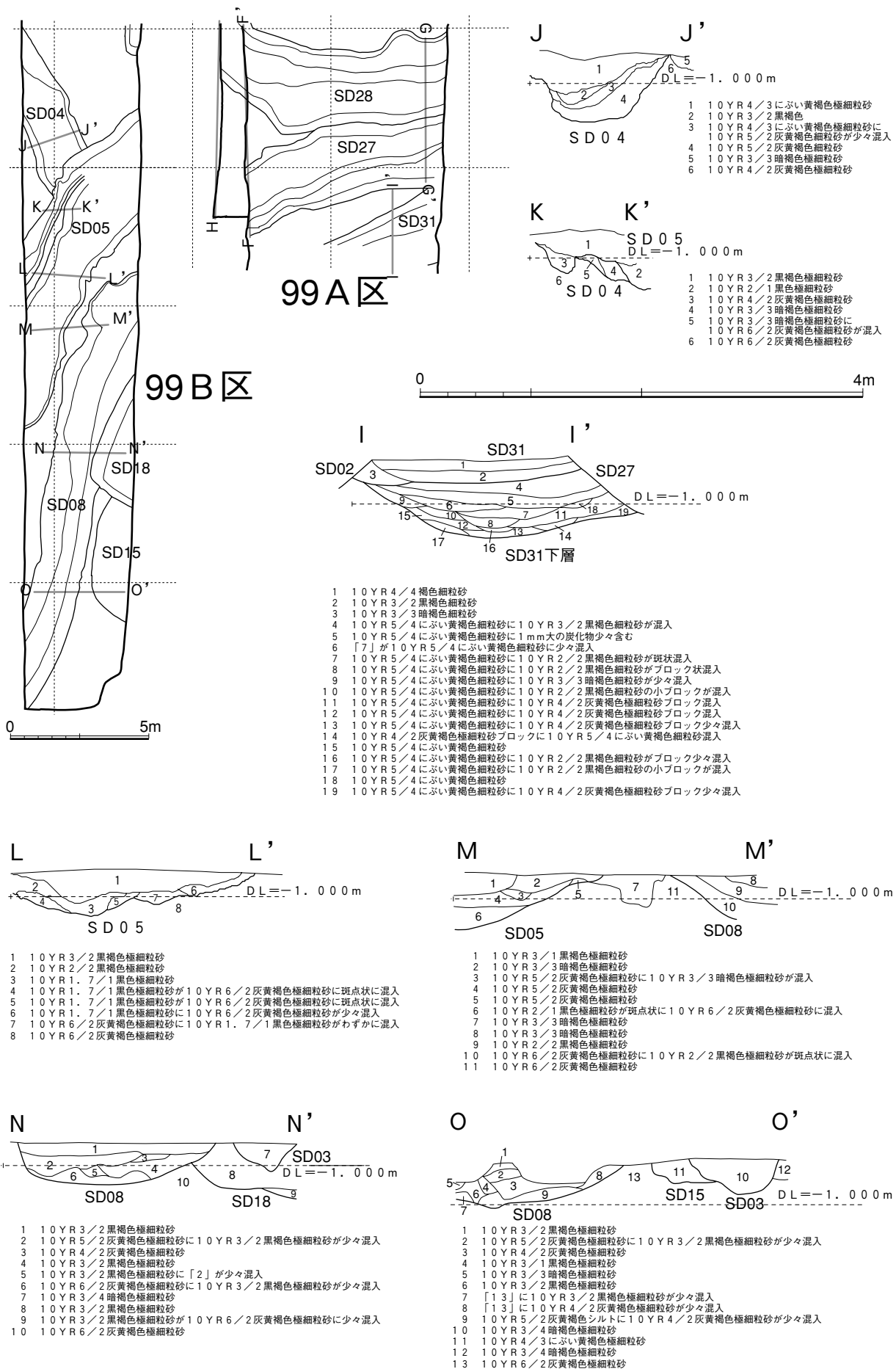
東西方向に長軸の合う溝で、いずれも方形土坑の分布域と重複せず少しはなれているので、墓域を区画する性格をもつと考えられる。13世紀。

(7) A・B区NR 01

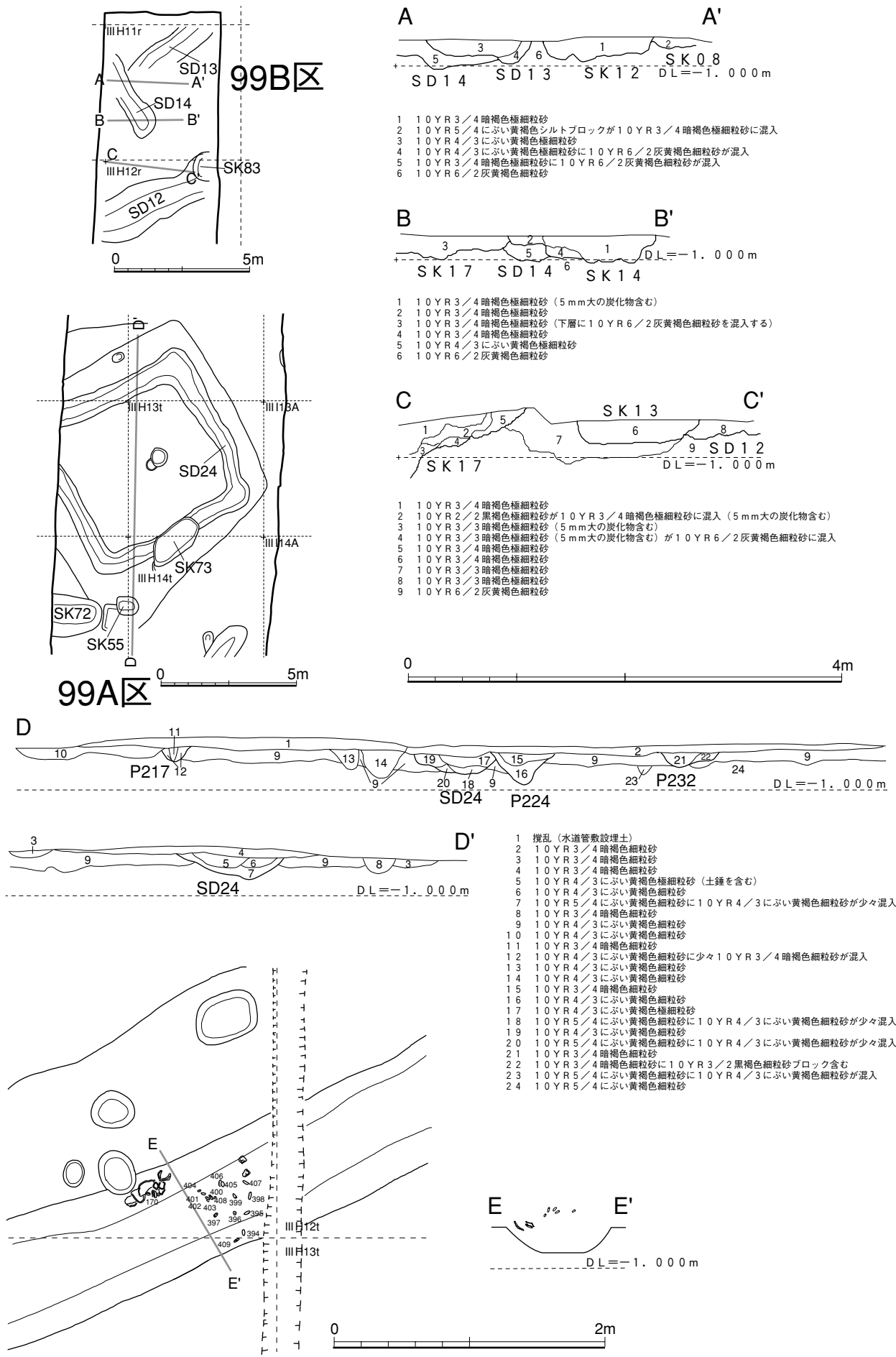
推定幅約10m、深さ約2.0mの東西方向に流れる自然流路(中世前～後期)。最深部で牛馬骨の出土した標高はマイナス1.7mを測る。現在に残る地割りと対応しており、大規模な区画溝の可能性ある。遺物は古代から15世紀後半にかけてのものが出土している。

(8) A区SD 18・12・08

耕地整理(大正13年、[第44図右下](#))以前の道路に沿った幅約0.5m、深さ約0.3mの南北方向の溝(中世後期～近代)。耕地整理前の道はリヤカーが1台通るほどの幅だったという。道路の側溝か。



第11図 A区SD31、B区SD04・05・08平面図(1:200)、土層断面図(1:50)



第12図 B区SD12・13・14平面図(1:200)、土層断面図(1:50)
A区SD24平面図(1:200)、SD24北溝遺物出土状態図(1:40)、土層断面図(1:50)

第3表 NR・SD・SX一覧（数字の単位はcm）

調査区	遺構No.	長軸	短軸	深さ	平面形態	埋土	時期	出土遺物
99A	NR01	480+	760+	113	直線?	断面図参照	15c後半	灰釉系陶器、常滑焼、青磁、獣骨、瓦（古代）
99B	NR01	300+	160+	27	直線?	断面図参照	中世	青磁
99A	SD01	1160	80	14	S字	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂	15c後半	鉄製品、灰釉系陶器、古瀬戸、灰釉陶器
99A	SD02	200+	100	35	直線	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂	中世	青磁、瓦（古代）
99A	SD03	735+	120	19	不明	10YR4/4褐色中粒砂	中世	瓦（古代）
99A	SD04	260+	35	20	弓状	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂	15c後半	灰釉系陶器、古瀬戸
99A	SD05	605	55	27	直線	10YR3/3暗褐色細粒砂	中世	灰釉陶器
99A	SD06	450+	60	19	弧状	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	8c前半	瓦
99A	SD07	160+	80	24	直線	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂	中世	
99A	SD08	1620+	50+	47	直線	10YR4/4褐色細粒砂	16c半	砥石、土師器鍋、常滑焼、瓦（古代）
99A	SD09	475	120	32	直線	10YR3/3暗褐色細粒砂		須恵器、灰釉陶器
99A	SD10	660+	50	29	直線	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂		
99A	SD11	540+	55	18	直線	10YR3/4暗褐色細粒砂		土師器、須恵器
99A	SD12	560+	20+	22	直線	10YR3/4暗褐色細粒砂	中世	瓦（古代）
99A	SD13	140+	110	45	不明	10YR3/4暗褐色細粒砂	中世	
99A	SD14	85+	25	12	直線	10YR2/3黒褐色細粒砂		
99A	SD15	690+	80	35	直線	10YR3/4暗褐色細粒砂	古代	須恵器、土師器
99A	SD16	745+	20	8	直線	10YR2/3黒褐色細粒砂	12c中葉	灰釉系陶器
99A	SD17	530+	20+	8	直線	10YR4/4褐色細粒砂	中世	
99A	SD18	1485+	30	19	直線	10YR3/4暗褐色細粒砂	中世	瓦（古代）
99A	SD19	225+	110	33	直線	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂	中世	加工円盤、土師器（7c）
99A	SD20	610	20	9	直線	10YR2/3黒褐色細粒砂	中世	
99A	SD21	780+	15	26	直線	10YR4/4灰黄褐色極細粒砂		
99A	SD22	155+	115	38	不明	10YR3/4暗褐色細粒砂	中世	鉄滓
99A	SD23	160	25+	26	不明	10YR3/4暗褐色細粒砂	中世	
99A	SD24	640×640	80	34	中空正方形	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂	7c末-8c初	土師器、管状土錘
99A	SD25	710+	330	64	弧状?	SK34下層 断面図参照	5c末-7c後半	埴輪、土師器、須恵器、鉄鎌、管状土錘、馬歯
99A	SD26	380+	110	37	不明	断面図参照		製塩土器、土師器
99A	SD27	700+	230	26	弧状	SX02南溝 断面図参照	5c後半-8c半	埴輪、土師器、須恵器
99A	SD28	640+	230	66	弧状	SX02北溝 断面図参照	5c後半-8c	埴輪、土師器、須恵器、鉄滓、馬歯
99A	SD29	660+	250	35	弧状	10YR3/4暗褐色細粒砂	6cor7c	埴輪、須恵器、土師器
99A	SD30	570+	290	36	弧状	10YR3/4暗褐色細粒砂		土師器、須恵器
99A	SD31	210+	135+	22	不明	10YR2/2黒褐色細粒砂	5c後半	埴輪
99A	SD32	80+	95	22	直線?	10YR2/2黒褐色細粒砂	古代	
99A	SD33	270+	90	30	直線	10YR2/2黒褐色細粒砂	5c末-6c初	須恵器、埴輪、砥石
99A	SD34	150+	70	22	不明	10YR2/2黒褐色細粒砂（ブロック状）に、10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が混入	古代	瓦、埴輪、炉壁、鉄滓、灰釉系陶器（中世）
99B	SD01	885+	35+	29	直線	10YR3/4暗褐色極細粒砂	中世	須恵器、土師器（7c後半-8c初）
99B	SD02	470+	190	25	弧状	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂	古代	土師器、須恵器、灰釉系陶器
99B	SD03	1140	75	54	直線	10YR3/3暗褐色極細粒砂	中世	砥石、鉄製品、瓦
99B	SD04	550+	180	43	直線?	断面図参照	8c初	畿内系暗文土師器、須恵器、製塩土器、土師器
99B	SD05	1150+	265	45	直線?		5c末-8c初	畿内系暗文土師器、須恵器、土師器、骨片
99B	SD06下層	600+	260	56	弧状	断面図参照	5c後半-7c後半	埴輪、土師器、須恵器、製塩土器
99B	SD06上層	640+	180	41	直線?	断面図参照	7c前半-8c前半	土師器、須恵器、砥石
99B	SD07	850+	200	27	弧状?	断面図参照	7c前半-中葉	土師器、須恵器、鉄鎌
99B	SD08	1200+	200	61	S字?	断面図参照	5c後半-8c初	土師器、須恵器、砥石
99B	SD09	50+	55	23	直線	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂		土師器
99B	SD10	50+	90	28	直線	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂		土師器
99B	SD11	350+	65	9	S字	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂		土師器、須恵器
99B	SD12	500+	170	41	直線?	10YR3/3暗褐色極細粒砂 断面図参照	7c	土師器、須恵器
99B	SD13	350+	100	30	直線?	断面図参照	7c	土師器、製塩土器
99B	SD14	320+	70	31	直線?	断面図参照	古代	
99B	SD15	310+	20+	32	弧状?	断面図参照	古墳	
99B	SD16	200+	60	16	L字	10YR5/2灰黄褐色極細粒砂	7c	土師器
99B	SD17	90+	60	27	直線	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂		須恵器
99B	SD18	145+	50+	31	弧状?	断面図参照		須恵器
99A	SX01	300	150+		不明	10YR2/2黒褐色細粒砂	15c中葉	灰釉系陶器、古瀬戸、陶丸、須恵器
99A	SX02	360+	350		不明	10YR2/2黒褐色細粒砂	5c後半	埴輪、土師器、須恵器、灰釉陶器
99B	SX01	380+	360+	20	不定形	10YR4/4褐色極細粒砂	中世	加工円盤

第4表 SK一覧-1 (数字の単位はcm)

調査区	遺構記号	長軸	短軸	深さ	平面形態	埋土	遺物	備考
99A	SK01	170+	140	54	隅丸長方形?	10YR4/2灰黄褐色細粒砂	古瀬戸	15c中葉
99A	SK02	180+	110	44	隅丸長方形?	10YR4/2灰黄褐色細粒砂		中世
99A	SK03	140	100+	13	楕円	10YR3/1黒色細粒砂	灰釉系陶器、鉄滓	12c中葉
99A	SK04	220	50+	32	隅丸長方形	10YR4/4褐色細粒砂	古瀬戸、灰釉系陶器	中世方形土坑墓、14c末-15c初
99A	SK05	220	100	50	隅丸長方形	10YR4/4褐色細粒砂	埴輪	中世方形土坑墓
99A	SK06	100+	90	30	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	常滑焼、埴輪	中世方形土坑墓、15c後半
99A	SK07	130	80	13	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	埴輪	中世方形土坑墓
99A	SK08	170	120	12	隅丸長方形	10YR3/3暗褐色細粒砂	土師器	
99A	SK09	110	60	17	隅丸長方形	10YR4/4褐色中粒砂	土師器	
99A	SK10	225	80	21	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	製塩土器、暗文土師器	中世方形土坑墓
99A	SK11	355	105	34	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	鉄鎌?	中世方形土坑墓
99A	SK12	190	85	30	隅丸長方形	10YR4/1褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99A	SK13	230	90	31	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	砥石、灰釉陶器	中世方形土坑墓
99A	SK14	120	85	21	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99A	SK15	120+	100	12	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99A	SK16	190+	60+	9	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99A	SK17	85	45+	12	隅丸長方形?	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99A	SK18	200	110	23	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99A	SK19	150	60+	26	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99A	SK20	170	120	31	隅丸長方形	10YR3/2黒褐色細粒砂		中世
99A	SK21	230+	195+	19	不明	10YR2/2黒褐色細粒砂に、10YR4/3に 黄褐色細粒砂が混入		
99A	SK22	275	275	13	円	10YR2/2黒褐色細粒砂に、10YR4/3に 黄褐色細粒砂が混入		中世
99A	SK23	120	70	12	隅丸長方形	10YR2/2黒褐色細粒砂に、10YR4/3に 黄褐色細粒砂が混入	灰釉系陶器	12c末-13c初
99A	SK24	120	70+	11	不明	10YR2/2黒褐色細粒砂に、10YR4/3に 黄褐色細粒砂が混入		中世
99A	SK25	80+	60+	16	不明	10YR2/2黒褐色細粒砂に、10YR4/3に 黄褐色細粒砂が混入		
99A	SK26	300	260+	10	楕円	10YR2/2黒褐色細粒砂に、10YR4/3に 黄褐色細粒砂が混入	埴輪	中世
99A	SK27	210	150	14	楕円	10YR2/2黒褐色細粒砂に、10YR4/3に 黄褐色細粒砂が混入		
99A	SK28	145	75	6	隅丸長方形	10YR2/2黒褐色細粒砂に、10YR4/3に 黄褐色細粒砂が混入		
99A	SK29	100+	70+	14	不明	10YR2/2黒褐色細粒砂に、10YR4/3に 黄褐色細粒砂が混入	埴輪	
99A	SK30	205	100+	12	楕円?	10YR2/2黒褐色細粒砂に、10YR4/3に 黄褐色細粒砂が混入	土師器、埴輪	
99A	SK31	100	35+	15	隅丸長方形	10YR4/3に黄褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99A	SK32	85	85	13	隅丸正方形	10YR2/2黒褐色細粒砂に、10YR4/3に 黄褐色細粒砂が混入	土師器	
99A	SK33	150	100	37	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99A	SK34	620+	230	39	不明	上層: 10YR4/4褐色細粒砂、中層: 10YR2/3黒褐色細粒砂、底部(下層): 10YR2/1黒色細粒砂	土師器、須恵器、輪の羽 口、鉄滓、埴輪	古墳周溝、7c前半-8c初
99A	SK35	210+	45+	16	不明	10YR3/4暗褐色細粒砂		
99A	SK36	340	290+	27	楕円?	10YR2/2黒褐色細粒砂	鉄製品	
99A	SK37	85+	55+	27	不明	10YR3/4暗褐色細粒砂		
99A	SK38	90+	110	26	楕円?	10YR3/3暗褐色細粒砂	灰釉系陶器	13c前半
99A	SK39	135	70	15	楕円?	10YR3/4暗褐色細粒砂		
99A	SK40	80+	60+	12	不明	10YR3/4暗褐色細粒砂		
99A	SK41	65+	25+	8	不明	10YR3/4暗褐色細粒砂が、10YR4/4褐色細 粒砂に混入		
99A	SK42	130+	100+	12	不明	10YR3/4暗褐色細粒砂が、10YR4/4褐色細 粒砂に混入		
99A	SK43	165	100	22	楕円	10YR3/4暗褐色細粒砂	土師器	
99A	SK44	85+	90	12	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂が、10YR5/4に 黄褐色細粒砂に混入		中世方形土坑墓
99A	SK45	150+	160	30	隅丸方形?	10YR2/3黒褐色細粒砂		
99A	SK46	95	70+	24	隅丸方形?	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世
99A	SK47	335	220+	37	不明	上層: 10YR2/3黒褐色細粒砂、下層: 10YR2/1黒色細粒砂	土師器、須恵器	古代
99A	SK48	120+	115	37	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99A	SK49	190	75	26	隅丸長方形	10YR4/3に黄褐色細粒砂	土師器	
99A	SK50	120+	65	20	長円	10YR4/3に黄褐色細粒砂	須恵器	8c前半以前
99A	SK51	100+	85+	22	不明	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世
99A	SK52	250+	95+	23	不明	10YR2/3黒褐色細粒砂	土師器、須恵器	
99A	SK53	95+	70+	6	不明	10YR3/4暗褐色細粒砂		
99A	SK54	135	105	11	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		
99A	SK55	100	55+	13	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		
99A	SK56	125+	75	9	隅丸長方形	10YR3/3暗褐色細粒砂	灰釉系陶器、青磁、土師 器、鉄滓	中世方形土坑墓、12c末-13c初
99A	SK57	230	90	20	隅丸長方形	10YR3/3暗褐色細粒砂	須恵器	中世方形土坑墓
99A	SK58	100	55	13	隅丸長方形	10YR4/3に黄褐色中粒砂	鉄製品	中世方形土坑墓
99A	SK59	200	95	32	隅丸長方形	10YR3/3暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99A	SK60	290	260+	23	隅丸方形	10YR2/3黒褐色極細粒砂	灰釉系陶器、灰釉陶器、 土師器	12c末-13c初
99A	SK61	260+	105+	24	不明	10YR2/1黒色極細粒砂。炭化物(5~10 μ) やや多く含む	灰釉系陶器	12c末-13c初
99A	SK62	190+	140+	6	不明	10YR3/3暗褐色細粒砂		
99A	SK63	150	110+	16	不定形	10YR2/3黒褐色極細粒砂	灰釉系陶器、砥石、鉄製 品、須恵器(墨書、8c 末)	12c末-13c初
99A	SK64	105	35+	11	隅丸方形	10YR2/3黒褐色極細粒砂	須恵器	8c後半
99A	SK65	130	75	19	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世

第5表 SK一覧-2 (数字の単位はcm)

調査区	遺構記号	長軸	短軸	深さ	平面形態	埋土	遺物	備考
99A	SK66	200	100+	12	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂が、ブロック状に10YR4/4褐色細粒砂に混入		中世方形土坑墓
99A	SK67	255	100	34	隅丸長方形	10YR3/3暗褐色細粒砂	瓦(古代)、鉄製品	中世方形土坑墓
99A	SK68	170	120	11	隅丸長方形	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂		中世方形土坑墓?
99A	SK69	105	40+	10	隅丸長方形	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂		中世方形土坑墓?
99A	SK70	80	70	21	隅丸長方形	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂		
99A	SK71	95	90	22	隅丸長方形	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂		
99A	SK72	185+	155	27	不明	10YR2/3黒褐色細粒砂	土師器	
99A	SK73	220	100	12	楕円	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂	土師器、須恵器	7-8c
99A	SK74	95+	60+	18	不明	10YR3/4暗褐色細粒砂		
99A	SK75	100+	50+	11	不明	10YR3/4暗褐色細粒砂		
99A	SK76	85+	50+	21	不明	10YR3/4暗褐色細粒砂	土師器	
99A	SK77	175	75	15	隅丸長方形	10YR3/3暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99A	SK78	160	75	23	隅丸長方形	10YR3/3暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99A	SK79	90+	70	9	隅丸長方形?	10YR3/3暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99A	SK80	175	100	30	隅丸長方形	10YR3/3暗褐色細粒砂	埴輪	中世方形土坑墓
99A	SK81	225	90	32	隅丸長方形	10YR3/3暗褐色細粒砂	古瀬戸、土師器銅、青磁?	中世方形土坑墓、14c後半
99A	SK82	60+	95	18	不明	10YR4/2灰黄褐色細粒砂	SD27.28を切る、30、長の石あり	中世
99A	SK83	210	50+	34	隅丸方形	10YR3/3暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99A	SK84	245	35+	49	隅丸長方形	10YR3/3暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK01	115+	70+	37	隅丸方形?	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂		中世
99B	SK02	70+	65+	10	隅丸方形?	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂	土師器	
99B	SK03	140+	70	17	長円?	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂		
99B	SK04	60	45+	16	不明	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂		
99B	SK05	50+	60	9	隅丸長方形	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂	土師器	
99B	SK06	105+	60+	36	隅丸方形?	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂	土師器	
99B	SK07	120	100	22	不定形	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂	土師器	
99B	SK08	130	90	26	不定形	上層は10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂、下層は10YR4/2灰黄褐色?ト	土師器	中世?
99B	SK09	150+	55+		不明	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂		
99B	SK10	115	65	11	楕円	上層は10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂、下層は10YR4/2灰黄褐色?ト	土師器	中世?
99B	SK11	110+	60+		不明	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂		
99B	SK12	255+	130	37	不定形	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂	加工円盤、土師器銅、土師器(古代)	中世?
99B	SK13	220	140	43	不定形	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂	製塩土器、土師器(古代)	中世?
99B	SK14	160+	150	45	不定形	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂	製塩土器、青磁	中世
99B	SK15	140	75+	47	隅丸方形?	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂		中世
99B	SK16	60+	25+	1	不明	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂	古瀬戸、灰釉系陶器	15c前半
99B	SK17	285+	140+	49	楕円?	上層は10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂、下層は上層の土に炭化物多く混じる	灰釉系陶器、製塩土器、土師器(古代)	12c中葉
99B	SK18	170	130+	26	楕円?	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂	土師器、須恵器	7c
99B	SK19	160	70	25	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK20	150	85+	2	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK21	180	85	21	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	加工円盤、鉄製品	中世方形土坑墓
99B	SK22	170	65	23	長円	10YR3/4暗褐色細粒砂	須恵器	中世方形土坑墓
99B	SK23	170+	100	33	楕円	10YR3/4暗褐色細粒砂		12c中葉
99B	SK24	215	110	29	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK25	180	100	20	楕円	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK26	250	70	37	隅丸長方形	10YR4/1褐色極細粒砂	鉄滓	中世方形土坑墓
99B	SK27	260	165	34	不定形	10YR4/1褐色極細粒砂	加工円盤	中世
99B	SK28	180+	155	37	不明	10YR4/1褐色極細粒砂		中世
99B	SK29	130	95	20	隅丸長方形	10YR4/1褐色極細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK30	180	135+	15	不明	10YR4/1褐色極細粒砂		
99B	SK31	390	115	37	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	土師皿、鉄滓	中世方形土坑墓
99B	SK32	285+	105	41	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK33	200	80+	46	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	製塩土器	中世方形土坑墓
99B	SK34	250	100	22	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	ヒト?指骨片(基節骨)	中世方形土坑墓
99B	SK35	130	90	20	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK36	100	70	38	隅丸長方形?	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK37	220+	120	39	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK38	260	110	25	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	鉄滓	中世方形土坑墓
99B	SK39	100	75	14	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK40	165	85	22	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK41	160	90	32	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK42	110	95	17	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	鉄滓	中世方形土坑墓
99B	SK43	215	100	26	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	鉄滓	中世方形土坑墓
99B	SK44	370	95	23	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK45	105	90	17	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK46	300	150	34	不定形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世
99B	SK48	105	80	39	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK49	120	115	37	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	製塩土器、鉄製品	中世方形土坑墓
99B	SK50	205+	105	38	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	鉄滓	中世方形土坑墓
99B	SK47	200+	50+	2	不明	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂	土師器	
99B	SK51	230	95	35	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK52	200	100	25	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK53	100	70	19	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	埴輪	中世方形土坑墓

第6表 S K一覽 - 3 (数字の単位は cm)

調査区	遺構記号	長軸	短軸	深さ	平面形態	埋土	遺物	備考
99B	SK54	165	100	36	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK55	115	105	36	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK56	165	120	31	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK57	190	75+	33	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK58	145+	125	24	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	瓦	中世方形土坑墓
99B	SK59	210	120	56	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	須恵器	中世方形土坑墓
99B	SK60	80	50+	23	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	古瀬戸	中世方形土坑墓、14c末-15c初
99B	SK61	170	100	29	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK62	130	85	22	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK63	295	155	39	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	土師皿、古瀬戸、鉄滓	中世方形土坑墓
99B	SK64	160+	130	36	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	灰釉系陶器、製塩土器、 畿内系略文土師器 (8c初)	中世方形土坑墓
99B	SK65	210	150+	12	不定形	10YR3/3暗褐色極細粒砂と10YR4/2灰黄褐色 シトが珉に混在	鉄滓	中世
99B	SK66	220+	150	19	不定形	10YR5/1褐灰色極細粒砂	須恵器	8c初
99B	SK67	130	70	14	隅丸長方形	10YR5/1褐灰色極細粒砂	鉄滓	中世
99B	SK68	115	80+	14	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色極細粒砂		中世
99B	SK69	80+	65+	20	隅丸長方形?	10YR3/4暗褐色極細粒砂	須恵器	中世
99B	SK70	120	70	15	隅丸長方形	10YR4/4褐色極細粒砂		
99B	SK71	160	70+	42	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世
99B	SK72	140+	105+	10	不明	10YR2/2黒褐色極細粒砂	土師器、須恵器	中世?
99B	SK73	110	60+	14	隅丸長方形?	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世
99B	SK74	1701	95+	21	隅丸長方形	東半10YR2/3黒褐色極細粒砂、西半 10YR4/3に黄褐色極細粒砂		中世
99B	SK75	290	90	37	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK76	140	80	18	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世
99B	SK77	300	95	15	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK78	180	80	27	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK79	90+	50	18	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK80	215	200	15	不定形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世
99B	SK81	90+	90		隅丸長方形?	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世
99B	SK82	110	70	20	楕円	10YR3/3暗褐色極細粒砂		SD12の一部、中世
99B	SK83	110	60+	17	楕円	10YR3/3暗褐色極細粒砂	土師器、須恵器	7c後半-8c後半
99B	SK84	80+	55+	33	楕円	10YR4/3に黄褐色極細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK85	65+	40+	27	楕円	10YR4/3に黄褐色極細粒砂		
99B	SK86	110+	30+	17	隅丸長方形?	10YR2/3黒褐色極細粒砂	土師器 (7c)	中世方形土坑墓
99B	SK87	200+	140	47	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK88	130	75	30	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK89	100	40+	16	隅丸長方形?	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK90	325	90	21	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	灰釉系陶器、鉄滓	中世方形土坑墓、13c中葉
99B	SK91	205	20+	13	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK92	150	75	34	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世方形土坑墓
99B	SK93	80	70+		隅丸長方形?	10YR3/4暗褐色細粒砂		中世
99B	SK94	100	80+	11	楕円?	10YR3/4暗褐色細粒砂	土師器?	中世?
99B	SK95	75+	75+	26	隅丸長方形?	10YR3/4暗褐色細粒砂	土師器?	中世?

第7表 P i t一覽 (数字の単位は cm)

調査区	遺構記号	長軸	短軸	深さ	平面形態	埋土	遺物	時期
99A	P003	80	55	11	楕円	10YR4/3に黄褐色細粒砂	瓦 (古代)	中世
99A	P010	60+	60+	16	不明	10YR4/3に黄褐色細粒砂	加工円盤	中世
99A	P013	50	20	7	楕円	10YR3/2黒褐色細粒砂	灰釉系陶器	12c中葉
99A	P027	70	65	12	隅丸長方形	10YR4/3に黄褐色細粒砂		
99A	P029	40	30	10	楕円	10YR4/3に黄褐色細粒砂	灰釉系陶器	11c末-12c初
99A	P030	50	20+	10	楕円?	10YR4/3に黄褐色細粒砂	常滑焼	中世
99A	P032	130	110+	24	不明	10YR4/3に黄褐色細粒砂	灰釉系陶器	12c末-13c初
99A	P035	80	55	27	楕円	10YR4/4褐色細粒砂、底部に 10YR2/1黒色細粒砂	角礫、焼痕あり	
99A	P037	80+	65	19	楕円	10YR3/4暗褐色細粒砂	須恵器	
99A	P132	75	65	15	楕円	10YR3/4暗褐色細粒砂		
99A	P149	45	40	10	楕円	10YR4/3に黄褐色細粒砂	須恵器	8c初
99A	P159	35	25	17	楕円	10YR3/4暗褐色細粒砂	灰釉系陶器	12c中葉
99A	P160	80	50	13	楕円	10YR2/3黒褐色極細粒砂		中世
99A	P163	50	25	9	楕円	10YR2/3黒褐色細粒砂	灰釉系陶器	12c中葉
99A	P170	30	20+	12	楕円	10YR2/3黒褐色細粒砂	灰釉系陶器	12c前半
99A	P171	20+	20	8	楕円	10YR3/4暗褐色細粒砂	須恵器	8c前半以前
99A	P175	35	30	16	楕円	10YR3/4暗褐色細粒砂	土師器	
99A	P196	75	60	4	隅丸長方形	10YR3/4暗褐色細粒砂	土師器	7c
99A	P227	50	35	9	楕円	10YR3/4暗褐色細粒砂	灰釉系陶器	12c末-13c初
99A	P277	45	30	9	楕円	10YR4/3に黄褐色細粒砂	土師器、管状土錘	7-8c
99A	P280	30	20		楕円	10YR3/2黒褐色細粒砂	大型魚類の椎骨	

第3章 遺物

第1節 土器・陶器（1～335、貿易陶磁器を除く）

（1）古墳構築以前の土器

この時期の遺構は確認されていないが、検出時や後世の遺構から古墳時代初頭から中期にかけての土師器が出土しているのでここに列挙する。詳細は各遺構出土の項参照。古墳時代土師器の分類と編年については赤塚次郎他の著作（赤塚1990.3愛知県埋蔵文化財センター調査報告書10『廻間遺跡』・赤塚他2001.3「松河戸・宇田様式の再編」『研究紀要2』愛知県埋蔵文化財センター）による。

廻間Ⅰ式・・・広口壺（200）

廻間Ⅲ式・・・広口壺（230）・S字状口縁台付甕C類（188・297）

松河戸Ⅱ式・・・高杯の脚部（334）

宇田Ⅰ式・・・大型高杯の脚部（335）

宇田式・・・台付甕（298）

また5世紀代の須恵器で東山11号窯式期以前に属すると推定されるものをここに列挙する。

城山2号窯式（推定含む）・・・蓋杯の蓋（125・141）

東山11号窯式以前（推定）・・・蓋杯の蓋（113）・蓋杯の杯（114）

5世紀代（推定）・・・壺（95）・高杯（282）

（2）SZ 01 出土（1～123）

a. SZ 01 北部周溝下層；A区SD 25 出土（1～52）

・須恵器（第14図1～28）

1～6は蓋杯の蓋。1～5（図版7）は東山50号窯式で、3と5は口縁部を上に向け重なって出土した。6は東山50号窯式前後。7～13は蓋杯の杯。8は東山61号窯式と44号窯式の間もしくは、猿投窯でない可能性もある（図版7）。10～13は東山50号窯式（図版7）。9と13は底部外面にへら記号がある。14は短頸埴で尾北窯産。15は高杯の蓋で、東山11号窯式もしくは、猿投窯でない可能性もある。16・17は、無蓋高杯の杯部。16は東山61号窯式と44号窯式の間。17は東山50号窯式。18は、高杯の脚部で、岩崎17号窯式。19・20（図版7）は甕で、岩崎17号窯式。21～23は長頸瓶で、21は岩崎17号窯式併行尾北窯産（図版7）、22は東山50号窯式前後、23は7世紀代後半の尾北窯産。24は短頸壺で、岩崎17号窯式併行尾北窯産（図版7）。25は壺で、6～7世紀代の西濃産（図版7）。26はフラスコ瓶で、東山50号窯式または岩崎17号窯式。27は摺鉢で、岩崎17号窯式（図版7）。28は甕で、6世紀代以降。

・土師器（第15・16図29～52、図版8）

全て7世紀代。以下古代の土師器の器種分類は永井宏幸（永井1996「尾張平野を中心とした古代煮沸具の変遷」『鍋と甕そのデザイン』第4回東海考古学フォーラム）による。35・40～42・44～49は伊勢系甕A 1で、47が7世紀代前半。29・31～34・36～39・43は伊勢系甕A 2で、29は7世紀代前半で、39と43が7世紀代後半と推定される。30と51は伊勢系の把手付鍋Aで7世紀代。50と52は甕。50は伊勢系と推定され、52は伊勢系。

b. SZ 01 北部周溝上層；A区SK 34 出土（第16図53～61）

・土師器（53～57）

全て7世紀代。54は伊勢系甕A 1。53,55は伊勢系甕A 2。56は伊勢系把手付鍋A。57は甕で伊勢系と推定される。

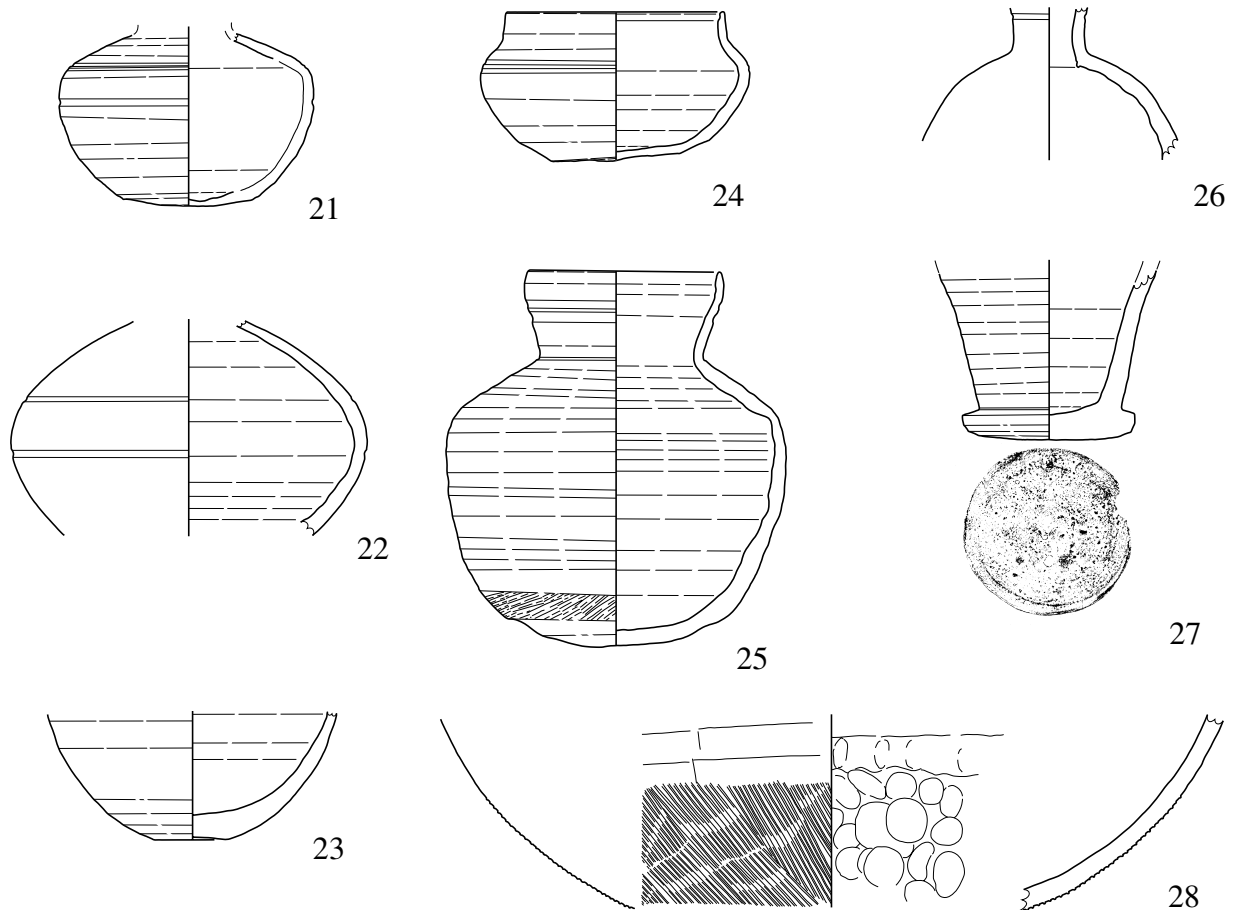
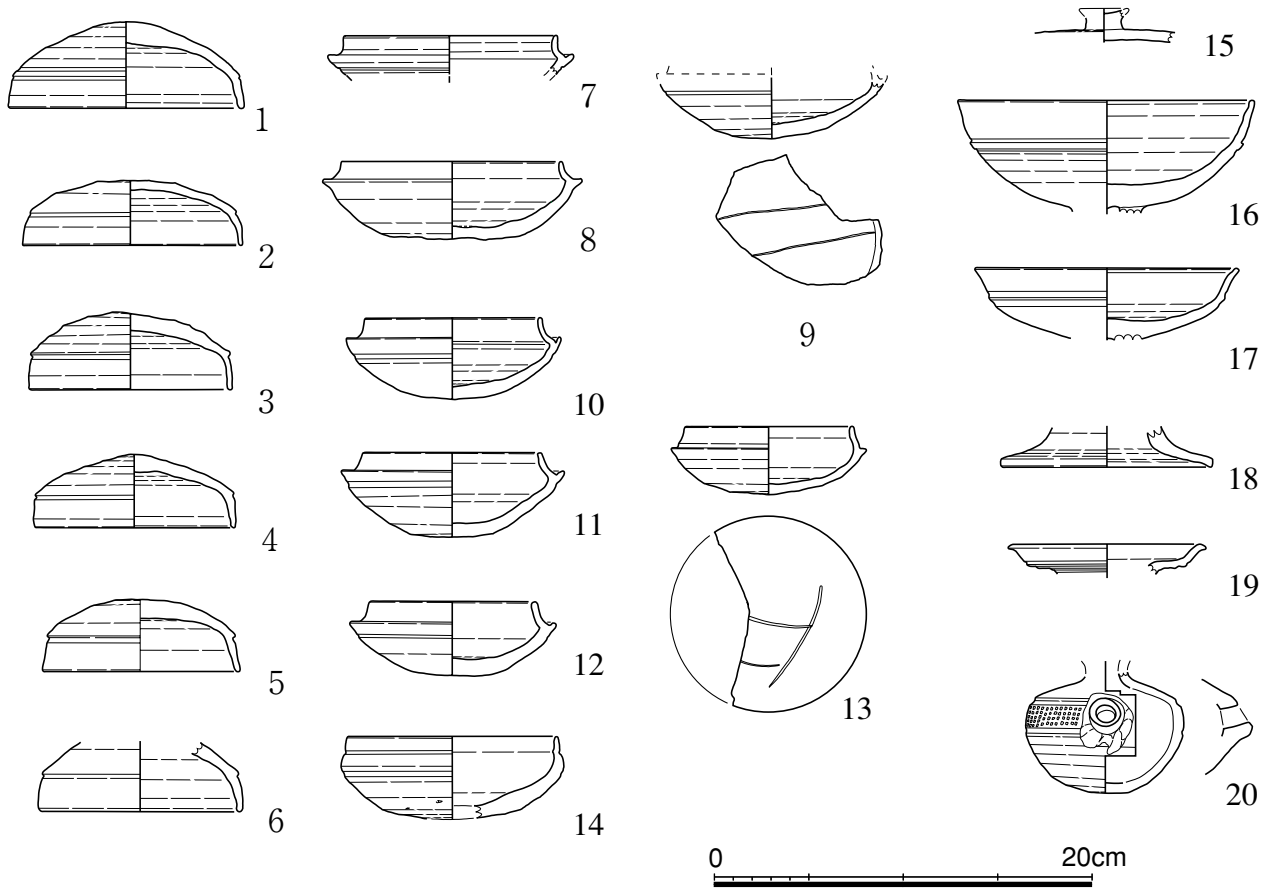
・須恵器（58～61）

58は蓋杯の杯で、東山50号窯式。59と60は有台杯で美濃須衛窯産の可能性ある。59は岩崎17号窯式または高蔵寺2号窯式以前（図版8）。60は、岩崎41号窯式または高蔵寺2号窯式。61は平瓶。

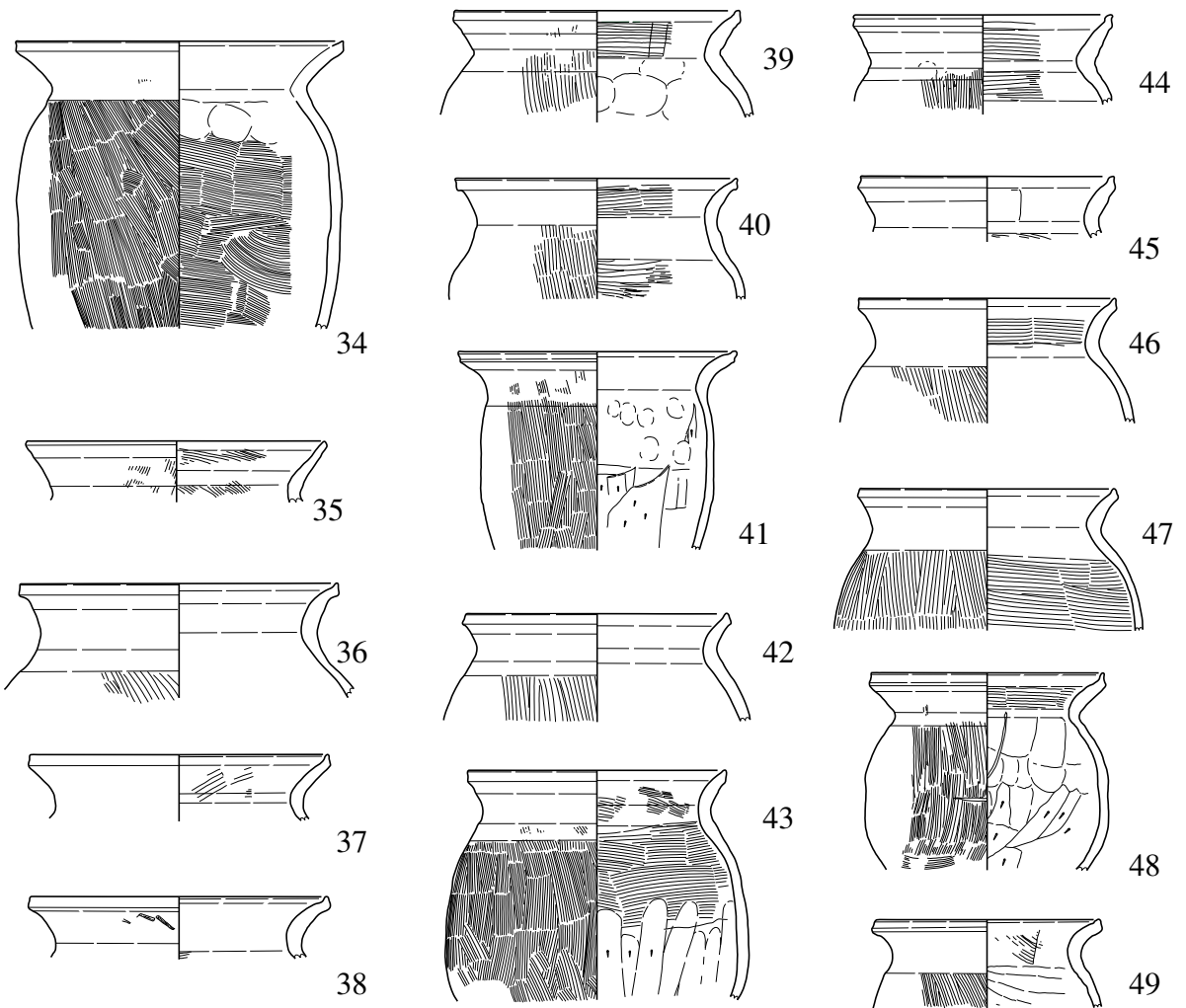
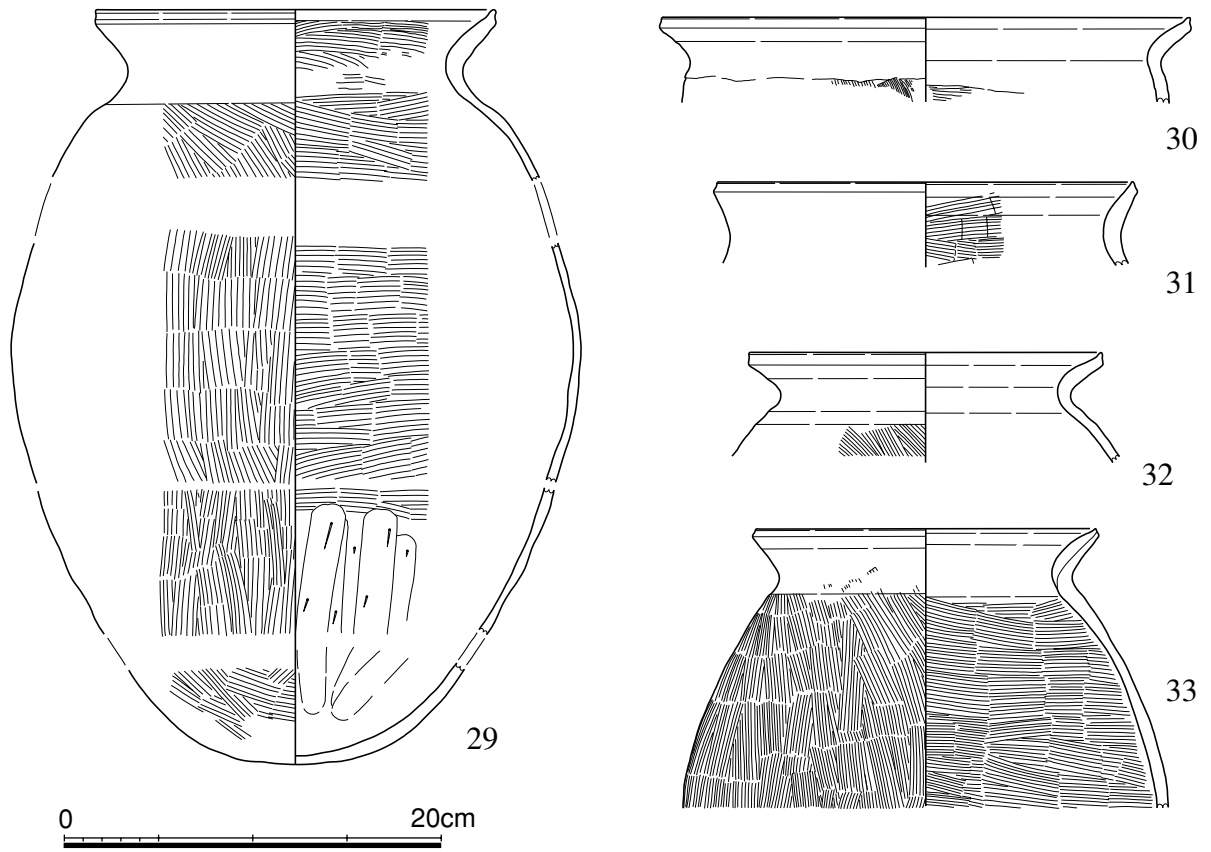
c. SZ 01 西部周溝上層；B区SD 07 出土（第16図62～76）

・須恵器（62～70）

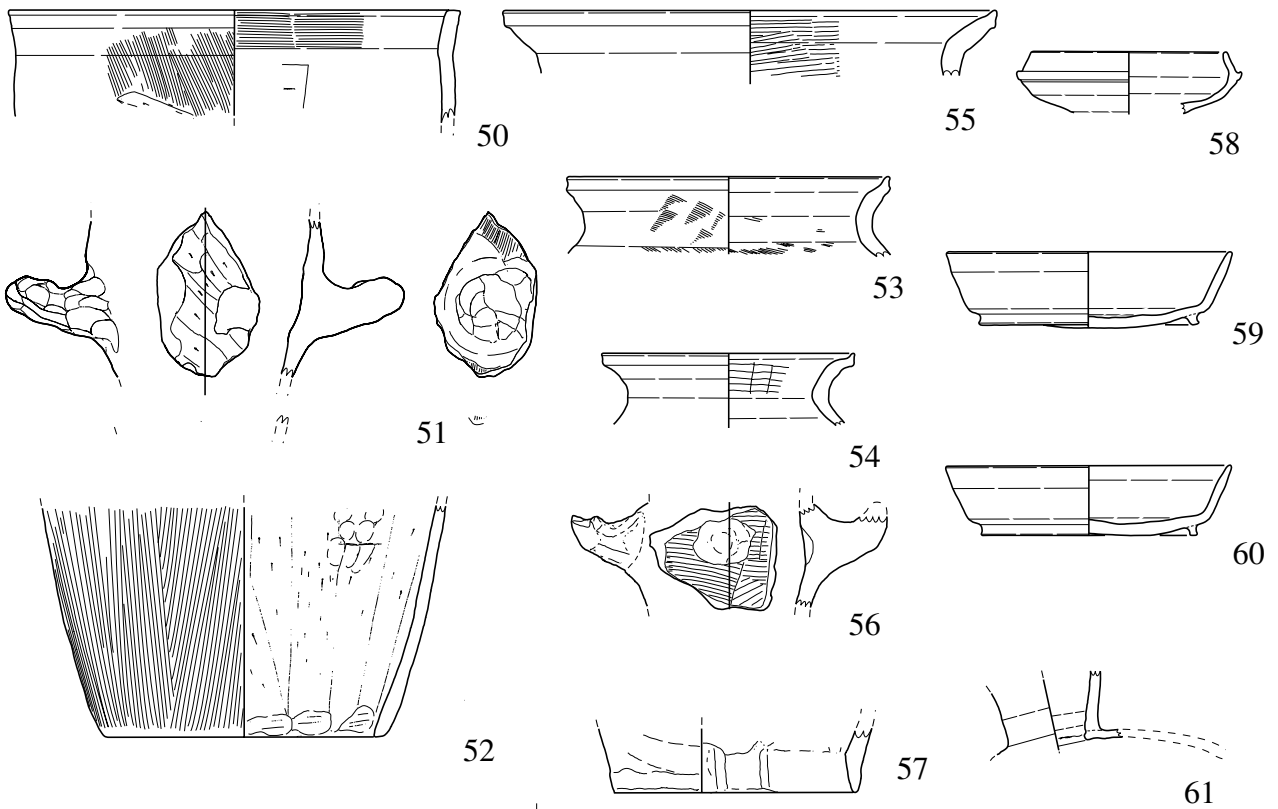
62と63は蓋杯の蓋で、63は東山50号窯式（図版8）。64は蓋杯の杯で、東山50号窯式。65は、無蓋高杯の杯部で、焼成時のひずみがある。7世紀代前半（図版8）。66と67は高杯の脚部で（図版8）、



第14图 A区S D 25出土须惠器(1:4)

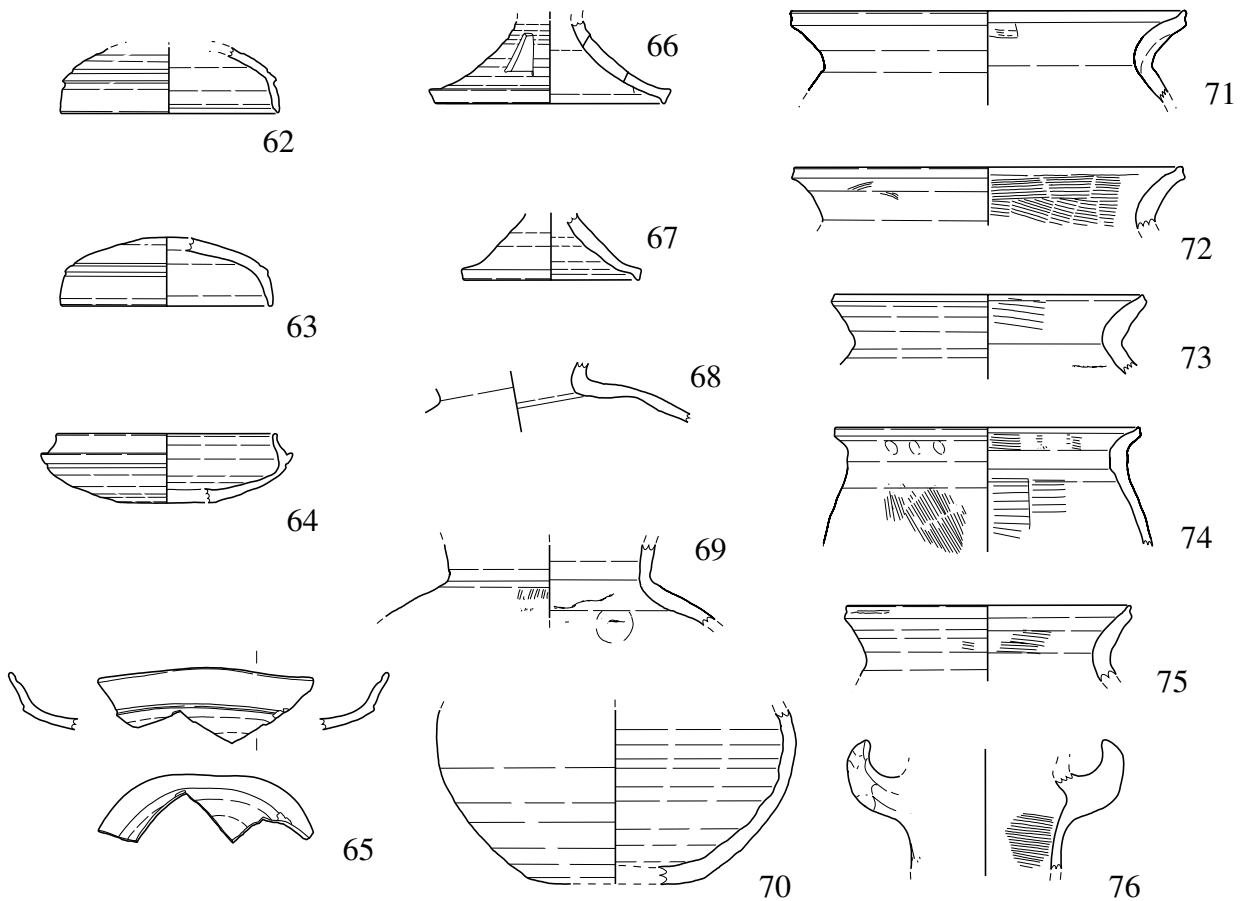


第15图 A区SD 25出土土師器(1:4)



A区S D25出土 | A区S K34出土
B区S D07出土

0 20cm



第16图 A区S D25出土土師器、A区S K34・B区S D07出土須恵器・土師器 (1:4)

66は二段三方透しで、東山50号窯式。67は岩崎17号窯式。68は平瓶。69と70は壺。

・土師器(71～76)

全て7世紀代。74は伊勢系甕A1。71～73と75は伊勢系甕A2。76は伊勢系の把手付鍋A。

d. SZ01西部周溝；B区SD06出土(77～112)

・須恵器(第17・18図77～99)

77と78は蓋杯の蓋で、ともに東山50号窯式。79と80は蓋杯の杯で、80は底面にへら記号があり、5～6世紀代。81はツマミ付、返り無しの蓋杯の蓋で、高蔵寺2号窯式(図版9)。82は高台部が欠損しているが有台杯と思われる。高蔵寺2号窯式以前。83は無台杯で、岩崎41号窯式。84～87は高杯。84と85(図版9)は東山50号窯式。86と87は岩崎17号窯式で、86は無蓋高杯(図版9)。88は甗で、東山50号窯式(第10図出土状態図、図版9)。89～92は短頸壺。91は岩崎17号窯式。89(図版9)と90は岩崎17号窯式または岩崎41号窯式。93～95は壺。93は6～7世紀代で伊勢産または西濃産(第10図出土状態図、図版9)。95は5世紀代と推定される。96は甗で、底部は欠損しているが、痕跡からI字状になると考えられる。東山50号窯式または岩崎17号窯式以前(第10図出土状態図、図版9)。97は把手付鍋または鉢。把手は欠損しているが、痕跡がある。6世紀代後半～7世紀代初頭(第10図出土状態図)。98は甕で、出土時は底部大破片の上に肩部より上の部分が内面剥離の激しい状態で崩れ落ちていた。口縁部は数片に割れていたが、全て残存していた。東山50号窯式(第10図出土状態図、図版4出土状況・図版9)。99は提瓶で、東山50号窯式(第10図出土状態図、図版9)。

・土師器(第19図100～112)

100は三河系と推定される甕で、7世紀代末(第10図出土状態図、図版9)。101は伊勢系の甕を模倣した美濃産の甕で、7世紀代後半(第10図出土状態図、図版9)。106は近江系と推定される小型甕で、7世紀代後半～8世紀代初頭。102～105と107～112は7世紀代の伊勢系の甕と鍋。105と110は伊勢系甕A1で110は7世紀代後半。103・104と107～109は伊勢系の甕A2 107は7世紀代後半、103も7世紀代後半と推定される。102と111・112は伊勢系の把手付鍋A。

e. SZ01南部周溝；A区SD28出土(第20図113～123)

・須恵器(113～123)

113は蓋杯の蓋で、東山11号窯式より古いかまたは、東山61号窯式と推定される(図版10)。114と115は蓋杯の杯で、114は東山11号窯式より古いと推定される(図版10)。115は猿投窯産でなく7世紀代後半。116～118は有台杯。116は底部外面に糸切りらしき痕跡がある。高蔵寺2号窯式(図版10)。117は8世紀代後半。119はツマミ付、返り無しの蓋杯の蓋で、ツマミは欠損している。8世紀代。120は提瓶で、6世紀代頃。121は提瓶か平瓶で、7世紀代後半～8世紀代前半。122は壺。123は甕で、8世紀代後半。

(3) A区SD27出土(第20図124、図版4出土状況・図版10)

・土師器(124)

濃尾系甕C2で、8世紀代半ば。

(4) B区SD08出土(第20図125～133)

・須恵器(125～133)

125～127は蓋杯の蓋(図版10)。125は城山2号窯式。126と127は伊勢産の可能性ある。127は5世紀代後半以降、126は5世紀代後半か。128は蓋杯の蓋か高杯。7世紀代後半。129は高杯の蓋で、東山11号窯式または東山窯以外の猿投窯産の可能性ある(図版10)。130は蓋杯の杯で、東山11号窯式または猿投窯産でない可能性ある。131は無台杯で、高蔵寺2号窯式または美濃須衛窯産。132は甗で、岩崎17号窯式。133は壺と思われる。

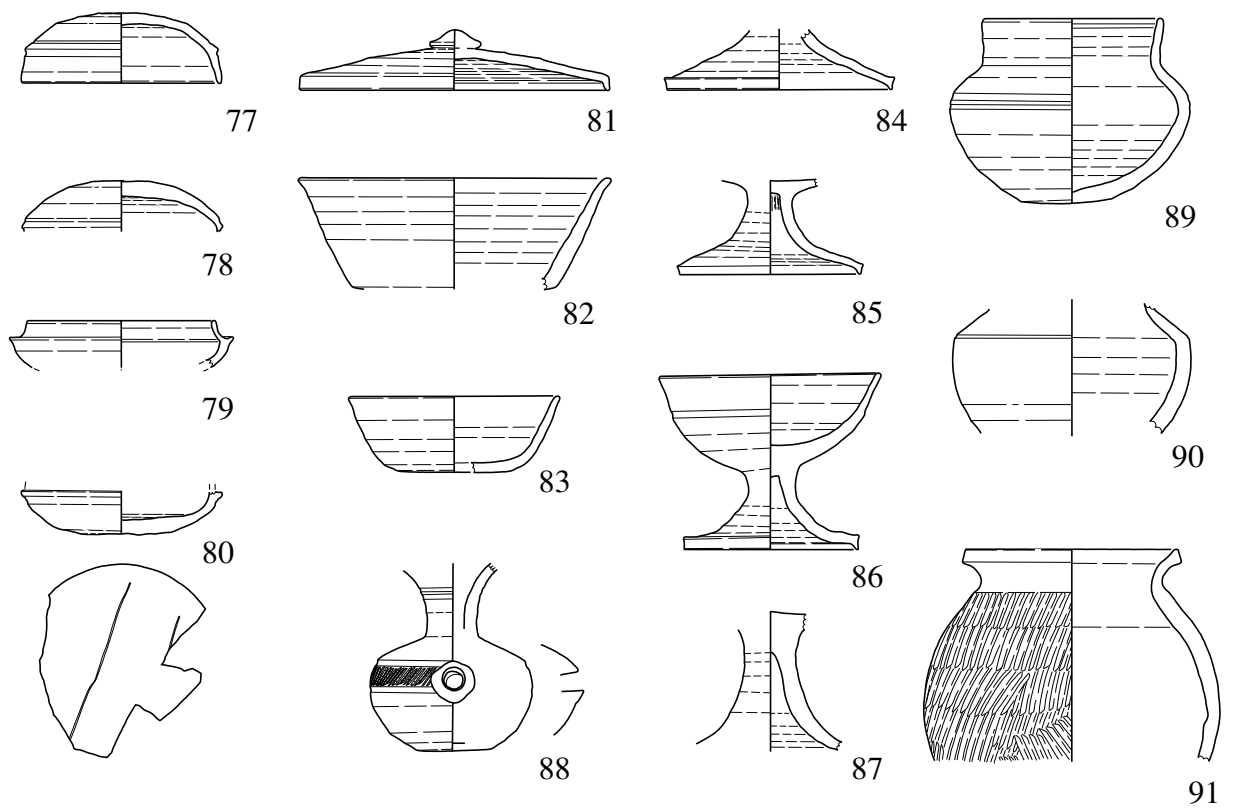
(5) B区SD04出土(第21図134～140)

・須恵器(134～136、図版10)

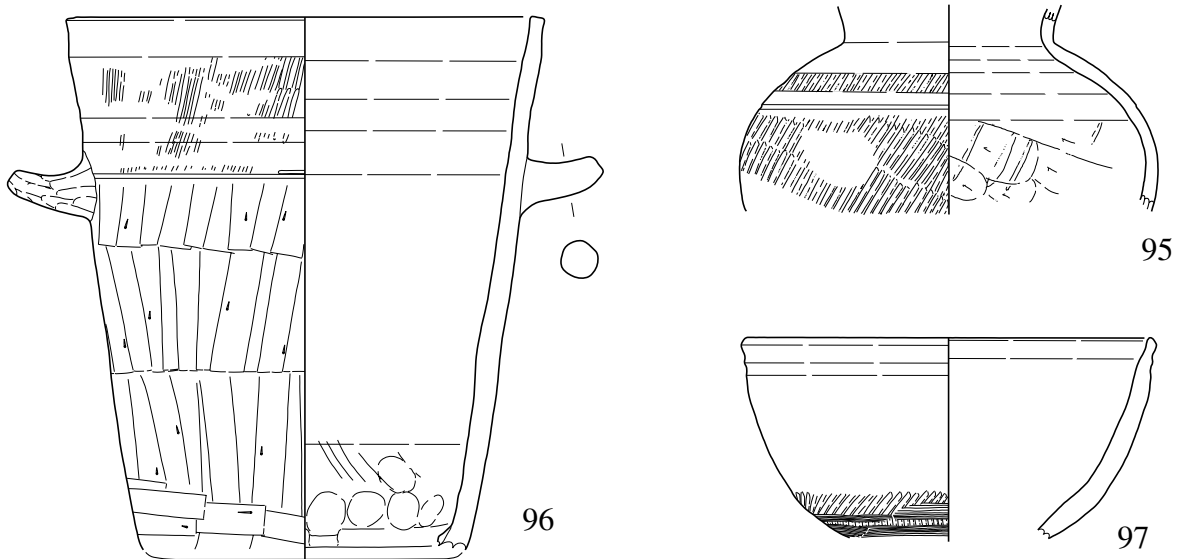
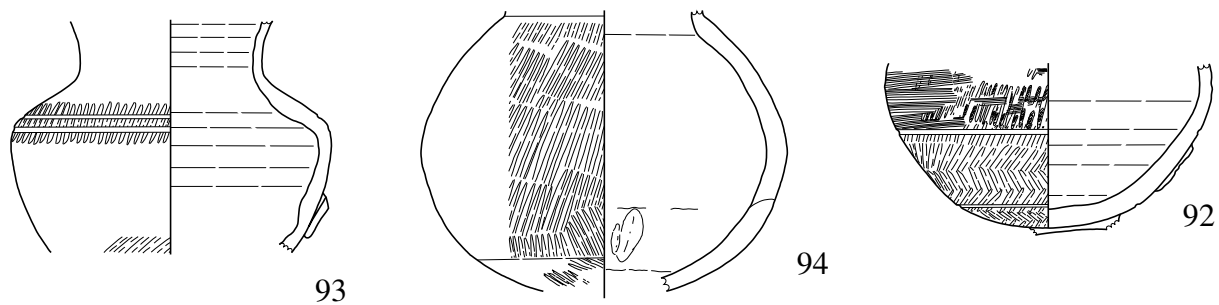
134と135は有台杯。134は高蔵寺2号窯式か尾北窯または老洞窯の可能性ある。135は高蔵寺2号窯式。136は無台杯で、高蔵寺2号窯式。

・灰釉陶器(137)

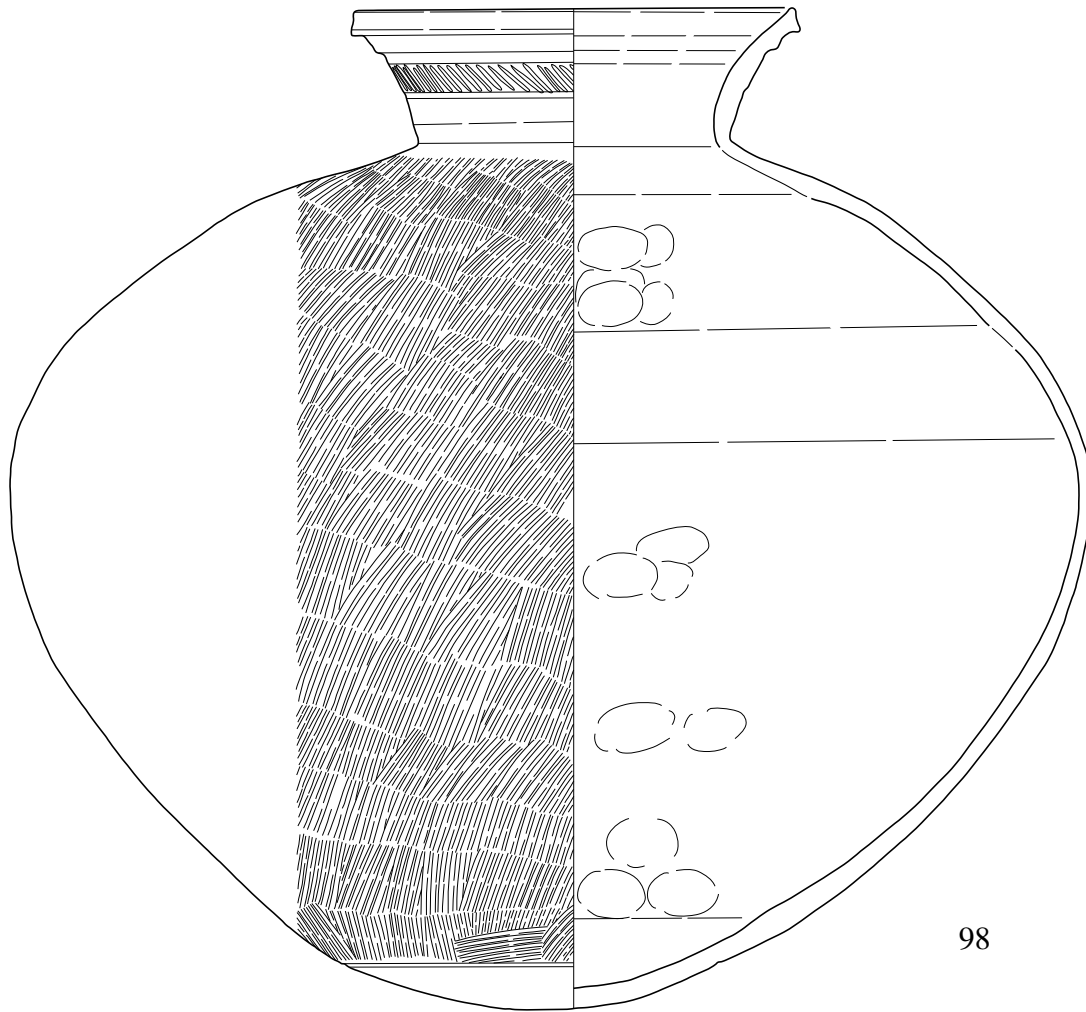
皿で、折戸53号窯式。



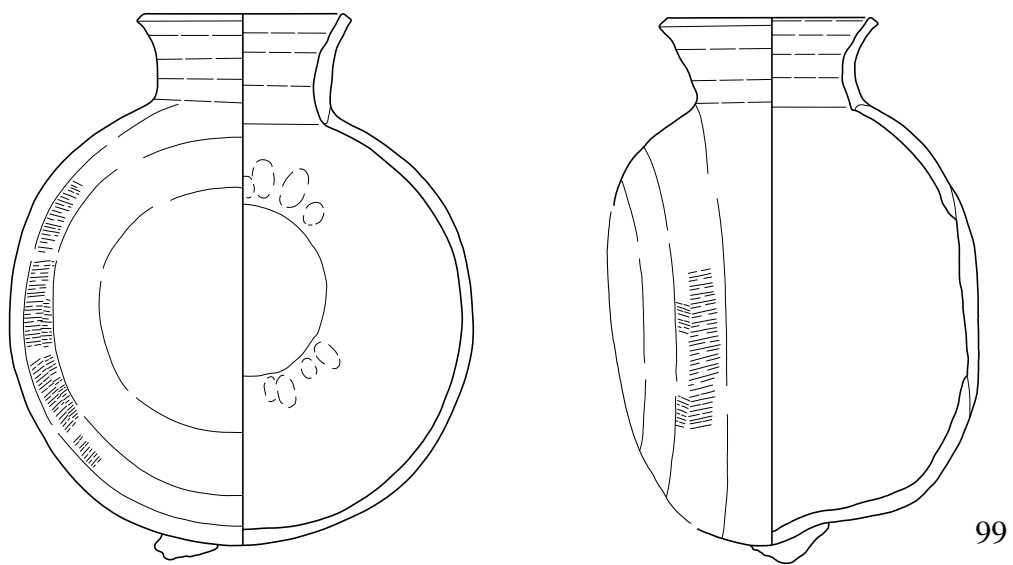
0 20cm



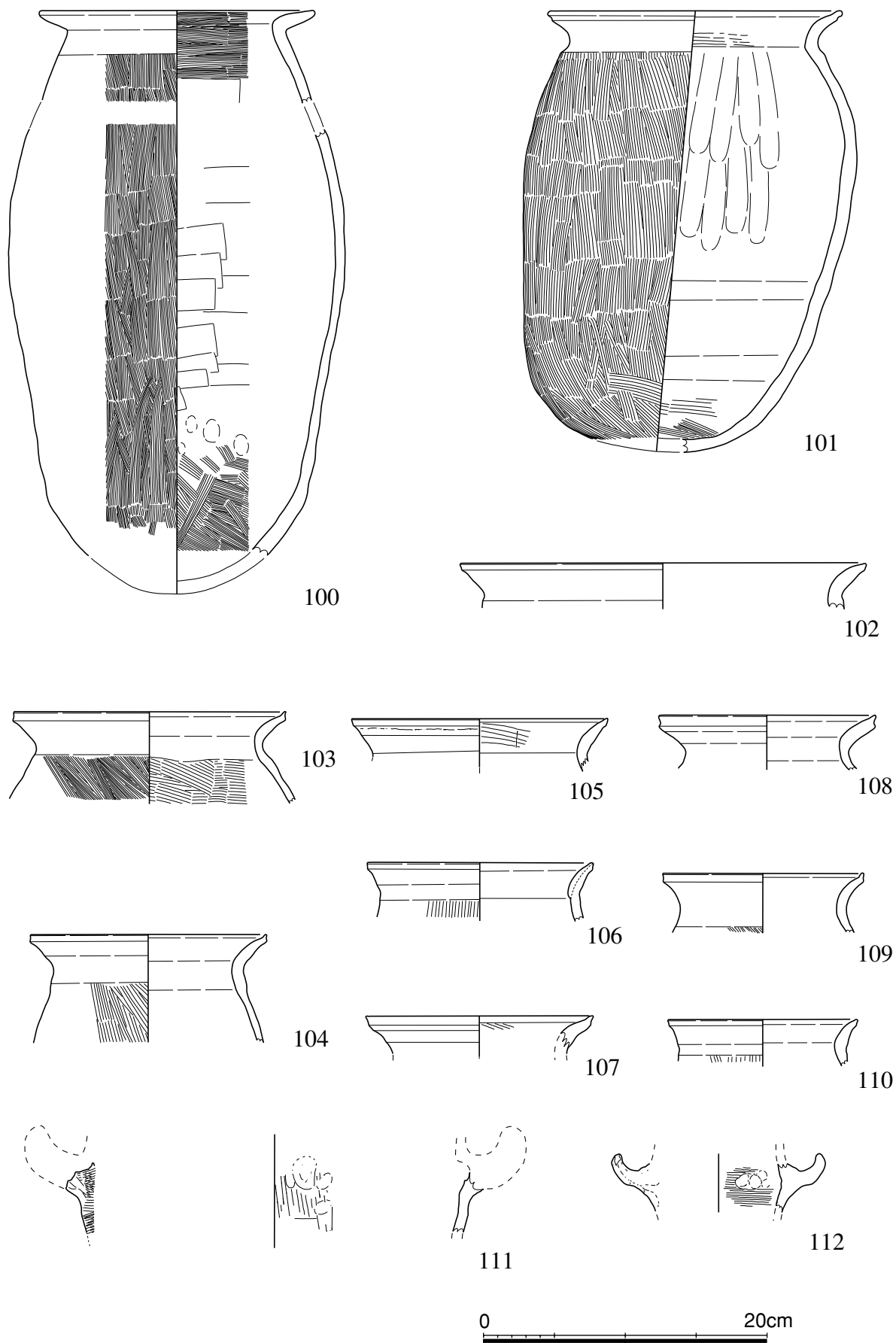
第17图 B区S D 06出土须惠器-1 (1:4)



0 20cm



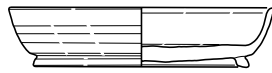
第18图 B区S D 06出土须惠器-2 (1:4)



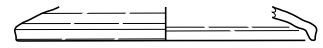
第19图 B区S D 06出土土師器(1:4)



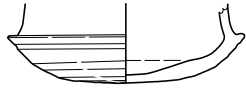
113



116



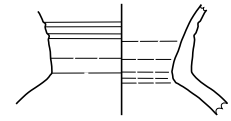
119



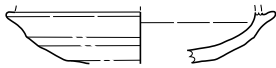
114



117



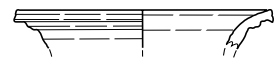
120



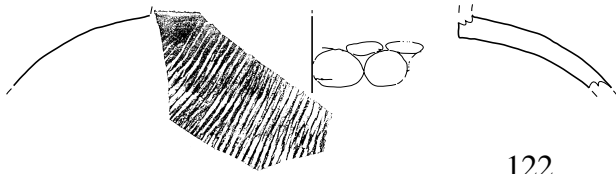
115



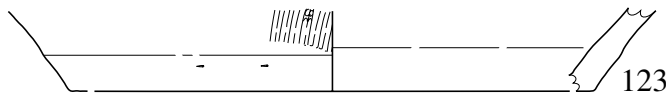
118



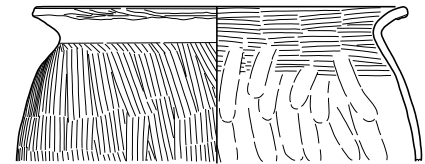
121



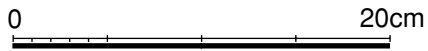
122



123



124

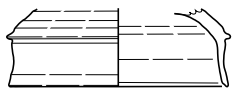


20cm

A区S D 28出土

A区S D 27出土

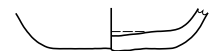
B区S D 08出土



125



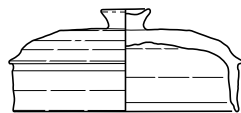
128



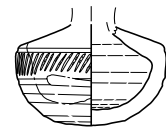
131



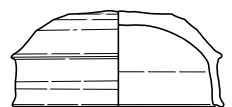
126



129



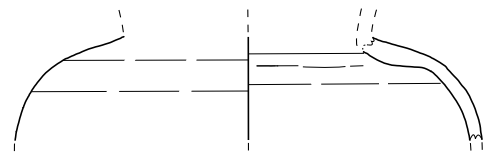
132



127

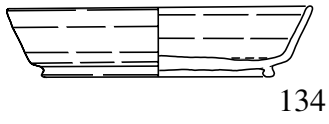


130

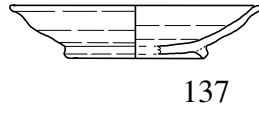


133

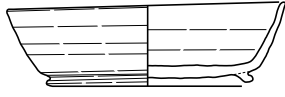
第20图 A区S D 27·28、B区S D 08出土須恵器・土師器 (1:4)



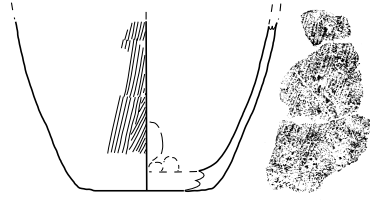
134



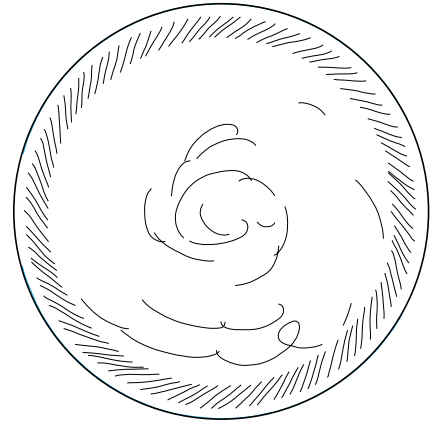
137



135



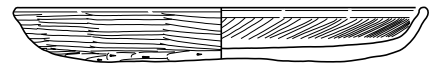
138



136



139



140

0 20cm

B区S D04出土

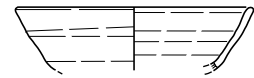
B区S D05出土



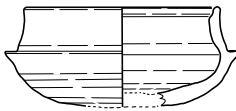
141



144



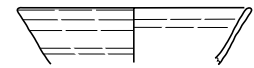
147



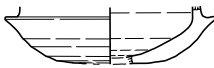
142



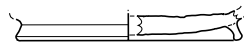
145



148



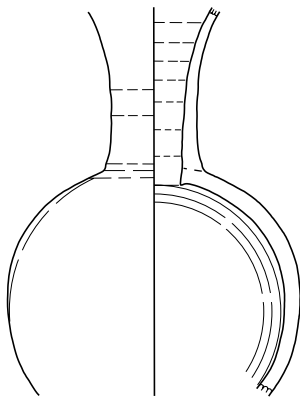
143



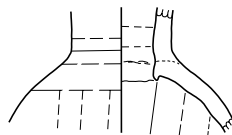
146



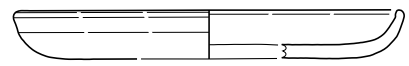
149



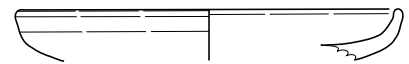
150



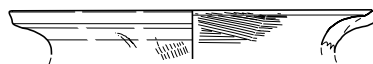
151



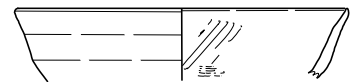
153



154



152



155

第21图 B区S D 04·05出土須恵器・土師器 (1:4)

・土師器 (138 ~ 140)

138は濃尾系甕C4で、9世紀代前半。139と140は8世紀代前半の畿内系暗文土師器。以下畿内系土師器の器種分類は樋上昇(樋上2001「畿内産(系)土師器」『まいぶん愛知64』愛知県埋蔵文化財センター)による。また川田遺跡出土の畿内系暗文土師器を数点胎土分析にかけており、三重県一志郡嬉野町の堀田遺跡等で出土のものに近似しているという結果が出ている(愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集『八王子遺跡』参照)。139は高杯。140は皿Aで、この上に134の須恵器有台杯がのり、さらに136の無台杯がその上に伏せた状態で出土した(図版5出土状況・図版10)。

(6) B区SD05出土(第21図141~155)

・須恵器(141~151)

141は蓋杯の蓋で、東山11号窯式もしくは城山2号窯式。142と143は蓋杯の杯で、142は東山11号窯式かまたは猿投窯産でない可能性がある(第10図出土状態図)。143は東山11号窯式かまたは伊勢産の可能性もある。144と145はツマミ付、返り無しの蓋杯の蓋で、ツマミは欠損している。145は高蔵寺2号窯式以前(第10図出土状態図)。146は有台杯で猿投窯産。147~149は無台杯で、147は7世紀代で猿投窯産、148は7~8世紀代。149は美濃須衛窯産(図版12)。150と151はフラスコ瓶で、150は岩崎17号窯式(第10図出土状態図、図版4出土状況・図版10)。151は7世紀代。

・土師器(152~155)

152は7世紀代の伊勢系甕A2。153~155は8世紀代前半の畿内系暗文土師器。153と154は皿A。155は杯A。

(7) B区SD12出土(第22図156~166)

・土師器(156~163)

157と158は7世紀代の伊勢系甕A2。156と160~162(図版11)は7世紀代の伊勢系の把手付鍋A。159は伊勢系ならば甕A1で、7世紀代。163は濃尾系の甕C1で、7世紀代末~8世紀代初頭。

・須恵器(164~166)

164はツマミ付、返り付(終末段階)の蓋杯の蓋で、岩崎17号窯式。返り付の蓋の出土はこれ1点だけである。このことから、7世紀第3~第4四半期の間に、近辺の集落に断絶があったことが推察可能である。165は有台杯で、8世紀代後半。166は短頸壺で、美濃須衛窯産。7世紀代末~8世紀代前半(図版11)。

(8) B区SD13出土(第22図167~169)

・土師器(167~169)

全て伊勢系で7世紀代。167と168は甕A2。169は甕A1。

(9) A区SD24出土(第22図170・171)

・土師器(170)

濃尾系の甕C1で、7世紀代末~8世紀代初頭。この甕の付近で管状土錘26点(394~419)が出土した(第12図出土状態図、図版5出土状況)。

・須恵器(171)

蓋杯の蓋で、6世紀代後半~7世紀代初頭の西濃産(図版11)。

(10) A区SK60出土(第22図172~180)

・灰釉系陶器(172~178)

以下灰釉系陶器は藤澤良祐の分類と編年(藤澤良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』第3号、三重県埋蔵文化財センター)による。172~177は椀。172は尾張型4型式。173(図版11)~176は尾張型5型式。177は尾張型6型式。178は小皿で、渥美型で、4型式併行(図版11)。

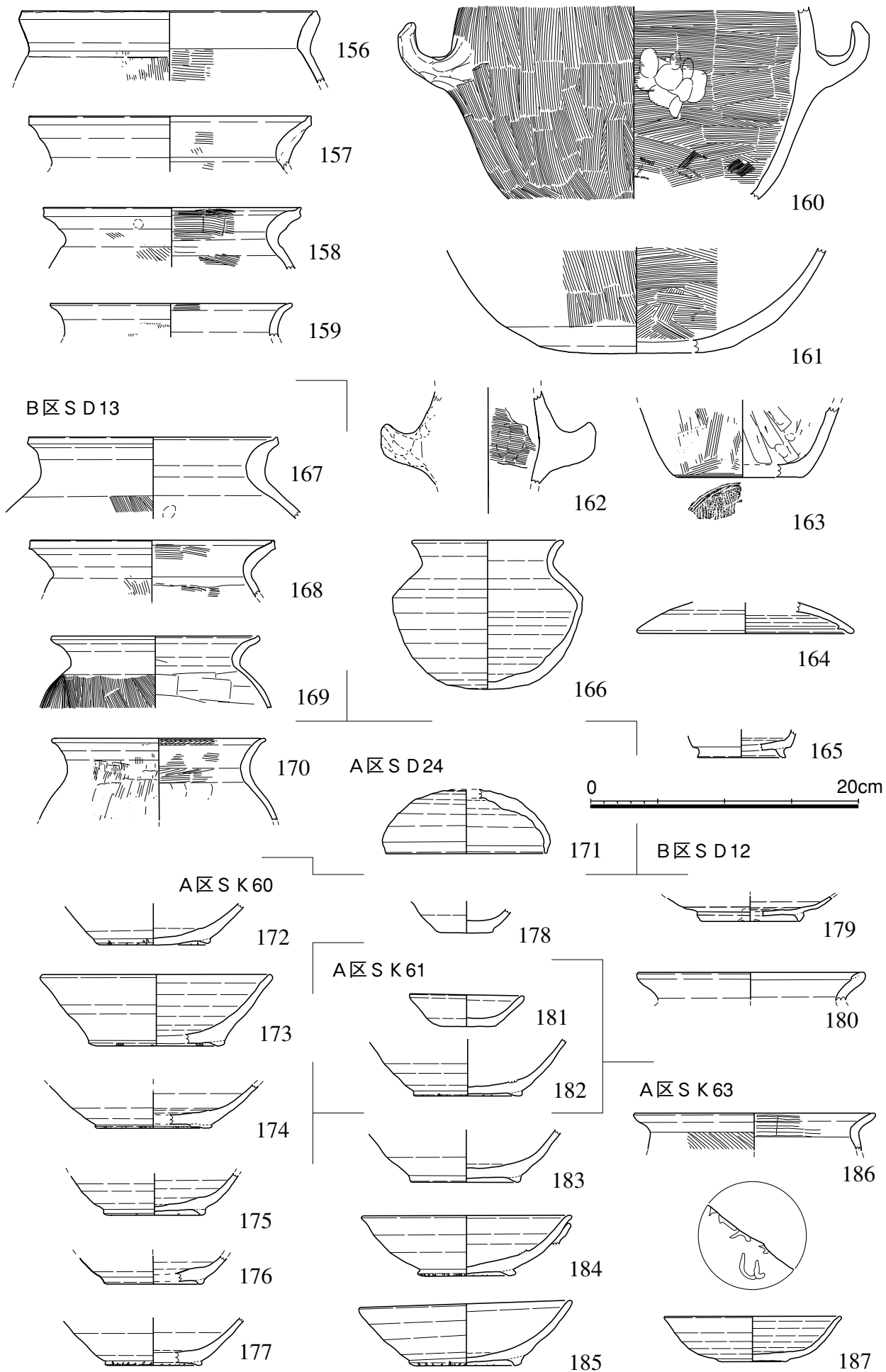
・灰釉陶器(179)

皿で、折戸53号窯式。

・土師器(180)

中世の伊勢型鍋。

(11) A区SK61出土(第22図181・182)



第22图 B区SD12·13、A区SD24·SK60·61·63出土土器·陶器(1:4)

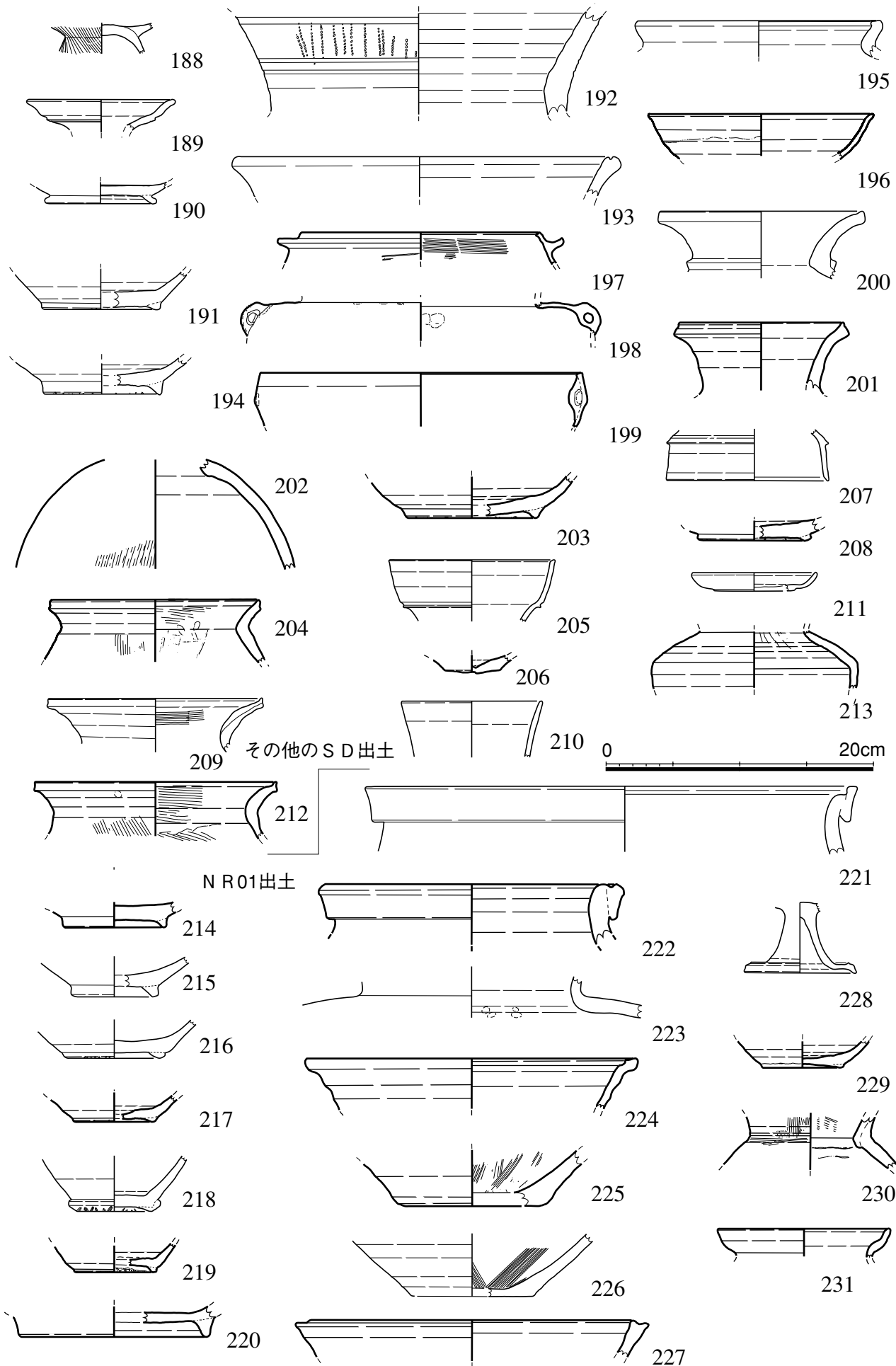
- ・灰釉系陶器（181・182）
全て尾張型5型式。181は小皿（図版11）。182は椀。

(12) A区SK63出土（第22図183～187）

- ・灰釉系陶器（183～185）
全て尾張型。183は3型式。184は4型式（図版11）。185は5型式（図版11）。
- ・土師器（186）
濃尾系の甕C1で、8世紀代。
- ・須恵器（187）
椀で、井ヶ谷78号窯式。墨書があるが判読は不可。文字というよりもまじない用の記号等ではないかと思われる。鉄錆が付着しており、杏葉形鉄製品（M3）が接していた可能性がある（図版11）。

(13) その他のA区SD（溝状遺構）出土（第23図188～208）

- a. A区SD01出土（188～193）
188は土師器で、S字状口縁台付甕C類。廻間III式。
189と192は須恵器。189は台付椀で、岩崎17号窯式。192は甕で、7世紀代後半～8世紀代前半
190は灰釉陶器の皿で、折戸53号窯式と推定される。
191と193は灰釉系陶器。191は椀で尾張型5型式。193は片口鉢で、尾張型7型式。
- b. A区SD04出土（194）
194は灰釉系陶器の椀で、尾張型4型式。
- c. A区SD05出土（195・196）
195は伊勢系の鍋Bで、平安期。
196は東濃系の灰釉陶器の椀で、虎溪山期と推定される。
- d. A区SD08出土（197～200）
197～200は土師器。197は、羽釜で14世紀代末。198は茶釜型鍋で、15世紀代後半～16世紀代半ば。
199は内耳鍋で、16世紀代半ば頃。200は、広口壺で、廻間I式。この遺物は今のところ川田遺跡では最古の遺物である（3世紀代前半）。
- e. A区SD09出土（201）
201は須恵器の壺。
- f. A区SD15出土（202）
202は須恵器の壺。
- g. A区SD16出土（203）
203は灰釉系陶器の椀で、尾張型4型式。
- h. A区SD19出土（204）
204は土師器で、7世紀代の伊勢系の甕A1。
- i. A区SD29出土（205）
205は須恵器の甗で、東山50号窯式。
- j. A区SD30出土（206）
206は須恵器の小型の壺。
- k. A区SD33出土（207）
207は須恵器の蓋杯の蓋で、東山11号窯式。



第23図 その他のSD、NR01出土土器・陶器（1：4）

1. A区S D 34 出土 (208)

208 は灰釉系陶器の椀で、尾張型 5 型式。

(14) その他のB区S D (溝状遺構) 出土 (第 23 図 209 ~ 213)

a. B区S D 01 出土 (209・210)

209 は土師器で、7 世紀代の伊勢系の甕 A 2。

210 は須恵器の平瓶の口縁部と推定される。岩崎 17 号窯式～高蔵寺 2 号窯式。

b. B区S D 02 出土 (211)

211 は東濃系の灰釉系陶器の小皿で、大畑大洞期古段階。

c. B区S D 16 出土 (212)

212 は土師器で、7 世紀代の伊勢系の甕 A 2。

d. B区S D 18 出土 (213)

213 は須恵器で壺と思われる。

(15) A区N R 01 出土 (第 23 図 214 ~ 231)

214 ~ 218 は尾張型の灰釉系陶器の椀。214 は 3 型式。215 は 4 型式。216 は 5 型式。217 は 6 型式。218 は 7 型式。

219 は東濃系の灰釉系陶器の椀で、6 型式併行白土原期。

220 は尾張型の灰釉系陶器の片口鉢で、3 ~ 4 型式。

221 ~ 223 は常滑焼の甕で、221 は常滑 7 型式。222 は常滑 11 型式。

224 ~ 226 は古瀬戸。以下古瀬戸については藤澤良祐の分類と編年による(藤澤良祐 1991「古瀬戸後期様式の編年」『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要 X』瀬戸市歴史民俗資料館)。224 は折縁深皿で、後 I 期。225 と 226 は播鉢で、225 は後 IV 期。226 は後 IV 期新段階。

227 ~ 229 は須恵器。228 は高杯で、東山 11 号窯式または 10 号窯式 (図版 11)。229 は椀で、8 世紀代後半。

230 と 231 は土師器。230 は広口壺で、廻間 III 式と推定される。231 は中世の伊勢型鍋。

(16) その他のA区S K (土坑) 出土 (第 24 図 232 ~ 244)

a. A区S K 03 出土 (232)

232 は灰釉系陶器の椀で、尾張型 4 型式。

b. A区S K 04 (中世方形土坑墓) 出土 (233)

233 は古瀬戸の縁釉小皿で、後 II 期。

c. A区S K 13 (中世方形土坑墓) 出土 (234)

234 は灰釉陶器の椀で、黒笹 90 号窯式。

d. A区S K 19 (中世方形土坑墓) 出土 (235)

235 は須恵器の蓋杯の杯。

e. A区S K 23 出土 (236)

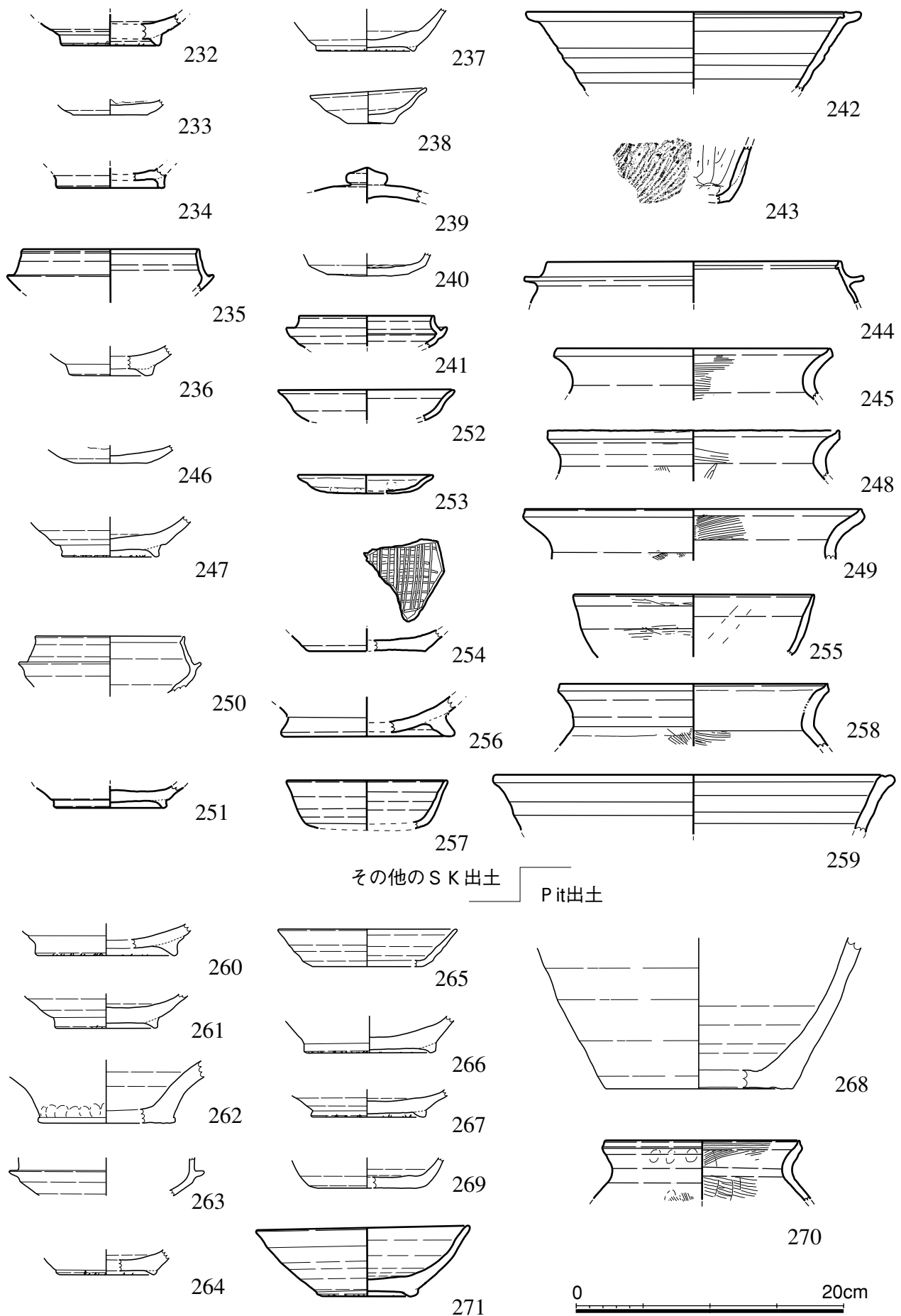
236 は尾張型の灰釉系陶器の椀で 5 型式。

f. A区S K 38 出土 (237)

237 は尾張型の灰釉系陶器の椀で 6 型式古段階。

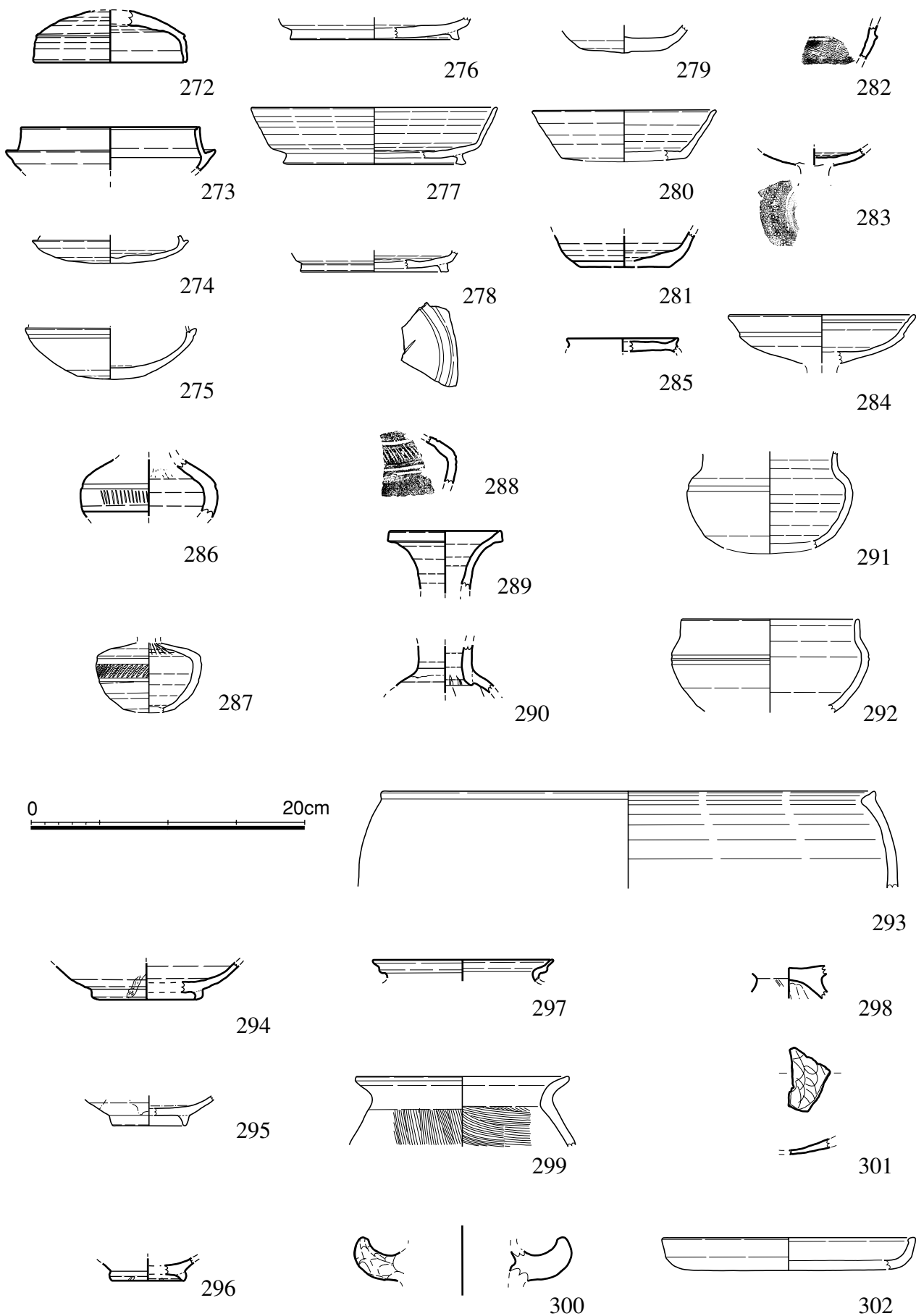
g. A区S K 56 (中世方形土坑墓) 出土 (238、図版 11)

238 は尾張型の唯一完形で出土した灰釉系陶器の小皿で、5 型式。



第24図 その他のSK、Pit出土土器・陶器 (1:4)

- h. A区SK 57 (中世方形土坑墓) 出土 (239)
239は須恵器のツマミ付の蓋杯の蓋で、7世紀代後半～8世紀代前半。
- i. A区SK 64 出土 (240)
240は須恵器の無台杯で、8世紀代後半。
- j. A区SK 73 出土 (241)
241は須恵器の蓋杯の杯で、7世紀代前半～中葉。
- k. A区SK 81 (中世方形土坑墓) 出土 (242～244)
242は古瀬戸の折縁深皿で、後I期。
243と244は土師器。243は濃尾系の甕C4で、9世紀代前半。244は中世の羽釜。
- (17) その他のB区SK (土坑) 出土 (第24図245～259)
- a. B区SK 13 出土 (245)
245は土師器で、7世紀代後半の伊勢系の甕A2。
- b. B区SK 16 出土 (246)
246は古瀬戸の縁釉小皿で、後III期。
- c. B区SK 17 出土 (247・248)
247は尾張型の灰釉系陶器の椀で4型式。
248は土師器で、7世紀代後半の伊勢系の甕A2。
- d. B区SK 18 出土 (249)
249は7世紀代の伊勢系の把手付鍋A。
- e. B区SK 22 (中世方形土坑墓) 出土 (250)
250は須恵器の蓋杯の杯で、東山61号窯式。
- f. B区SK 23 出土 (251)
251は尾張型の灰釉系陶器の椀で4型式。
- g. B区SK 31 (中世方形土坑墓) 出土 (252)
252は中世の土師器の皿。
- h. B区SK 63 (中世方形土坑墓) 出土 (253・254)
253は中世の土師器の皿。
254は古瀬戸の卸皿で、後IIIかIV期。
- i. B区SK 64 (中世方形土坑墓) 出土 (255)
255は8世紀代前半の畿内系暗文土師器で杯A。
- j. B区SK 69 出土 (256)
256は須恵器の台付の鉢で、8世紀代前半。焼成が不良。出土地点等から293と同一個体と考えられる。
- k. B区SK 72 出土 (257)
257は須恵器の無台杯。
- l. B区SK 86 (中世方形土坑墓) 出土 (258)
258は土師器で、7世紀代の伊勢系の甕A2。



第25図 検出出土土器・陶器 (1:4)

m. B区SK90(中世方形土坑墓)出土(259)

259は尾張型の灰釉系陶器の片口鉢で7型式。

(18) A区Pit(小土坑)出土(第24図260～271)

a. A区P13出土(260)

260はの灰釉系陶器の鉢と思われ、尾張型4型式。

b. A区P29出土(261)

261は尾張型の灰釉系陶器の椀で3型式。

c. A区P30出土(262)

262は常滑焼の甕。

d. A区P32出土(263・264)

263は須恵器の蓋杯の杯で、猿投窯産でない可能性がある。6世紀代後半～7世紀代前半。

264は尾張型の灰釉系陶器の椀で5型式。

e. A区P149出土(265)

265は須恵器の無台杯で、高蔵寺2号窯式。

f. A区P159出土(266)

266は尾張型の灰釉系陶器の椀で4型式。

g. A区P163出土(267)

267は尾張型の灰釉系陶器の椀で4型式。

h. A区P170出土(268)

268は猿投窯産の灰釉系陶器の広口瓶で、12世紀代前半。

i. A区P171出土(269)

269は須恵器の無台杯で、高蔵寺2号窯式以前。

j. A区P196出土(270)

270は土師器で、7世紀代の伊勢系の甕A2。

k. A区P227出土(271、図版6出土状況・図版11)

271は尾張型の唯一完形で出土した灰釉系陶器の椀で5型式。

(19) A,B区検出等出土(第25・26図272～320)

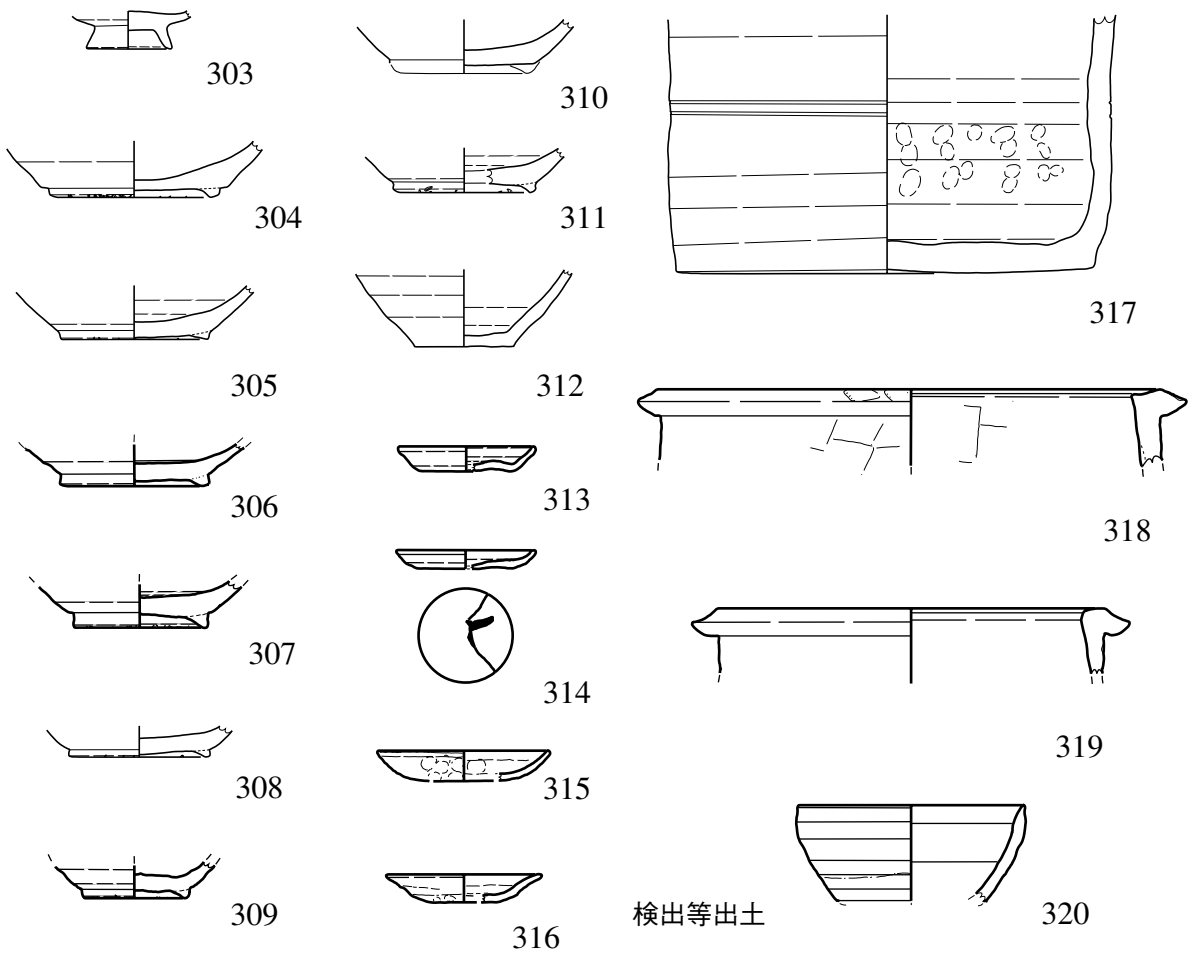
272～293は須恵器。272は蓋杯の蓋。273～275は蓋杯の杯。274と275(図版11)は東山50号窯式。276～278は有台杯。276は高蔵寺2号窯式。277は折戸10号窯式(図版11)。278は底面にへら記号がある。7世紀代後半。279～281は無台杯。279は高蔵寺2号窯式以前または美濃須衛窯産の可能性もある。280は高蔵寺2号窯式。281は猿投窯産。282～284は高杯。282には波状文があり、5世紀代。283には列点文があり、7世紀代前半～中葉。285は円面硯の可能性もある。286と287は甕で、ともに岩崎17号窯式。

288は長頸瓶と思われる。289と290はフラスコ瓶。290は6世紀末～7世紀中葉。291と292は短頸壺で、291が岩崎17号窯式。292が高蔵寺2号窯式。

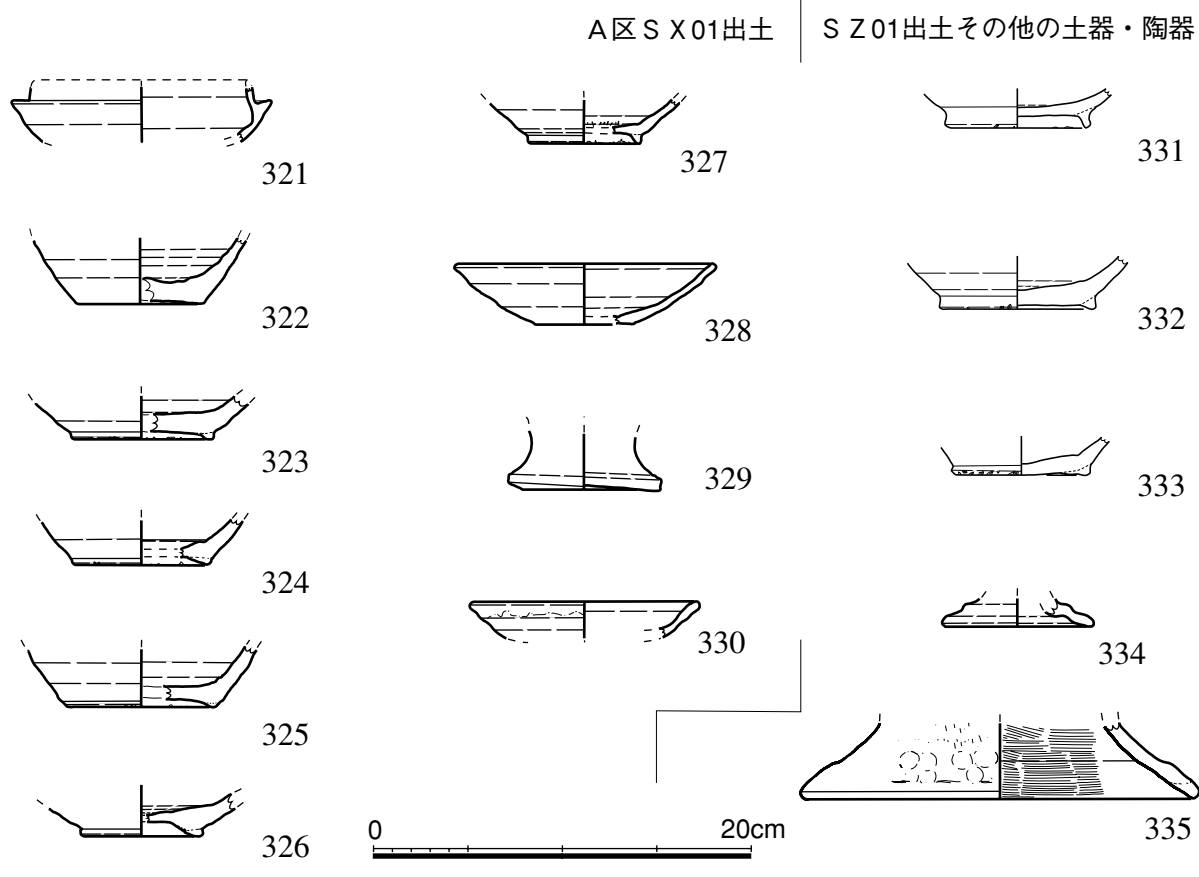
293は須恵器の台付の鉢で、8世紀代前半。焼成が不良。出土地点等から256と同一個体と考えられる。

294～296は灰釉陶器の椀。294と295は折戸53号窯式。296は東濃系で、虎溪山期。

297～302は土師器。297はS字状口縁台付甕C類。廻間III式。298は宇田式台付甕で、5世紀前半。299は伊勢産の甕で、8世紀代後半。300は7世紀代の伊勢系の把手付鍋A。301と302は8世紀代前半の畿内系暗文土師器で、301は杯または皿。302は皿A。



検出等出土



A区S X 01出土

S Z 01出土その他の土器・陶器

第26図 検出、A区S X 01 他出土土器・陶器 (1 : 4)

303～312は尾張型の灰釉系陶器。303は耳皿で、3型式。304～312は椀。304～309は4型式。310と311は5型式。312は8型式。

313と314は東濃型の灰釉系陶器の小皿。ともに7型式併行、明和期。314は墨書あり（[図版11](#)）。

315と316は中世の土師器の皿。

317は猿投窯産灰釉系陶器の経筒外容器。複線の三筋文と考えられる。1997年度試掘トレンチNo.1出土（[図版11](#)）。

318と319は土師器で、清郷型鍋。318は鍋C4で、10世紀代半ば。319は鍋C5で、10世紀代後半。

320は古瀬戸の天目茶碗。後IV期新段階。

(20) A区S X 01出土（[第26図321～330](#)）

321と322は須恵器。321は蓋杯の杯で、6世紀後半～7世紀前半。322は椀で、8世紀中葉～9世紀中葉。

323～326は尾張型の灰釉系陶器の椀。323は5型式。324は6型式古段階。325と326は6型式。

327と328は東濃型の灰釉系陶器の椀。327は7型式併行、明和期。328は11型式前半、脇之島期。

329と330は古瀬戸で、329は花瓶で、前IIIまたはIV期。330は縁釉小皿で、後III期。

(21) S Z 01出土のその他の土器・陶磁器（[第26図331～335](#)）

331は灰釉陶器の椀で、折戸53号窯式。A区S X 02出土。

332は灰釉系陶器の椀で、尾張型5型式。A区S D 28出土。

333は灰釉系陶器の椀で、尾張型6型式。B区S D 06出土だが上層遺構からの混入と考えられる（[第10図出土状態図](#)）。

334は土師器で高杯の脚部。松戸II式で、5世紀代初頭。A区S D 25出土。

335は土師器で大型高杯の脚部。宇田I式で、5世紀代前半。B区S D 06出土。

第2節 埴輪

川田遺跡では、埋没古墳周辺から円筒埴輪と形象埴輪が出土した。[第27図](#)は円筒・形象別に分けた出土分布図で、S Z 01周溝付近以南で出土していることがわかる（ただしグリッドごとに出土があるか否かのみをあらわしており、量は同一個体数が不明なので表現していない）。円筒埴輪は周溝の中か付近での出土に対して、形象埴輪は周溝以外の個所での出土が目立つ。これは、円筒埴輪が墳丘の周溝際に配置されていたのに対し、形象埴輪が墳丘頂部付近に配置されていたことを示唆するのではないかと考える。埴輪の時期については、いずれも黒斑のあるものの出土はないので、5世紀後半以降のものといえる。

(1) 円筒埴輪（[第29・30図336～353](#)、[図版12](#)）

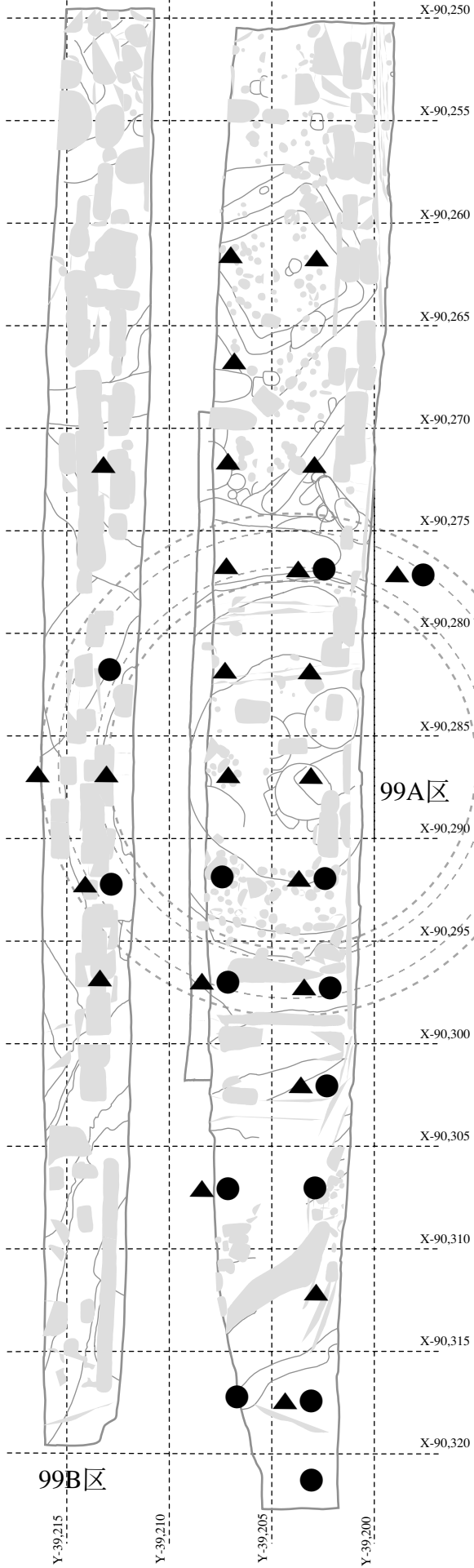
川田遺跡の円筒埴輪は大きく分けて外面調整板ナデ系と外面調整ハケ系の二系統ある。これら二系統は、色調も前者にはぶい黄橙色中心、後者は明るい橙色であり、また胎土分析（[第4章](#)）からもはっきりと産地が分かれる。前者は主にS Z 01付近、後者は主にS Z 01以南で出土していることから前者がS Z 01に並べられ、後者は周辺に第二の古墳がある可能性を示唆するものと考えられる。時期的には前者が尾張型円筒埴輪（外面調整縦ハケ後横ハケ、赤塚次郎1991「尾張型埴輪について」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書24『池下古墳』）が普及する直前頃、後者は尾張型円筒埴輪を模倣したものと推定され、一世代程度（ひと四半期）の隔たりが考えられるのではないかと思う。ゆえにS Z 01を5世紀第3四半期、第二の古墳を5世紀第4四半期と考えることができる。

実測した以外にも円筒埴輪片は多数出土しているが、実測したものは残存状態がよくかつ部位の判別できるものに限った。

・外面調整板ナデの円筒埴輪（[第29図336～346](#)）

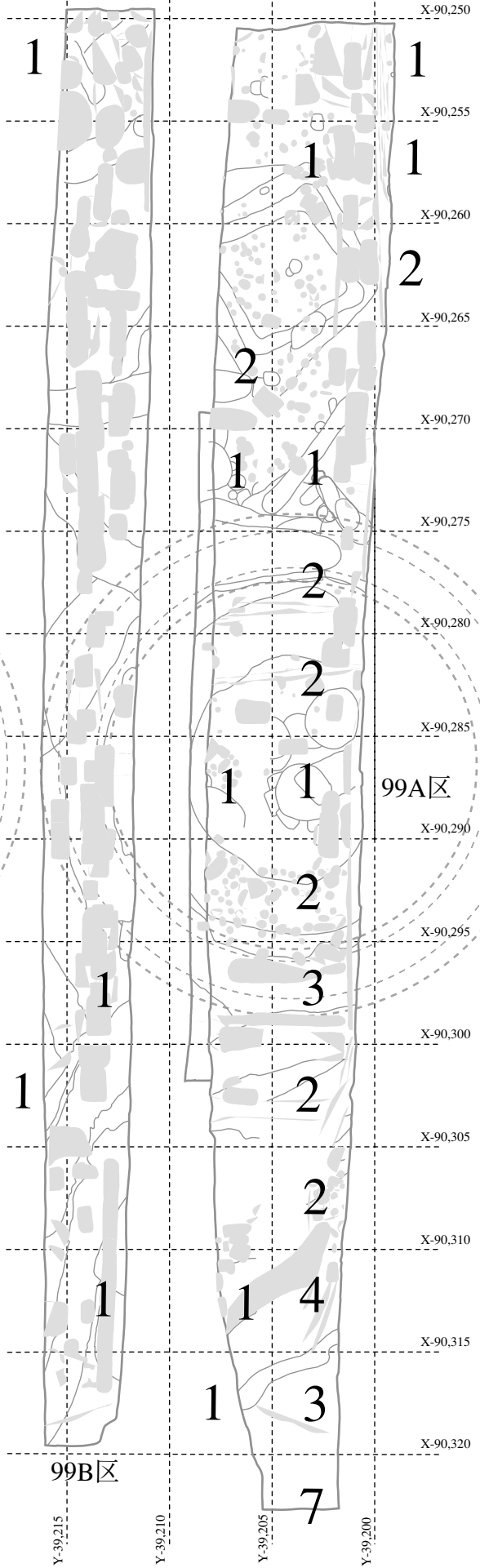
336と337は朝顔形円筒埴輪（[図版12](#)）。朝顔形はこの2個体分以外の破片は出土していない。またくびれ部より上位の花状部は出土していない。336はS Z 01南部周溝底部付近一帯に破片が散在していた（[第10図出土状態図](#)）。肩部より下の円筒部は3段。形状の異なる透孔が円筒部第1段と第2段にあり、対面に穿たれ、段別に90度ずれている。第1段の透孔は円形に近く、第2段のものは隅丸方形。円筒部第1段表面に赤彩がかすかに残る。338は出土位置や調整法により336の基底部とおもわれる（[図版12](#)）。339と340は円筒埴輪口縁部。341～346は胴部。344と345は同一個体とみられる。345は透孔がある。

・外面調整ハケ系の円筒埴輪（[第30図347～353](#)、[図版12](#)）



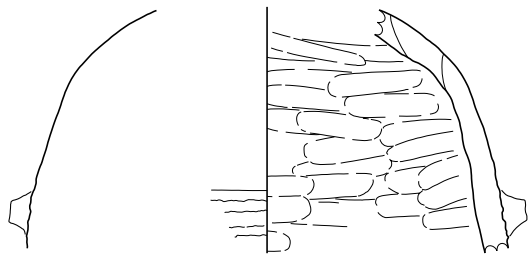
0 10m (●; 円筒埴輪、▲; 形象埴輪)

第27図 グリッド別埴輪片出土分布範囲

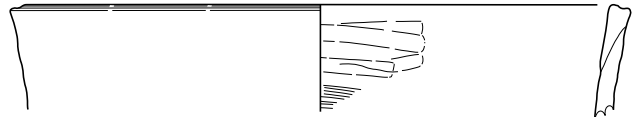


0 10m

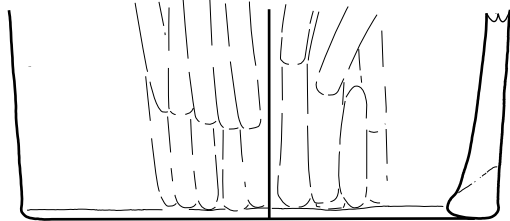
第28図 グリッド別古代瓦片出土分布図(点数)



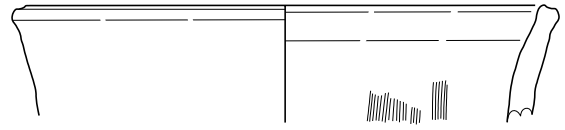
337



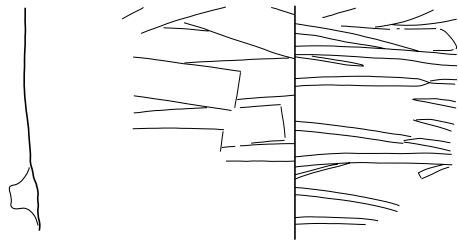
339



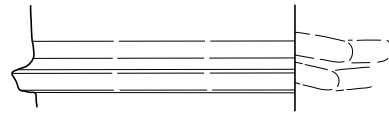
338



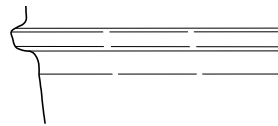
340



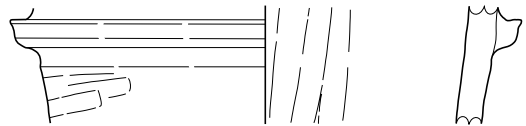
341



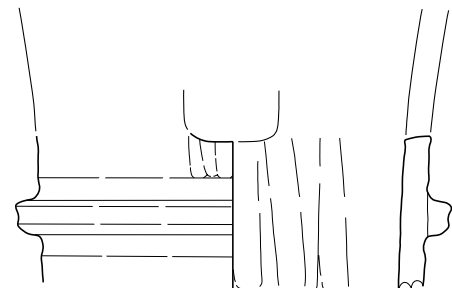
342



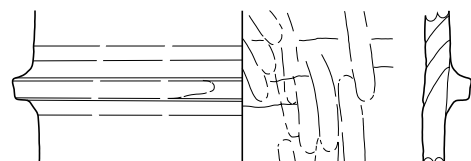
343



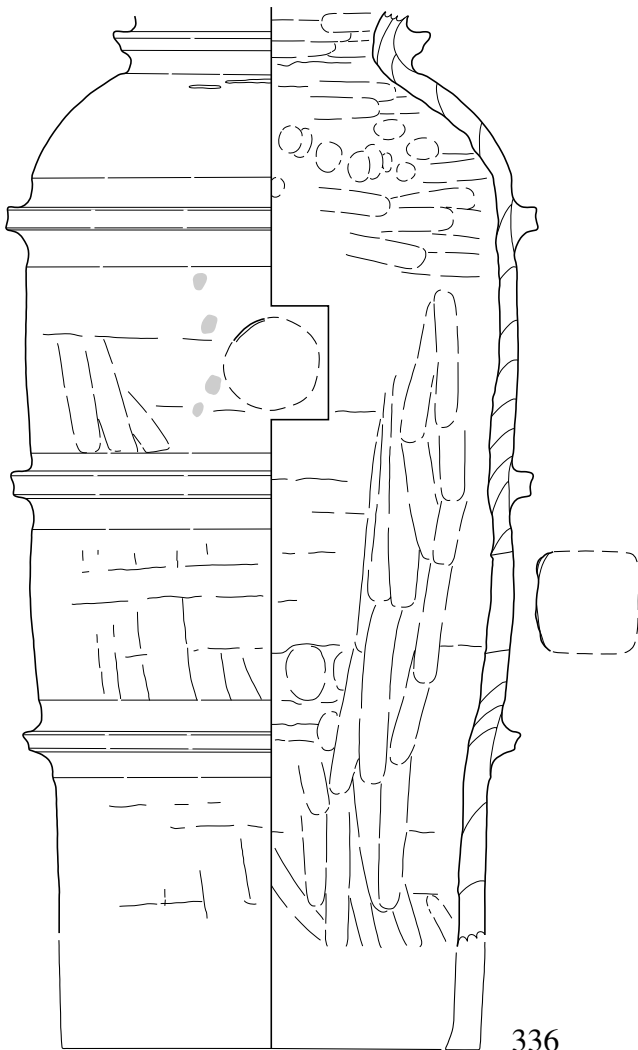
344



345



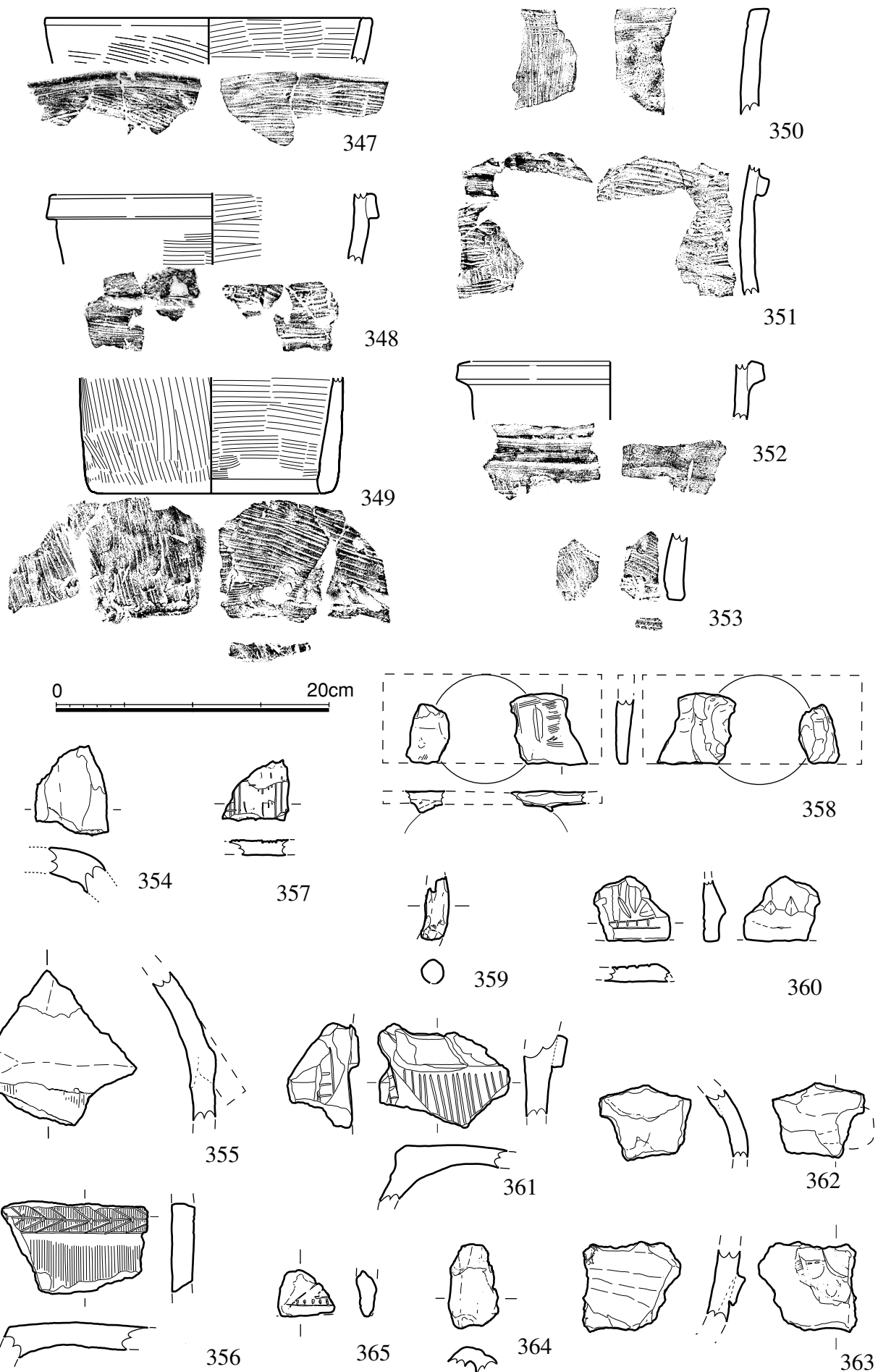
346



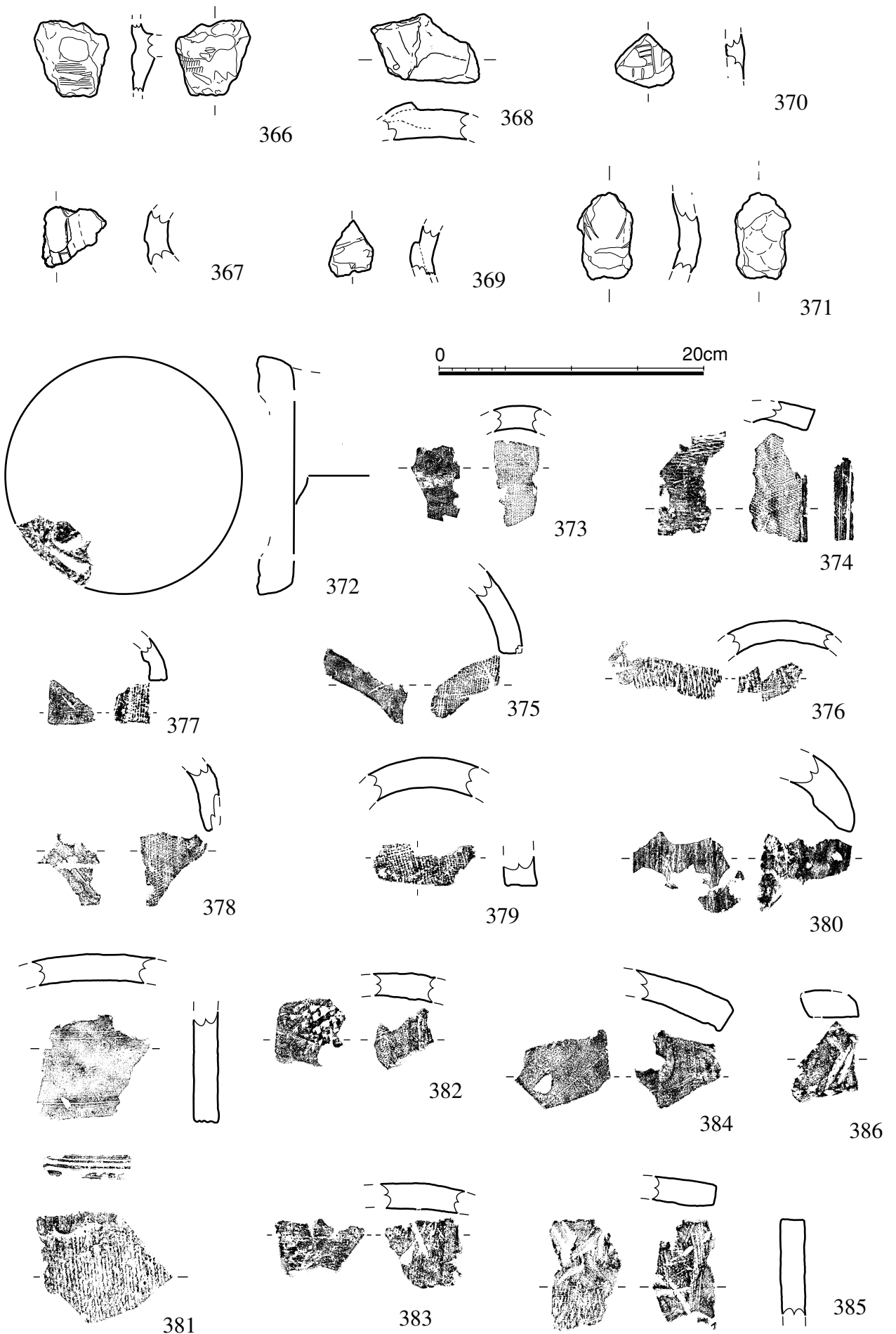
336



第29图 円筒埴輪 (1:4)



第30図 円筒埴輪・形象埴輪 (1:4)



第31圖 形象埴輪・瓦 (1:4)

この系統の埴輪には朝顔形円筒埴輪は見つかっていない。347と350は円筒埴輪口縁部。348と351と352は胴部。349と353は基底部。347～349と350～353のそれぞれで同一個体の可能性がある。

(2) 形象埴輪 (第30・31図354～371、図版13)

形象埴輪の出土は筆者の調べる限りでは旧海部郡内で初めてである。

形象埴輪は少なくとも数個体分出土しているが、それぞれ一部分に過ぎず、全貌を復元できるものはなかった。また多数出土した形象埴輪片の中で、種類と部位が特定できたものとそれに準ずるもののみ実測を行った。

・部位が特定できる形象埴輪 (第30図354～365)

354～357は家形埴輪と考えられる。354は寄棟屋根部。355は寄棟屋根から壁体にかけての部分。底部は欠損している。356は壁体部で、直角に曲がりかけており、コーナー部に相当する。梁と考えられる帯状部分にヘラ刺突のある綾杉文が施されている。357は網代屋根部。市松模様状に沈線の方向を変えて網代を表現している。

358～361は人物埴輪と考えられる。358は巫女の髻部。2点が同一個体かは不明。実測図のような長方形ではなく撥形と思われる。写真図版に未実測の巫女の髻部と思われる13片の写真を掲載した。359は男子の美豆良部。360は衝角付?胃の鍔部。361は鞆(を負う人)かと推定され、その矢筒上端部。矢を沈線(16本残存)で表現している。

362～365は馬形埴輪と考えられる。362は耳付近。天地が逆の可能性がある。破線で復元した楕円部に耳が貼り付いていたと思われる。363は右頬の鬚付近。364は耳。365は障泥下端の革縫部。

・不明形象埴輪 (第31図366～371)

第3節 瓦 (第31図372～386、図版14)

第28図の出土分布からもわかるように瓦は調査区全体の南東部に偏って出土している。B区からはほとんど出土していない。特定遺構からの出土はなく、造瓦法も時代もかなりばらつきがあり、7世紀後半から8世紀のものがある。

(1) 丸瓦 (372～380)

・古代の丸瓦 (372～379)

372は軒丸瓦の瓦当部で、山田寺系。蓮弁(8枚か)の内1枚が確認できる。8世紀第3四半期以降(図版14)。373は凸面格子タタキ。8世紀前半以降(図版14)。374は凸面横縄タタキ。8世紀前半(図版14)。これと383の凸面横縄タタキの例は梶山勝によると尾張地方では同じく海部郡佐織町諸桑廃寺出土品(未報告)、と知多郡美浜町海道田遺跡(奥田廃寺跡)出土品(磯部幸男1998.3『海道田遺跡緊急調査報告書』『美浜町文化財報告5』美浜町教育委員会)がみられるのみという。376は行基造の可能性がある。377は玉縁部。

・近世の丸瓦 (380)

(2) 平瓦 (第31図381～386)

・古代の平瓦 (381～386)

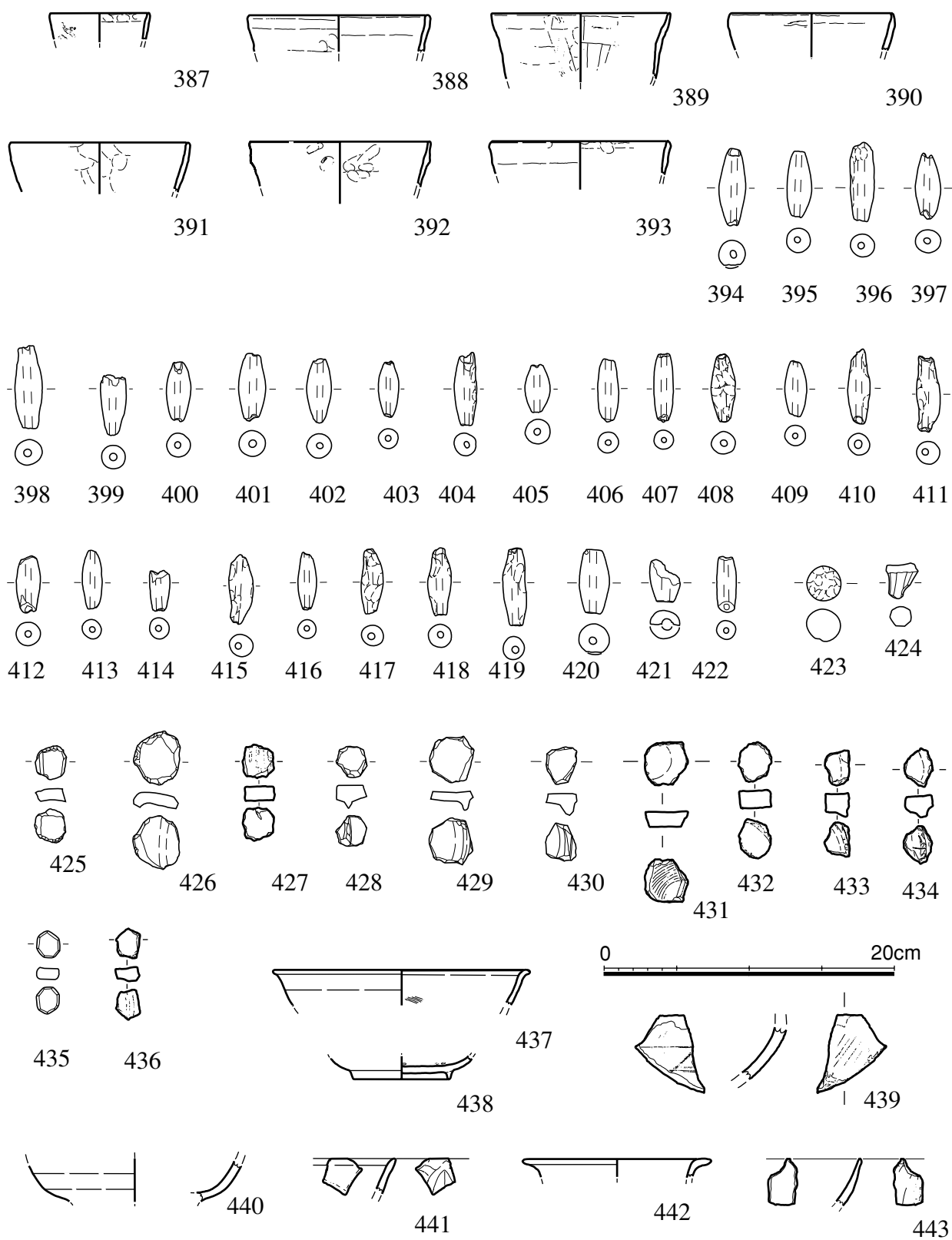
381は軒平瓦の可能性がある。端面に沈線が3条みられる。凸面端部には端面を削った時にはみ出た粘土が縄たたき痕の上に被り、少々厚くなっている。凹面の布目はなで消されている(図版14)。382は格子タタキ。桶板の痕跡あり、桶巻造。8世紀前半(図版14)。383は横縄タタキ。8世紀前半(図版14)。384と385は桶板の痕跡あり、桶巻造。386は隅切瓦片。

第4節 製塩土器 (第32図387～393、図版15)

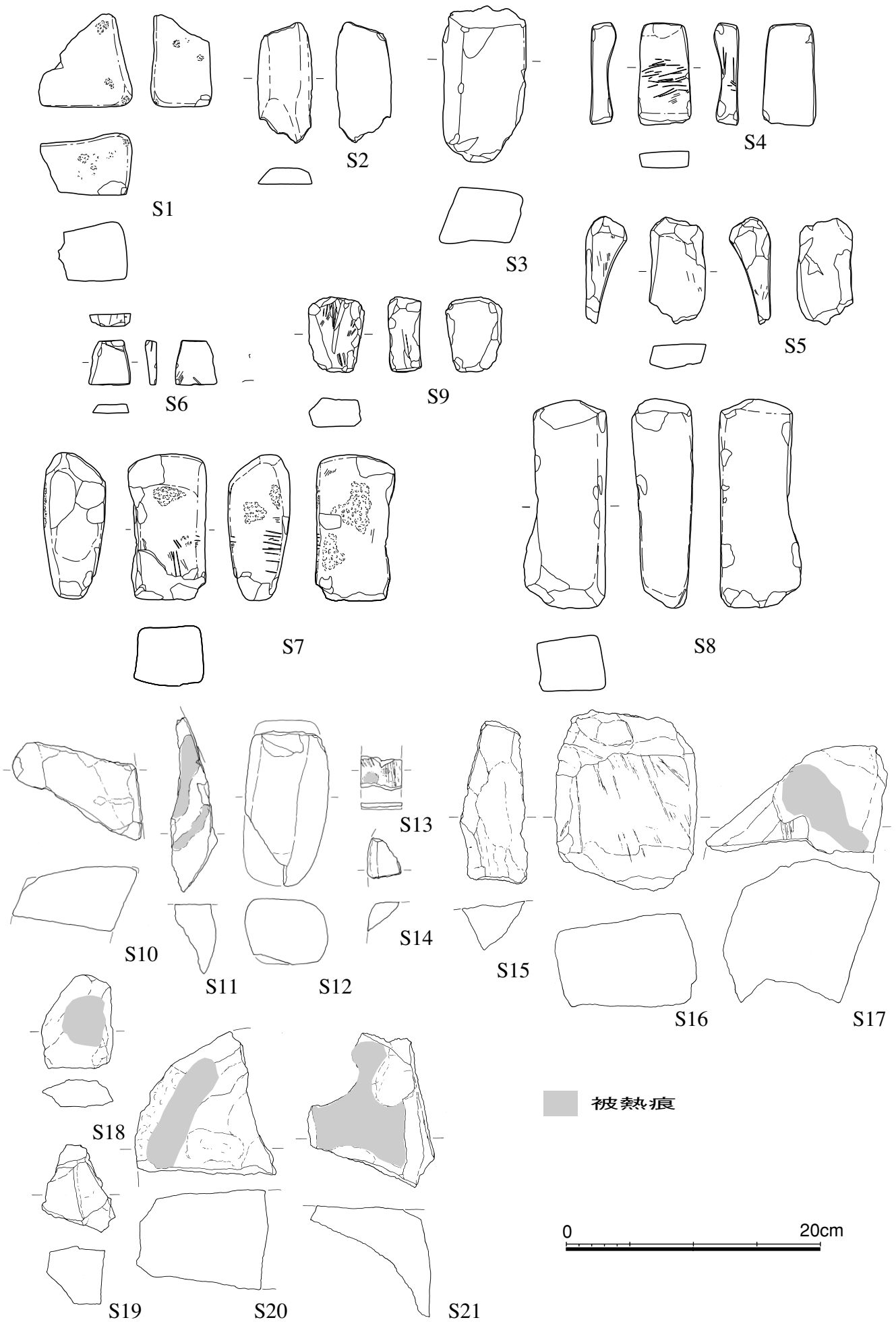
古代から中世の遺構より出土。中世の方形土坑から出土しているものは、古代の紛れ込みと思われる。実測できたものは以上7点。細片はそれ以外にも出土している。また、391をはじめ計8点胎土分析を行っており、岐阜県可児市の宮之脇遺跡出土のものとは一致するという結果が出ている(愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集『八王子遺跡』参照)。

第5節 土錘 (第32図394～422、図版15)

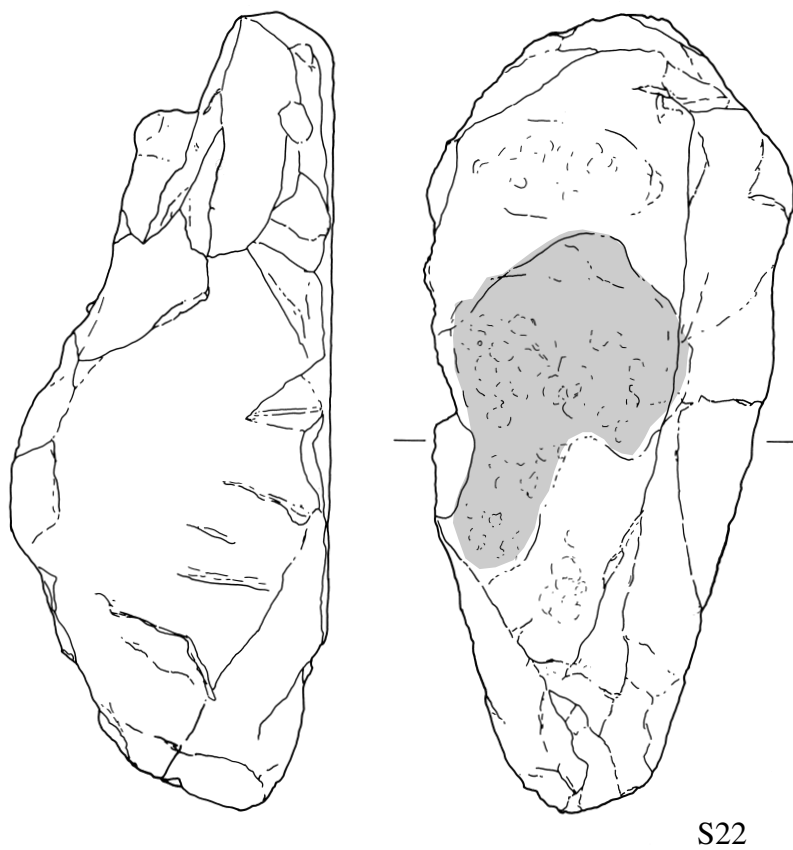
すべて管状土錘。394～412はS D 24出土で、集積した状態で出土した(第12図出土状態図、図版



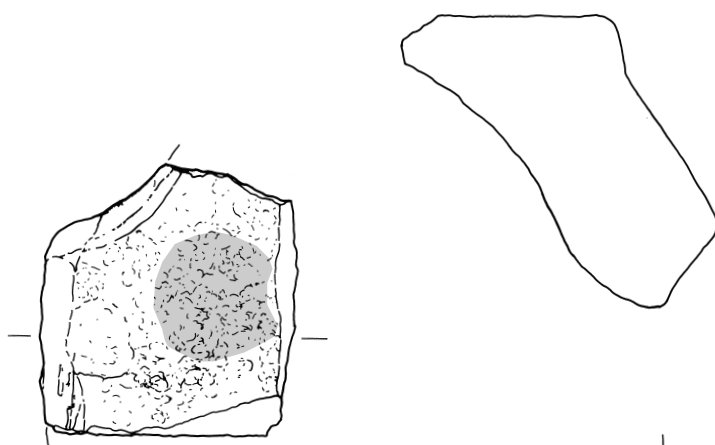
第32図 製塩土器・土錘・陶丸・加工円盤・貿易陶磁器 (1:4)



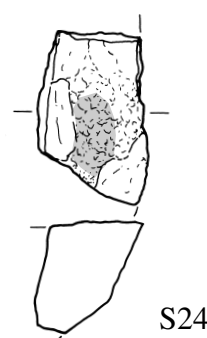
第33図 石製品-1 (1:4)



S22



S23



S24

■ 被熱痕



第34図 石製品-2 (1:4)

5出土状況)。413～419もグリッドが近い同一グループと考えられる(計26点、図版15)。至近距離で7世紀末～8世紀代初頭の土師器の甕(170)が出土している。

第6節 陶丸(第32図423)・加工円盤(第32図424～436)

・陶丸(423)

・加工円盤(424～436)

424は灰釉陶器の三足盤の脚部素材。黒笹14号または90号窯式。425～427は須恵器素材。428と429は灰釉陶器素材。430～434は灰釉系陶器素材。435と436は施釉陶器素材。

第7節 貿易陶磁器(第32図437～443)

437は同安窯系青磁椀。櫛搔文が内面に見られる。12世紀頃(図版15)。

438は白磁の皿。15世紀後半。

439は泉州磁灶窯系緑釉陶器の盤。13世紀前半。愛知県内での出土例は極めて少ない(図版15)。

440～443は竜泉窯系の青磁(図版15)。440は椀または鉢。441と443は鎚蓮弁文椀。441は13世紀後半。442は小鉢。

第8節 自然遺物

(1) 人骨

A区の中世方形土坑(S K 34)でヒトのものと思われる指の基節骨片が1点出土している。

(2) 獣骨

牛馬骨; A区南壁際のNR 01最深部で牛または馬の長管骨等が出土した。調査区端であるのと激しい湧水のため全貌はつかめていないが、1体分捨てられていた可能性がある。

馬歯; 4点以上出土している。S Z 01北部周溝下層(A区S D 25)で1点とS Z 01南部周溝(A区S D 28、図版4出土状況)で2点、それぞれ周溝底面に貼り付くように出土した。また、NR 01最深部の上記牛馬骨出土地点付近でも牛または馬の歯が複数出土している。

その他; A区P 280で大型魚類(海棲か淡水棲かは不明)の椎骨が出土している(図版6出土状況)。A区S D 24の土鍾群(7～8世紀)との距離は約7mである。

第9節 石製品(第33図S 1～S21・第34図S22～S24)

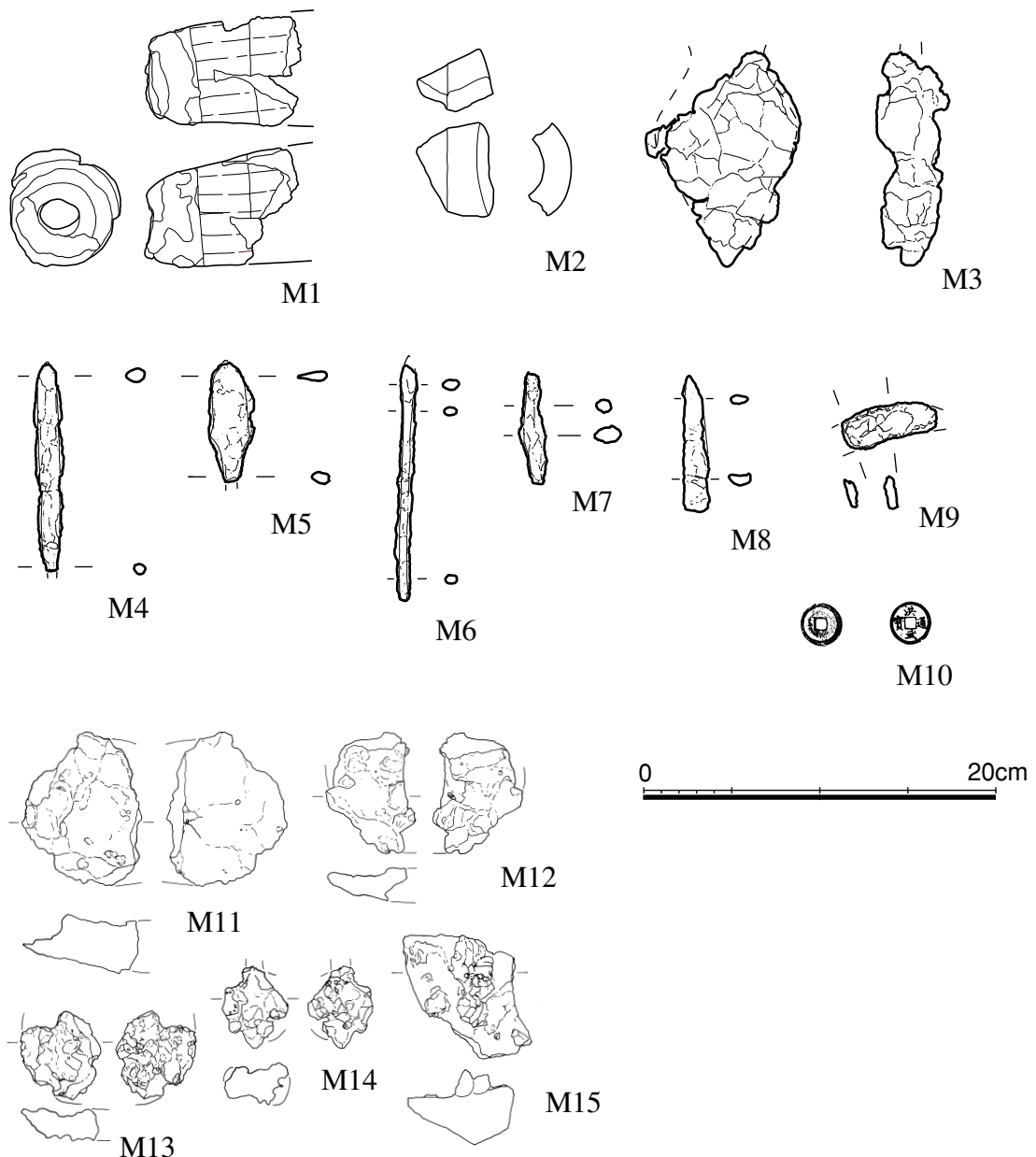
S1～S16は砥石で、S1・S3・S8・S10～S12・S14・S15は砂岩、S7は砂質凝灰岩、S5・S6・S9・S16は凝灰岩、S2・S4・S13は凝灰質泥岩のものである。砥石に残る痕跡では、凝灰質泥岩と凝灰岩では砥ぎ面が凹むもの(S2・S4～S6・S9)と砥ぎ面に線状の溝が多条残るもの(S6・S7・S13・S16)がある。砥ぎ面が凹むもの(S4～S6・S9)は、いわゆるバチ形の形態をもつ。線状の痕跡では、溝の幅がやや広く、その断面が緩い角度で広がるもの(S6・S13)と幅が比較的狭く、その断面がやや鋭い角度で広がるもの(S7・S16)とがあり、この違いは砥石に刃をあてる角度に影響されている可能性が高い。砂岩と砂質凝灰岩の砥石では、砥ぎ面の凹みや線状の溝はみられず、光沢面のあるもの(S3・S7・S8・S10～S12・S14)と表面が滑らかな部分があるもの(S1・S15)を選別した。砥石は鋭角な稜をもつ割れた面をものが多く(S1・S3・S5・S9～S13・S14・S15)、被熱痕が残るもの(S2・S7・S10・S11・S13)もある。

S17～S21は被熱痕がある石材で、S20・S21は砂岩、S17・S19は凝灰質砂岩、S18は砂質凝灰岩である。S17・S18・S21は被熱痕が顕著で、S20は被熱痕が平坦面の端にあり、その部分に擦痕がみられる。5点とも元の形態は垂角礫と思われるが、全て鋭角な稜がある破面をもつ角礫である。

S22～S24は鉄床石で、S22が凝灰質砂岩、S23・S24が砂岩である。この3点を鉄床石とした理由は、角礫から垂角礫に分類できる砂岩礫の比較的平坦な面に打撃による擦痕が顕著に認められたこと、その擦痕が顕著な箇所を中心に煤が付着したような被熱痕が認められたことによる。

S22はほぼ正形のもので、不整な三角錐状の形態をしている。擦痕が残る面以外は自然面が残り、特別な加工はされていない。大きさは長さ41.8cm、幅18.3cm、厚み16.6cmを計る。擦痕が残る面は長さ32.0cm、幅13.0cmの不整な長楕円形で、擦痕は平坦な面の中央部付近とその面の両端部に近い部分の3箇所認められる。被熱痕は中央の部分に認められる。石材は断面が不整形形状で擦痕が残る面を上水平にして自立できないが、埋設痕は認められない。

S23・S24は一部分であるが、S22の形態を参考にとするとS24は端部際の部分、S23は側面の部分に当



第35図 金属製品・鍛冶関連資料（1：4）

たるものと思われ、擦痕が残る面以外に自然面を残す面がある。

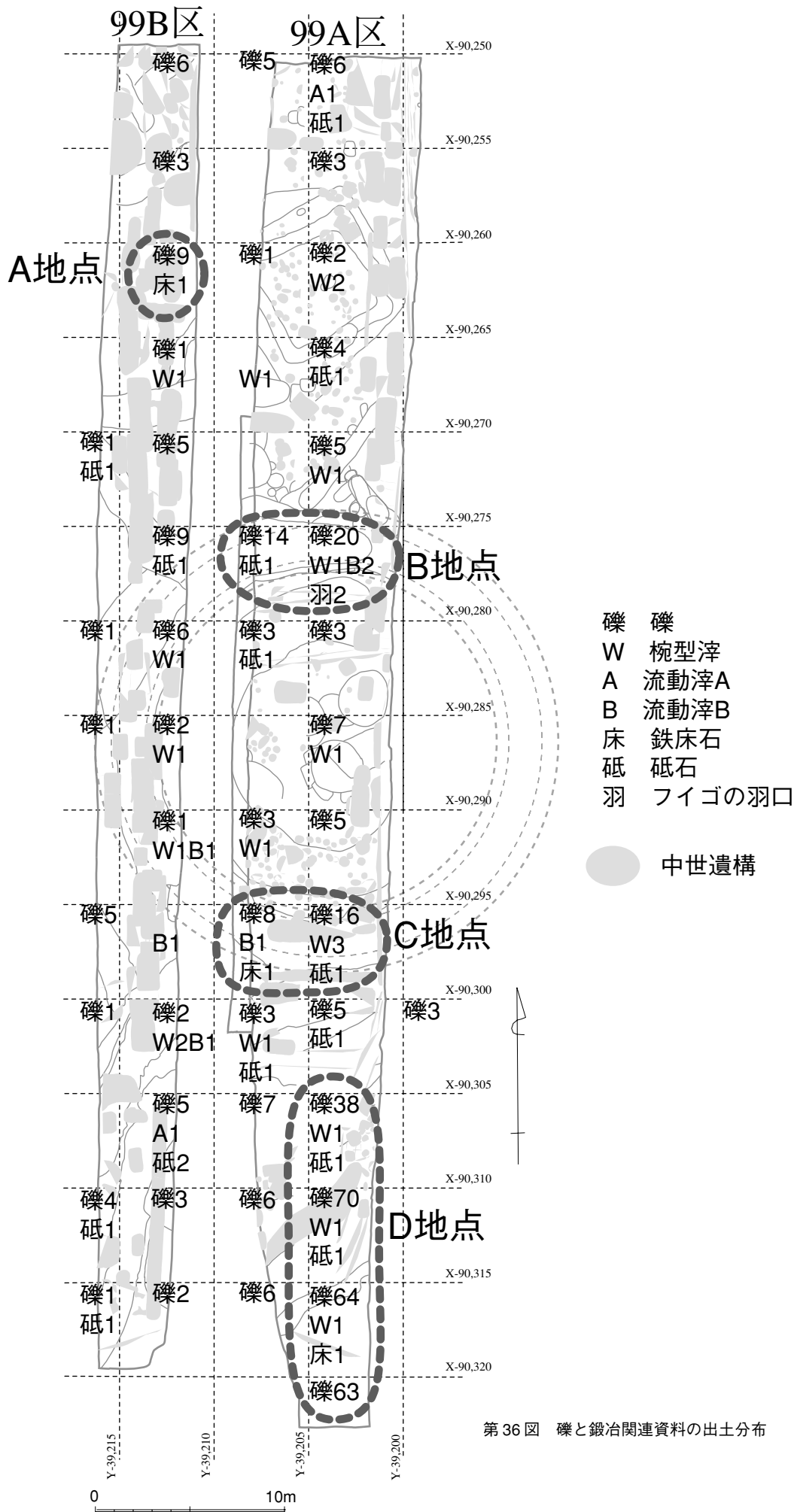
S23は比較的きれいな直方体をしており、残存部の大きさは長さ14.3cm、幅13.3cm、厚み7.2cmを計る。平坦な面全体に擦痕があり、残存部の中央部付近の擦痕が顕著であり、その部分に被熱痕も重なる。石材の下面も比較的平坦であるが、擦痕が残る面を水平にするためには石材を地面などに設置しなければならぬであろう。

S24は残存部が長さ9.0cm、幅5.7cm、厚み5.8cmと一部分であり、全体の形状は不明である。残存している部分では、擦痕は平坦な面全体にはないようであり、擦痕が比較的顕著な図面下側に被熱痕も偏っている。

第10節 金属製品・鍛冶関連資料（第35・36図、第23表）

鉄製品が9点（M3～M9）、銅銭が1点（M10）、腕型滓21点（M11～M13）、流動滓A3点、流動滓B6点（M14）、含鉄遺物30点、鉄片1点、フイゴの羽口2点（M1・M2）がある。この中で、鍛冶関連資料（腕型滓・流動滓A・流動滓B・フイゴの羽口）は古代の溝から出土するものと中世の方形土坑と区画溝から出土しているものがあり、遺構の重複関係から古代の遺物と考えられる。（第36図）。

M3は古墳時代の剣菱形杏葉の形態に類似しているが、X線写真では異なるもので製品名は不明である。M4～M7は鉄鏃で、M4・M6は片刃の長茎鏃、M5は刃幅が広い柳刃形のもの、M7は長茎鏃の基



第36図 礫と鍛冶関連資料の出土分布

部にあたる。M8は刀子、M9は鎌状の鉄製品である。M10は「洪武通宝」である。M1・M2はフイゴの羽口で、送風孔の内径はM1が羽口の先端部で径2.2cm、M2が羽口の基部で径3.6cmを計る。M1の装着痕から推定される装着角度は水平に近い状態である。M11～M13は椀型滓で、M11は金属反応が若干あり、気泡が少なく緻密なもの、M12・M13はM11に比べるとやや気泡が多いが、比較的緻密で質感が重いもので、M13の上面は表面の凹凸が大きい。川田遺跡出土の椀型滓は比較的緻密で質感の重いものが多い。M14は気泡が多く、質感が軽い流動滓Bとしているもので、上面の起伏が大きく、石材が溶けたと思われる白色付着物がみられる。上面はやや赤色に発色している部分がある。M15は緻密な砂岩と思われるものに、流動滓と径1.0cm～1.5cmの角礫の小礫が絡まって付着している。

第11節 礫（第36図、第24・25表）

川田遺跡からは多量の礫が出土した。礫は調査区南端の中世の区画溝NR01とその付近から出土のものが大部分を占め、その点を除くと、調査区東側99A区の出土が多い。出土した遺構の特徴は、鉄資料と同様に古代の溝と中世の方形土坑とその付近からの出土がある。鉄資料の出土位置との具体的な対応関係では、鉄床石1点、椀型滓1点が出土したA地点、フイゴの羽口が2点、椀型滓1点、流動滓B2点出土したB地点、鉄床石1点、流動滓B1点、椀型滓3点とが出土したC地点、鉄床石1点、椀型滓3点出土しNR01付近のD地点がある。礫は鉄床石とフイゴの羽口の出土位置との対応関係が特に強い。礫の出土状態では古代の溝からの出土が比較的事実であることから、当初は古代の溝への廃棄されたものがあり、その後中世の溝と方形土坑の掘削・埋没に際して再埋没したものが多いと思われる。中世のNR01護岸等の構築物の一部を構成していた可能性もあるが、出土状況においては確認されていない。

礫の形状から以下の通り分類した。

角礫：礫の角があるもの。

亜角礫：礫の角がやや円磨されたもの。

亜円礫：礫の角が円磨されているもの。

円礫：礫の角がなく、全体的に円磨されて、球状に近いもの。

また、礫の大きさについては以下の通りに分類した。

L型：長径10.1cm以上のもの。

M型：長径7.1cm～10.0cmのもの。

S型：長径4.1cm～7.0cmのもの。

SS型：長径4.0cm以下のもの。

以上の基準で分類・検討した結果、次の6点のことが判明した。

○礫の種類には、砂岩、凝灰質砂岩、砂質凝灰岩、凝灰岩、泥岩、チャート、濃飛流紋岩、珪化木、凝灰質泥岩、泥質凝灰岩、安山岩、結晶片岩、礫岩、フォルンフェルス、アプライト、頁岩がある。

○量的には圧倒的に砂岩が多く、凝灰質砂岩、泥岩、チャート、濃飛流紋岩の順に多く出土している。その他の石材は単発の出土である。

○礫の大きさは砂岩、凝灰質砂岩、泥岩、チャート、濃飛流紋岩においてSS型～L型があるが、礫の出土量が多い砂岩、凝灰質砂岩では比較的L型の礫を多く含む。砂質凝灰岩、凝灰岩、珪化木、凝灰質泥岩、泥質凝灰岩、安山岩、結晶片岩、礫岩、フォルンフェルス、アプライト、頁岩ではやや大きいものを含むが、L型の石材はなくS型、SS型の小礫が多い。

○礫にみられる岩石類は木曾川や庄内川等濃尾平野の周囲の山中に多く分布しており、遺跡は濃尾平野中央部に位置していることから、遺跡周辺ではS型より大きい礫（角礫）は入手しにくいものと思われる。

○円礫・亜円礫・亜角礫が少量あるが、礫の大部分は角礫の状態にあり、人為的破碎の可能性のある角が鋭角に割れた礫もみられる。石材の種類による違いはみられない。

○礫の一部に被熱による赤変や煤の付着がみられるものがある。被熱痕が部分的で不明瞭であること、被熱を受けたと思われる礫が数点のみであることから、礫が直接火のかかる状態で使用されたものとは思われない。

第8表 土器・陶器観察表-1

登録No.	調査区	遺構番号	ケラット	種類	器種	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	色調	外面調整	内面調整	型式	時期
E-001	99A	SD25	ⅢH16t	須恵器	杯蓋	4.6	12.2		黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	H-50	7c前半・中葉
E-002	99A	SD25	ⅢH16t	須恵器	杯蓋	3.4	11.4		黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削、回転ヘラ切	回転ナデ	H-50	7c前半・中葉
E-003	99A	SD25	ⅢH16t	須恵器	杯蓋	4	10.5		黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	H-50	7c前半・中葉
E-004	99A	SD25	ⅢH16st	須恵器	杯蓋	3.9	10.5		褐灰	回転ナデ、回転ヘラ削、回転ヘラ切	回転ナデ	H-50	7c前半・中葉
E-005	99A	SD25	ⅢH16t	須恵器	杯蓋	3.8	10.2		黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削、回転ヘラ切	回転ナデ	H-50	7c前半・中葉
E-006	99A	SD25	ⅢH16s	須恵器	杯蓋	3.7+	10.4		黄灰	回転ナデ	回転ナデ	H-50前後	7c中葉
E-007	99A	SD25	ⅢH16s	須恵器	杯身	2.1+	11.2		灰黄褐	回転ナデ	回転ナデ		
E-008	99A	SD25	ⅢH1516t	須恵器	杯身	4.1	11.6		灰白	回転ナデ、ヘラオコシ	回転ナデ	H-61とH-44の間or非猿投窯	6c後半or7c第3四半期
E-009	99A	SD25	ⅢH16t	須恵器	杯身	3.3+			黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ、底部ナデ		
E-010	99A	SD25	ⅢH16t	須恵器	杯身	4.3	9.2		褐灰	回転ナデ	回転ナデ	H-50	7c前半・中葉
E-011	99A	SD25	ⅢH16st	須恵器	杯身	4.5	9.2		褐灰	回転ナデ、回転ヘラ削、回転ヘラ切	回転ナデ	H-50	7c前半・中葉
E-012	99A	SD25	ⅢH16s	須恵器	杯身	3.9	8.8		褐灰	回転ナデ	回転ナデ	H-50	7c前半・中葉
E-013	99A	SD25	ⅢH16s	須恵器	杯身	3.6	8.8		褐灰	回転ナデ、回転ヘラ削、回転ヘラ切	回転ナデ	H-50	7c前半・中葉
E-014	99A	SD25	ⅢH16t	須恵器	短頸埴	4.9+	11		黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	尾北窯	年代不詳
E-015	99A	SD25	ⅢH16t	須恵器	高杯蓋(ツマミ付)	1.7+			黄灰	回転ナデ、鉗付	回転ナデ	H-11or非猿投窯か	5c末-6c初
E-016	99A	SD25	ⅢH16t	須恵器	無蓋高杯(二段二方透し)	6+	15.6		灰白	回転ナデ	回転ナデ	H-61とH-44の間	6c後半
E-017	99A	SD25	ⅢH16t	須恵器	無蓋高杯	3.8+	13.8		黄灰	回転ナデ	回転ナデ	H-50	7c前半・中葉
E-018	99A	SD25	ⅢH16t	須恵器	高杯、脚部	2.2+		11	黄灰	回転ナデ	回転ナデ	I-17	7c後半
E-019	99A	SD25	ⅢH16s	須恵器	ハンソウ、口縁部	1.6+	10.4		黄灰	回転ナデ	回転ナデ	I-17	7c後半
E-020	99A	SD25	ⅢH16s	須恵器	ハンソウ	6.4+		2.1	灰白	回転ナデ、回転ヘラ削、注口部貼付、クシ刺突	ナデ	I-17	7c後半
E-021	99A	SD25	ⅢH16t	須恵器	長頸瓶	9.2+		6.8		回転ナデ、回転ヘラ削、回転ヘラ切	回転ナデ	I-17or尾北窯	7c後半
E-022	99A	SD25	ⅢH16s	須恵器	長頸瓶	11.2+			黄灰	回転ナデ	回転ナデ	H-50前後	7c中葉
E-023	99A	SD25	ⅢH15t	須恵器	長頸瓶	6.8+		3.8	灰白	回転ナデ、回転ヘラ削、回転ヘラ切	回転ナデ、横指ナデ	尾北窯	7c後半
E-024	99A	SD25	ⅢH16st	須恵器	短頸壺or鉢	7.9	11.3	6.7	灰白	回転ナデ、回転ヘラ削、回転ヘラ切	回転ナデ、指オサエ	I-17or尾北窯	7c後半
E-025	99A	SD25	ⅢH16s	須恵器	壺	19.7	10	7.9	黄灰	タタキ、回転ナデ、指ナデ、ヘラ削	回転ナデ	西濃産	6-7cor7c後半
E-026	99A	SD25	ⅢH16t	須恵器	提瓶(プラスチック瓶)	8.0+			黄灰	回転ナデ	回転ナデ	H-50orI-17	7c
E-027	99A	SD25	ⅢH16s	須恵器	揃鉢	8.9+		7.9	灰	回転ナデ、回転ヘラ削、回転ヘラ切、刺突	回転ナデ	I-17	7c後半
E-028	99A	SD25	ⅢH16s	須恵器	甕	10.2+			明黄褐	タタキ、横板ナデ	当具痕、横指オサエ		6c以降
E-029	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	甕A2	40	21		灰白	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ、板削、指ナデ、指オサエ	伊勢系	7c前半
E-030	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	鍋A(把手付)	3.6+	28		浅黄橙	斜ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-031	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	甕A2	4.3+	22		橙	横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-032	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	甕A2	5.9+	18.6		浅黄橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-033	99A	SD25	ⅢH16st	土師器	甕A2	14.8+	18		にぶい黄橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-034	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	甕A2	15.5+	17.4		にぶい黄橙	縦ハケ、横ナデ、指オサエ	横ハケ、横ナデ、指ナデ	伊勢系	7c
E-035	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	甕A1	3.2+	16		にぶい橙	縦ハケ、横ナデ	斜ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-036	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	甕A2	6.2+	16.8		浅黄橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-037	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	甕A2	3.4+	16		にぶい黄橙	不明	ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-038	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	甕A2	3.0+	16		浅黄橙	ハケ、横ナデ	ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-039	99A	SD25	ⅢH16t	土師器	甕A2	5.6+	15.2		淡黄	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ、指オサエ痕	伊勢系	7c後半?
E-040	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	甕A1	6.5+	15		淡黄	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-041	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	甕A1	10.6+	14.8		にぶい黄橙	縦ハケ、横ナデ	指オサエ、横ナデ、縦削	伊勢系	7c
E-042	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	甕A1	5.8+	13.8		浅黄橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-043	99A	SD25	ⅢH16t	土師器	甕A2	12.3+	13.8		浅黄橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ、縦削	伊勢系	7c後半?
E-044	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	甕A1	4.6+	13.8		にぶい橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-045	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	甕A1	3.0+	13.5		にぶい黄橙	横ナデ	斜ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-046	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	甕A1	6.7+	13.6		浅黄橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-047	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	甕A1	7.6+	13.6		浅黄橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c前半
E-048	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	甕A1	10.5+	12.4		にぶい黄橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ、指オサエ、斜削	伊勢系	7c
E-049	99A	SD25	ⅢH16t	土師器	甕A1	4.8+	12		にぶい橙	斜ハケ、横ナデ	斜ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-050	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	甕、口縁部	5.6+	23.8		灰黄	斜ハケ、横ナデ、削	横ハケ、横板ナデ、口縁部横ナデ	伊勢系?	7c
E-051	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	鍋A(把手付)	8.4+			にぶい黄橙	縦ハケ、把手付、指ナデ	斜削	伊勢系	7c
E-052	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	甕、底部	12.2+		14.8	灰黄	縦ハケ、横ナデ	縦削、指オサエ痕、底部横板ナデ	伊勢系	7c
E-053	99A	SK34	ⅢH16t	土師器	甕A2	4.1+	17		浅黄橙	斜ハケ、横ナデ	斜ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-054	99A	SK34	ⅢH16t	土師器	甕A1	3.7+	13.4		にぶい黄橙	横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-055	99A	SK34	ⅢH15s	土師器	甕A2	3.4+	26		にぶい橙	横ナデ	横ハケ	伊勢系	7c
E-056	99A	SK34	ⅢH15s	土師器	鍋A(把手付)	5.5+			にぶい橙	指ナデ	把手付、横ハケ	伊勢系	7c
E-057	99A	SK34	ⅢH16t	土師器	甕、底部	3.9+			にぶい黄褐	横ナデ	ナデ	伊勢系?	7c
E-058	99A	SK34	ⅢH16s	須恵器	杯身	3.3+	10.2		黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	H-50	7c前半・中葉
E-059	99A	SK34	ⅢH16t	須恵器	杯(有台)	4	15	11.6	黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削、ナデ、高台付、回転ナデ	回転ナデ	I-17orC-2以前or美濃須衛?	8c前半以前

第9表 土器・陶器観察表-2

登録No.	調査区	遺構番号	グリッド	種類	器種	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	色調	外面調整	内面調整	型式	時期
E-060	99A	SK34	ⅢH16t	須恵器	杯(有台)	3.7	14.9	10.6	灰白	回転ナデ、回転ヘラ削、ナデ、高台付、回転ナデ	回転ナデ	I-41orC-2or美濃須戸?	7c末-8c初
E-061	99A	SK34	ⅢH16s	須恵器	平瓶	4.2+			灰	回転ナデ	回転ナデ、ナデ		
E-062	99B	SD07	ⅢH15r	須恵器	杯蓋	2.5+	11.6		灰白	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ		
E-063	99B	SD07	ⅢH15q	須恵器	杯蓋	3.6+	11		灰白	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	H-50	7c前半-中葉
E-064	99B	SD07	ⅢH15r	須恵器	杯身	3.7+	11.4	5.2	黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削、回転ヘラ切	回転ナデ	H-50	7c前半-中葉
E-065	99B	SD07	ⅢH16r	須恵器	高杯				黄灰	回転ナデ	回転ナデ		7c前半
E-066	99B	SD07	ⅢH15qr	須恵器	高杯、二段三方透し脚部	4.4+		12	灰白	回転ナデ	回転ナデ	H-50	7c前半-中葉
E-067	99B	SD07	ⅢH15q	須恵器	高杯、脚部	3.6+		9.2	灰白	回転ナデ	回転ナデ	I-17	7c後半
E-068	99B	SD07	ⅢH16r	須恵器	平瓶				黄灰				年代不詳
E-069	99B	SD07	ⅢH15r	須恵器	壺?	3.9+			灰	タタキ、回転ナデ	回転ナデ、当具痕		
E-070	99B	SD07	ⅢH16r	須恵器	壺	9.3+		7	黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ		
E-071	99B	SD07	ⅢH16r	土師器	甕A2	4.9+	21		浅黄橙	横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-072	99B	SD07	ⅢH15r	土師器	甕A2	2.9+	20.5		にぶい黄橙	横ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-073	99B	SD07	ⅢH15q	土師器	甕A2	4.2+	16.4		橙	横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-074	99B	SD07	ⅢH15q	土師器	甕A1	6.3+	16.2		淡黄	縦ハケ、指オサエ、横ナデ	横ハケ、縦ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-075	99B	SD07	ⅢH16r	土師器	甕A2	4+			橙	横ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-076	99B	SD07	ⅢH15q	土師器	鍋A(把手付)				淡黄橙	把手付、縦ハケ	横ハケ	伊勢系	7c
E-077	99B	SD06	ⅢH16r	須恵器	杯蓋	3.7	10.4		黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	H-50	7c前半-中葉
E-078	99B	SD06	ⅢH17qr	須恵器	杯蓋	2.7+			褐灰	回転ナデ、回転ヘラ削、回転ヘラ切	回転ナデ	H-50	7c前半-中葉
E-079	99B	SD06	ⅢH18r	須恵器	杯身	2.5+	9.8		黄灰	回転ナデ	回転ナデ		
E-080	99B	SD06	ⅢH17r	須恵器	杯身	2.3+			黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ		5-6c
E-081	99B	SD06	ⅢH16r	須恵器	紐付杯蓋(返り無し)	3.2	16.2		灰白	回転ナデ、回転ヘラ削、紐付、回転ナデ	回転ナデ	C-2	8c初
E-082	99B	SD06	ⅢH16r	須恵器	杯(有台?)	16.6		9.8	黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	C-2or以前	8c前半以前
E-083	99B	SD06	ⅢH16r	須恵器	杯(無台)	4.1	10.8	6.2	黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削、ナデ	回転ナデ	I-41	7c後半
E-084	99B	SD06	ⅢH16r	須恵器	高杯、脚部	3.2+		11.8	黄灰	回転ナデ	回転ナデ	H-50	7c前半-中葉
E-085	99B	SD06	ⅢH17q	須恵器	高杯、脚部	5.0+		9.3	黄灰	回転ナデ	回転ナデ、絞り痕	H-50	7c前半-中葉
E-086	99B	SD06	ⅢH16r	須恵器	無蓋高杯	9.25	11.5	9.2	黄灰	回転ナデ	回転ナデ	I-17	7c後半
E-087	99B	SD06	ⅢH17r	須恵器	高杯、脚部	7.3+			灰	回転ナデ	回転ナデ、指ナデ	I-17	7c後半
E-088	99B	SD06	ⅢH17r	須恵器	ハンソウ	10.0+		3.9	灰白	回転ナデ、回転ヘラ削、クシ刺突	回転ナデ	H-50	7c前半-中葉
E-089	99B	SD06	ⅢH17qr	須恵器	短頸壺or鉢	9.8	9.3	4.8	灰白	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	I-17orI-41	7c後半
E-090	99B	SD06	ⅢH18r	須恵器	短頸壺or鉢	7.0+			黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	I-17orI-41	7c後半
E-091	99B	SD06	ⅢH16r	須恵器	短頸壺	11.3+	11		灰白	タタキ、回転ナデ	回転ナデ	I-17	7c後半
E-092	99B	SD06	ⅢH17r	須恵器	短頸壺	9.1+			灰白	タタキ	回転ナデ		年代不詳
E-093	99B	SD06	ⅢH1719r	須恵器	壺	12.7+			黄灰	タタキ、回転ナデ	回転ナデ	伊勢産or西濃産or尾野IV古	6c後半or7c第3四半期
E-094	99B	SD06	ⅢH1617r	須恵器	壺	15.0+			灰白	タタキ、ナデ	回転ナデ		年代不詳
E-095	99B	SD06	ⅢH18r	須恵器	壺	11.0+			灰白	タタキ、回転ナデ	当具痕、ナデ、回転ナデ、		5c?
E-096	99B	SD06	ⅢH17qr	須恵器	甕	28.5	23.8	17	灰白	タタキ、回転ナデ、板ナデ、把手指ナデ	回転ナデ、ナデ、指オサエ	H-50orI-17以前	7c
E-097	99B	SD06	ⅢH1719r	須恵器	鍋(把手の痕跡)	10.6+	21.3		灰白	タタキ、回転ナデ、縦ナデ	回転ナデ		6c後半-7c初
E-098	99B	SD06	ⅢH17r	須恵器	甕	52.6	23	20.5	黄灰	タタキ、ナデ、回転ナデ	当具痕、ナデ、回転ナデ	H-50	7c前半-中葉
E-099	99B	SD06	ⅢH17qr	須恵器	提瓶	28.1	10.4		黄灰	タタキ、ナデ、回転ナデ	回転ナデ、指オサエ	H-50	7c前半-中葉
E-100	99B	SD06	ⅢH19r	土師器	甕	41	19.4	6	浅黄橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、板ナデ、横ナデ	三河系?	7c末
E-101	99B	SD06	ⅢH1617r	土師器	甕	31.1	20.4	11.2	浅黄橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、指ナデ、横ナデ	伊勢系の変形(美濃産)	7c後半
E-102	99B	SD06	ⅢH16r	土師器	鍋A(把手付)	3.3+	28.4		にぶい黄橙	横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-103	99B	SD06	ⅢH16r	土師器	甕A2	6.5+	19		橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c後半?
E-104	99B	SD06	ⅢH18r	土師器	甕A2	7.7+	16.4		浅黄橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-105	99B	SD06	ⅢH16r	土師器	甕A1	3.7+	18		浅黄橙	横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-106	99B	SD06	ⅢH17q	土師器	甕(小型)	4.1+	15.6		浅黄橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	近江系?	7c後半-8c初
E-107	99B	SD06	ⅢH16r	土師器	甕A2	2.7+	12		淡黄	横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c後半
E-108	99B	SD06	ⅢH16r	土師器	甕A2	3.9+	15.2		浅黄橙	横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-109	99B	SD06	ⅢH16r	土師器	甕A2	4.2+	14		浅黄橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-110	99B	SD06	ⅢH17q	土師器	甕A1	3.3+	13.2		にぶい黄橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c後半
E-111	99B	SD06	ⅢH16r	土師器	鍋A(把手付)				にぶい黄橙	把手付、ナデ、ハケ	縦ハケ、ナデ、指オサエ	伊勢系	7c
E-112	99B	SD06	ⅢH17r	土師器	鍋A(把手付)	4.1+			浅黄橙		指オサエ痕、横ハケ	伊勢系	7c
E-113	99A	SD28	ⅢH20s	須恵器	杯蓋	3.3+	14.2		灰白	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	H-11より古? orH-61	5c後半or6c後半
E-114	99A	SD28	ⅢH20s	須恵器	杯身	4.2+			黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	H-11orより古?	5c後半
E-115	99A	SD28	ⅢH20t	須恵器	杯身	2.8+			黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	非猿投窯	7c後半
E-116	99A	SD28	ⅢH20s	須恵器	杯(有台)	3.2	14	12	黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削、糸切痕?、高台付、回転ナデ	回転ナデ	C-2	8c初
E-117	99A	SD28	ⅢH20s	須恵器	杯(有台)	3.7	15.2	10.4	黄灰	回転ナデ、高台付、回転ナデ	回転ナデ	尾野IV中	8c後半
E-118	99A	SD28	ⅢH20s	須恵器	杯(有台)	1.8+		9	にぶい黄橙	回転ナデ、回転ヘラ削、高台付、回転ナデ	回転ナデ	猿投窯	
E-119	99A	SD28	ⅢH20t	須恵器	紐付杯蓋(返り無し)	1.8+	15.7		黄灰	回転ナデ	回転ナデ	猿投窯	8c
E-120	99A	SD28	ⅢH20s	須恵器	提瓶	5.9+			黄灰	回転ナデ	回転ナデ		6c頃

第10表 土器・陶器観察表 - 3

登録No.	調査区	遺構番号	クワット	種類	器種	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	色調	外面調整	内面調整	型式	時期
E-121	99A	SD28	ⅢH20s	須恵器	提瓶or平瓶	2+	13.6		灰黄	回転ナデ	回転ナデ	尾野Ⅳ	
E-122	99A	SD28	ⅢH20s	須恵器	壺	4.5+			灰	タタキ	当具痕、ナデ		
E-123	99A	SD28	ⅢH20s	須恵器	甕、底部	4.2+		27.8	灰白	タタキ、縦削	回転ナデ		8c後半
E-124	99A	SD27	ⅢH20t	土師器	甕C2	8.2+	19.3		浅黄橙	縦ハケ、横ナデ、口縁横ハケ、横ナデ	横ハケ、指ナデ	濃尾系	8c半
E-125	99B	SD08	ⅣH3r	須恵器	杯蓋	4.1+	11.4		灰白	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	城山-2	5c後半
E-126	99B	SD08	ⅣH2r	須恵器	杯蓋	4.8	11		灰	回転ナデ、回転ヘラ削、回転ヘラ切	回転ナデ	伊勢産?	5c後半?
E-127	99B	SD08	ⅣH3q	須恵器	杯蓋	5	11		褐灰	回転ナデ、回転ヘラ削、回転ヘラ切	回転ナデ	伊勢産?	5c後半以降
E-128	99B	SD08	ⅣH3r	須恵器	杯蓋or高杯	3.5+	14.4		灰白	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	尾野Ⅳ中	
E-129	99B	SD08	ⅣH2r	須恵器	紐付高杯蓋	5.4	11.8		灰白	回転ナデ、回転ヘラ削、鈕付、回転ナデ	回転ナデ	H-11or東山以外の猿投窯	5c末-6c初
E-130	99B	SD08	ⅣH2r	須恵器	杯身	4.9+			黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	H-11or非猿投窯	5c末-6c初
E-131	99B	SD08	ⅣH3r	須恵器	杯(無台)	2.2+		6.6	灰白	回転ナデ、回転ヘラ切、ナデ	回転ナデ	美濃須衛C-2併行	8c初
E-132	99B	SD08	ⅣH3q	須恵器	ハソウ	5.3+			灰白	回転ナデ、回転ヘラ削、ヘラ刺突	回転ナデ	I-17orH-50?	7c後半
E-133	99B	SD08	ⅣH2r	須恵器	壺?	5.5+			灰黄	回転ナデ	回転ナデ		
E-134	99B	SD04	ⅢH20q	須恵器	杯(有台)	3.7	15.9	12	灰白	回転ナデ、回転ヘラ削、高台付、回転ナデ	回転ナデ	C-2or尾北窯or老洞	8c初
E-135	99B	SD04	ⅣH20r	須恵器	杯(有台)	4.3	14.6	10.2	黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削、高台付、回転ナデ	回転ナデ	C-2	8c初
E-136	99B	SD04	ⅢH20q	須恵器	杯(無台)	11.9	4.2	9.3	浅黄橙	回転ナデ、回転ヘラ削、回転ヘラ切	回転ナデ	C-2	8c初
E-137	99B	SD04	ⅢH20q	灰釉陶器	皿	2.8	13.3	7.2	灰白	回転ナデ、糸切、高台付、回転ナデ	回転ナデ	O-53	10c半
E-138	99B	SD04	ⅢH20q	土師器	甕C4、底部	8.5+		7	灰黄褐	縦ハケ	指オサエ、ナデ	濃尾系	9c前半
E-139	99B	SD04	ⅢH20q	土師器	畿内系暗文土師器高杯	1.2+			橙	不明	不明		8c前半
E-140	99B	SD04	ⅢH20q	土師器	畿内系暗文土師器ⅢA	2.9	21.6		にぶい橙	横ナデ、ヘラ磨、ヘラ削	放射状暗文、螺旋状暗文	胎土分析	8c前半
E-141	99B	SD05	ⅣH1r	須恵器	杯蓋	3.3+	11.8		灰	回転ナデ、回転ヘラ削、回転ナデ	回転ナデ	H-11or城山2?	5c末-6c初
E-142	99B	SD05	ⅣH2r	須恵器	杯身	5.2+	10.2		黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	H-11or非猿投窯?	5c末-6c初
E-143	99B	SD05	ⅣH1r	須恵器	杯身	3.0+			黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	H-11or伊勢産?	5c末-6c初
E-144	99B	SD05	ⅣH1q	須恵器	紐付杯蓋(返り無し)	1.7+	15.7		灰	回転ナデ	回転ナデ		
E-145	99B	SD05	ⅣH2r	須恵器	紐付杯蓋(返り無し)	2.9+	14.6		灰白	回転ナデ、回転ヘラ削、鈕付、回転ナデ	回転ナデ	C-2以前	8c前半以前
E-146	99B	SD05	ⅣH1r	須恵器	杯(有台)	1.5+		12	灰白	回転ナデ、回転ヘラ削、高台付、回転ナデ	回転ナデ	猿投窯	
E-147	99B	SD05	ⅣH1r	須恵器	杯(無台)	3.3+	12.4		黄灰	回転ナデ	回転ナデ	猿投窯	7c
E-148	99B	SD05	ⅣH1q	須恵器	杯(無台)	3.1+	12.2		黄灰	回転ナデ	回転ナデ		7-8c
E-149	99B	SD05	ⅣH1r	須恵器	杯(無台)	3.9	11.8	6.4	灰白	回転ナデ、回転ヘラ削、ナデ	回転ナデ	美濃須衛	8c前半
E-150	99B	SD05	ⅣH2qr	須恵器	提瓶(プラスチック瓶)	20.6+			灰白	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	I-17	7c後半
E-151	99B	SD05	ⅣH1q	須恵器	提瓶(プラスチック瓶)	6.7+			灰白	回転ナデ	回転ナデ		7c
E-152	99B	SD05	ⅣH1r	土師器	甕A2	2.3+	19.4		黄橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-153	99B	SD05	ⅣH1r	土師器	畿内系暗文土師器ⅢA	2.6	20		橙	横ナデ	不明	胎土分析	8c前半
E-154	99B	SD05	ⅣH1q	土師器	畿内系暗文土師器ⅢA	2.9+	19.8		橙	横ナデ	不明	胎土分析	8c前半
E-155	99B	SD05	ⅣH1r	土師器	畿内系暗文土師器杯A	3.4+	13.6		橙	不明	ナデ、放射状暗文		8c前半
E-156	99B	SD12	ⅢH12r	土師器	鍋A(把手付)	5.2+	22		褐灰	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-157	99B	SD12	ⅢH12r	土師器	甕A2	3.9+	21		橙	横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-158	99B	SD12	ⅢH12r	土師器	甕A2	4.6+	19.2		黄橙	斜ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-159	99B	SD12	ⅢH12r	土師器	甕A1	2.5+	18		にぶい黄橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系?	7c
E-160	99B	SD12	ⅢH12r	土師器	鍋A(把手付)	14.3+			浅黄橙	把手付、指ナデ、縦ハケ	横ハケ、把手部指ナデ	伊勢系	7c
E-161	99B	SD12	ⅢH12r	土師器	鍋A(把手付)	7.8+		9	にぶい橙	縦ハケ、ナデ	横ハケ	伊勢系	7c
E-162	99B	SD12	ⅢH12r	土師器	鍋A(把手付)				明黄橙	把手付、縦ハケ	把手部ナデ、横ハケ	伊勢系	7c
E-163	99B	SD12	ⅢH12r	土師器	甕C1、底部	5.2+		9	にぶい黄橙	縦ハケ、底部ハケ	削、指オサエ	濃尾系	7c末-8c初
E-164	99B	SD12	ⅢH12r	須恵器	紐付杯蓋(返り付)	2.3+	15.8		灰白	回転ナデ	回転ナデ	I-17	7c後半
E-165	99B	SD12	ⅢH12r	須恵器	杯(有台)	2.1+		6.2	灰白	回転ナデ、高台付、回転ナデ	回転ナデ		8c後半
E-166	99B	SD12	ⅢH12r	須恵器	短頸壺or鉢	11.2	11	3.3	灰白	回転ナデ、回転ヘラ削、回転ヘラ切	回転ナデ	美濃須衛	7c末-8c前半
E-167	99B	SD13	ⅢH11r	土師器	甕A2	6.1+	18.4		灰白	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-168	99B	SD13	ⅢH11r	土師器	甕A2	4.3+	18.2		灰白	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-169	99B	SD13	ⅢH11r	土師器	甕A1	5.4+	15.3		浅黄橙	縦ハケ、横ナデ	板ナデ、横ナデ	伊勢系	7c
E-170	99A	SD24	ⅢH13t	土師器	甕C1、口縁部	6.1+	16		にぶい橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ、ナデ	濃尾系	7c末-8c初
E-171	99A	SD24	ⅢH13s	須恵器	杯蓋	4.3+	12.8		灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	西濃産	6c後半-7c初
E-172	99A	SK60	ⅢH11t	灰釉系陶器	碗	3.1+		8.2	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高台付、初痕	回転ナデ	尾張型4型式	12c中葉
E-173	99A	SK60	ⅢH11t	灰釉系陶器	碗	5.3	17	9	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高台付、初痕	回転ナデ	尾張型5型式	12c末-13c初
E-174	99A	SK60	ⅢH11t	灰釉系陶器	碗	3.2+		8.6	灰黄	回転ナデ、糸切、高台付、回転ナデ、初痕	回転ナデ	尾張型5型式	12c末-13c初
E-175	99A	SK60	ⅢH11t	灰釉系陶器	碗	3.1+		7	にぶい黄橙	回転ナデ、回転糸切痕、高台付、初痕	回転ナデ、ナデ	尾張型5型式	12c末-13c初

第11表 土器・陶器観察表 - 4

登録No.	調査区	遺構番号	グリップ	種類	器種	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	色調	外面調整	内面調整	型式	時期
E-176	99A	SK60	ⅢH11t	灰釉系陶器	椀	2.1+		7.4	灰黄褐	回転ナデ、回転糸切痕、高台付、回転ナデ、粉痕	回転ナデ	尾張型5型式	12c末-13c初
E-177	99A	SK60	ⅢH11t	灰釉系陶器	椀	3.6+		6.6	灰白	回転ナデ、高台付、ナデ、粉痕	回転ナデ	尾張型6型式	13c前半
E-178	99A	SK60	ⅢH11t	灰釉系陶器	小皿	2.4+		3.9	灰白	回転ナデ、回転糸切、ナデ	回転ナデ	渥美型or尾張型5型式	12c末-13c初
E-179	99A	SK60	ⅢH11t	灰釉陶器	皿	1.9+		7.4	灰白	糸切痕、高台付、回転ナデ	回転ナデ	O-53	10c前半-中頃
E-180	99A	SK60	ⅢH11t	土師器	鍋、口縁部	2.1+	16.8		灰黄褐	横ナデ	横ナデ	伊勢型	中世
E-181	99A	SK61	ⅢH11t	灰釉系陶器	小皿	2.4	8.3	4.3	灰白	回転ナデ、回転糸切	回転ナデ	尾張型5型式	12c末-13c初
E-182	99A	SK61	ⅢH11t	灰釉系陶器	椀	4.2+		7.8	にぶい黄橙	回転ナデ、回転糸切痕、高台付、粉痕	回転ナデ	尾張型5型式	12c末-13c初
E-183	99A	SK63	ⅢH11t	灰釉系陶器	椀	3.9+		7.6	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高台付、回転ナデ	回転ナデ	尾張型3型式	11c末-12c初
E-184	99A	SK63	ⅢH11t	灰釉系陶器	椀	4.6	15.2	6.3	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高台付、粉痕	回転ナデ	尾張型4型式	12c中葉
E-185	99A	SK63	ⅢH11t	灰釉系陶器	椀	4.65	15.6	7.3	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高台付、粉痕	回転ナデ	尾張型5型式	12c末-13c初
E-186	99A	SK63	ⅢH11t	土師器	甕C(小型)口縁部	2.6+	15.6		にぶい黄橙	斜ハケ、横ナデ	横ハケ、ナデ	濃尾系	8c
E-187	99A	SK63	ⅢH11t	須恵器	椀(無台、墨書)	3.4	13.2	4.8	灰	回転ナデ、回転糸切	回転ナデ	IG-78	8c末
E-188	99A	SD01	ⅣH2t	土師器	S字状口縁台付甕、C類	2.3+			にぶい黄橙	縦ハケ、横ナデ	ナデ	廻間Ⅲ	4c前半
E-189	99A	SD01	ⅣH2t	須恵器	ハソウの口縁部?	2.3+	10.8		灰	回転ナデ	回転ナデ	I-17	7c後半
E-190	99A	SD01	ⅣH3t	灰釉陶器	皿	1.6+		7.7	灰黄	回転ナデ、糸切、高台付、回転ナデ	回転ナデ	O-53?	10c?
E-191	99A	SD01	ⅣH3t	灰釉系陶器	椀	2.8+		8.3	灰白	回転ナデ、糸切痕、高台付、粉痕	回転ナデ	尾張型5型式	12c末-13c初
E-192	99A	SD01	ⅣH3t	須恵器	甕	6.3+			黒褐	回転ナデ、クシ刺突	回転ナデ	尾野Ⅳ	7-8c
E-193	99A	SD01	ⅣH1t	灰釉系陶器	片口鉢				灰白			尾張型7型式	13c中葉
E-194	99A	SD04	ⅣH1t	灰釉系陶器	椀	2.4+		8.7	にぶい黄橙	回転ナデ、糸切痕、高台付、回転ナデ、粉痕	回転ナデ	尾張型4型式	12c中葉
E-195	99A	SD05	ⅢH20t	土師器	鍋B、口縁部	2.8+	18.8		灰黄	横ナデ	横ナデ	伊勢系	9c-11c
E-196	99A	SD05	ⅢH20t	灰釉陶器	椀	3.4+	16.8		灰白	回転ナデ	回転ナデ	東濃、虎渓山?	10c後半? or 半ば
E-197	99A	SD08	ⅢH19t	土師器	羽付鍋(釜)	2.1+	17.8		にぶい黄橙	回転ナデ	横ハケ、口縁部横ナデ		14c末
E-198	99A	SD08	ⅢH18t	土師器	外耳鍋(釜)	4.65+			明褐	横ナデ、指オサエ、把手指ナデ	横ナデ		15c後半-16c半
E-199	99A	SD08	ⅢH20t	土師器	内耳鍋(半球形)				にぶい橙	横ナデ、指オサエ		尾張A-3	16c半頃
E-200	99A	SD08	ⅢH20t	土師器	広口壺		15		淡黄	縦ハケ、突帯貼付、横ナデ、ナデ	ナデ	廻間Ⅰ	3c前半
E-201	99A	SD09	ⅢH20t	須恵器	壺	5.3+	12.2		灰白	回転ナデ	回転ナデ		
E-202	99A	SD15	ⅢH15t	須恵器	壺	8.2+			黄灰	タタキ、ナデ	回転ナデ		年代不詳
E-203	99A	SD16	ⅢH11a	灰釉系陶器	椀	2.1+		9.7	灰白	回転ナデ、糸切痕、高台付、回転ナデ、粉痕	回転ナデ	尾張型4型式	12c中葉
E-204	99A	SD19	ⅢH14s	土師器	甕A1	4.5+	15.5		橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ、横板ナデ	伊勢系	7c
E-205	99A	SD29	ⅢH19s	須恵器	ハソウ、口縁部	4.6+	12.2		黄灰	回転ナデ	回転ナデ	H-50、畿内系の影響	6cor7c
E-206	99A	SD30	ⅢH17s	須恵器	壺	1.3+		4	灰	回転ナデ、ヘラオコシ	回転ナデ		
E-207	99A	SD33	ⅣH2t	須恵器	杯蓋	3.9+	10.8		灰白			H-11	5c末-6c初
E-208	99A	SD34	ⅣH4t	灰釉系陶器	椀	1.5+		8.4	灰白	糸切、高台付、回転ナデ、粉痕	回転ナデ	尾張型5型式	12c末-13c初
E-209	99B	SD01	ⅢH11r	土師器	甕A2	3.3+	16		淡黄	横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-210	99B	SD01	ⅢH12r	須恵器	平瓶?(口縁部)	4.2+	10.4		灰白	回転ナデ	回転ナデ	I-17~C-2	7c後半-8c初
E-211	99B	SD02	ⅢH14r	灰釉系陶器	小皿	1.4	9.1	5.9	灰白	回転ナデ、回転糸切痕	回転ナデ	東濃型8型式 大畑大洞古	13c末-14c初
E-212	99B	SD16	ⅢH20r	土師器	甕A2	4.25+	18		浅黄橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-213	99B	SD18	ⅣH3r	須恵器	壺?	4.1+			灰	回転ナデ	回転ナデ、絞り痕		
E-214	99A	NR01	ⅣH5t	灰釉系陶器	椀	1.9+		7.6	灰白	回転ナデ、糸切痕、高台付、回転ナデ	回転ナデ	尾張型3型式	11c末-12c初
E-215	99A	NR01	ⅣH5t	灰釉系陶器	椀	3.0+		5.6	灰白	回転ナデ、高台付、回転ナデ	回転ナデ	尾張型4型式	12c中葉
E-216	99A	NR01	ⅣH5t	灰釉系陶器	椀	2.9+		6.9	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高台付、回転ナデ、粉痕	回転ナデ	尾張型5型式	12c末-13c初
E-217	99A	NR01	ⅣH4t	灰釉系陶器	椀	2.1+		6	灰白	回転ナデ、糸切、高台付、回転ナデ、粉痕	回転ナデ	尾張型6型式	13c前半
E-218	99A	NR01	ⅣH5t	灰釉系陶器	椀	4.2+		5.6	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高台付、回転ナデ、粉痕	回転ナデ	尾張型7型式	13c中葉
E-219	99A	NR01	ⅣH5t	灰釉系陶器	椀	2+		6	灰白	回転ナデ、糸切、高台付、回転ナデ、粉痕	回転ナデ、ナデ	東濃型6型式、白土原	13c前半
E-220	99A	NR01	ⅣH5t	灰釉系陶器	片口鉢	2.3+		13.8	灰	回転ナデ	回転ナデ	尾張型3~4型式	11c末-12c中葉
E-221	99A	NR01	ⅣH5t	陶器(無釉)	常滑焼甕	4.9+	34.6		浅黄	回転ナデ	回転ナデ	常滑7型式	14c前半
E-222	99A	NR01	ⅣH4t	陶器(無釉)	常滑焼甕	4.45+	20.4		褐灰	回転ナデ	回転ナデ	常滑11型式	15c後半
E-223	99A	NR01	ⅣH5t	陶器(無釉)	常滑焼甕	3.0+			灰白	回転ナデ	回転ナデ		中世
E-224	99A	NR01	ⅣH5t	施釉陶器	折縁深皿	3.5+	24.8		灰白	回転ナデ	回転ナデ	古瀬戸後Ⅰ	14c後半
E-225	99A	NR01	ⅣH5t	施釉陶器	播鉢	4.1+		9.9		回転ナデ、底部ナデ	クシ条線	古瀬戸後Ⅳ	15c中葉-後半
E-226	99A	NR01	ⅣH5t	施釉陶器	播鉢	4.7+		9	黒褐	回転ナデ、回転糸切痕	回転ナデ、クシ条線	古瀬戸後Ⅳ新	15c後半
E-227	99A	NR01	ⅣH5t	須恵器	器種不明、口縁部	2.9+	26.5		黄灰	回転ナデ	回転ナデ		

第12表 土器・陶器観察表 - 5

登録No.	調査区	遺構番号	クワット	種類	器種	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	色調	外面調整	内面調整	型式	時期
E-228	99A	NR01	IVH5t	須恵器	高杯、脚部	5.3+		8.1	褐灰	回転ナデ	回転ナデ	H-11orH-10	5c末-6c初
E-229	99A	NR01	IVH5t	須恵器	碗(無台)	2+		6	黄灰	回転ナデ、糸切痕	回転ナデ	尾野V中-新	8c後半
E-230	99A	NR01	IVH5t	土師器	広口壺	4.1+			浅黄橙	縦ハケ、横ナデ、ナデ	ハケ、横ナデ	廻間Ⅲ?	4c
E-231	99A	NR01	IVH4t	土師器	鍋、口縁部	2.1+	12.4		灰白	横ナデ	横ナデ	伊勢型	中世
E-232	99A	SK03	ⅢH20t	灰釉系陶器	碗	2.4+		7.4	灰黄	回転ナデ、糸切、高台付、 回転ナデ、初痕	回転ナデ	尾張型4型式	12c中葉
E-233	99A	SK04	ⅢH18t	施釉陶器	縁釉小皿			5.6	灰白	回転ナデ、回転糸切痕	回転ナデ	古瀬戸後Ⅱ	14c末-15c初
E-234	99A	SK13	ⅢH14t	灰釉陶器	碗	1.5+		8	灰白	糸切痕、高台付、回転ナデ	回転ナデ	K-90	9c
E-235	99A	SK19	ⅢH17t	須恵器	杯身	3.15+	13		灰	回転ナデ	回転ナデ		
E-236	99A	SK23	ⅢH18t	灰釉系陶器	碗	2.2+		5.2	灰白	回転ナデ、高台付、回転ナ デ	回転ナデ	尾張型5型式	12c末-13c初
E-237	99A	SK38	ⅢH20s	灰釉系陶器	碗	3.2+		7	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高 台付、回転ナデ、初痕	回転ナデ	尾張型6型式 古	13c前半
E-238	99A	SK56	ⅢH11t	灰釉系陶器	小皿	2.4	8.6	3.4	灰白	回転ナデ、回転糸切痕	回転ナデ	尾張型5型式	12c末-13c初
E-239	99A	SK57	ⅢH11t	須恵器	紐付杯蓋	2.3+			灰黄	回転ナデ、紐付、回転ナデ	回転ナデ	尾野Ⅳ中-新	
E-240	99A	SK64	ⅢH11s	須恵器	杯(無台)	1.7+			黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ		8c後半
E-241	99A	SK73	ⅢH14t	須恵器	杯身	2.4+	10		灰黄	回転ナデ	回転ナデ	尾野Ⅳ古	
E-242	99A	SK81	ⅢH13t	施釉陶器	折縁深皿	6.8+	25		灰黄	回転ナデ	回転ナデ	古瀬戸後Ⅰ	14c後半
E-243	99A	SK81	ⅢH13t	土師器	堿C4、底部	3.9+			にぶい黄橙	斜ハケ、ナデ	縦削	濃尾系	9c前半
E-244	99A	SK81	ⅢH13t	土師器	羽付鍋	3.1+	21.8		灰白	回転ナデ	回転ナデ		中世
E-245	99B	SK13	ⅢH12r	土師器	堿A2	3.4+	20.4		浅黄橙	板ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c後半
E-246	99B	SK16	ⅢH11r	施釉陶器	縁釉小皿	1.4+		5.2	灰白	回転ナデ、回転糸切痕	回転ナデ	古瀬戸後Ⅲ	15c前半
E-247	99B	SK17	ⅢH11r	灰釉系陶器	碗	3.0+		6.8	にぶい褐	回転ナデ、回転糸切痕、高 台付、回転ナデ、初痕	回転ナデ	尾張型4型式	12c中葉
E-248	99B	SK17	ⅢH12r	土師器	堿A2	3.4+	21.8		浅黄橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c後半
E-249	99B	SK18	ⅢH12r	土師器	鍋A(把手付)	3.7+	25		浅黄	ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-250	99B	SK22	ⅢH12r	須恵器	杯身	4.2+	11		灰白	回転ナデ	回転ナデ	H-61	6c
E-251	99B	SK23	ⅢH13r	灰釉系陶器	碗	1.6+		7.8	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高 台付、回転ナデ	回転ナデ	尾張型4型式	12c中葉
E-252	99B	SK31	ⅢH14r	土師器	皿	2.2+	12.2		灰白	横ナデ	横ナデ		中世
E-253	99B	SK63	IVH1r	土師器	皿	2.0+	10.1		浅黄橙	横ナデ、指オサエ	横ナデ、指オサエ		13c
E-254	99B	SK63	IVH1r	施釉陶器	卸皿	1.7+		8.8	淡黄	回転ナデ、糸切痕	線刻の卸目	古瀬戸後Ⅲor Ⅳ	15c
E-255	99B	SK64	IVH1r	土師器	畿内系暗文土 師器杯A	3.5+	18		にぶい橙				8c前半
E-256	99B	SK69	IVH3q	須恵器	台付鉢or火 舎?	2.9+		12.8	橙	回転ヘラ削、高台付、回転 ナデ	回転ナデ	猿投窯、尾野 Ⅳ新	8c前半
E-257	99B	SK72	IVH2q	須恵器	杯(無台)	3.6+	11.8		灰黄	回転ナデ	回転ナデ		
E-258	99B	SK86	ⅢH16r	土師器	堿A2	4.6+	20		浅黄橙	斜ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-259	99B	SK90	ⅢH20r	灰釉系陶器	片口鉢	4.4+	29.8		灰白	回転ナデ	回転ナデ	尾張型7型式	13c中葉
E-260	99A	P013	IVH2t	灰釉系陶器	鉢?	2.4+		10.2	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高 台付、回転ナデ、初痕	回転ナデ	尾張型4型式	12c中葉
E-261	99A	P029	IVH2t	灰釉系陶器	碗	2.6+		7.2	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高 台付、回転ナデ、初痕	回転ナデ	尾張型3型式	11c末-12c初
E-262	99A	P030	IVH2t	陶器(無釉)	常滑焼堿	4.7+		10.2	にぶい褐	回転ナデ、指オサエ	ナデ		中世
E-263	99A	P032	IVH2t	須恵器	杯身	2.8+			灰白	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	非猿投窯?、 尾野Ⅲ	5c-6c?
E-264	99A	P032	IVH2t	灰釉系陶器	碗	1.9+		7	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高 台付、回転ナデ、初痕	回転ナデ	尾張型5型式	12c末-13c初
E-265	99A	P149	ⅢH15s	須恵器	杯(無台)	2.8	13.6	8.2	灰白	回転ナデ	回転ナデ	C-2	8c初
E-266	99A	P159	ⅢH11s	灰釉系陶器	碗	2.8+		9.1	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高 台付、回転ナデ、初痕	回転ナデ	尾張型4型式	12c中葉
E-267	99A	P163	ⅢH11t	灰釉系陶器	碗	2.1+		8.2	褐灰	回転ナデ、回転糸切痕、高 台付、回転ナデ、初痕	回転ナデ	尾張型4型式	12c中葉
E-268	99A	P170	ⅢH11a	灰釉系陶器	広口瓶				灰白	回転ナデ、回転ヘラ削、底 部ナデ	回転ナデ	猿投窯	12c前半
E-269	99A	P171	ⅢH11a	須恵器	杯(無台)	2.3+		7.2	灰黄	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	C-2以前	8c前半以前
E-270	99A	P196	ⅢH12t	土師器	堿A2	4.3+	14.5		にぶい橙	ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢系	7c
E-271	99A	P227	ⅢH13s	灰釉系陶器	碗	5.1	15.7	6.6	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高 台付、初痕	回転ナデ	尾張型5型式	12c末-13c初
E-272	99A	検1	ⅢH15s	須恵器	杯蓋	3.8+	11.2		灰黄	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ		
E-273	99A	検1	IVH2s	須恵器	杯身	3.2+	13		灰黄	回転ナデ	回転ナデ		
E-274	99A	検1	ⅢH13s	須恵器	杯身	2.0+			褐灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	H-50	7c前半-中葉
E-275	99B	検2	ⅢH17r	須恵器	杯身	3.8+			黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削、回 転ヘラ削	回転ナデ	H-50	7c前半-中葉
E-276	99A	検1	ⅢH16s	須恵器	杯(有台)	1.6+		10.6	黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削、ナ デ、高台付	回転ナデ	C-2	8c初
E-277	99A	検1	ⅢH12s	須恵器	杯(有台)	4.2	17.6	10.6	褐灰	回転ナデ、回転ヘラ削、高 台付	回転ナデ	O-10	8c中葉-後半
E-278	99B	検2	IVH3q	須恵器	杯(有台)	1.6+		9.6	黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削、ナ デ、高台付、回転ナデ	回転ナデ	尾野Ⅳ中	7-8c
E-279	99B	表土剥 ぎ		須恵器	杯(無台)				灰褐	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	C-2以前or美濃 須衛?	8c前半以前
E-280	99A	東壁ト ナ	ⅢH16t	須恵器	杯(無台)	3.7+	13.2		褐灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	C-2	8c初
E-281	99A	検1	IVH2s	須恵器	杯(無台)	2.6+		6.3	灰白	回転ナデ、ヘラ削	回転ナデ	猿投窯	
E-282	99A	検1	ⅢH20t	須恵器	高杯?	2.1+			黄灰	回転ナデ、クシ波状文			5c
E-283	99A	検1	ⅢH14s	須恵器	高杯	1.3+			にぶい橙	回転ナデ、クシ列点文	回転ナデ、指ナデ痕	尾野Ⅳ古	7c前半
E-284	99A	検1	ⅢH12s	須恵器	無蓋高杯	3.5+	13.4		にぶい黄橙	回転ナデ	回転ナデ		年代不詳
E-285	99B	検1	IVH1q	須恵器	円面碗?	1.1+	7.9		黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ		年代不詳
E-286	99A	検1	ⅢH18t	須恵器	ハソウ	4.2+			灰白	回転ナデ、ヘラ刺突	回転ナデ、絞り痕	I-17	7c後半
E-287	99B	検2	ⅢH17r	須恵器	ハソウ	5.1+			灰白	回転ナデ、回転ヘラ削、ヘ ラ刺突	回転ナデ、絞り痕	I-17	7c後半

第13表 土器・陶器観察表 - 6

登録No.	調査区	遺構番号	ケラット	種類	器種	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	色調	外面調整	内面調整	型式	時期
E-288	99A	検1	ⅢH17t	須恵器	長頸瓶?	3.6+			灰	回転ナデ、ヘラ刺突			
E-289	99A	東壁ト ンフ	ⅣH3t	須恵器	提瓶(フラス コ瓶)	4.25+	8		灰白	回転ナデ	回転ナデ		
E-290	99A	西壁ト ンフ	ⅣH4s	須恵器	提瓶(フラス コ瓶)	3.5+			灰白	回転ナデ	回転ナデ	尾野Ⅲ新-Ⅳ古	
E-291	99A	検1	ⅢH12s	須恵器	短頸壺or鉢	6.6+			灰白	回転ナデ	回転ナデ	I-17	7c後半
E-292	99B	西ト ンフ	ⅢH12q	須恵器	短頸壺or鉢	6.9+	12.8		黄灰	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	C-2	8c初
E-293	99B	検1	ⅣH2q	須恵器	台付鉢or火 舎?	2.9+		12.8	にぶい黄橙	回転ナデ	回転ナデ	猿投窯、尾野 Ⅳ新	8c前半
E-294	99A	検1	ⅢH20s	灰釉陶器	椀	2.7+		8	灰白	回転ナデ、糸切痕、高台 付、回転ナデ	回転ナデ	O-53	10c
E-295	99A	検1	ⅢH16s	灰釉陶器	椀	2.2+		5.2	灰白	回転ナデ、高台付、回転ナ デ	回転ナデ	O-53	10c
E-296	99A	検1	ⅢH20t	灰釉陶器	椀	1.7+		5.3	灰白	回転ナデ、糸切痕、高台 付、回転ナデ、粉痕	回転ナデ	東濃、虎浜山	10c後半
E-297	99A	検1	ⅢH17t	土師器	S字状口縁台 付甕、C類	1.7+			にぶい黄橙			廻間Ⅲ	4c前半
E-298	99A	検1	ⅢH18t	土師器	台付甕	2.4			浅黄橙	ハケ	ナデ、台部指ナデ	宇田	5c前半
E-299	99A	検1	ⅢH12t	土師器	甕	5.1+	15.2		橙	縦ハケ、横ナデ	横ハケ、横ナデ	伊勢製	8c後半
E-300	99A	検1	ⅢH13s	土師器	鍋A(把手付)	3.2+			灰白	指ナデ		伊勢系	7c
E-301	99B	表土剥 ぎ		土師器	畿内系暗文土 師器杯(椀) orⅢ	1.1+			にぶい橙				8c前半
E-302	99A	検1	ⅢH15t	土師器	畿内系暗文土 師器ⅢA	2.4	18.2	14.6	橙	回転ナデ	回転ナデ	胎土分析	8c前半
E-303	99A	検1?	ⅢH14t	灰釉系陶器	耳皿	2.0+		4.4	灰白	回転ナデ、底部ナデ	回転ナデ	猿投窯尾張型 3型式	11c末-12c初
E-304	99A	西壁ト ンフ	ⅣH5t	灰釉系陶器	椀	3.0+		9	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高 台付、回転ナデ、粉痕	回転ナデ	尾張型4型式	12c中葉
E-305	99A	検1	ⅢH11t	灰釉系陶器	椀	2.9+		7.6	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高 台付、回転ナデ、粉痕	回転ナデ	尾張型4型式	12c中葉
E-306	99A	検1	ⅢH20t	灰釉系陶器	椀	2.2+		7.1	にぶい黄橙	回転ナデ、回転糸切痕、高 台付、回転ナデ	回転ナデ	尾張型4型式	12c中葉
E-307	99A	検1	ⅢH20t	灰釉系陶器	椀	2.3+		7	灰黄	回転ナデ、糸切痕、高台 付、回転ナデ、粉痕	回転ナデ、ナデ	尾張型4型式	12c中葉
E-308	99A	検1	ⅢH16s	灰釉系陶器	椀	1.7+		6.8	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高 台付、回転ナデ、粉痕	回転ナデ	尾張型4型式	12c中葉
E-309	99A	検1	ⅢH20t	灰釉系陶器	椀	1.8+		5.4	にぶい黄橙	回転ナデ、糸切痕、高台 付、回転ナデ、粉痕	回転ナデ、回転ヘラ削	尾張型4型式	12c中葉
E-310	99A	北壁ト ンフ	ⅢII1a	灰釉系陶器	椀			7.6	浅黄橙	回転ナデ、回転糸切痕、高 台付	回転ナデ	尾張型5型式	12c末-13c初
E-311	99A	西壁ト ンフ	ⅣH5t	灰釉系陶器	椀	2.4+		6.9	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高 台付、回転ナデ、粉痕	回転ナデ	尾張型5型式	12c末-13c初
E-312	99A	西壁ト ンフ	ⅣH5t	灰釉系陶器	椀	4.1+		5.4	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、板 目状圧痕	回転ナデ、指オサエ	尾張型8型式	13c末-14c初
E-313	99A	検1	ⅢH16s	灰釉系陶器	小皿	1.3	7.2	5	灰黄	回転ナデ、回転糸切痕	回転ナデ、ナデ	東濃型7型 式、明和	13c中葉
E-314	99A	検1	ⅢH17t	灰釉系陶器	小皿(墨書)	1	7.8	5	灰白	回転ナデ、回転糸切痕	回転ナデ、ナデ	東濃型7型 式、明和	13c中葉
E-315	99A	検1	ⅢH18t	土師器	皿	1.6+	9		浅黄橙	横ナデ、指オサエ	横ナデ、ナデ		中世
E-316	99B	検1	ⅣH1r	土師器	皿	1.7+	8.3		浅黄橙	横ナデ、指オサエ痕、削	横ナデ		中世
E-317	97	試掘ト ンフ-1		灰釉系陶器	経筒外容器 (複線三筋文)	13.7+		21.9	灰白	回転ナデ、横ナデ、底部ヘ ラ削	回転ナデ、ナデ	猿投窯	12c後葉
E-318	99B	表土剥 ぎ		土師器	鍋C4	4.1+	29		褐	回転ナデ、ナデ、口縁部ヘ ラ削	横板ナデ	清郷型	10c半
E-319	99A	検1	ⅢH20s	土師器	鍋C5	3.5+			にぶい褐	横ナデ、板ナデ	横ナデ、ナデ	清郷型	10c後半
E-320	99A	検1	ⅢH18t	施釉陶器	天目茶碗	5+	11.9		淡黄	回転ナデ、回転ヘラ削	回転ナデ	古瀬戸後Ⅳ新	15c後半
E-321	99A	SX01	ⅣH1s	須恵器	杯身	2.7+			黄灰	回転ナデ	回転ナデ	尾野Ⅲ	
E-322	99A	SX01	ⅣH2s	須恵器	椀	3.5+		6.8	灰黄	回転ナデ、回転糸切痕	回転ナデ	尾野Ⅴ-Ⅵ前半	年代不詳
E-323	99A	SX01	ⅣH2s	灰釉系陶器	椀	2.3+		7.4	灰白	回転ナデ、糸切、高台付、 粉痕	回転ナデ、ナデ	尾張型5型式	12c末-13c初
E-324	99A	SX01	ⅣH2s	灰釉系陶器	椀	2.4+		7.2	灰黄	回転ナデ、糸切、高台付、 回転ナデ、粉痕	回転ナデ	尾張型6型式 古	13c前半
E-325	99A	SX01	ⅣH2s	灰釉系陶器	椀	3+		7.8	灰黄	回転ナデ、糸切痕、高台 付、回転ナデ、粉痕	回転ナデ	尾張型6型式	13c前半
E-326	99A	SX01	ⅣH2s	灰釉系陶器	椀	2.2+		6	灰白	回転ナデ、糸切、高台付	回転ナデ	尾張型6型式	13c前半
E-327	99A	SX01	ⅣH2s	灰釉系陶器	椀	2.4+		6	灰黄	回転ナデ、高台付、粉痕	回転ナデ、ナデ	東濃型7型 式、明和	13c中葉
E-328	99A	SX01	ⅣH2s	灰釉系陶器	椀	3.2	13.8	5.2	灰白	回転ナデ、回転糸切痕	回転ナデ	東濃型11型式 前半、脇之島	15c中葉
E-329	99A	SX01	ⅣH2s	施釉陶器	花瓶	1.6+		3.4	にぶい橙	回転ナデ、糸切		古瀬戸前Ⅲor Ⅳ	13c後半
E-330	99A	SX01	ⅣH2s	施釉陶器	縁釉小皿	1.95+	11.8		にぶい橙	回転ナデ	回転ナデ	古瀬戸後Ⅲ	15c前半
E-331	99A	SX02	ⅢH20s	灰釉陶器	椀	2.1+		7.2	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高 台付、粉痕	回転ナデ	O-53	10c
E-332	99A	SD28	ⅢH20t	灰釉系陶器	椀	2.8+		7.8	灰白	回転ナデ、糸切、高台付、 回転ナデ、粉痕	回転ナデ	尾張型5型式	12c末-13c初
E-333	99B	SD06	ⅢH16r	灰釉系陶器	椀			6.7	灰白	回転ナデ、回転糸切痕、高 台付、粉痕	回転ナデ	尾張型6型式	13c前半
E-334	99A	SD25	ⅢH16s	土師器	高杯、脚部	2.0+		8	にぶい黄褐			松河戸Ⅱ	5c初
E-335	99B	SD06	ⅢH18r	土師器	大型高杯、脚 部	4.0+		20.4	にぶい橙	縦ハケ、ナデ、指オサエ、 下端部横ナデ	横ハケ	宇田Ⅰ	5c前半

第14表 円筒埴輪観察表（器高・口径・底径はcm）

登録	調査区	遺構番号	クワット	部位	器高	口径	底径	胎土	焼成	色調	残存率	外面調整	内面調整
E-336	99B	SD06	ⅢH19r	くびれ部～胴部	49.5+		22.2	緻密	良	浅黄橙	4	縦板ナデ、横ナデ	指オサエ、横指ナデ、縦指ナデ
E-337	99A	SD28	ⅢH20s	肩部	12.9+			緻密	良	浅黄橙	1	斜指ナデ、突帯上下ナデ	横指ナデ
E-338	99A	SD28	ⅢH20s	基底部	11.1+		21.2	緻密	良	にぶい橙	1	縦指ナデ、下端部ハケ	縦指ナデ
E-339	99A	SX02	ⅢH20t	口縁部	5.7+	30.8		緻密	良	浅黄橙	1	ナデ	横指ナデ、横ハケ？
E-340	99A	SD27	ⅣH1t	口縁部	6.2+	27.4		緻密	良	橙	1	回転横板ナデ	縦ハケ、横板ナデ
E-341	99A	SD28	ⅢH20t	胴部	12.3+			緻密	良	にぶい黄橙	1	横板ナデ	縦指ナデ、工具痕
E-342	99A	NR01	ⅣH5t	胴部	5.6+			緻密	良	橙	1	ナデ、突帯上下横ナデ	横指ナデ
E-343	99A	NR01	ⅣH5t	胴部	6.2+			緻密	良	浅黄橙	1	ナデ、突帯上下横ナデ	ナデ
E-344	99A	SD28	ⅢH20s	胴部				緻密	良	浅黄橙	1	ナデ、突帯上下横ナデ	縦指ナデ
E-345	99A	SD28	ⅢH20s	胴部				緻密	良	浅黄橙	1	横ナデ、突帯上下横ナデ	縦指ナデ
E-346	99A	SD28	ⅢH20s	胴部	8.0+			緻密	良	にぶい橙	1	横ナデ、突帯上下横ナデ	縦指ナデ
E-347	99A	SD27	ⅣH1t	口縁部		22.4	16	緻密	良	橙	1以上	横ハケ、口縁部横ナデ	横ハケ
E-348	99A	検1	ⅢH1920t	胴部		22.4	16	緻密	良	橙	1以上	横ハケ、突帯上下横ナデ	横ハケ
E-349	99A	SD31	ⅣH1t	基底部		22.4	16	緻密	良	橙	1以上	縦ハケ	横ハケ、下端部削
E-350	99A	SD27	ⅢH20t	口縁部				緻密	良	橙	1以上	縦板ナデ、横板ナデ	横ナデ、横板ナデ
E-351	99A	SD27	ⅢH20t	胴部				緻密	良	橙	1以上	縦ハケ、横ハケ、突帯上下横ナデ	横ハケ、指ナデ
E-352	99A	SD01	ⅣH1t	胴部				緻密	良	橙	1以上	横ハケ、突帯上下横ナデ	横ナデ
E-353	99A	SD09	ⅢH20t	基底部				緻密	良	橙	1以上	縦ハケ、縦指ナデ	横ハケ、工具痕

第15表 形象埴輪観察表（長軸・短軸・厚さはcm）

登録	調査区	遺構番号	クワット	器種	長軸	短軸	厚さ	胎土	焼成	色調	外面調整	内面調整
E-354	99A	東壁トナ	ⅢH18t	家、寄棟屋根部	6.5	5.2	2.3	緻密	良	橙	ナデ	ナデ
E-355	99A	SD27	ⅢH20t	家、寄棟屋根部	11.3	11.3	1.6	緻密	良	にぶい橙	ナデ、ハケ	横ナデ
E-356	99A	SD28	ⅢH20s	家、壁体部	10.6	6.4	1.6	緻密	良	橙	縦ハケ、ヘラ線刻、横ナデ	ナデ
E-357	99A	検2	ⅢH16a	家、網代屋根部	4.5	4.4	1.1	緻密	良	にぶい橙	ヘラ線刻	
E-358	99A	SK30	ⅢH18s	巫女、髻部				緻密	良	橙		
E-359	99A	SX02	ⅢH20s	人物、美豆良部	4.65	1.8	1.8	緻密	良	橙	指オサエ	
E-360	99A	検1	ⅢH18t	衝角付？冑、綴部	4.9	4.7	1.5	緻密	良	橙	ヘラ線刻、ヘラ刺突	ナデ
E-361	99A	SD28	ⅢH20s	靱（を負う人）？矢筒上端部	9.5	6.7	2.9	緻密	良	橙	ヘラ線刻	
E-362	99B	SD07	ⅢH15r	馬？、耳付近	6.7	5.5	1.6	緻密	良	橙	板横ナデ	ナデ
E-363	99B	SD06	ⅢH18r	馬？、右髻付近	7	6	1.6	緻密	良	橙	ナデ、突帯部指オサエ、板ナデ	横ナデ
E-364	99A	SK05	ⅢH18t	馬、耳部	6.1	3	1.6	密	良	橙		
E-365	99A	検1	ⅢH15t	馬（具）？、革縫部	4	3.3	1.3	緻密	良	橙	ヘラ線刻、ヘラ刺突	
E-366	99A	SK81	ⅢH13t	不明	5.6	5.4	1.7	緻密	良	にぶい黄橙	縦ハケ、指オサエ	横ハケ、指オサエ
E-367	99A	検1	ⅢH14s	不明	4.5	4.5	1.7	緻密	良	にぶい橙	ヘラ線刻、ヘラ刺突	
E-368	99A	SD25	ⅢH16t	不明	7	5	2	密	良	橙	指オサエ、突帯部ナデ	指オサエ
E-369	99A	検1	ⅢH18t	不明	3.8	3.1	1.7	緻密	良	橙	ナデ	
E-370	99A	検1	ⅢH19t	不明	4.2	4.1	1.3	緻密	良	にぶい橙	ヘラ線刻	
E-371	99A	SD28	ⅢH20s	不明	6.5	4.1	1.6	密	良	橙	ナデ、ヘラ線刻	ナデ

第16表 古代瓦観察表（長軸・短軸・厚さはcm）

登録	調査区	遺構番号	クワット	器種	長軸	短軸	厚さ	色調	凸面調整	凹面調整	型式
E-372	99A	NR01	ⅣH4t	軒丸瓦	4.7	7.1	2.6	黄灰			山田寺系
E-373	99A	西壁トナ	ⅣH5t	丸瓦	6.2	3.3	1.7	にぶい褐	格子タタキ、ナデ	布目	
E-374	99A	SD03	ⅣH3t	丸瓦	7.8	4.6	1.5	灰白	横縄タタキ、側面削	桶痕、布目、側縁ナデ	
E-375	99A	検1	ⅢH19t	丸瓦	3	5.5	1.8	灰白	横ナデ、側面削	布目	
E-376	99A	SD08	ⅢH20t	丸瓦	2.8	6.5	1.7	灰白	縦縄タタキ	布目	行基の可能性
E-377	99A	P003	ⅣH3s	丸瓦	3.8	3.2	1.2	黄灰	ナデ、側面ヘラ切	桶痕、布目	玉縁部？
E-378	99A	SD02	ⅣH1t	丸瓦	5.3	4.8	1.7	浅黄橙	削、側面削	布目、側縁ナデ	
E-379	99A	NR01	ⅣH5t	丸瓦	4	7.7	2.3	灰白	縦縄タタキ	布目	
E-380	99A	SD25	ⅢH16t	丸瓦	7	7	2.6	黒褐	縦縄タタキ、ナデ	側縁ナデ	
E-381	99A	NR01	ⅣH5t	平瓦	8.5	9.3	1.9	灰白	縦縄タタキ、端面削	横ナデ	軒平瓦の可能性
E-382	99A	SD12	ⅢH16t	平瓦	5.2	5	1.7	浅黄	格子タタキ	桶痕、布目	
E-383	99A	SD06	ⅣH3t	平瓦	4.9	6.5	1.9	明黄褐	横縄タタキ	布目	
E-384	99A	NR01	ⅣH5t	平瓦	5	7.9	2.3	灰白	横ナデ、側面ヘラ切	桶痕、布目	
E-385	99A	東壁	ⅢH13a	平瓦	8.4	5	1.9	浅黄橙	縦縄タタキ、側面ヘラ切	桶痕、布目、側縁板ナデ	
E-386	99A	NR01	ⅣH5t	隅切瓦	6.1	4.3	2	灰白	ナデ	布目	

第17表 製塩土器観察表（器高・口径はcm）

登録	調査区	遺構番号	クワット	器高	口径	色調	残存率	外面調整	内面調整
E-387	99A	検1	ⅢH12t	1.8+	6.7	にぶい黄	2	ナデ	ナデ、指オサエ
E-388	99A	検1	ⅢH18t	2.5+	12.1	橙	1	ナデ、指オサエ	ナデ
E-389	99A	検2	ⅢH15a	4.5+	12.1	浅黄	1	斜ハケ、指ナデ	横板ナデ
E-390	99B	SD13	ⅢH11r	2.6+	11	にぶい赤褐	1	口縁部	ナデ
E-391	99B	SK13	ⅢH11r	3.4+	12.1	にぶい橙	1	指ナデ	指ナデ
E-392	99B	SK17	ⅢH11r	3.1+	12.2	にぶい橙	1	ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ
E-393	99B	SK49	ⅢH19r	2.3+	12	にぶい橙	1	ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ

第20表 貿易陶磁器観察表（器高・口径・底径はcm）

登録	調査区	遺構番号	クワット	器種	器高	口径	底径	色調	残存率	外面調整	内面調整	型式	時期
E-437	99A	SK56	ⅢH11t	青磁、碗	2.4+	17.6		灰白	1	回転ナデ	櫛目文	同安窯	12c?
E-438	99A	検1	ⅢH20t	白磁、皿	1.1+		6.6	灰白	底部5	高台付	回転ナデ、トナ痕		15c後半
E-439	99A	東壁トナ	ⅢH11a	緑釉陶器、盤						回転ナデ	回転ナデ	泉州磁窯	13c前半
E-440	99A	SD02	ⅣH1t	青磁、碗or鉢						回転ナデ		竜泉窯系	中世
E-441	99A	NR01	ⅣH4t	青磁、鎚蓮弁文碗				灰白		回転ナデ	回転ナデ	竜泉窯	13c後半
E-442	99B	SK14	ⅢH11r	青磁、小鉢	1.3+	13		灰白		回転ナデ	回転ナデ	竜泉窯	中世
E-443	99B	NR01	ⅣH4r	青磁、鎚蓮弁文碗				緑灰		回転ナデ		竜泉窯	中世

第18表 土錘観察表（長軸・短軸・口径はcm）

登録	調査区	遺構番号	クワット	長軸	短軸	口径	重量	色調
E-394	99A	SD24	ⅢH12s	4.4	1.5	0.3	8.3g	浅黄橙
E-395	99A	SD24	ⅢH12s	3.8	1.4	0.3	6.2g	にぶい黄橙
E-396	99A	SD24	ⅢH12s	4.5	1.4	0.4	7.8g	灰白
E-397	99A	SD24	ⅢH12s	3.7	1.4	0.3	5.4g	灰白
E-398	99A	SD24	ⅢH12s	4.8	1.6	0.4	9.3g	橙
E-399	99A	SD24	ⅢH12s	3.4	1.4	0.4	5.3g	にぶい黄橙
E-400	99A	SD24	ⅢH12s	3.4	1.4	0.3	5.5g	にぶい黄橙
E-401	99A	SD24	ⅢH12s	3.8	1.5	0.4	6.7g	灰黄褐
E-402	99A	SD24	ⅢH12s	3.7	1.4	0.3	5.6g	浅黄橙
E-403	99A	SD24	ⅢH12s	3.8	1.4	0.4	6.0g	灰白
E-404	99A	SD24	ⅢH12s	5	1.6	0.4	9.8g	橙
E-405	99A	SD24	ⅢH12s	3.3	1.7	0.4	8.2g	浅黄橙
E-406	99A	SD24	ⅢH12s	4.3	1.5	0.4	8.2g	浅黄橙
E-407	99A	SD24	ⅢH12s	4.6	1.2	0.3	7.3g	にぶい黄橙
E-408	99A	SD24	ⅢH12s	4.6	1.6	0.4	9.8g	橙
E-409	99A	SD24	ⅢH13s	3.8	1.5	0.3	7.1g	灰白
E-410	99A	SD24	ⅢH12s	5.2	1.5	0.4	9.7g	橙
E-411	99A	SD24	ⅢH12s	5.2	1.6	0.4-0.5	10.3g	にぶい橙
E-412	99A	SD24	ⅢH12s	3.9	1.7	0.4	9.0g	橙
E-413	99A	検1	ⅢH12s	3.8	1.4	0.3	6.4g	浅黄橙
E-414	99A	検1	ⅢH12s	2.8	1.4	0.4	4.9g	にぶい橙
E-415	99A	検1	ⅢH12s	4.7	1.6	0.4	9.9g	橙
E-416	99A	検1	ⅢH12t	3.9	1.3	0.3	5.3g	橙
E-417	99A	検1	ⅢH13s	4.5	1.5	0.5	7.4g	橙
E-418	99A	検1	ⅢH13t	4.6	1.6	0.4	9.3g	橙
E-419	99A	P277	ⅢH12s	5.3	1.6	0.4	12.0g	にぶい黄橙
E-420	99A	SD25	ⅢH16s	4.4	2	0.5	14.2g	にぶい橙
E-421	99A	検1	ⅢH16s	2.9	2	0.7	4.2g	褐灰
E-422	99A	東壁トレンヂ	ⅢH16t	3.8	1.3	0.3	7.1g	浅黄橙

第21表 石製品観察表（長軸・短軸・厚さはcm）

登録	調査区	遺構番号	クワット	器種	長軸	短軸	厚さ	重量	石材
S-01	99A	SD25	ⅢH16t	石製品	7.3	7.1	4.9	299.8g	砂岩
S-02	99A	SD08	ⅢH20t	砥石	9.5	4.2	1.3	66.1g	泥質凝灰岩
S-03	99A	SD25	ⅢH16s	砥石	12.3	5.8	4.9	502.5g	砂岩
S-04	99A	SK13	ⅢH14t	砥石	8	4	2	89.9g	泥質凝灰岩
S-05	99A	SK63	ⅢH11t	砥石	8.3	4.2	3.1	108.6g	凝灰岩
S-06	99A	検1	ⅣH1s	砥石	3.5	3.2	0.9	13.3g	凝灰岩
S-07	99A	検2	ⅢH16a	砥石	11.4	6.3	4.9	479g	砂質凝灰岩
S-08	99B	SD06	ⅢH16r	砥石	16.4	6.3	4.5	788.0g	砂岩
S-09	99B	SD08	ⅣH2r	砥石	5.8	4.3	2.4	93.1g	凝灰岩
S-10	99A	SD01	ⅣH3t	砥石				315.8g	砂岩
S-11	99A	SD27	ⅣH1t	砥石				173.5g	砂岩
S-12	99A	SD33	ⅣH2t	砥石				549.0g	砂岩
S-13	99A	検1	ⅢH17s	砥石				4.9g	凝灰質泥岩
S-14	99B	SD07	ⅢH15q	砥石				13.9g	凝灰質砂岩
S-15	99B	SD08	ⅣH4q	砥石				266.8g	砂岩
S-16	99B	SD08	ⅣH3q	砥石					凝灰岩
S-17	99A	P035	ⅢH20t	被熱石材	15				凝灰質砂岩
S-18	99A	SD01	ⅣH2t	被熱石材	8			91.1g	砂質凝灰岩
S-19	99A	SD25	ⅢH16t	被熱石材	7.3			160.4g	凝灰質砂岩
S-20	99A	SD25	ⅢH16s	被熱石材	12				砂岩
S-21	99A	SK34	ⅢH16s	被熱石材	13			458.9g	砂岩
S-22	99A	東壁トレンヂ	ⅣH4t	鉄床石	41	18.3	16.6	332.1g	凝灰質砂岩
S-23	99A	SK82	ⅢH20s	鉄床石	8.7	5.7	5.8		砂岩
S-24	99B	SD06	ⅢH16r	鉄床石	14.3	13.3	7.2		砂岩

第19表 陶丸・加工円盤観察表（長軸・短軸・厚さはcm）

登録	調査区	遺構番号	クワット	種類	器種	長軸	短軸	厚さ	重量	型式
E-423	99A	SX01	ⅣH2s	陶丸	陶丸	2.4	2.3		12.8g	
E-424	99A	NR01	ⅣH5t	加工円盤	灰釉陶器、三足盤				8.7g	K-14orK-90
E-425	99B	SK21	ⅢH12r	加工円盤	須恵器	2.4	2	0.7	5.5g	
E-426	99B	SK27	ⅢH13r	加工円盤		3.7	3.1	0.8	13.3g	
E-427	99A	検1	ⅢH19s	加工円盤		2.3	2.1	1	6.5g	
E-428	99B	SK12	ⅢH11r	加工円盤	灰釉陶器	2.1	2.05	1.6	6.2g	百台寺?
E-429	99B	SX01	ⅣH4r	加工円盤	灰釉陶器	3.1	2.8	1.3	9.5g	H-72?
E-430	99A	P010	ⅣH2s	加工円盤	灰釉系陶器	2.6	2.1	1.5	7.7g	尾張型3型式?
E-431	99A	SD19	ⅢH14s	加工円盤	灰釉系陶器	2.9	2.8	1	12.1g	不明
E-432	99A	検1	ⅢH20t	加工円盤	灰釉系陶器	2.6	2.2	1.2	9.9g	不明
E-433	99A	検1	ⅢH19s	加工円盤	灰釉系陶器	2.2	1.7	1.6	7.4g	尾張型3型式?
E-434	99B	SK12	ⅢH11r	加工円盤	灰釉系陶器	2.6	2	1.5	7.4g	尾張型4型式?
E-435	99A	検1	ⅢH17t	加工円盤	陶器	1.8	1.5	0.7	2.9g	
E-436	99A	検1	ⅢH20t	加工円盤	陶器	1.9	1.6	0.9	3.4g	

第22表 金属製品・鍛冶関連資料観察表（長軸・短軸・厚さはcm）

登録	調査区	遺構番号	クワット	器種	長軸	短軸	厚さ	備考
M-01	99A	SK34	ⅢH16t	輪の羽口	8.6	4.6		7c
M-02	99A	SD25	ⅢH16t	輪の羽口	5.3	4.3	1.5	7c
M-03	99A	SK63	ⅢH11t	鉄製品、杏葉?				
M-04	99B	SD12	ⅢH12r	鉄鎌(両刃)				5c末-6c
M-05	99B	SD07	ⅢH16r	鉄鎌(両刃)				5c末-6c
M-06	99A	SD25	ⅢH16t	鉄鎌(片刃)				5c末-6c
M-07	99A	SD25	ⅢH16t	鉄鎌				5c末-6c
M-08	99A	SD28	ⅢH20s	鉄製品、刀子				
M-09	99A	SK11	ⅢH14t	鉄製品、鎌?				
M-10	99A	検1	ⅢH15s	銅銭(洪武通宝)	2.3	2.3	0.15	1368年以降、マ頭、単点通
M-11	99A	SK03	ⅢH20t	椀形滓				
M-12	99A	検1	ⅣH2t	椀形滓				
M-13	99A	検1	ⅢH18t	椀形滓				
M-14	99A	SD28	ⅢH20s	流動滓B				
M-15	99B	検1	ⅣH1r	流動滓B				

第23表 鉄資料一覧 (重量はg、長径・短径・厚さはcm)

登録番号	調査区	グリッド	遺構	日付	種別	形状	重量	長径	短径	厚さ	着磁度	M91	M92	残存	発泡	小石	植物	木炭	炉材	ガラス質	備考	
M11	99A	3H20t	SK03	990909	1/2分割腕型滓		226.2	8.6	6.1	2.9	2	×	○	欠	○	×	×	×	○	×	12世紀中葉	
M09	99A	3H14t	SK11	990917	鉄製品	刀子?	13.2	5.4	2.1	0.6	4	×	×	欠	×	×	×	×	○	×	中世	
	99A	3H17t	SK26	990929	含鉄遺物	棒状	4.7	2.6	1.9	1.2	2	×	×	欠	×	×	×	×	×	×	中世	
M01	99A	3H16t	SK34	991004	ファイゴの羽口		205.3	9	6.1	2	1	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	流動滓付着、7C前半~8C初頭	
	99A	3H16t	SK34	991004	鉄製品	釘	5.5	3.7	1.5	1.6	3	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		
	99A	3H16t	SK34	991004	流動滓B	礫状	6.9	2.6	1.6	1.4	2	×	×	欠	○	○	×	×	×	×	2	
	99A	3H16t	SK34	991004	1/4分割腕型滓		13.4	3	2.3	1.7	3	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	1	
	99A	3H16t	SK36	991102	鉄製品	釘	4.6	2.8	1.3	0.9	3	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		
	99A	3H11t	SK56	991106	流動滓A	扁平	3	2.1	1.7	0.9	3	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	12C~13C	
	99A	3H11t	SK56	991106	流動滓A	扁平	5.7	2.4	1.9	1	1	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	12C~13C	
	99A	3H11t	SK58	991106	含鉄遺物	棒状	2.2	3.9	0.9	0.8	2	×	×	完	×	×	×	×	×	×	中世	
M03	99A	3H11t	SK63	991013	鉄製品	不明	328.9	9	8	2	4	○	◎	欠	×	×	×	×	×	×	12C~13C	
	99A	3H13t	SK81	991012	1/2分割腕型滓		120.8	7.6	5.3	2.7	2	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	1	中世
	99A	4H3t	SD01下層	991102	1/4分割腕型滓		52	5.3	2.5	2	3	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	1	15C後半
	99A	4H2t	SD01No.1	991026	含鉄遺物	棒状	1.5	3.4	0.6	0.5	2	×	×	欠	×	×	×	×	×	×	15C後半	
	99A	3H19t	SD08	990909	含鉄遺物	棒状	7.1	3.3	1.5	1.3	3	×	×	欠	×	×	×	×	×	×	16C	
	99A	3H13t	SD24	991012	含鉄遺物	棒状	7.3	5.8	1.2	0.9	4	×	×	欠	×	×	×	×	×	×	7C~8C	
M02	99A	3H16t	SD25	991014	ファイゴの羽口		45	5.2	4.2	1.9	0	×	×	欠	×	×	×	×	×	×	5C末~7C後半	
	99A	3H16t	SD25	991015	含鉄遺物	棒状	5	3.8	1.4	1.1	0	×	×	欠	×	×	×	×	×	×	5C末~7C後半	
M06	99A	3H16t	SD25	991014	含鉄遺物	棒状	4.9	5.6	1.1	0.9	1	×	×	欠	×	×	×	×	×	×	5C末~7C後半	
M07	99A	3H16t	SD25No.31	991018	含鉄遺物	棒状	8.2	6.3	1.5	0.9	0	×	×	欠	×	×	×	×	×	×	5C末~7C後半	
M14	99A	3H20s	SD28No.15	991019	流動滓B	礫状	12.8	4.7	3	2.3	1	×	×	欠	○	×	×	×	○	2	5C後半~8C	
	99A	4H4t	NR01上層	991028	1/8以下分割腕型滓		8.7	2.7	2.3	1.8	0	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	1	15C後半
	99A	3H20t	SX02第2層	991014	1/8分割腕型滓		26.9	3	2.5	1.7	3	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	1	5C後半
	99A	4H3t	東壁トレンチ	991025	鉄製品	釘	2.4	4	1.1	0.7	3	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		
	99A	3H18t	東壁トレンチ	991021	含鉄遺物	棒状	4.6	5.8	0.9	0.7	3	×	×	完	×	×	×	×	×	×		
M08	99A		西拡張トレンチ	991222	鉄製品	刀子	8.9	7.8	1.4	0.7	2	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		No.20、3つに分れている
	99A	3H12t	検I	990903	鉄製品	釘	2.6	2.8	1.5	0.7	4	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		
	99A	3H13t	検I	990930	1/8分割腕型滓		15.4	3.5	3	1.2	3	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	1	
	99A	3H14s	検I	990830	1/8分割腕型滓		13	3	2	1.6	2	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	1	
M10	99A	3H15s	検I	990825	銭貨(洪武通宝)		2.9	2.4	2.4	0.1	0	○	◎	完	×	×	×	×	×	×		
	99A	3H15t	検I	990901	1/8以下分割腕型滓		18.6	2.2	2.1	1.7	1	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	1	
	99A	3H15s	検I	991004	鉄片		1.3	2.2	1.7	0.3	2	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		
	99A	3H16t	検I	990901	含鉄遺物	棒状	7	5	0.9	0.8	4	○	◎	欠	×	×	×	×	×	×		
	99A	3H16t	検I	990901	流動滓B	礫状	2.4	2.3	1.3	1.1	0	×	×	欠	○	○	×	×	×	×	2	
	99A	3H16t	検I	990901	含鉄遺物	棒状	2.2	3.1	0.7	0.5	3	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		
	99A	3H17t	検I	990921	含鉄遺物	礫状	1.2	1.3	1	0.9	2	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		
	99A	3H17t	検I	990921	含鉄遺物	棒状	4.8	3.5	1.4	1.2	3	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		
	99A	3H17t	検I	990921	鉄製品(鉄?)	円盤状	4.1	2.6	2.3	1.2	3	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		新しい
	99A	3H17t	検I	990831	含鉄遺物	棒状	4.3	3.6	1.4	0.8	2	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		
	99A	3H17t	検I	990901	含鉄遺物	棒状	3.2	3.4	1.3	1	2	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		釘
	99A	3H17t	検I	990901	含鉄遺物	棒状	5.4	4.4	1.1	0.8	4	○	◎	欠	×	×	×	×	×	×		
	99A	3H18t	検I	990831	含鉄遺物	棒状	1.6	2.3	0.7	0.5	2	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		
M13	99A	3H18t	検I	990823	1/4分割腕型滓		42.1	4.8	4.3	1.9	2	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	1	
	99A	3H19s	検I	990906	1/8以下分割腕型滓		3.6	2.2	1.4	1	2	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	1	
	99A	3H19t	検I	990824	含鉄遺物	棒状	4	3	1.2	1.1	1	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		
	99A	3H20t	検I	990824	1/8以下分割腕型滓		9.6	3.2	2.1	1.6	3	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	1	
	99A	4H1s	検I	990906	1/8分割腕型滓		38.3	3.5	3.4	1.4	2	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	1	
	99A	4H2t	検I	990827	含鉄遺物	棒状	8	4.6	1.2	1.2	3	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		
M12	99A	4H2t	検I	990827	1/2分割腕型滓		73.1	6.9	4.7	2.5	3	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	1	
	99B	3H12r	SK21	991206	含鉄遺物	棒状	6.5	4.7	0.9	0.6	3	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		中世
	99B	3H13r	SK26	991203	1/8分割腕型滓		61.3	5.7	3.4	3	2	×	×	欠	○	×	○	○	×	×	1	中世
	99B	3H14r	SK31	991206	1/8分割腕型滓		4.2	2	1.9	1	2	×	×	欠	○	○	×	×	×	×	1	中世
	99B	3H17r	SK42	991203	含鉄遺物	棒状	14.4	5.5	1.6	1.7	3	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		中世
	99B	3H17r	SK43	991203	含鉄遺物	棒状	1.9	1.9	0.9	0.8	3	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		中世
	99B	3H17r	SK43	991203	1/8分割腕型滓		18	3.5	2.5	2.2	3	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	1	中世
	99B	3H19r	SK49	991207	含鉄遺物	棒状	3.7	4.8	0.8	0.7	3	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		中世
	99B	3H19r	SK49	991207	流動滓B	礫状	2.5	1.5	1.1	0.9	0	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	2	4片に分れている
	99B	3H19r	SK50	991207	1/4分割腕型滓		31.6	4.3	3.7	1.9	4	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	1	中世
	99B	3H18r	SK50	991207	1/8以下分割腕型滓		17.6	2.5	2	1.7	2	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	1	中世
	99B	4H1r	SK63	991207	1/8分割腕型滓		5.2	2.6	2.4	1	2	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	1	中世
	99B	4H1r	SK65	991207	1/2分割腕型滓		12.4	3.5	3	1	2	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	1	中世
	99B	4H2r	SK67	991207	流動滓A	扁平	3.6	2.1	1.9	0.8	3	×	×	欠	○	×	×	×	×	×	1	中世
	99B	3H20r	SK90	991214	流動滓B	礫状	1.6	1.9	1.3	0.8	0	×	×	欠	○	○	×	×	×	×	2	中世
	99B	4H2r	SD03	991209	含鉄遺物	棒状	4.3	3.2	1.2	1	3	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		7C前半~8C前半
	99B	3H17q	SD06上層	991217	含鉄遺物	棒状	9.5	5	1.5	0.7	2	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		7C前半~7C中葉
M05	99B	3H16r	SD07		鉄製品	鎌	23.9	7	2.6	1.2	3	×	×	欠	×	×	×	×	×	×		7C~8C
M04	99B	3H12r	SD12	991227	含鉄遺物	棒状	26.7	11.														

第24表 礫の形態と大きさ - 1

調査区	遺構・出土位置	グリット	砂岩	凝灰質砂岩	泥岩	チャート	濃飛流紋岩	その他
99A	検I	ⅢH18t	△S1		△SS2			△SS1アブライト
99A	検II	IVH4s	△M1	▲M1	△SS2		△SS1	
99A	検II	IVH4t		▲M1			△SS1	
99A	検II	IVH5t	△M1					
99A	NR01下層	IVH5t	△SS1,S2,M5,L5・▲M2,L1	△L1・▲M1,L1	△SS1,S2	△S1		△S1礫岩・△S1凝灰質泥岩・△S1珪化木
99A	NR01上層	IVH4t	△SS1,S10,M1,L2・▲S1	△S2,M1	△S2・▲SS1・●SS1	△SS1,S2	●S1	△S1砂質凝灰岩・△S1珪化木
99A	NR01中層	IVH5t	△S6,M4,L1	△S2,M2,L1・▲M1	△S1	△SS2,M2		△SS2砂質凝灰岩
99A	P013			△M1				
99A	P027	IVH2t		△S1,M1,L1・▲M1	△S1		△S1	
99A	P032	IVH2t	△L1					
99A	P035	ⅢH20t		△L1				
99A	P132	ⅢH16s			△S1			
99A	P160	ⅢH11t						△L1結晶片岩
99A	P175	ⅢI11a			△SS1			
99A	SD01	IVH1t					△S1,M1	
99A	SD01	IVH2t	△S2,M2,L2・▲S1,M1	△SS1		△SS1,S1		△M1砂質凝灰岩
99A	SD01	IVH3t	△L1					
99A	SD01下層	IVH3t	△SS1,S7,M2,L4・▲M4,L5	△SS2,S5,M6,L2・▲M2,L4		△SS2		△M1安山岩
99A	SD02	IVH2t			△SS1	△SS2		
99A	SD03	IVH3t	△M1		△S1			
99A	SD08	ⅢH17t	△S1					
99A	SD08	ⅢH18t	△S1					
99A	SD08	ⅢH20t	△L1	△SS1				
99A	SD09	ⅢH20t	△S2・▲L1					
99A	SD18	ⅢI11s				▲SS5		
99A	SD25	ⅢH15t	△M1			△S1		
99A	SD25	ⅢH16s	△S1,M2,L1		△SS1			△L1ホルンフェルス・▲SS1凝灰岩
99A	SD25	ⅢH16t	△S1,M1・▲M1,L1	△M1	△SS1	▲SS1		▲M1砂質凝灰岩
99A	SD27	ⅢH20t	△S1					
99A	SD27	IVH1s		▲S1			▲S1	
99A	SD28	ⅢH20t	△S1・▲M1					
99A	SD29	ⅢH19t					▲S1	
99A	SD30	ⅢH17s			△M1			
99A	SD33	IVH2t			△M1		△S1	
99A	SD34	IVH4t	△S5,M4・▲SS1,L2	△S3,M3・▲M1	△SS1・▲S1	△SS2,S1,M1		
99A	SK08		△M1					
99A	SK11		△S1	△S1				
99A	SK12	ⅢH14t				△SS2・▲SS1		
99A	SK13				△M1			
99A	SK34	ⅢH16s	△L1					
99A	SK34	ⅢH16t	△L1・▲M1	△S2				
99A	SK56	IVH11t		△M1				△M1珪化木
99A	SK58	ⅢH11t	●SS1					
99A	SK60	ⅢH11t	△S1					
99A	SK67	ⅢH12t			△SS1			
99A	SK77	ⅢH12t		△S1				
99A	SK78	ⅢH12t		△S1				
99A	SK81	ⅢH13t						△M1凝灰岩
99A	SK82	ⅢH20s	▲L1					
99A	SX01	IVH2s	△SS1,S2,L1・▲L1					△M1凝灰岩
99A	SX02	ⅢH20s	△M1		△SS1・▲SS1			△SS2凝灰岩
99A	SX02	ⅢH20t		△S1				
99A	北壁トレンチ	ⅢH11t	△S1					
99A	北壁トレンチ	ⅢI11a			△S1	△S1		
99A	検I	ⅢH13s			△SS1			
99A	検I	ⅢH13t		△S1				
99A	検I	ⅢH16s	△S2	△M1	△M1			
99A	検I	ⅢH16t	△SS1,S1,L1	△L1	△SS1			
99A	検I	ⅢH17s			▲SS1	△SS1		
99A	検I	ⅢH17t		△S1	△S1			
99A	検I	ⅢH19s	△S1	△SS1		△SS1		
99A	検I	ⅢH19t	△SS1	△S1		△SS2		
99A	検I	ⅢH20s		△SS1				
99A	検I	ⅢH20t	△M1,L1	△SS1,S1	△SS1			
99A	検I	IVH1s		▲L1				
99A	検I	IVH2s		△SS1				
99A	検I	IVH2t	△S1,L2・▲S1,L1	△S2・▲M1,L1	△SS1,S2		△SS1	△S1珪化木
99A	検I	IVH3s				△SS1		

△：角礫、▲：歪角礫、●：亜円礫、○：円礫

L：長径10.1cm～ M：長径7.1cm～10.0cm

S：長径4.1cm～7.0cm

SS：長径～4.0cm

第25表 礫の形態と大きさ - 2

調査区	遺構・出土位置	グリット	砂岩	凝灰質砂岩	泥岩	チャート	濃飛流紋岩	その他
99A	検 I	IVH3t			△S2			
99A	西拡張トレンチ	ⅢH16s			▲L1			
99A	西拡張トレンチ	ⅢH20s					▲M1	
99A	西壁トレンチ	IVH3s		△SS1	△SS1,S2,M1			
99A	西壁トレンチ	IVH4s	△S1,M1		△S1	△L1		
99A	西壁トレンチ	IVH5t	△S1,M2	△SS1,S1	△SS1	△SS1		△SS1軽石・△M1結晶片岩
99A	東壁トレンチ	ⅢH16t	△S2	△S1				
99A	東壁トレンチ	ⅢH18t	△L1・▲SS1					
99A	東壁トレンチ	IVH2t	△M1	△S1				
99A	東壁トレンチ	IVH3t	△S1・▲SS1	△S4・▲L1	△SS5,S4	△SS1		△S1砂質凝灰岩
99A	東壁トレンチ	IVH4t	△S1,M1,L1・▲L1	△SS1,S1,M1		△L1		△M1凝灰岩
99B	SD03	IVH2r	△M1,L1・▲M1					
99B	SD05	IVH1q	△L1・▲L1					
99B	SD05中層	IVH1q	▲L1					
99B	SD06	ⅢH16r	△M1					
99B	SD06下層	ⅢH17r			△S1		●L1	
99B	SD06下層	ⅢH18r	▲L1					
99B	SD06下層	ⅢH19r	△L1					
99B	SD06上層	ⅢH17r	△L1					
99B	SD06上層	ⅢH16r	△L1・▲L1					
99B	SD06第3層	ⅢH17q	△M1					
99B	SD07	ⅢH15q	△S1					
99B	SD07	ⅢH15r		▲S1				
99B	SD07	ⅢH16r	△S1					
99B	SD08	IVH3q						△SS1砂質凝灰岩
99B	SD08	IVH3r	△S1・▲L1					
99B	SD08	IVH4q	△L1					
99B	SD08下層	IVH3q	△L1・▲L2					
99B	SD12	ⅢH12r	△L1					
99B	SD18	IVH3r		△SS1				
99B	SK12	ⅢH11r		△S1				
99B	SK13	ⅢH11r						△SS1凝灰岩
99B	SK15	ⅢH11r				△SS1・▲SS1		
99B	SK26	ⅢH13r	▲S1			△SS2・▲SS1	△SS1	
99B	SK33	ⅢH15r	△S1・▲SS1					
99B	SK37	ⅢH15r						△S1凝灰岩
99B	SK42	ⅢH17r				▲SS1		
99B	SK71	ⅢH17r	△SS1	△SS1				
99B	SK73	ⅢH18r		△S1				
99B	SK75	ⅢH18q		△S1				
99B	SK78	ⅢH14r					△SS1	
99B	SK83	ⅢH12r				▲SS1		△S1ホルンフェルス
99B	SK86	ⅢH16r	△M1					
99B	攪乱	ⅢH16r		△SS2		△SS1・▲SS1		
99B	攪乱	IVH4r			△SS1		△SS1	
99B	検 I	ⅢH11r				△SS2		
99B	検 I	ⅢH13r	△SS1		△SS2	△SS1		△S1珪化木
99B	検 I	ⅢH20q	○SS1		△SS1			
99B	検 I	IVH2r						△M1ホルンフェルス
99B	西トレンチ	ⅢH20q		△SS1			△S1	

△：角礫、▲：亜角礫、●：亜円礫、○：円礫 L：長径10.1cm～ M：長径7.1cm～10.0cm S：長径4.1cm～7.0cm S S：長径～4.0cm

第4章 埴輪の胎土分析

1. はじめに

調査では、円墳（S Z 01）周辺の溝（S D 05・S D 06・S D 28）および南側不明遺構周辺の溝（S D 27・S D 31・S D 33）から円筒埴輪が出土した。

ここでは、これら埴輪胎土の材料の特徴や化学組成について調べた。なお、他の古墳や埴輪窯跡から出土した埴輪についても比較検討した。

なお、薄片法による検討は、藤根と今村が担当し、化学組成の検討は小村が担当した。

2. 試料と方法

試料は、川田遺跡6試料、比較試料として5世紀末～6世紀前半の勝手塚古墳2試料、味美御旅所古墳1試料、味美二子山古墳2試料、断夫山古墳3試料、下原古窯2試料の合計16試料である（第26表）。

これらの埴輪の外表面調整は、No 1～4が横板ナデ、No 5および6が荒い縦ハケであり、内面調整は、No 1～4がナデ調整、No 5および6が荒いハケ調整である。また、比較試料とした埴輪は、外表面調整が縦ハケ後横ハケであり、尾張地方出土円筒埴輪に多く見られる。なお、川田遺跡の円筒埴輪には外表面調整が縦ハケ後横ハケのものがない。

a. 薄片の顕微鏡観察

これら埴輪試料は、次の手順に従って偏光顕微鏡観察用の薄片（プレパラート）を作成した。

(1) 試料は、始めに岩石カッターなどで整形し、恒温乾燥機により乾燥した。全体にエポキシ系樹脂を含浸させ固化処理を行った。これをスライドガラスに接着し平面を作成した後、同様にしてその平面の固化処理を行った。

(2) さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作成した後スライドガラスに接着した。

(3) その後、精密岩石薄片作製機を用いて切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ0.02mm前後の薄片を作成した。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

薄片試料は、偏光顕微鏡下300倍で分類群ごとに同定・計数した。同定・計数は、100 μ m格子目盛を用いて任意の位置における約50 μ m(0.05mm)以上の鉱物や岩石片あるいは微化石類を対象とし、微化石類と石英・長石類以外の粒子が約100個以上になるまで行った。また、この計数とは別に薄片全面について、微化石類（放散虫化石、珪藻化石、骨針化石、胞子化石）や大型粒子などの特徴についても観察・記載した。以下に、ここで用いた粒子分類群について、その概略を述べる。

[放散虫化石]

放散虫は、放射仮足類に属する海生浮遊性原生動物で、その骨格は硫酸ストロンチウムまたは珪酸からなる。放散虫化石は、海生浮遊生珪藻化石とともに外洋性堆積物中によく見られる。

[珪藻化石]

珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、その大きさは10～数百 μ m程度である。珪藻は海水域から淡水域に広く分布し、個々の種類によって特定の生息環境をもつ。最近では、小杉（1988）や安藤（1990）によって環境指標種群が設定され、具体的な環境復原が行われている。ここでは、種あるいは属が同定できるものについて珪藻化石（淡水種）と分類し、同定できないものは珪藻化石（?）とした。なお、各胎土中の珪藻化石は、その詳細を記載した。

[骨針化石]

海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状などを呈する。海綿動物は、多くは海産であるが、淡水産としても日本において23種ほどが知られ、湖や池あるいは川の水底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。

[植物珪酸体化石]

植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、大きさは種類によっても異なり、主に約10～50 μ m前後である。一般的にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本、スゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在することが知られている。ファン型や垂鈴型あるいは棒状などがあるが、ここでは大型のファン型と棒状を対象とした。

[胞子化石]

第26表 埴輪試料とその特徴

※(分析種方法)で○は透光X線分析法、■は薄片法を示す。(色相 明度/彩度)は断面の色を記載している。

No	遺跡番号	試料番号	遺跡名	所在地	墳形	全長(m)	調査区	遺構番号	グリッド
1	1	1	川田遺跡SZ01	海部郡佐織町大字見越字川田	円墳	20	99B	SD06下層	ⅢH19r
2		2					99A	SD28西袈裟トレンチ南半	ⅢH20s
3		3					99A	SD05	ⅢH20t
4		4					99A	SD33	ⅣH2t
5		5					99A	SD27	ⅢH20t
6		6					99A	SD31	ⅣH1t
7	2	1	勝手塚古墳	名古屋市守山区上志段味字中屋敷1462、1463	帆立貝形前方後円墳	53			
8		2							
9	3	1	味美御旅所古墳	春日井市二子町2-11-3	円墳	35			
10		1							
11	4	2	味美二子山古墳	春日井市二子町2-11-56	前方後円墳	95			
12		1							
13	5	2	断夫山古墳	名古屋市熱田区船屋1-1014	前方後円墳	151			
14		3							
15		1							
16	6	1	下原古窯	春日井市東山町					
16		2							

No	器種	型式	部位	突帯	透孔	内面調整	年代	色相 明度/彩度	色	分析方法	
1	朝顔形円筒埴輪		胴部～くびり部	痕跡		縦指ナデ		10YR7/2	にぶい黄橙	○・■	
2	円筒埴輪		胴部			縦指ナデ		7.5YR7/3	にぶい橙	○・■	
3			胴部			横板ナデ	5c後半	10YR7/3	にぶい黄橙	○・■	
4			胴部		有	横指ナデ		10YR8/3	浅黄橙	○・■	
5	円筒埴輪		胴部			荒い横ハケ		10YR5/2	灰黄褐	○・■	
6			胴部			荒い縦ハケ	5c末～6c初	外部:5YR6/4 内部:10YR6/2	外部:にぶい橙 内部:灰黄褐	○・■	
7	円筒埴輪	尾張型	胴部			横ハケ		7.5YR7/6	橙	○・■	
8	円筒埴輪	尾張型	胴部	痕跡		横ハケ	5c末～6c初	外部:10YR8/4 内部:N7/	外部:浅黄橙 内部:灰白	○・■	
9			円筒埴輪	尾張型	胴部	有		横指ナデ	N5/	灰	○・■
10	円筒埴輪	尾張型	口縁部			横ハケ	6c前半	N7/	灰白	○・■	
11			円筒埴輪	尾張型	口縁部			横ハケ	7.5Y7/1	灰白	○・■
12	円筒埴輪	尾張型	胴部	有		横ハケ	6c前半	5Y8/1	灰白	○・■	
13			円筒埴輪	尾張型				横指ナデ	2.5Y7/1	灰白	○・■
14			円筒埴輪	尾張型	胴部				横ハケ	10YR7/3	にぶい黄橙
15	円筒埴輪	尾張型	胴部	有	有	横ハケ	5c末～6c前半	N7/	灰白	○・■	
16			円筒埴輪	尾張型	底部			横指ナデ	10YR8/4	浅黄橙	○・■

胞子状粒子は、珪酸質と思われる直径10～30 μ m程度の小型無色透明の球状粒子である。これらは、水成堆積中で多く見られるが、土壌中にも含まれる。

[石英・長石類]

石英あるいは長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち後述する双晶などのように光学的に特徴をもたないものは石英と区別するのが困難である場合が多く一括して扱う。なお、石英・長石類（雲母）は、黄色などの細粒雲母類が包含される石英または長石類である。

[長石類]

長石は大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶（主として平行な縞）を示すものと累帯構造（同心円状の縞）を示すものに細分される（これらの縞は組成の違いを反映している）。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの（パーサイト構造）と格子状構造（微斜長石構造）を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶（微文象構造という）である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶（斑晶）の斜長石にみられることが多い。パーサイト構造を示すカリ長石はカコウ岩などのSiO₂%の多い深成岩や低温でできた泥質・砂質の変成岩などに産する。

ミルメカイトあるいは文象岩は火成岩が固結する過程の晩期に生じると考えられている。これら以外の斜長石は、火成岩、堆積岩、変成岩に普通に産する。

[雲母類]

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開（規則正しい割れ目）にそって板状には剥がれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。カコウ岩などのSiO₂%の多い火成岩に普遍的に産し、泥質、砂質の変成岩および堆積岩にも含まれる。なお、雲母類のみが複合した粒子を複合雲母類とした。

[輝石類]

主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石（主に紫蘇輝石）は、肉眼的にビールびんのような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。SiO₂%が少ない深成岩、SiO₂%が中間あるいは少ない火山岩、ホルンフェルスなどのような高温で生じた変成岩に産する。単斜輝石（主に普通輝石）は、肉眼的に緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてSiO₂%が中間から少ない火山岩によく見られ、SiO₂%の最も少ない火成岩や変成岩中にも含まれる。

[角閃石類]

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は細長く平たい長柱状である。閃緑岩のようなSiO₂%が中間的な深成岩をはじめ火成岩や変成岩などに産する。

[ガラス質]

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄くて湾曲したガラス（バブル・ウォール型）や小さな泡をたくさんもつガラス（軽石型）などがある。主に火山の噴火により噴出された噴出物と考える。なお、濁ガラスは、非晶質でやや濁りのあるガラスで、火山岩類などにも見られる。

[斑晶質・完晶質]

斑晶質は斑晶（鉱物の結晶）状の部分と石基状のガラス質の部分が明瞭に確認できるもの、完晶質は、ほとんどが結晶からなり石基の部分が見られないか、ごくわずかのものをいう。これらの斑晶質、完晶質の粒子は主として玄武岩、安山岩、デイサイト、流紋岩などの火山岩類を起源とする可能性が高い。

[凝灰岩質]

凝灰岩質は、ガラスや鉱物、火山岩片などの火山碎屑物などから構成され、非晶質でモザイクな文様構造を示す。起源となる火山により鉱物組成は変わる。

[複合鉱物類]

構成する鉱物が石英あるいは長石以外に重鉱物を伴う粒子で、雲母類を伴う粒子は複合鉱物類（含雲母類）、輝石類を伴う粒子を複合鉱物類（含輝石類）、角閃石類を伴う粒子を複合鉱物類（角閃石類）とした。

[複合石英類]

複合石英類は石英の集合している粒子で、基質（マトリックス）の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は粗粒なものから細粒なものまで様々である。ここでは、便宜的に個々の石英粒子の粒径が約0.01mm未満のものを微細、0.01～0.05mmのものを小型、0.05～0.1mmのものを中型、0.1mm以上のものを大型と分類した。また、等粒で小型の長石あるいは石英が複合した粒子は、複合石英類（等粒）として分類した。この複合石英類（等粒）は、ホルンフェルスなどで見られる粒子と考える。

[砂岩質・泥岩質]

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、それらの間に基質の部分をもつもので、含まれる粒子の大きさが約0.06mm以上のものを砂岩質とし、約0.06mm未満のものを泥岩質とする。

[リング・ガラス]

光学的に消光しない鉱物群のうち、周辺部にガラス質を伴うものである。比較的高温で焼成された瓦などで見られる。

[発泡ガラス]

全体的にはガラス質であるが、高温焼成された際に揮発成分が発泡した跡を伴う。ムライトなどの二次鉱物が見られることがある。

[不透明・不明]

下方ポーラーのみ、直交ポーラーのいずれにおいても不透明なものや、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明とする。

b. 蛍光X線分析による化学組成

試料は、約3gを岩石カッターで切り出し、付着物等を除去するため表面を削り、蒸留水で超音波洗浄した後、恒温乾燥機で乾燥した。乾燥後、セラミック乳鉢（成分Al₂O₃:93.4%、SiO₂:5%）で粉碎し粉末化した。この粉末を内径20mm、厚さ5mmの塩化ビニール製リングに詰め、500kgf/cm²(約17t)の圧力をかけて測定用ブリケットを作成した。

測定は、波長分散型蛍光X線分析装置（株リガク製System3080）を使用し、データ処理システムDATAFLEX-152（検量線法）を用いて定量分析を行った。測定元素は、主成分元素（酸化ナトリウムNa₂O、酸化マグネシウムMgO、酸化アルミニウムAl₂O₃、酸化ケイ素SiO₂、酸化リンP₂O₅、酸化カリウムK₂O、酸化カルシウムCaO、酸化チタンTiO₂、酸化マンガノMnO、酸化鉄Fe₂O₃）と微量元素（ルビジウムRb、ストロンチウムSr、イットリウムY、ジルコニウムZr）である。

表 27 表 顕微鏡観察による埴輪胎土中の粒子組成一覧表

分類群	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
微化石類																
放散虫化石	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
骨針化石	5	7	2	-	-	-	1	15	-	-	1	-	-	2	-	-
珪藻化石(?)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
胞子化石	1	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	4
植物珪酸体化石	212	227	102	21	16	29	221	999	115	29	130	224	17	103	9	367
鉱物類																
石英・長石類	437	447	204	416	298	242	374	409	71	146	298	177	163	304	275	311
石英・長石類(含雲母類)	13	19	5	5	10	21	-	1	-	-	-	-	-	5	-	-
斜長石(双晶)	35	38	19	10	8	6	4	4	-	-	3	1	-	2	-	-
斜長石(累帯)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カリ長石(パーサイト)	-	1	-	1	1	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
カリ長石(微斜長石)	-	2	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	1	-	3
雲母類	23	16	77	42	53	39	7	-	-	-	3	-	26	-	-	-
単斜輝石	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
斜方輝石	11	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
角閃石類	-	-	-	1	4	3	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
ジルコン	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
ガラス質	-	-	-	-	-	-	11	8	2	3	7	72	8	21	-	14
濁ガラス質	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
複合鉱物類																
ガラス質(軽石型)	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
斑晶質	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
凝灰岩質	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
複合雲母類	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
複合石英類(大型)	1	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-
複合石英類(中型)	3	2	1	5	1	-	3	4	1	1	5	-	1	1	-	4
複合石英類(小型)	28	34	10	45	32	31	63	79	12	45	69	29	20	40	42	66
複合石英類(微細)	3	7	-	5	3	8	16	11	4	7	26	9	14	11	9	26
複合石英類(等粒)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
砂岩質	1	-	-	-	1	3	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-
泥岩質	2	-	-	-	7	4	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
焼成生成物																
リング・ガラス	-	-	-	-	-	-	4	-	2	-	3	-	7	-	1	-
発泡ガラス	-	-	-	-	-	-	-	-	25	59	-	-	66	-	60	-
その他不明	2	-	1	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	1	-	1
総ポイント数	782	804	422	553	438	388	713	1535	235	290	544	516	298	522	396	798

3. 結果

a. 薄片の顕微鏡観察

胎土中の粒子組成は、任意の位置での粒子を分類群別に計数した(第27表)。また、計数されない微化石類や鉱物・岩石片を記載するために、プレパラート全面を精査・観察した。以下では、粒度分布や0.1mm前後以上の鉱物・岩石片の砂粒組成あるいは計数も含めた微化石類などの記載を示す。なお、不等号は、概略の量比を示し、二重不等号は極端に多い場合を示す。

【川田遺跡 S Z 0 1】

No 1 : 60 ~ 700 μ mが多い(最大粒径2.0mm)。石英・長石類>斜長石(双晶)>複合石英類(微細)、複合石英類、雲母類、凝灰岩質、ガラス質(軽石型)、ジルコン多い、斜方輝石、[凝灰岩質]、珪藻化石(不明種)、骨針化石多い、孢子化石、植物珪酸体化石多い

No 2 : 70 ~ 700 μ mが多い(最大粒径3.6mm)。石英・長石類>複合石英類>斜長石(双晶)、複合石英類(微細)、雲母類、ジルコン多い、斜方輝石、[ガラス質、凝灰岩質]、放散虫化石(1個体)、骨針化石多い、植物珪酸体化石多い

No 3 : 80 ~ 500 μ mが多い(最大粒径1.6mm)。石英・長石類>雲母類>複合石英類、斜長石(双晶)、複合石英類(微細)、[凝灰岩質]、ジルコン多い、単斜輝石、角閃石類、骨針化石多い、孢子化石、植物珪酸体化石多い

【川田遺跡】

No 4 : 50 ~ 300 μ mが多く細粒質(最大粒径4.0mm)。石英・長石類>雲母類>複合石英類、複合石英類(微細)、斑晶質、[ガラス質、凝灰岩質]、ジルコン多い、単斜輝石、角閃石類、骨針化石、植物珪酸体化石

No 5 : 60 ~ 300 μ mが多く細粒質(最大粒径500 μ m)。石英・長石類>雲母類>複合石英類(微細)、複合石英類、[斑晶質]、角閃石類、斜方輝石、珪藻化石(淡水種 *Pinnularia* 属、不明種)、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石

No 6 : 50 ~ 500 μ mが多く細粒質(最大粒径750 μ m)。石英・長石類>雲母類>カリ長石(ハースイト)、斜長石(双晶)、複合石英類(微細)、[斑晶質、ガラス質]、角閃石類、斜方輝石、ジルコン多い、骨針化石、植物珪酸体化石

【勝手塚古墳】

No 7 : 70 ~ 700 μ mが多い(最大粒径1.7mm)。石英・長石類>複合石英類>雲母類>ガラス、リング・ガラス、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石

No 8 : 30 ~ 250 μ mが多く、微細質(最大粒径750 μ m)。石英・長石類>複合石英類(微細)、ガラス質(軽石型含む)、ジルコン、骨針化石やや多い、孢子化石、植物珪酸体化石

【味美御旅所古墳】

No 9 : 50 ~ 300 μ mが多い(最大粒径2.0mm)。石英・長石類>複合石英類(微細)、ガラス質、リング・ガラス、発泡ガラス、ジルコン、植物珪酸体化石

【味美二子山古墳】

No 10 : 50 ~ 250 μ mが多い(最大粒径1.0mm)。石英・長石類>複合石英類(微細)>発泡ガラス、リング・ガラス、ガラス質、骨針化石、植物珪酸体化石多い

No 11 : 60 ~ 700 μ mが多い(最大粒径950 μ m)。石英・長石類>複合石英類(微細)>複合石英類、ガラス質、リング・ガラス、単斜輝石、ジルコンやや多い、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石

【断夫山古墳】

No 12 : 70 ~ 600 μ mが多い(最大粒径1.4mm)。石英・長石類>ガラス>複合石英類(微細)>ジルコン、カリ長石(ハースイト)、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石

No 13 : 80 ~ 700 μ mが多い(最大粒径1.8mm)。石英・長石類>複合石英類(微細)>複合石英類>砂岩質、リング・ガラス、発泡ガラス、ジルコン、骨針化石、植物珪酸体化石

No 14 : 60 ~ 90 μ mが多く細粒質(最大粒径850 μ m)。石英・長石類>複合石英類(微細)、ガラス質、ジルコンやや多い、角閃石類、斜方輝石、[凝灰岩質]、骨針化石、植物珪酸体化石

第28表 埴輪胎土中の砂粒分類

		第1出現群						
		A	B	C	D	E	F	
第2出現群	a	片岩類	-	B a	C a	D a	E a	F a
	b	深成岩類	A b	-	C b	D b	E b	F b
	c	堆積岩類	A c	B c	-	D c	E c	F c
	d	火山岩類	A d	B d	C d	-	E d	F d
	e	凝灰岩類	A e	B e	C e	D e	-	F e
	f	テフラ	A f	B f	C f	D f	E f	-

第29表 埴輪試料とその肉眼的特徴

[焼成ランク] A 1 ; 均一に良く焼成、A 2 ; 表面のみ良く焼成、B ; 焼成程度やや低い、C ; 焼成程度低い、

No	遺跡名	粘土の特徴				砂粒の特徴				鉱物群			植物珪酸体 化石	サンドイッチ 構造	焼成ラ ンク	その他の特徴	薄片法による分類	化学組成による分類
		分類	起源	放射虫 化石	淡水種珪 酸化石	不明種珪 酸化石	骨針化石	分類	頻度順()は稀端な場合、()は稀	矽酸類	角閃石類	輝石類						
1	川田遺跡SZ01	□	水成		出現	出現	B c	深成岩類、堆積岩類、[テフラ、凝灰岩類]	多い	ジルコン	多い	検出	検出	無し	B		I 1	I
2		※	外洋成				B c	深成岩類、堆積岩類、[テフラ、凝灰岩類]	多い		多い	検出	検出	無し	B		I 1	I
3		□	水成	出現			B c	深成岩類、堆積岩類、[凝灰岩類]	多い		多い	検出	検出	無し	B		I 1	I
4	川田遺跡	□	水成			出現	B c	深成岩類、堆積岩類、火山岩類、[凝灰岩類、テフラ]	出現		多い	検出	検出	無し	B	砂粒細粒質	I 2	
5		○	(淡水成)		出現	出現	B c	深成岩類、堆積岩類、[火山岩類]	出現		多い	検出	検出	明瞭(灰黄色)	C	砂粒細粒質	I 2	II
6		□	水成			出現	B c	深成岩類、堆積岩類、[火山岩類、テフラ]	出現		多い	検出	検出	不明瞭(灰黄色)	C	砂粒細粒質	I 2	II
7	勝手塚古墳	□	水成		出現	出現	B c	深成岩類、堆積岩類、[テフラ]	出現	検出	検出			不明瞭(浅黄色)	C		I 3	
8		□	水成		出現	出現	B c	深成岩類、堆積岩類、[テフラ]	出現	検出	検出			明瞭(青灰色)	C	砂粒細粒質	I 3	
9	味美御旅所古墳		不明				(B c)	堆積岩類、深成岩類、テフラ		検出	検出			無し	A 1		(I 3)	
10	味美二子山古墳	□	水成		出現	出現	C b	堆積岩類、深成岩類、[テフラ]	出現	検出	検出			無し	A 1		II 1	
11		□	水成		出現	出現	B c	深成岩類、堆積岩類、テフラ	やや多い	やや多い	やや多い	検出	検出	無し	A 1		I 4	
12	断夫山古墳	□	水成		出現	出現	F c	テフラ、堆積岩類、[深成岩類]	検出	検出	検出			不明瞭(灰白色)	C	粘土木目が細かい	III	
13		□	水成		出現	出現	C b	堆積岩類、深成岩類、テフラ	検出	検出	検出			不明瞭(灰白色)	A 2	砂粒細粒質	II 2	
14		□	水成		出現	出現	B c	深成岩類、堆積岩類、テフラ、[凝灰岩類]	やや多い	やや多い	やや多い	検出	検出	無し	C	砂粒細粒質	I 4	
15	下原古窯	□	水成		出現	出現	C b	堆積岩類、深成岩類	検出	検出	検出			無し	A 1		II 2	(III)
16		□	水成		出現	出現	C b	堆積岩類、深成岩類、テフラ	検出	検出	検出			無し	C		II 1	(III)

【下原古窯】

No.15: 80 ~ 600 μ mが多い(最大粒径1.6mm)。石英・長石類>複合石英類(微細)>複合石英類、ジルコン、発泡ガラス、骨針化石、植物珪酸体化石

No.16: 70 ~ 500 μ mが多い(最大粒径1.3mm)。石英・長石類>複合石英類(微細)>複合石英類、ガラス質、ジルコン、カリ長石(微斜長石)、単斜輝石、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石

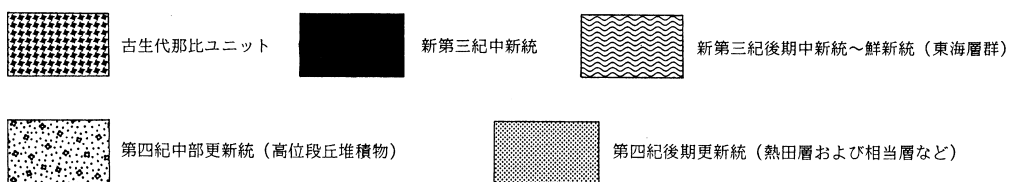
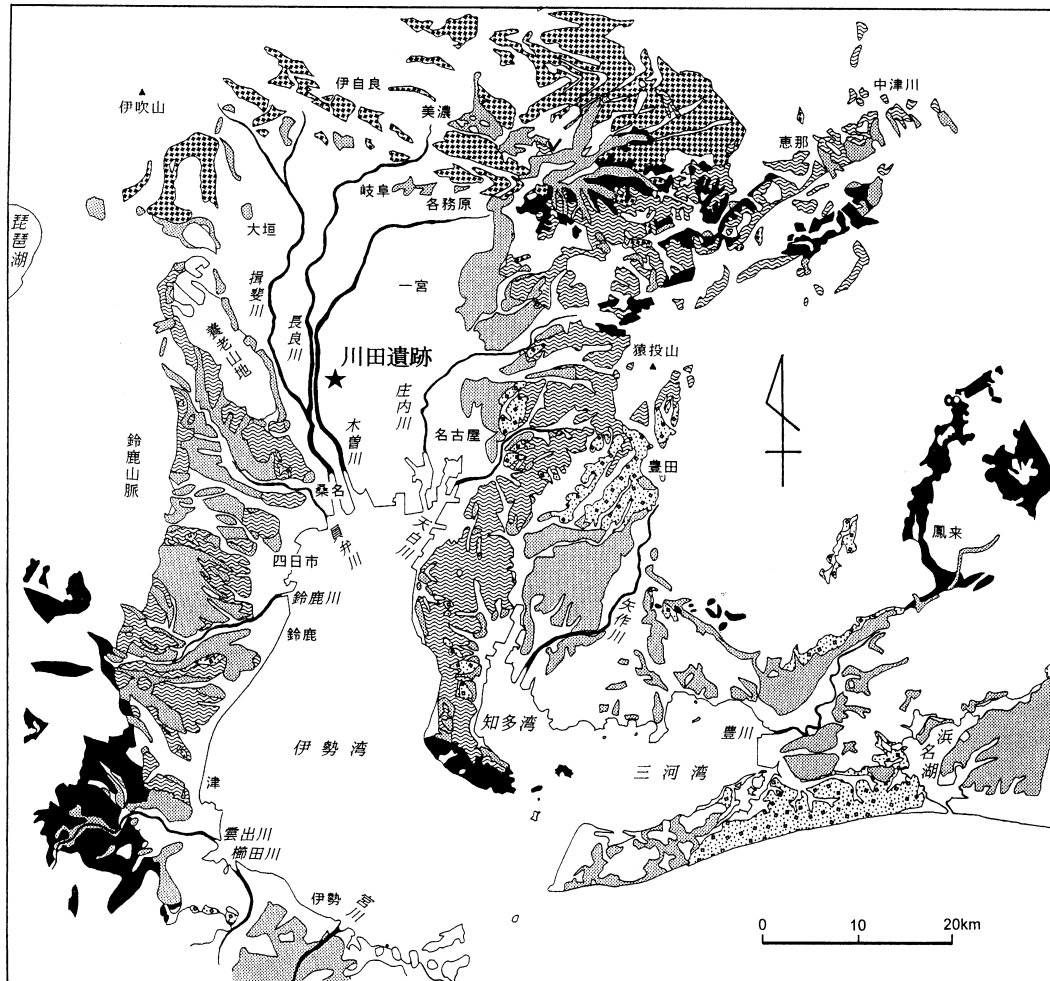
b. 蛍光X線分析による化学組成

分析結果を第29表に示す。各試料の円筒埴輪胎土の大部分を構成するSiO₂の分析値は約57~78%、Al₂O₃は約14~32%とかなり幅広い。また、遺跡ごとに分析値を比較すると、川田遺跡S Z 01(No.1~3)のNa₂O、CaO、Srの分析値が他遺跡の円筒埴輪の分析値より、約2~5倍ほど高いことが分かる。こうした傾向は、全元素を対象として全体的な化学的評価を行うために計算した主成分分析(田中ほか、1987の解析プログラムを使用; 相関行列の固有値を計算)の第1—第2主成分の散布図においても顕著である(第39図)。

4. 考察

a. 薄片観察による検討

[微化石類による材料粘土の分類]



第38図 伊勢—三河湾周辺の地層分布図(藤根、1998)

埴輪胎土中には、その薄片全面の観察から珪藻化石や骨針化石などが検出された。これら微化石類の大きさは、放散虫化石が数百 μm 、珪藻化石が10～数100 μm （実際観察される珪藻化石は大きいもので150 μm 程度）、骨針化石が10～100 μm 前後である（植物珪酸体化石が10～50 μm 前後）。一方、碎屑性堆積物の粒度は、粘土が約3.9 μm 以下、シルトが約3.9～62.5 μm 、砂が62.5 μm ～2mmである（地学団体研究会・地学事典編集委員会編、1981）。このことから、植物珪酸体化石を除いた微化石類は胎土の材料となる粘土中に含まれるものと考えられ、その粘土の起源を知るのに有効な指標になると考える。なお、植物珪酸体化石は、堆積物中に含まれていること、製作場では灰質が多く混入する可能性が高いなど、他の微化石類のように粘土の起源を指標する可能性は低いと思われる。

検討した胎土は、微化石類により、a) 外洋性粘土を用いた胎土、b) 淡水成粘土を用いた胎土、c) 水成粘土を用いた胎土に分類された（第29表）。以下では、分類される胎土についてその特徴を述べる。

a) 外洋成粘土を用いた胎土 (No 2)

この胎土中には、放散虫化石や骨針化石が多く含まれていた。

b) 淡水成粘土を用いた胎土 (No 5)

この胎土中には、少ないものの淡水種珪藻化石の *Pinnularia* 属や骨針化石が含まれていた。なお、淡水種珪藻化石は1個体のみであることから、粘土の起源は（淡水成）とした。

c) 水成粘土を用いた胎土 (No 1、No 3、No 4、No 6～No 16)

これらの胎土中には、不明種珪藻化石や骨針化石が含まれていた。なお、No 1 や No 3 では骨針化石が多く含まれていた。

No 2 の埴輪胎土中からは、中新統の海成層に含まれると思われる放散虫化石が検出された。この放散虫化石を含み得る地層は、伊勢—三河湾周辺地域においては、伊勢地域、知多半島先端部、岡崎周辺、東濃地域、瀬戸地域、奥三河地域など限定される（藤根、1998；第38図の黒塗り部）。このうちNo 2 の胎土中の砂粒組成が深成岩類を主体とすることから、東濃地域や瀬戸地域の花崗岩類分布域に隣接する地域が想定される。

なお、このNo 2 の埴輪胎土中には骨針化石が多く含まれているが、No 1 あるいはNo 3 の埴輪中にも多く含まれること、後述するようにこれらの砂粒組成が類似していることから、同様の材料で製作された可能性が高い。

[砂粒組成による分類]

ここで設定した複合鉱物類は、構成する鉱物種や構造的な特徴から設定した分類群であるが、地域を特徴づける源岩とは直接対比できない。このため、各胎土中の鉱物、岩石粒子の岩石学的特徴は、地質学的状況に一義的に対応しない。

ここでは、比較的大型の砂粒について起源岩石の推定を行った（第29表）。岩石の推定は、泥岩質や砂岩質あるいは複合石英類（微細）が堆積岩類、複合石英類（大型）や複合鉱物類（含輝石類・含角閃石類・含雲母類）が深成岩類、斑晶質が火山岩類、凝灰岩質が凝灰岩類、ガラス質がテフラ（火山噴出物）である。

さらに、各胎土は、第28表に従って起源岩石の種類とその組み合わせにより分類した（第29表）。砂粒の分類では、深成岩類を主体として堆積岩類を伴うB c群が11試料、堆積岩類を主体として深成岩類を伴うC b群が4試料、テフラを主体として堆積岩類を伴うF c群が1試料であった。

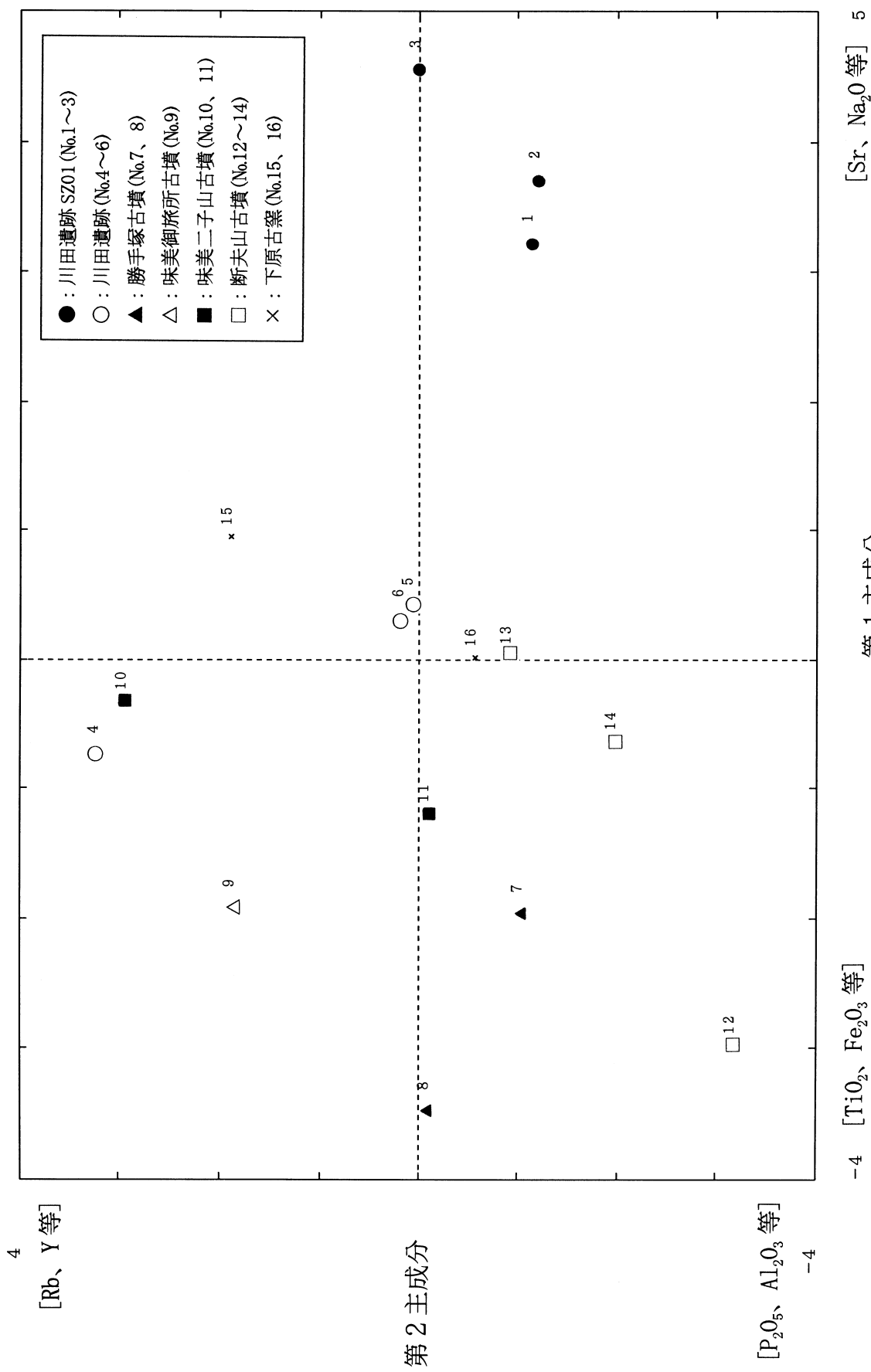
[薄片観察による分類]

ここで検討した埴輪胎土は、粘土の種類や砂粒組成あるいはその他粒子群の特徴から、深成岩類を主体として堆積岩類を伴うB c群がI 1～I 4に分類され、堆積岩類を主体として深成岩類を伴うC b群がII 1およびII 2に分類され、テフラを主体としたF c群はIIIに分類された。なお、下原古窯から出土したNo 15とNo 16は、II 1とII 2に分類されたが、砂粒などの混入物の違いにより細分した。

b. 化学組成による比較・検討

主成分分析では、主成分元素10成分と微量元素4成分を対象として類似度に関する全体的な評価を行った（第39図）。この散布図を見ると、化学組成が類似している場合に近接して分布する。特に、No 1～No 3、No 5とNo 6などは、分析値が同じであることから非常に近接して分布する。

更に分析値を比較すると、No 3はNo 1やNo 2より、MgO、K₂O、CaO、MnOの分析値がやや高い。なお、円墳S Z 01周辺から出土したNo 1とNo 2は、外面調整が横板ナデ、内面調整が縦指ナデであるが、No 3は外面調整が横板ナデ、内面調整が横板ナデで内面調整が異なる。



第 39 図 埴輪胎土の主成分分析による第 1 - 第 2 主成分散布図 (相関行列による)

Na 5 と Na 6 は、全元素で約 0.2% 程度の違いしかなく化学組成がよく類似する。Na 4 は Na 5 や Na 6 より、MgO、Rb、Y の分析値が高く、第 39 図の主成分散布図でも反映されている。このことにより、Na 4 と Na 5 および Na 6 に分類される。なお、不明遺構周辺から出土した Na 4 ~ 6 は、Na 4 は外面調整が横板ナデ、内面調整が横指ナデ、Na 5 は外面調整が荒い縦ハケ、内面調整が荒い横ハケ、Na 6 は外面調整が荒い縦ハケ、内面調整が荒い縦ハケである。

このように、Na 1 ~ 6 の埴輪は、外面調整あるいは内面調整の違いと埴輪胎土の化学組成の違いが対応している。

円筒埴輪の比較試料として分析した勝手塚古墳、味美御旅所古墳、味美二子山古墳、断夫山古墳、下原古窯から出土した円筒埴輪の Na 7 ~ 16 は、第 39 図では分散傾向が高い。このことは、試料点数が 2 ないし 3 点と少ないものの、いずれも類似度が低いものと考えられる。

なお、下原古窯から出土した Na 15 と Na 16 は、やや離れて分布するが、第 40 図に示す $Al_2O_3-SiO_2$ 分布図から、砂粒などの混合比率に違いが見られ、このことが化学組成の違いとして表れていると推定される。薄片による観察では、Na 16 は、ケイ素分を主体とする植物珪酸体化石が多く含まれることから、砂粒以外にこの植物珪酸体化石の寄与が大きい可能性も考えられる。こうした砂粒などの混合比率の違いは、古窯跡の断ち割り断面の観察において 2 回焼あるいは 3 回焼などが確認されるが、こうした同一窯における焼成時期の違い(砂粒の混合比率などの違い)により生ずる可能性が考えられている(小村・藤根、2001)。

化学組成から見た材料的特徴について、下原古窯の円筒埴輪の Na 15 や 16 は、 Al_2O_3 の分析値が約 14 ~ 17% と他試料の Al_2O_3 の分析値よりかなり低く、砂粒の混合比率の高い胎土である。一方、断夫山古墳から出土した Na 12 は、 Al_2O_3 の分析値が最も高く、 SiO_2 の分析値が低いことから、砂粒の混合比率の低い胎土である(第 40 図)。

Na 7 ~ 16 の試料は、外面調整が縦ハケ後横ハケで尾張型と呼ばれる円筒埴輪であるが、この尾張型円筒埴輪と川田遺跡から出土した円筒埴輪では、 Na_2O や CaO あるいは Sr の分析値が、川田遺跡 S Z 01 (Na 1 ~ 3) > 川田遺跡 (Na 4 ~ 6) > 尾張型円筒埴輪 (Na 7 ~ 16) の関係が見られた。

5. おわりに

ここでは、川田遺跡から出土した埴輪と比較試料として他の古墳あるいは窯跡から出土した埴輪について、薄片観察と蛍光 X 線分析による化学組成の検討を行った。その結果、材料の特徴を直接的に調べる方法である薄片による顕微鏡観察では、深成岩類を主体として堆積岩類を伴う B c 群が 4 群、堆積岩類を主体として深成岩類を伴う C b 群が 2 群、テフラを主体とした F c 群は 1 群に分類された。

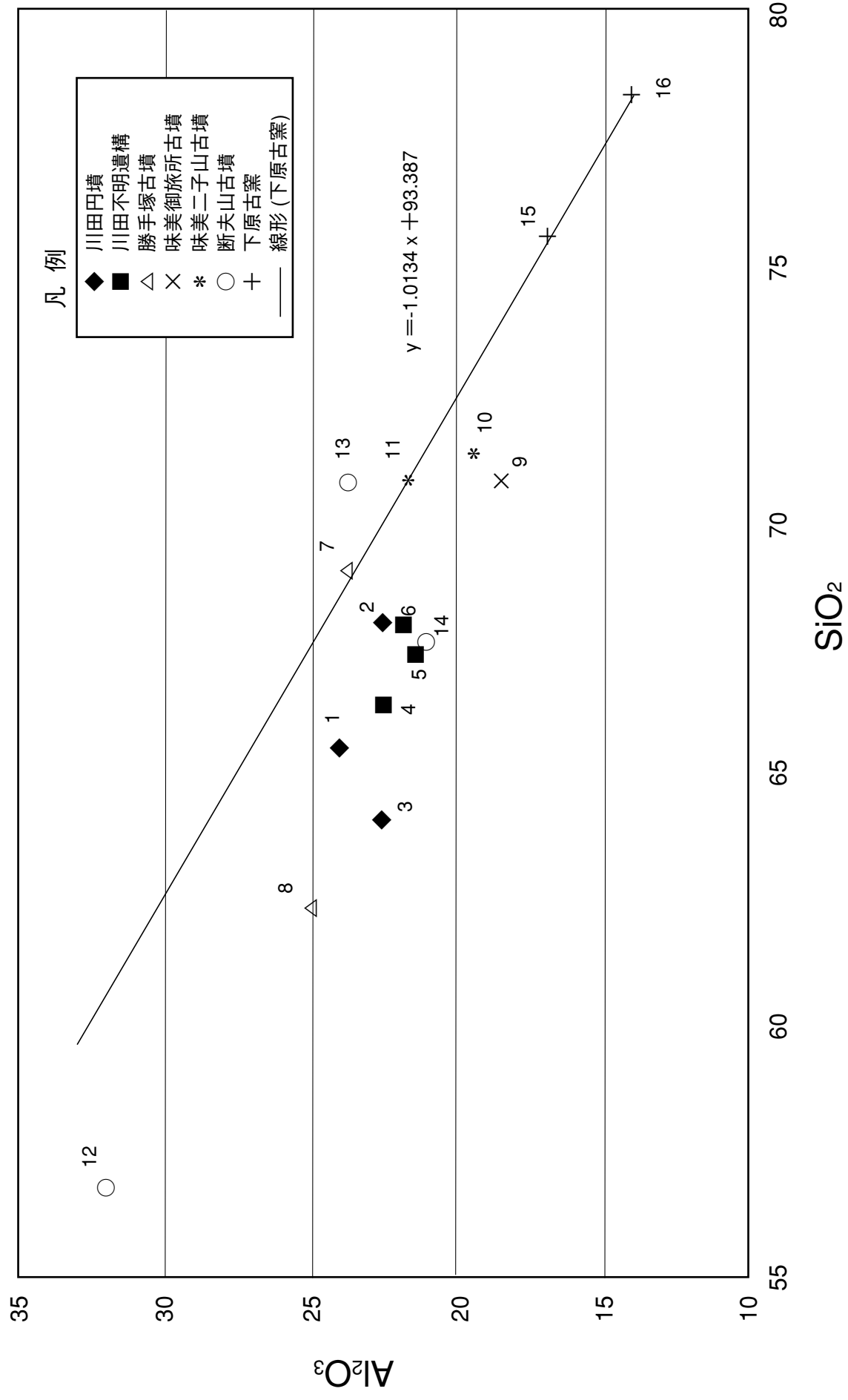
蛍光 X 線分析では、川田遺跡円墳周辺から出土した埴輪 Na 1 ~ Na 3、不明遺構周辺から出土した埴輪 Na 5 と Na 6 は、それぞれ類似した化学組成をもつことが理解された。

川田遺跡円墳周辺から出土した埴輪 Na 2 の胎土中からは、中新統の海成層中に含まれる放散虫化石が検出され、砂粒組成が深成岩類を主体とした組成であることから、伊勢湾周辺においては東濃地域から瀬戸地域の深成岩類分布域に隣接する地域が想定される。なお、骨針化石が特徴的に多く、砂粒組成が類似する Na 1 あるいは Na 3 は、同様の地域で製作された可能性が高い。この点については、今後この地域の材料に関する精査が必要である。

最後に、愛知県埋蔵文化財センターの赤塚次郎氏には、比較試料として古墳や窯跡から出土した埴輪を提供していただきました。ここに感謝の意を表します。

引用文献

- 安藤一男 (1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42,2,73-88.
地学団体研究会・地学事典編集委員会編 (1981)『増補改訂 地学事典』, 平凡社, 1612p.
藤根 久 (1998) 東海地域(伊勢-三河湾周辺)の弥生および古墳土器の材料. 第 6 回東海考古学フォーラム岐阜大会, 土器・墓が語る, 108 - 117.
菱田 量・車崎正彦・松本 完・藤根 久 (1993) 岩石学的方法に基づく胎土分析について-弥生時代後期の土器を例にして-. 日本文化財科学会第 10 回大会研究発表要旨集, 34-35.
小杉正人 (1988) 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 第四紀研究, 27,1-20.
車崎正彦・松本 完・藤根 久・菱田 量・古橋美智子 (1996)(39)土器胎土の材料-粘土の起源を心中に-. 日本考古学協会第 62 回大会研究発表要旨, 153-156.
田中 豊・垂水共之・脇本和昌 (1987)「パソコン統計解析ハンドブック II 多変量解析編」, 共立出版, 403p.

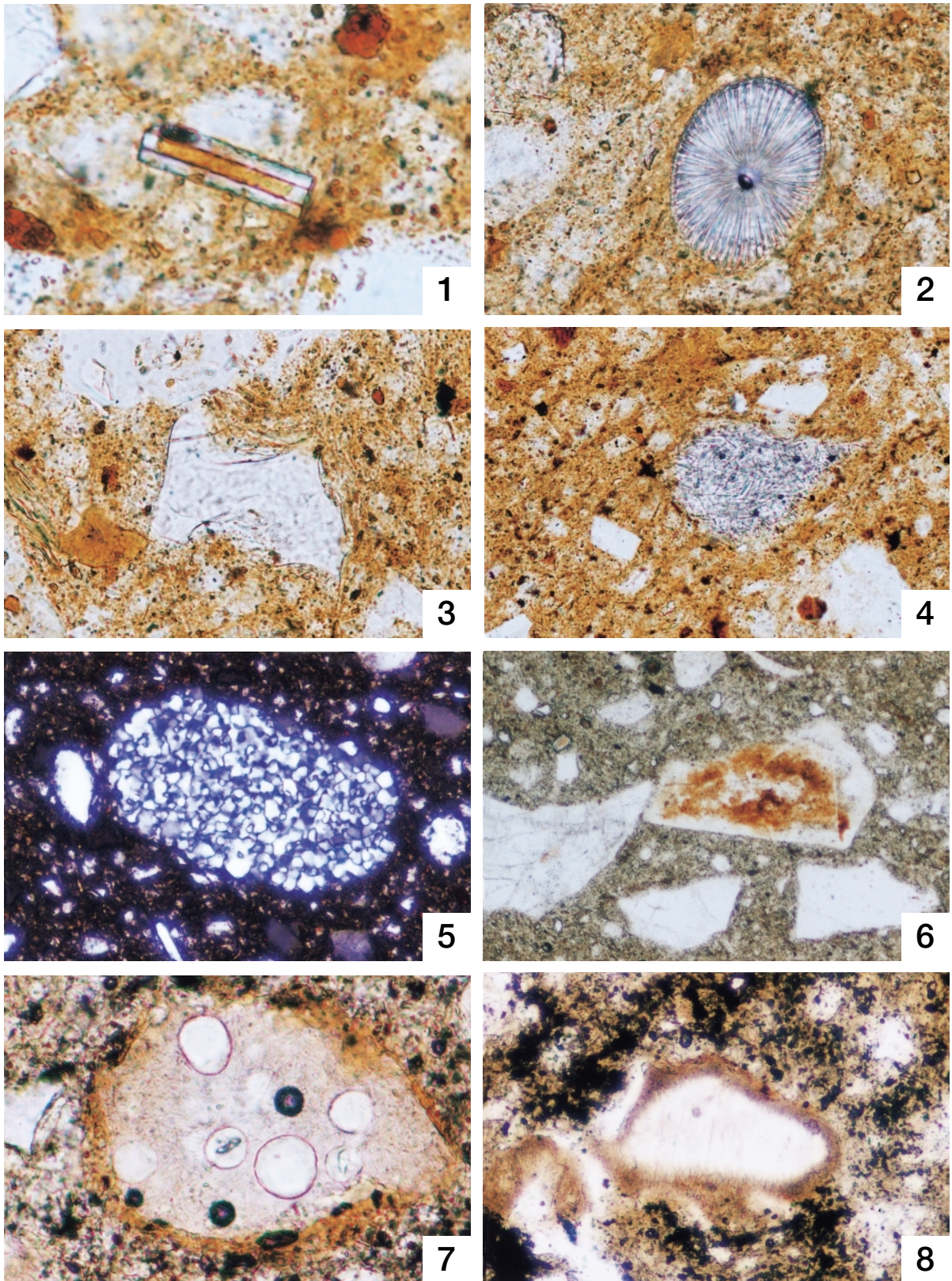


第40図 埴輪胎土の Al₂O₃-SiO₂ 分布図

第30表 蛍光X線分析による塩類の主成分元素(単位:%)と微量元素(単位:ppm)

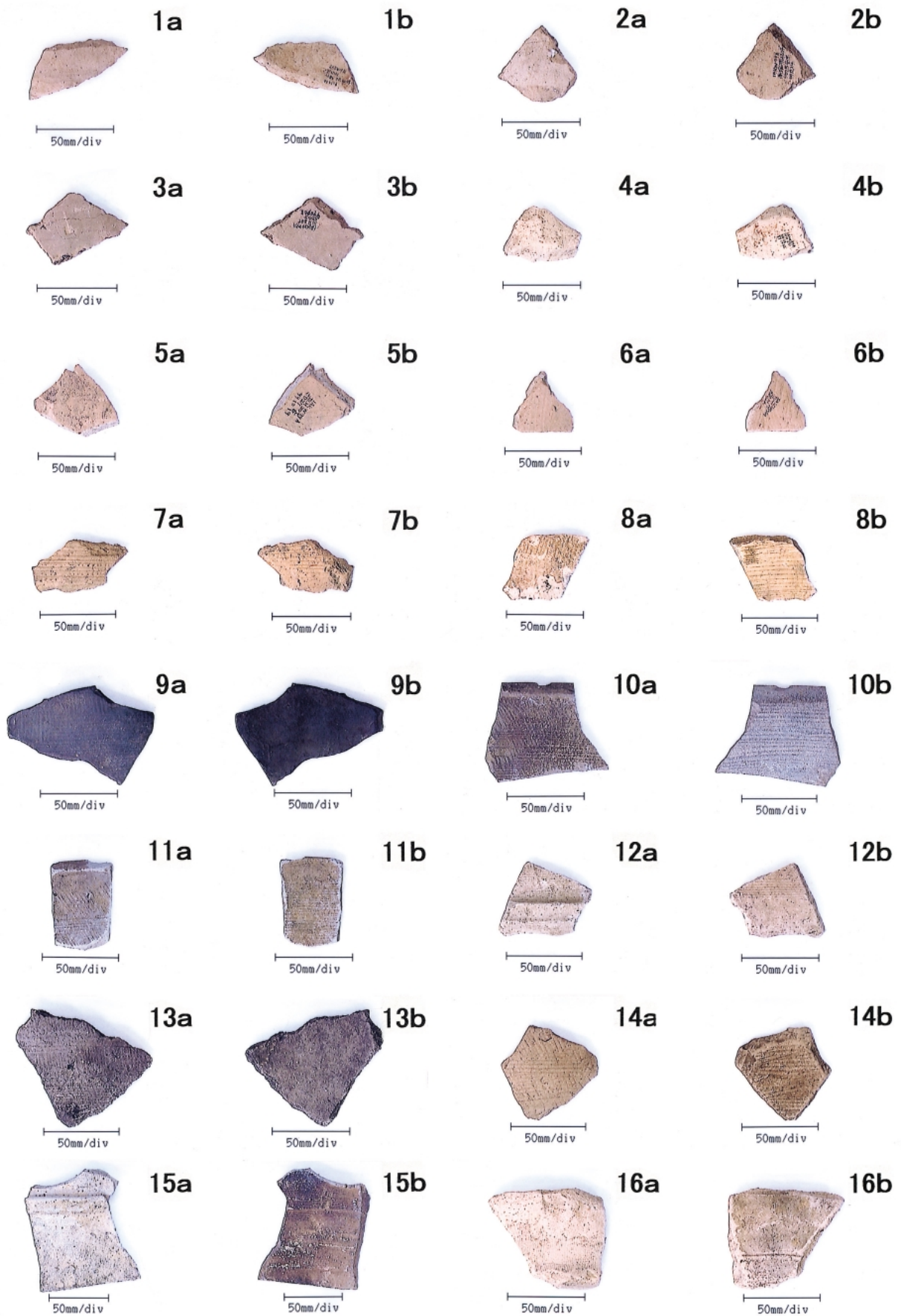
(化学組成) [主成分元素] Na₂O: 酸化ナトリウム、MgO: 酸化マグネシウム、Al₂O₃: 酸化アルミニウム、SiO₂: 酸化ケイ素、P₂O₅: 酸化リン、K₂O: 酸化カリウム、CaO: 酸化カルシウム、TiO₂: 酸化チタン、MnO: 酸化マンガン、Fe₂O₃: 酸化鉄 (微量元素) Pb: ビジウム、Sr: ストロントリウム、Y: イットリウム、Zr: ジルコニウム

No.	遺跡名	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	TOTAL	Rb	Sr	Y	Zr
1	川田遺跡SZ01	0.97	0.36	24.10	65.43	0.051	1.77	0.76	1.02	0.023	3.36	97.84	89.2	107.0	23.6	275.8
2		0.98	0.23	22.50	67.92	0.077	1.87	0.81	0.97	0.019	3.61	98.98	82.2	115.0	22.1	277.3
3		0.96	0.62	22.62	64.02	0.042	2.02	1.08	0.93	0.171	3.81	96.27	96.8	111.8	25.4	265.3
4	川田遺跡	0.57	1.11	22.51	66.30	0.098	2.25	0.39	1.30	0.024	5.95	100.50	112.5	69.5	44.1	189.7
5		0.53	0.27	21.29	67.33	0.055	2.21	0.34	1.21	0.013	5.19	98.44	89.1	50.8	26.3	227.2
6		0.55	0.39	21.91	67.89	0.239	2.21	0.30	1.22	0.016	4.96	99.67	89.8	53.9	26.9	226.5
7	勝手塚古墳	0.16	0.60	23.83	68.99	0.029	1.29	0.20	1.45	0.014	5.35	101.91	73.6	32.8	24.3	207.1
8		0.12	0.83	25.23	62.27	0.031	1.29	0.19	1.58	0.015	8.19	99.73	95.3	34.8	24.9	189.8
9	味美御旅所古墳	0.17	0.79	18.46	70.76	0.049	1.74	0.20	1.32	0.017	6.92	100.43	120.4	43.1	26.0	177.1
10	味美二子山古墳	0.27	0.84	19.45	71.25	0.028	2.24	0.20	1.06	0.014	4.59	99.94	144.7	55.4	29.5	200.1
11		0.12	0.79	21.67	70.77	0.032	1.46	0.17	1.31	0.011	4.40	100.73	94.1	41.0	25.3	236.6
12	断夫山古墳	0.03	0.82	32.00	56.66	1.892	1.10	0.16	1.51	0.014	5.05	99.23	72.9	32.4	24.6	224.3
13		0.16	0.39	23.72	70.72	0.292	1.76	0.17	0.98	0.011	2.86	101.06	86.6	45.2	20.0	216.6
14		0.13	0.16	21.06	67.52	2.678	1.97	0.17	1.37	0.009	3.30	98.37	94.4	42.1	22.2	241.2
15	下原古塚	0.37	0.59	16.87	75.51	0.043	2.18	0.18	0.99	0.017	2.96	99.72	119.0	61.2	27.8	231.2
16		0.17	0.47	13.99	78.35	0.030	1.36	0.18	1.25	0.015	2.72	98.53	70.2	48.7	22.6	242.5
	最大値	0.98	1.11	32.00	78.35	2.678	2.25	1.08	1.58	0.171	8.19		144.7	115.0	44.1	277.3
	最小値	0.03	0.16	13.99	56.66	0.028	1.10	0.16	0.93	0.009	2.72		70.2	32.4	20.0	169.8



第41図 埴輪胎土中の粒子顕微鏡写真 (スケール; 1:25um、2・3・7:50um、4・5・8:100um、6:250um)

1. 骨針化石 No.6(川田遺跡6) 2. 放散虫化石 No. 2 (川田遺跡1) 3. ガラス No. 6 (川田遺跡6)
 4. 斑晶質 No. 6 (川田遺跡6) 5. 複合石英類 (小型) No.16 (下原古窯2) 6. 泥岩質 No.16 (下原古窯2)
 7. 発泡ガラス No.10 (味美二子山古墳1) 8. リング・ガラス No.10 (味美二子山古墳1)



第42図 各遺跡出土の円筒埴輪 (a : 外面、b : 内面)

No.1 ~ 6 : 川田遺跡、No. 7・8 : 勝手塚古墳、No. 9 味美御旅所古墳、No.10・11 : 味美二子山古墳、No.12 ~ 14 : 段夫山古墳、No.15・16 : 下原古窯

第5章 考察

第1節 川田遺跡出土の埴輪について

旧海部郡（現津島市、七宝町、美和町、甚目寺町、大治町、蟹江町、十四山村、飛鳥村、弥富町、佐屋町、立田村、八開村、佐織町、庄内川以西の名古屋市）内で古墳と認められる遺跡はごくわずかで、『愛知県遺跡地図』（1994）によると、上記旧海部郡内に所在する古墳は、津島市越津古墳（滅失、第2図32）、美和町二ツ寺古墳、立田村石田古墳、八開村細野古墳（滅失）・角野古墳（滅失）、佐織町奥津社古墳（第2図5）・諸桑古墳（第2図12）・姥ヶ森古墳（第2図23）の8遺跡のみである。また伊藤秋男（伊藤2000）によると上記8遺跡の内、美和町二ツ寺古墳、佐織町奥津社古墳の2遺跡は古墳として確実視されるもの、それ以外の6遺跡は古墳として疑わしいものとされている。その理由は、埴輪の出土がないことや、墳丘または周溝が確認されていないことが挙げられる。

今回川田遺跡において古墳と思われる遺構（S Z 01）と埴輪が出土し、新たに海部郡の埴輪について再考する必要が生じた。海部郡の埴輪が出土している遺跡について再調査したものが第31表に示した6遺跡である。次にこれらの遺跡から出土している埴輪について観察する。

第31表 海部郡出土の埴輪の特徴

遺跡名	外面調整	突帯の断面形状	黒斑	焼成	朝顔型埴輪の有無	形象型埴輪の有無	時期	所在地
川田SZ01	縦板ナデ→横板ナデ	台形	無	酸化焰焼成	有	有	5C後半	愛知県海部郡佐織町大字見越字川田
川田南部	縦ハケ	やや扁平な台形	無	酸化焰焼成	?	有	5C後半?	愛知県海部郡佐織町大字見越字川田
諸桑	横板ナデ	台形	無	酸化焰焼成	有	?	5C後半?	愛知県海部郡佐織町大字諸桑字郷城
下田	横ナデ	台形	無	酸化焰焼成	有	?	5C後半?	愛知県海部郡七宝町大字下田字矢倉下
寺野	ナデ主体(縦方向?)	台形とやや扁平な台形	無	酸化焰焼成	?	?	5C後半～6C前半	愛知県津島市寺野町廻場16,17
観音町B第8地点	縦ハケ→横ハケ	台形とやや扁平な台形	無	酸化焰焼成	?	?	5C後半～6C前半	愛知県津島市観音町
蜂須賀	縦ハケ→横ハケ	台形とやや扁平な台形	無	酸化焰焼成	?	?	5C後半～6C前半	愛知県海部郡美和町
観音町B第7地点	縦ハケ→横ハケ	扁平な台形	無	還元焰焼成	?	?	6C	愛知県津島市観音町

○佐織町川田遺跡

S Z 01 出土のものは外面調整板ナデの円筒埴輪（第29図336～346）で、朝顔形を含む。他の出土遺物から5世紀後半が推定される。調査区南部出土のものは外面調整が荒いハケによる円筒埴輪（第30図347～353）で、同じく他の出土遺物から5世紀後半が推定される。

○佐織町諸桑遺跡（古墳）（第43図1～5）

詳しい出土状態は不明であるが、耕地整理の際出土したとされる完形の円筒埴輪（1）と、色調と胎土及び調整が類似する円筒埴輪片が他に4片ある（2～5）（加賀宣勝1971.12、岩野見司1989.11）。1は透孔が第2段に対面2孔あり、片側の透孔からは4本の弧を描くヘラ線刻がある。突帯は比較的高い断面台形のもので、埴輪の高さを均等4分割した3本の突帯が施される。外面調整はかすかな縦ハケ後横板ナデ、内面調整は横方向主体のナデである。底部に簀子状圧痕が見られる。2は円筒埴輪口縁部。内外面板ナデ。3は朝顔形円筒埴輪肩部。内外面指ナデ。透孔あり。4・5は円筒埴輪胴部で、1と同様の突帯がある。内外面の調整は横ナデ。諸桑遺跡出土の埴輪は調整方法、胎土、色調、突帯の形状等形態的特徴が川田遺跡S Z 01出土のものと類似している。

○七宝町下田遺跡（第43図6）

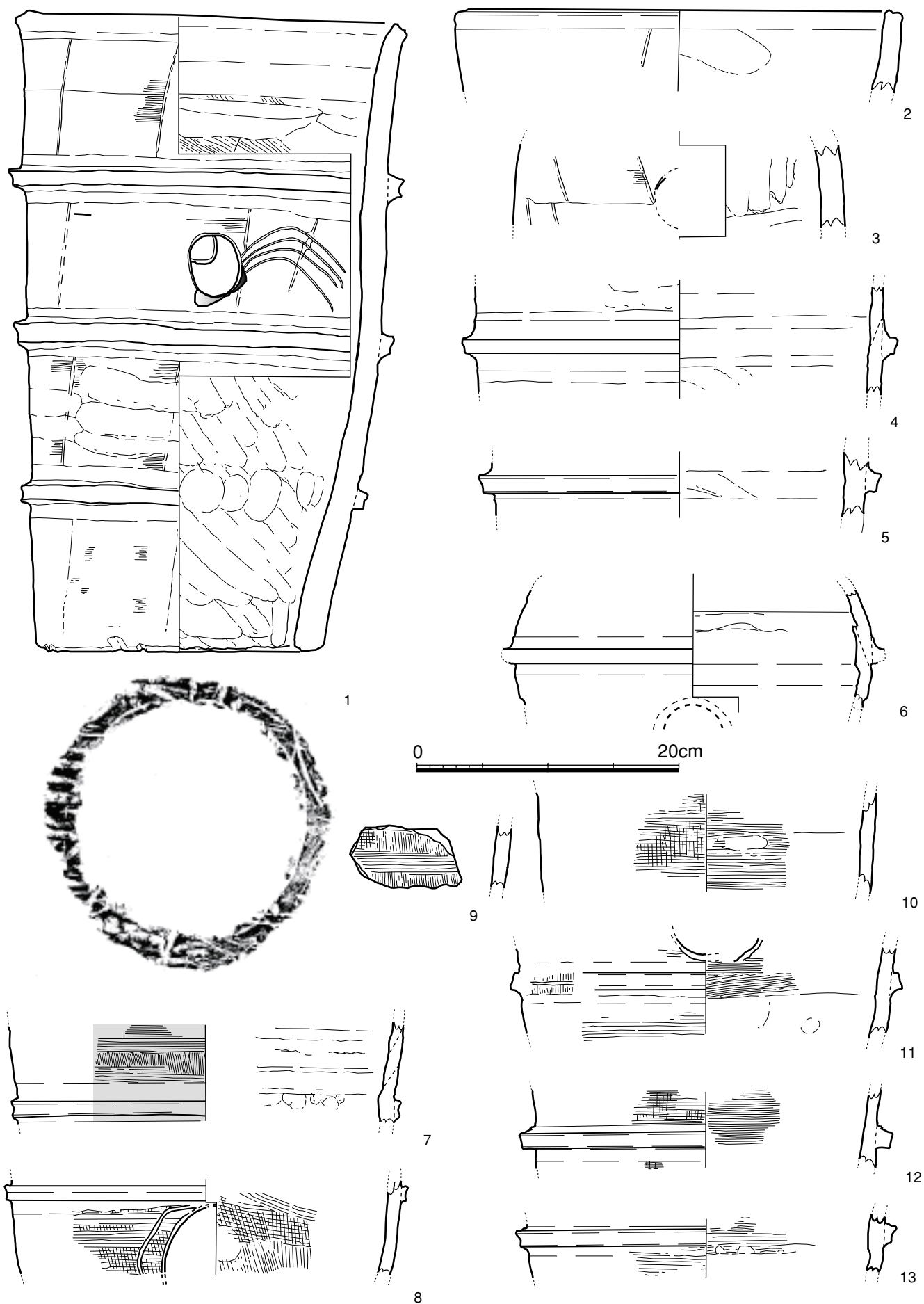
朝顔形円筒埴輪肩部1点のみの出土。内外面横ナデ。透孔の縁辺かと思われる凹みが生ずる。焼成は極めて良好で、自然釉状のものが付着している。突帯は比較的高い断面台形のものと思われる。

○津島市寺野遺跡（伊藤晃雄1970・赤塚次郎他1991）

円筒埴輪胴部片3点が紹介されており、2点は外面横ナデ。1点は外面調整縦ハケ後横ハケ。突帯は比較的高い断面台形のもの。

○津島市観音町B遺跡（第43図7～13）

円筒埴輪片が第7地点から2点、第8地点から29点の計31点出土している。第7地点のもの（6・7）は外面が赤彩されたもの（6）と還元焰焼成したもの（7）があり、外面の調整はどちらも縦ハケ後横ハケで、7の円形透かしの周辺にはヘラ描きがある。第8地点のもの（8～12）は外面の色調が明黄褐色から黄橙色のもので、外面の調整は縦ハケ後横ハケが施されている。突帯の形状から考えると、第7地点のものの方が低い台形状で新しい特徴を持ち、埴輪の出土地点も離れていることから2時期の古墳が隣接した可能性が高い。



第43図 海部郡出土の埴輪 (1 : 4)

1 ~ 5 諸桑遺跡、6 下田遺跡、7・8 観音町B遺跡第7地点、9 ~ 13 観音町B遺跡第8地点

第 32 表 外面ナデ調整をもつ埴輪の特徴と出土地

NO.	遺跡名	墳形	墳長M	主体部	黒斑	外面一次調整	外面二次調整	陶色	猿投	年代	所在地
尾張 1	八高古墳	前方後円墳	70+	粘土椀、木棺直葬	有					5c中葉	愛知県名古屋瑞穂区字山の畑
尾張 2	川田遺跡SZ01	円墳	20	不明	無	タテ板ナデ	B種ヨコ板ナデ		城山2	5c後半	愛知県海部郡佐織町大字見越字川田
尾張 3	諸桑古墳	不明	不明	不明	無		B種ヨコ板ナデ			5c後半	愛知県海部郡佐織町大字諸桑字郷城
尾張 4	下田遺跡	不明	不明	不明	無	ヨコナデ					愛知県海部郡七宝町大字下田字矢倉下
尾張 5	寺野遺跡	不明	不明	不明	無	ナデ (タテ方向?)				5c中葉	愛知県津島市寺野町廻場16.17
三河 1	和志山古墳	前方後円墳	60	不明	有	ヨコナデ?	-			4c末~5c初	愛知県岡崎市本郷町
三河 2	井上 1 号墳	円墳	25	木棺直葬	有	タテハケ	不明			5c第2四半期	愛知県豊田市井上町
三河 3	八柱神社古墳	帆立貝式前方後円墳	45	不明	有	タテ板ナデ	ヨコハケ?			5c第2四半期末	愛知県豊田市森町3丁目
三河 4	岩場古墳	帆立貝式前方後円墳	30	埴輪棺	無	タテ板ナデ	B種ヨコ板ナデ、ヨコハケ	TK73-216		5c中葉	愛知県幡豆郡吉良町字山小田字大山2-1
三河 5	経ヶ峰 1 号墳	帆立貝式前方後円墳	35	竪穴系横口式石室	無	タテ板ナデ	省略	TK208	H111	5c第4四半期	愛知県岡崎市丸山町字経ヶ峰6-1,2
三河 6	小針 3 号墳	円墳 (A周堀)	19.5	不明	無	ヨコ板ナデ				5c後半	愛知県岡崎市小針町
三河 7	小針 4 号墳	円墳 (B周堀)	13-14	不明	無	ヨコ板ナデ				5c後半	愛知県岡崎市小針町
三河 8	念仏塚 2 号墳	前方後円墳	27.5	礫椀(後円部)、礫床(前方部)	無	タテ板ナデ	省略	TK208	H11	5c第4四半期	愛知県宝飯郡一宮町大字大木字山の奥
三河 9	井上 2 号墳	円墳	17	木棺直葬?	無	タテ板ナデ	省略	TK23		5c第4四半期	愛知県豊田市井上町12丁目
三河 10	善光塚 2 号墳	円墳	14	粘土椀	無	タテ板ナデ	省略	TK23		5c第4四半期	愛知県豊橋市石巻小野田町
三河 11	念仏塚 4 号墳	前方後円墳	25	不明	無	タテ板ナデ	ヨコハケ	TK23-47	H11	5c第4四半期	愛知県宝飯郡一宮町大字大木字山の奥
三河 12	上野 5 号墳	円墳	15.5	粘土椀	無	タテ板ナデ	省略	TK23-47		5c末	愛知県豊川市麻生田町
三河 13	船山 1 号墳	前方後円墳	94	不明	無	タテハケ、ヨコナデ	省略	(TK10-43)	(H61)	5c後半	愛知県豊川市八幡町字上宿33
三河 14	三ツ山古墳	前方後円墳	34	不明	無	タテ板ナデ	省略	TK47		6c第1四半期	愛知県豊橋市牟呂町字坂津
遠江 1	京見塚古墳	円墳	47	木棺直葬?	無	タテハケ	C種ヨコハケ	TK208?		5c後半	静岡県磐田市梅原字小松原
遠江 2	甌塚古墳	円墳	27	横穴式石室	無	タテハケ				6c	静岡県磐田市向笠岩井
伊賀 1	伊予之丸古墳	方墳	不明	不明	有	タテ板ナデ、タテハケ	省略、B・C種ヨコ板ナデ、ヨコハケ	TK216	H111	5c	三重県上野市丸之内

○美和町蜂須賀遺跡 (湯浅健二他 1990)

円筒埴輪胴部片が3点出土しており、全て尾張型。

以上を外側調整と突帯の断面形状、焼成、朝顔形円筒埴輪や形象埴輪の有無についてみたのが第31表である。

この中で外面横板ナデ (二次調整) と比較的高い突帯をもつ川田遺跡 S Z 01・諸桑遺跡・下田遺跡・寺野遺跡の埴輪と外面調整横ハケながら川田遺跡 S Z 01 の埴輪と伴出している川田遺跡南部のものが古い特徴をもち、観音町 B 遺跡第 7 地点の外面横ハケ (二次調整) と扁平な突帯をもつ埴輪が新しい特徴をもつ。そして観音町 B 遺跡第 8 地点・蜂須賀遺跡の外面横ハケ (二次調整) 埴輪がその中間的特徴をもつといえる。川田遺跡における須恵器等の伴出遺物から、古い特徴を持つ一群の埴輪は 5 世紀後半のものとして推定され、新しい特徴を持つ観音町 B 遺跡第 7 地点の埴輪は尾張地域における 6 世紀の埴輪の特徴と共通する。

それでは川田遺跡をはじめとする外面横板ナデ調整の埴輪は他地域の埴輪と比べてどのように位置付けられるのであろうか。

川田遺跡出土の円筒埴輪をはじめとする外面調整における横板ナデは普通の埴輪にみられる横ハケの木目をつけない方法であり、ハケの工具の使い方の違いが反映した可能性が高いものと思われる。このような埴輪は尾張地域では少なく、筆者が調べた範囲で列挙すれば第 32 表(地区別)にほぼ時期順、またハケ系の円筒埴輪にナデ系が混じっている場合も列挙)のように海部郡に集中している。また東海地方の外面ナデ調整をもつ埴輪は、伊賀の伊予之丸古墳の他は、三河地域の古墳 (吉良町岩場古墳、豊田市井上古墳群、岡崎市経ヶ峰 1 号墳、豊川市船山 1 号墳、一宮町念仏塚古墳群、豊橋市三ツ山古墳等) にみられる。

尾張地域の外面ナデ調整の埴輪は 5 世紀後半に尾張型埴輪にとって変わるが、三河地域では 5 世紀後半に尾張型埴輪が広がっても外面ナデ調整の埴輪は 6 世紀まで残る。海部郡の外面横板ナデは外面二次調整であり、尾張型埴輪にみられる変容タイプと考えられるのに対して、三河地域の外面ナデ調整は在地的調整ともいえるが、基本的には外面二次調整の省略との関係が考えられるという点で、両地域の外

面調整における変遷の違いが生じたものと思われる。

よって海部郡の外面横板ナデ調整の埴輪はその分布と技法的特徴等から5世紀後半の海部郡の地域色が表れた埴輪と考えられる。このことは第4章の埴輪の胎土分析の結果からも首肯できるものであり、今後の研究が期待されるものである。

第2節 川田遺跡周辺の条里遺構

海部郡で条里遺構の残る地区は美和町富塚や七宝町沖ノ島付近が有名であり、字名からもそれと推定できる。字名としては残っていないが川田遺跡付近でも明治の地籍図(第44図左下)を見て1町四方の区画が並ぶことが見てとれる。また大正の耕地整理施行前の地図(第44図右下)でも第1章第3節で触れた4つの微高地が1町ごとの区画に分けられるように東方から突出している。99A区の東壁付近の溝と99A・B区のNR01が条里の坪界に沿った部分で、遺物から判断して中世後期までどちらの溝も機能していたことがわかる。上限を考えると、古墳に伴う埴輪が散見されることから古墳はすでに破壊されており、古代(7, 8世紀代)の溝の方向と一致しないこと、また中世前期の方形土坑墓を破壊していないことから、条里の施行時期は8世紀中葉以降と考えられよう。先述した4つの微高地はもともと(8世紀中葉以前)一連のもので条里制施行時に1町ごとに刻まれたと推察する。

第3節 川田遺跡をめぐる古代・中世の寺院

○古代寺院について

海部郡には古代の寺院跡が8箇所確認されている。津島市寺野廃寺と甚目寺町甚目寺・法性寺・清林寺と立田村宗玄坊廃寺は7世紀後半。美和町篠田廃寺、佐織町淵高廃寺・諸桑廃寺は8世紀。その他古代瓦がある程度出土する遺跡として美和町蜂須賀遺跡(8世紀)などがある。

川田遺跡においても古代の瓦が出土した。時期は瓦の調整技法からみて7世紀後半～8世紀にかけて、出土量は少ないが比較的長い時間幅が想定されるものである。古代寺院に関連する遺構は確認されず、中世以後の遺物包含層や中世の遺構に混じって出土しており、大半はA区のNR01を中心に出土した。NR01の流れる方向は東から西なので東方から流れてきたということであれば調査区東方のやや離れた所に古代寺院があったと推定される。

○中世の川田遺跡

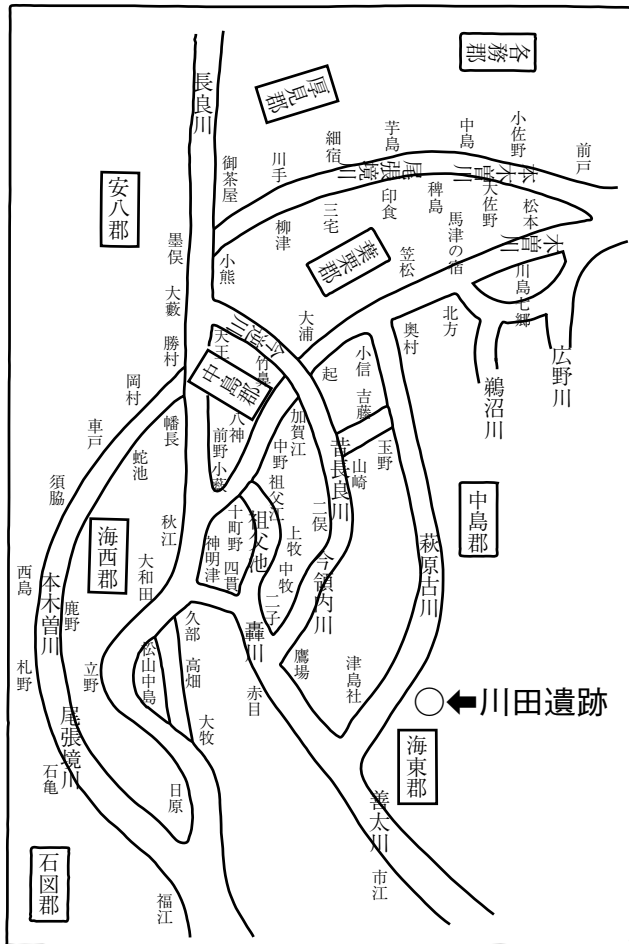
記録によると鎌倉時代にはすでに見越には極楽寺という寺院が存在した。中世方形土坑墓も極楽寺に関わる墓域であったと思われる。NR01が条里にあっており、古代から存在した流路だとすると、堂宇推定域の大字見越字堂越からは北東に存し、古来川田遺跡付近が微高地であるならば、墓域とするには好都合であろう。現在墓地の存する調査区の南東方の一角は江戸時代後期の絵図でも界と示されており、古くからこの付近は見越集落の北東界の役割をもっていたようだ。

第4節 海部郡周辺の河川の流路変遷

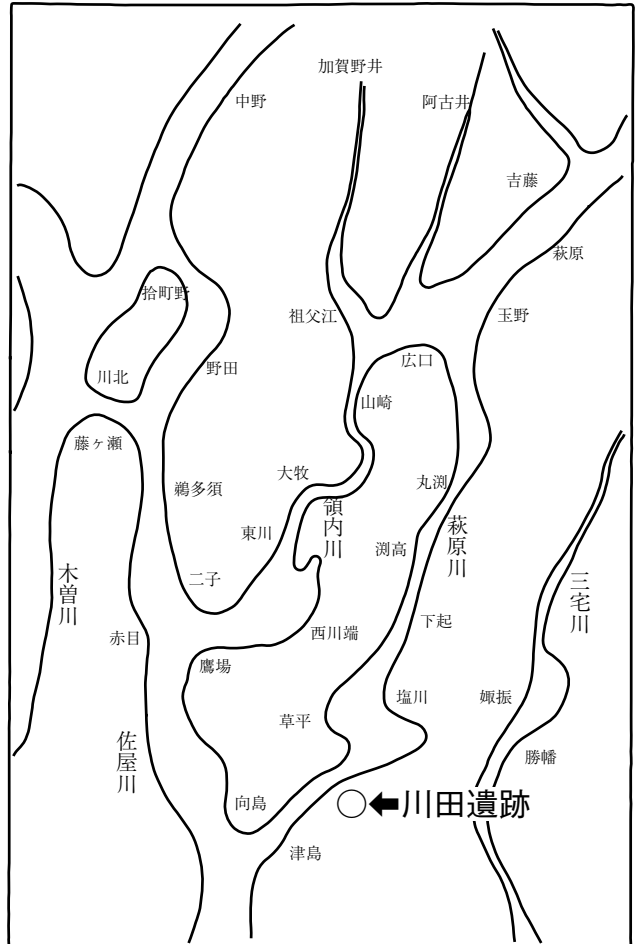
現在、川田遺跡は領内川の右岸に位置しているが、この川の河道の変遷は自然・人工含めて激しいものだったようだ。『領内川史』(1981)によると天正14年(1586)の大洪水以前を前期の領内川、以後を後期の領内川としている。前期の領内川についてはいつごろ形成されたかは記録にない。第45図左上は年代不詳の古地図であるがその大洪水前後の河道の変化を示している。木曾川と昔長良川・今領内川が立体交差しているが、前者が現河道、後者が旧河道をあらわしている。すなわち、領内川は、1586年以前は長良川の支流だった。大洪水以後、長良川とも木曾川とも訣別してしまった。

その後もしばらく領内川は佐屋川(旧名轟川)に流入していたが、川床が高くなり排水が悪くなったので享保12年(1727)に津島川(別名天王川、萩原川下流)に流した。その前後の河道図が第45図右上と左下である。

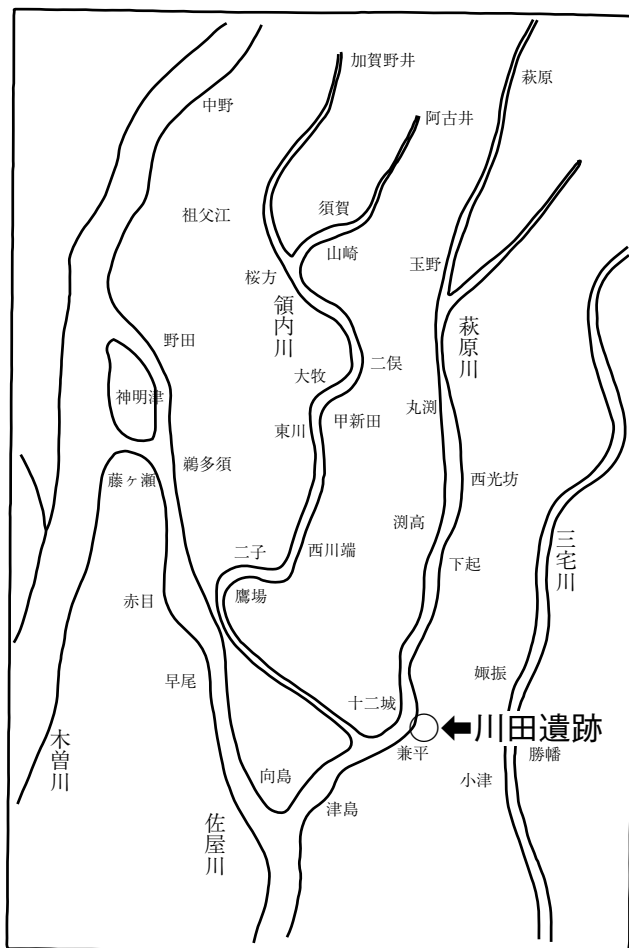
しばらくして天王川(萩原川下流)の佐屋川への出口の川床が高くなり排水が悪くなったので、天明9年(1789)西川端新田から小津の日光川(三宅川下流)まで開鑿して流入させた。同時に萩原川下流の下起から小津の日光川へも開鑿し合流させた。この前後の河道図が第45図左下と右下である。この河道変更により、ほぼ現在の当地域の河道が定まった。この時天王川(旧萩原川下流)はまだ佐屋川に流入していたが、後に堤防でふさぎ、現天王川公園の池を残し、天王川(旧萩原川下流)を細く残して、南西から北東流させ領内川に流入させたのが今日大字見越の北西辺を流れる新堀川である。であるから大字見越の北西辺の兼平堤(堤防道は津島街道、第45図右下、石田泰弘1989.11)は水流は逆行したものの、そのまま堤防として機能し続けている。



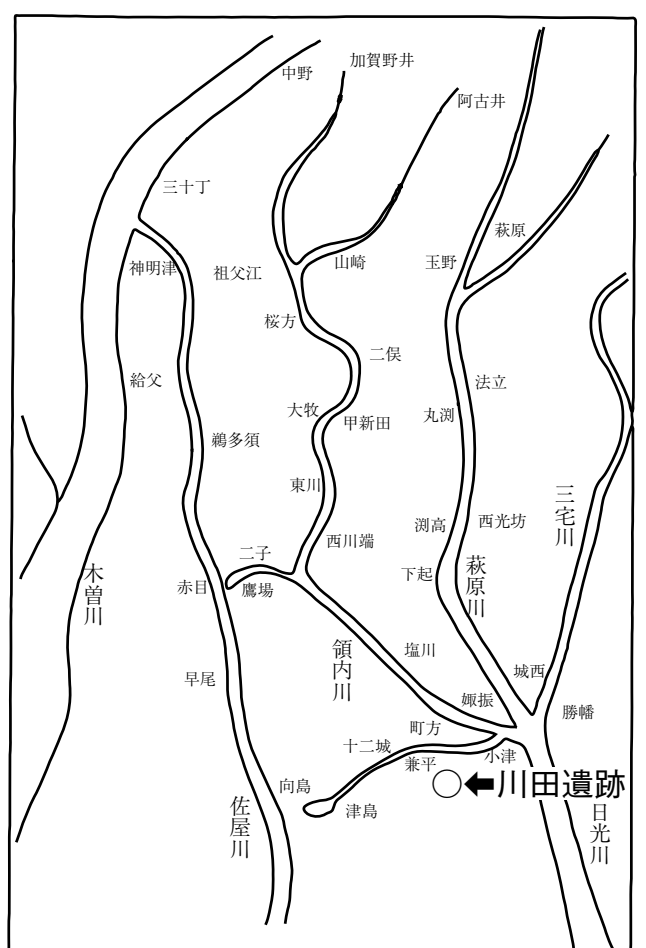
天正14年(1586年)頃



元禄10年(1697年)頃



享保12年(1727年)頃



寛政元年(1789年)頃

第45図 領内川など旧河道の記録(『領内川史』をトレース)

このように、現在領内川と新堀川の右岸として立地する川田遺跡は記録のみでさかのぼると木曾川水源の旧萩原川左岸となろうが、約500年前までのことであり、川田遺跡の基盤層の砂層や遺構の埋土が何川起源のものかを論じるまでには至れない。

第5節 まとめ

川田遺跡周辺は調査成果からみて、大きく4つの段階を想定できる。

第1段階（墓域）：5世紀後半（城山2号窯期～東山11号窯期）の円墳群が自然堤防を利用して構築された。埴輪は東濃地域から瀬戸地域産の粘土を材料に作られたものもあり、その粘土は木曾川水系や庄内川水系の船運で持ち込まれた可能性もある。

第2段階（集落）：6世紀末～7世紀前半（東山50号窯式期前後）に、須恵器・土師器を溝に捨てた。

第3段階（集落）：7世紀後半～8世紀前半（高蔵寺2号窯式期前後）、海部郡に古代寺院が林立する時期。川田遺跡では土錘群から漁業が、韃の羽口から鍛冶の生業が営まれた。この後、条里が施行される。

第4段階（墓域）：12世紀末～13世紀前半（藤澤編年尾張型第5型式前後）、極楽寺を拠点とした中世の見越の集落が形成された時期。経塚がつくられ、集落から北東辺の根高村との境界近くに自然流路（NR 01）を渡って墓地を形成し埋葬がなされた。

以上川田遺跡の立地する見越の地は海部の古道・津島街道に沿っている比較的安定した微高地に立地する地域であり、今回の調査でも古墳時代から近世にいたる遺構、遺物を発見でき予想以上の成果であった。また狭い調査区にも関わらず1基の古墳を発見することができたことは、この地域の歴史において画期的な成果と思われる。円筒埴輪の種類からは付近の微高地に埋没古墳がまだ眠っているはずである。今後この付近の調査が再びなされることを期待する。

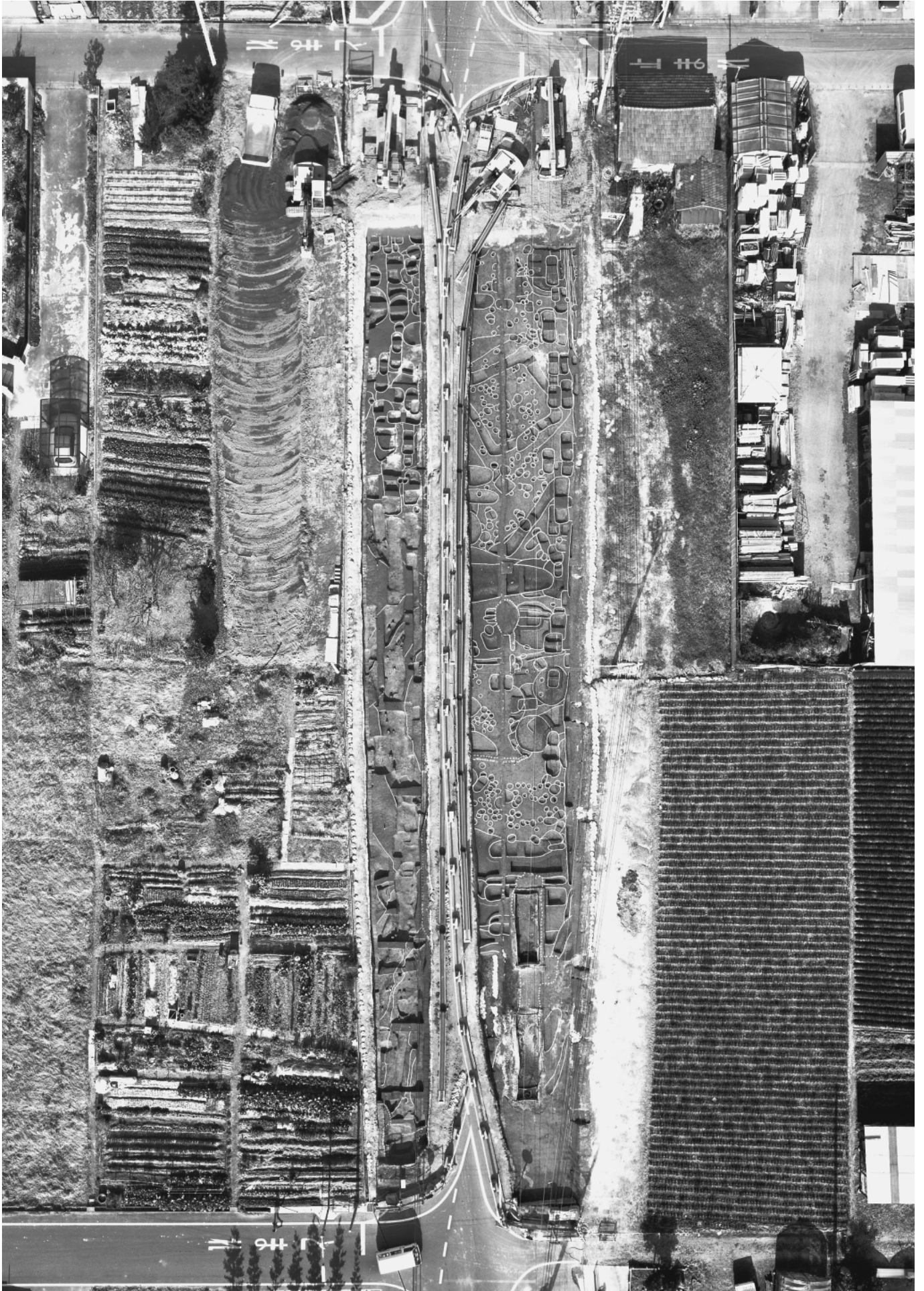
参考文献（編著者五十音順）

- 愛知県教育委員会 1994.3『愛知県遺跡地図Ⅰ（尾張地区）』
- 赤塚次郎 1988.3「拳母の古墳」『水源山南古墳』愛知県豊田土木事務所
- 赤塚次郎 1989.9「断夫山古墳をめぐる諸問題」『断夫山古墳とその時代』第6回東海埋蔵文化財研究会愛知考古学談話会
- 赤塚次郎 1990.3「調査概要 環境」『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書10
- 赤塚次郎 1991.3「尾張型埴輪について」『池下古墳』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書24
- 赤塚次郎 1992.1「埴輪の種類と編年 東海」『古墳時代の研究9古墳』埴輪』雄山閣出版
- 赤塚次郎他 1991.6「寺野遺跡の出土遺物について」『考古学フォーラム2』愛知考古学談話会
- 石田泰弘 1989.11「第4編 近世 第5章 河川と交通」『佐織町史通史編』佐織町史編さん委員会佐織町
- 伊藤秋男 2000.3「愛知県尾張低地帯における古墳の分布とその現況1」『味美二子山古墳の時代』
- 伊藤晃雄 1970.3「寺野遺跡」『津島市史資料編1』津島市教育委員会
- 岩野見司 1989.11「第2編 考古」『佐織町史通史編』佐織町史編さん委員会佐織町
- 岩原剛 2001.3『平成12年度三ツ山古墳調査概要』豊橋市教育委員会
- 岡崎市教育委員会 1997.3『小針遺跡』岡崎市教育委員会
- 加賀貴巳子 1994.3「愛知県内出土の形象埴輪地名表」『高塚古墳発掘調査報告書』高塚古墳発掘調査委員会西春町教育委員会
- 加賀宣勝 1971.12「消えゆく濃尾平野南端の古墳」『いちのみや考古19』一宮考古学会
- 川西宏幸 1978「円筒埴輪総論」『考古学雑誌64-2』日本考古学会
- 吉良町史編さん委員会 1996.3『吉良町史』吉良町
- 吉良町誌編集委員会 1965.7『吉良町誌』吉良町
- 後藤守一他 1957.12「吉良町岩場古墳」『吉良町史料1』吉良町
- 斎藤嘉彦 1980.2『経ヶ峰1号墳調査概報』
- 斎藤嘉彦 1981.3『岡崎市丸山町経ヶ峰1号墳』岡崎市教育委員会
- 斎藤嘉彦他 1999.3『愛知県岡崎市小針遺跡』岡崎市教育委員会社会教育課
- 新編岡崎市史編集委員会 1989.11『新編岡崎市史史料考古下16』新編岡崎市史編さん委員会
- 新編岡崎市史編集委員会 1992.9『新編岡崎市史原始・古代1』新編岡崎市史編さん委員会
- 鈴木敏則 1993.7「三河の埴輪（3）」『三河考古5』三河考古刊行会
- 田端勉 1974.3「第7章井上第2号墳」『豊田市埋蔵文化財調査集報1古墳。』豊田市教育委員会
- 田端勉 1974.3「第11章八柱神社古墳」『豊田市埋蔵文化財調査集報1古墳。』豊田市教育委員会
- 豊川市教育委員会 1989.3『船山第1号墳発掘調査報告書』豊川市教育委員会
- 中嶋郁夫 1992.3「古墳時代」『磐田市史史料編1考古・古代・中世』磐田市史編さん委員会磐田市
- 久永春男他 1964「念仏塚古墳群」『東名高速道路関係遺跡第1次・第2次調査概報』愛知県教育委員会
- 久永春男他 1967.3「念仏塚第2号墳」『東名高速道路関係埋蔵文化財調査報告』愛知県教育委員会
- 藤井康隆 2001.3「名古屋台地古墳時代の基礎資料（1）」『名古屋市見晴台考古資料館研究紀要3』名古屋市見晴台考古資料館
- 山崎克巳 2001.3『京見塚古墳群発掘調査報告書』磐崎市教育委員会
- 湯浅健二他 1990.12「蜂須賀遺跡と「海部の古道」」『考古学フォーラム1』愛知考古学談話会
- 吉田富夫他 1967.3「念仏塚第4号墳」『東名高速道路関係埋蔵文化財調査報告』愛知県教育委員会
- 領内川史編纂委員会 1981.11『領内川史』
- 渡辺泰三他 1963「三重県上野市伊予之丸古墳」『古代学研究33』

写真図版



川田遺跡出土の埴輪



A·B区空撮写真



A区全景（北より）

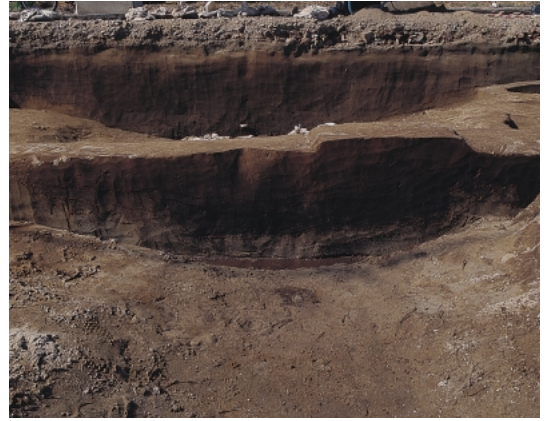


B区全景（北より）

図版3



A区SK 34 (東より)



A区SD 25 断面 (東より)



A区SD 25 遺物出土状況 (西より)



A区SD 25 遺物出土状況 (西より)



A区SD 25 遺物出土状況
(西拡張部西より)



B区SD 06 遺物出土状況 (西より)



B区SD 07 遺物出土状況 (西より)



A区SD 28 (東より)



A区SD 28 遺物出土状況 (南より)



A区SD 27 遺物出土状況 (西より)



B区SD 06 遺物出土状況 (東より)



A区SD 05 遺物出土状況 (西より)



A区SD 29 断面 (東より)

A区SD 30 断面 (東より)

図版5



A区S D 24 (北より)



A区S D 24 遺物出土状況 (西より)



A区S D 24 遺物出土状況 (南より)



B区S D 04 遺物出土状況 (南東より)



B区S D 13 遺物出土状況 (東より)



B区S D 12 遺物出土状況 (西より)



A区SK 60 (北より)



A区SK 80,81 断面 (南より)



A区SK 13 断面 (南より)



B区土坑群 (南より)



A区SK 10,48 断面 (南より)



A区P280 遺物出土状況 (南より)



A区P227 遺物出土状況 (北より)

图版 7



A区S D 25 出土須惠器



63



65



67



59



66

A区 S K 34, B区 S D 07 出土須恵器



47



29



41



46



43



48



33



34

A区 S D 25 出土土師器



B区S D 06 出土須惠器・土師器



113



125



129



126



127



114



116



134



149



135



136



124

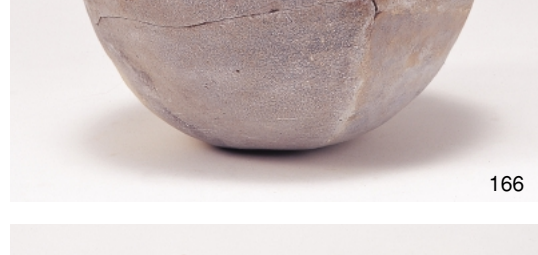


150



140

A区 S D 27,28, B区 S D 08,04,05 出土須惠器・土師器





347 ~ 349

350 ~ 353



337

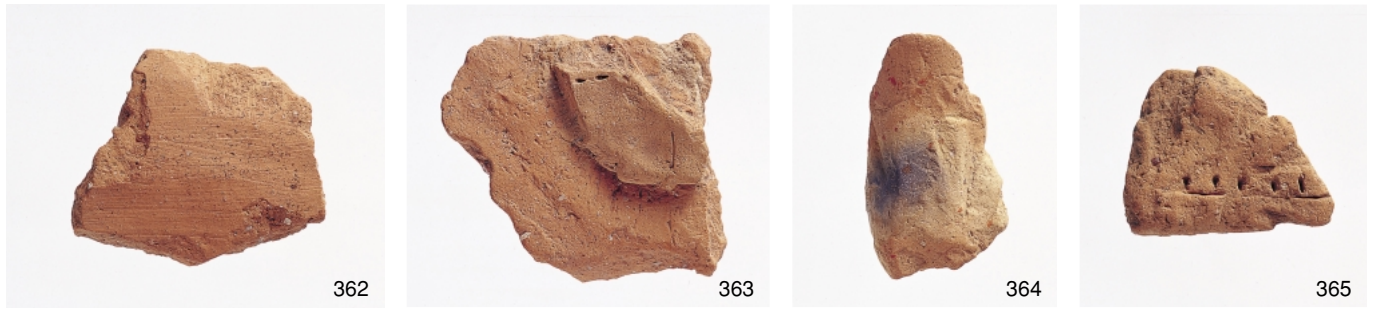


336



338

円筒埴輪



366 ~ 371

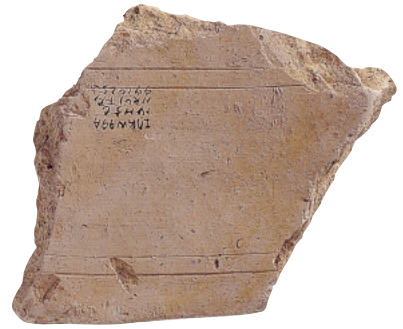


巫女の髷か

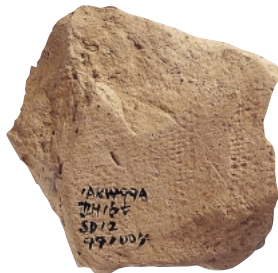
形象埴輪



372



381



382



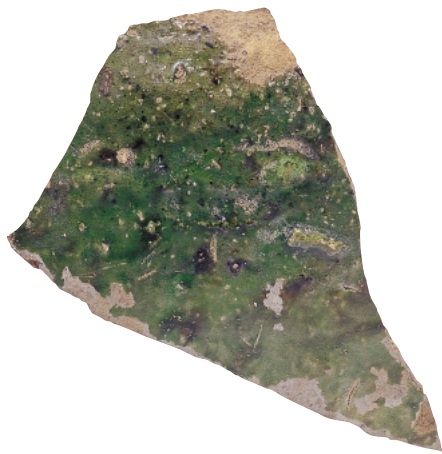
373



383



374



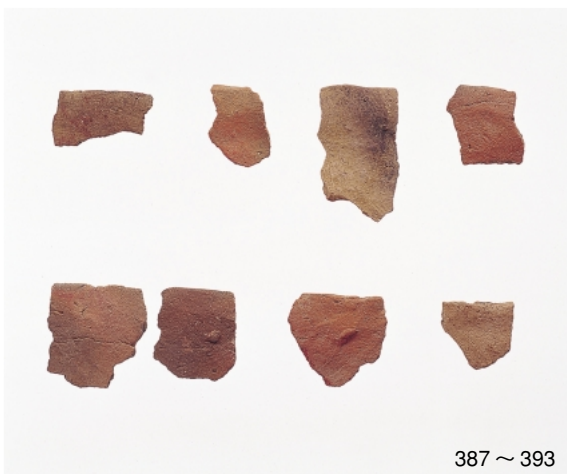
439



440 ~ 443



437



387 ~ 393



394 ~ 419



M 1



M 3



M 4 ~ M 7

その他の遺物

報告書抄録

ふりがな	かわだいせき							
書名	川田遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第103集							
編著者名	木川正夫・蔭山誠一・藤根久・今村美智子・小村美代子							
編集機関	財団法人 愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL0567-67-4163							
発行年月日	西暦 2002年 8月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かわだいせき 川田遺跡	あまぐん さおりちょう 海部郡 佐織町 おおあざみこしあざかわだ 大字見越字川田	23432	40017	35° 11' 10"	136° 44' 10"	19990816 ～ 20000119	1,800m ²	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
川田遺跡	墳墓	古墳時代	古墳 1 基	円筒埴輪・形象埴輪・須恵器・鉄鏃				
		飛鳥・奈良時代	溝11条	須恵器・土師器・瓦・鞆羽口・土錘				
		平安・鎌倉時代	方形土坑墓85 基・自然流路 1 条	灰釉陶器・灰釉系陶器・青磁・古瀬戸・常滑甕				

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第103集

川田遺跡

2002年8月31日

編集・発行 財団法人愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 サンメッセ株式会社